

4 学修に関する要項

1. 教 育 課 程

(1) 構成と目標

教育課程とは、学生が在学する2年間に学修しなければならない教育内容としての授業科目を系統的に組織化したものをいいます。

本学の教育課程も「短期大学設置基準」や各種免許・資格に関する法令及び規程・規則にもとづいて編成されていることはいうまでもありませんが、その内容は、大きく基礎科目、外国語科目、体育科目、専門教育科目及びその他の課目5部門に分けられています。

これらの5部門の科目は、それぞれがその教育目標をもっているわけですが、それらの教育目標が5部門にわたって総合的に達成されるところに大学教育の目的がおかれているといえます。次に各部門の教育目標について説明しておきます。

(A) 基礎科目

この科目は、各学科の一般教育を含めた教養科目から成っています。この科目履修の目標は、各基礎科目のバランスのとれた学修により、視野を広げるとともに、基礎・基本の充実と教養豊かな人間性を形成し、これから学ぶ専門的知識や技術修得の知的基礎を修得することにあります。

(B) 外国語科目

この科目の目標は、大学における研究や学修に必要な外国語の学術に触れ、優れた外国の文化や思想を理解し、これらを摂取するための基礎となる語学力を養うことにあります。これから国際社会に生きる国際人としての教養を身につけ外国人とのコミュニケーションを行うためにも欠くことのできないものといえましょう。

(C) 体育科目

健康とは、身体的、精神的、社会的条件が調和的で快適な状態において健全に維持されていることをいいます。この科目の目標は人間形成の基盤として、健康の保持と身体活動や精神活動の発達について科学的認識を深め、鍛練を行

うことによって、健全なる心身を養うことです。

(D) 専門教育科目

前記の諸科目が各学科に共通のものであるのに対して、この科目は学科及び学科の中で分かれるコースによって、それぞれ異なる系列の授業科目群で編成されています。そのため、いずれの学科・コースについてもそれぞれの目的に添う専門領域について、高度の専門的な知識や技術を研究し修得することを目標としています。

またこの科目は、その専門的領域の性格に応じて、概論的なもの、原理的なもの、歴史的なもの、応用的なもの、実験や実習などいろいろな立場や方法による授業科目の組み合わせになっています。

なお、各学科とも一定の科目履修と単位の修得によってできるだけ多くの免許状や資格の取得ができるように教育課程が組まれています。実は、これらの免許状や資格の付与や認定については、その権限をもつ各省及び管理団体などがそれぞれ法令や規程によって養成施設としての必要な基準や条件を定めています。本学の各学科は、それらの基準や条件を充足することによって指定養成施設としての認可を得ているわけです。そのため、その基準の中で、免許状や資格の付与及び認定に必要な履修を要する専門授業科目及び単位数を指定しているのです。免許状や資格の取得をめざすためにはこれらの授業科目の履修及び単位の修得が必要であることに注意してください。このことについては、学則及び「科目履修規程」で示されていますので参照のうえ熟知してください。

(参照) 学則第 10 条・第 10 条の 2 (P. 286) 科目履修規程 (P. 299)

(E) 教職専門科目

教育職員免許状(栄養教諭免許状・幼稚園教諭免許状)を取得するためには、教職専門科目の履修が必要です。それぞれ該当の学科において、この教職専門科目のほかに一般教育科目や各学科の専門科目を加え、教職課程が定められています。

(F) 各種免許・資格指定科目

本学では、建学の精神にもとづいて現代の職業社会に即応するいろいろな職業的免許や資格が取得できるように教育課程が組まれており、本学教育の特色の一つとなっています。すなわち、ライフデザイン総合学科では、ビジ

ネス実務士、情報処理士が取得可能な上、ファッションデザインコースではファッションアドバイザー、ブライダルアシスタントコーディネーター、グラフィックデザインコースでは、DTPデザイナー、Webデザイナーの資格が取得できます。医療事務コースでは、医療秘書実務士、医事コンピュータ実務課程修了証、ICDコーディング実務課程修了証、電子カルテ実務課程修了証、診療情報管理実務士、介護職員初任者研修、社会福祉主事任用資格、データサイエンス教育課程修了証、手話講習会入門課程修了証が取得できます。また、ファッションビジネス能力検定、色彩検定、販売士、ファッション販売能力検定、Photoshop クリエイター能力認定試験、Illustrator クリエイター能力認定試験、日本語ワープロ検定、情報処理技能検定、簿記検定、ビジネス能力検定、医事実務検定試験等にもチャレンジできます。

食物栄養学科については、栄養士、介護職員初任者研修、社会福祉主事任用資格、全コースでこども食物アレルギー実務課程修了証、温泉入浴アドバイザー課程修了証、データサイエンス教育課程修了証が取得可能となっています。別に保育健康コースでは、栄養教諭、保育栄養アドバイザー、医事健康コースでは、医療秘書実務士、温泉健康コースでは、ビジネス実務士、観光実務士、温泉コンシェルジュ課程修了証、温泉マイスター資格等が取得できます。

幼児教育学科については、教職課程における幼稚園教諭二種免許、保育士資格およびこども音楽療育士、社会福祉主事任用資格、上級救命講習修了証、こども食物アレルギー実務課程修了証、ピアヘルパー、准子育て支援教育カウンセラー補、准学校心理士、介護福祉学科では、介護福祉士、レクリエーション・インストラクター資格、福祉レクリエーション・ワーカー、介護保険実務士、救急法救急員、データサイエンス教育課程修了証、社会福祉主事任用資格、手話講習会入門課程修了証が取得できます。

介護福祉学科については、介護福祉士課程履修証明証、レクリエーション・インストラクター資格、福祉レクリエーション実務士資格、介護保険実務士資格、データサイエンス教育課程修了証及び社会福祉主事任用資格が取得できます。

しかし、以上の免許や資格を取得するためには、それぞれ免許や資格に関する法令や認定団体によって履修科目や単位数が指定されています。これらの科目や単位については、授業科目の一覧表及び「2. 教育科目の履修方法と手続」に示しています。

なお、ライフデザイン総合学科のファッションアドバイザー、ブライダルア

シスタントコーディネーター、DTPデザイナー、Webデザイナー、食物栄養学科の健康アドバイザー、保育栄養アドバイザー課程の履修者については、学長が認定証明書を付与しています。

また、各関係科目の学びをとおして、各種検定試験を学内・学外で受験機会を準備しています。

(G) 総合学習

本学では、各授業のこれまで学習してきた内容について「まとめ」「内容確認」のための授業を「総合学習」として行います。このことにより、履修した科目の位置づけ、内容をより深く学習することが可能となります。原則として、全ての科目に実施します。

(H) 初年次教育

入学後の一年次生を対象とした、導入期教育です。高等学校までは教員に一方的に教えられることが多かったと思いますが、短期大学では自主的な学習が求められます。そのため、レポートの作り方、資料の収集方法・教職員とのコミュニケーション等を学び、必要な知識や技術、大学生に求められる常識や生活態度・習慣などを身につけるためのプログラムを開設しています。

(I) 開放講座・公開講座・特別講座

大学の使命のひとつに、「開かれた大学」として、大学のもつ学術や研究を公開して地域文化の向上に資することがあげられます。この趣旨にもとづいて、本学では各学科や附属研究所が、開放講座及び公開講座（オープンカレッジ）を開講しています。

開放講座は、ひろく地域の社会人に対し、大学がその門をひらいたもので、大学における専門科目のうち選択的に履修できる講座です。

公開講座は、大学における教育科目にこだわらずひろい範囲のテーマで、学内外の講師によってひらかれるものです。

また、特別講座（オープンカレッジ）は、大学が学生の教養や研究を深めるために、正課外に学内あるいは著名な学外人を講師としてひらくもので、学生が自由に聴講できるようになっています。

入学時に学生 1 人 1 人に、学籍番号が与えられます。

学生証に記入してある記号が、学籍番号です。

また卒業後も、様々な証明書を請求する時に必要になります。いろいろな証明書の申し込みや、テストの時の番号記入など、すべてこの記号を使用してください。

これはあなたが卒業するまで、変わることはありません。

学籍番号の記号には、次のような意味がありますので、自分の番号をよく理解し、氏名と同様に使いこなせるように心掛けてください。

〔例〕

No.	<u>LS</u>	<u>25</u>	<u>201</u>		
	└──────────┐	└──────────┐	└──┐	個 人 番 号	
				入学年度〔2025 年〕	
				└──────────┐	LS〔ライフデザイン総合学科〕
					SH〔食物栄養学科〕
	YK〔幼児教育学科〕				
				KF〔介護福祉学科〕	

大学の掲示板は、高校までと違い、あなたと学校を結ぶ重要な役割をもっています。

掲示したことがらは、**全学生が見ているものとして処理**されます。

授業変更や、奨学金、追再試験、就職その他のための呼び出し等、見なかったためにあなたが不利益をこうむることがあれば本人の責任となります。

登・下校時には**必ず見る習慣**をつけてください。

履 修 要 項

授 業 科 目 一 覧 表

ライフデザイン総合学科	54
日 本 語 コ ー ス	76
ビジネス・観光コース	86
日 本 語 コ ー ス (9月入学生)	98
ビジネス・観光コース (9月入学生)	108
食 物 栄 養 学 科	
保 育 健 康 コ ー ス	120
医 事 健 康 コ ー ス	134
温 泉 ・ 観 光 コ ー ス	146
留 学 生 コ ー ス	158
留 学 生 コ ー ス (9月入学生)	170
幼 児 教 育 学 科	
保 育 コ ー ス	182
福 祉 ・ 介 護 コ ー ス	196
介 護 福 祉 学 科	212
留 学 生 コ ー ス	224

授業科目一覧表・カリキュラムマップ・到達目標一覧表
(都合により変更することがあります。)

ライフデザイン総合学科 教育課程

[令和 7 年 4 月入学生]

科 目		履 修 法	単 位	1 年		2 年		備 考	フ ァ ッ シ ョ ン ア ン ド パ イ ザ ー	ブ ラ イ ダ ル ア シ ス タ ン ト コ ー デ ィ ン グ	D T P デ ザ イ ナ ー	W e b デ ザ イ ナ ー	ビ ジ ネ ス 実 務 士	情 報 処 理 士	医 療 秘 書 実 務 士	介 護 保 険 実 務 士	診 療 情 報 管 理 実 務 士	社 会 福 祉 主 事 任 用 資 格	介 護 職 員 初 任 者 研 修		
				必	選	春学期 1セメ	秋学期 2セメ													春学期 3セメ	秋学期 4セメ
基礎教育	基礎科目	コミュニケーション論	講義	2	○				基礎科目については 8単位以上 取得すること	★	★			★	★						
		日本語表現	講義	2	○								★								
		日本国憲法	講義	2				○													
		情報科学	講義	2	○									★	★						
		人間関係論	講義	2				○												☆	
		社会福祉	講義	2	○											★	★	★	◇	★	
		大分再発見	講義	1		●															
		大分の人と学問	講義	2						○											
		国際関係学	講義	2						○											
		ICTと社会	演習	1			○								★						
		ICTの活用	講義	2				○								★					
		キャリア教育	講義	1		●	●	●	●												
		インターンシップ	実習	1		●	●	●	●		☆										
		社会貢献演習Ⅰ	演習	1		●	●	●	●												
		社会貢献演習Ⅱ	演習	1		●	●	●	●												
		リーダーシップ論	講義	2				○			★										
		経営学	講義	2	○																
	外国語	英語Ⅰ	演習	1	○					英語・中国語 のいずれか を2単位以上 取得すること							★				
		英語Ⅱ	演習	1		○															
		中国語Ⅰ	演習	1	○												★				
		中国語Ⅱ	演習	1		○															
	体育	運動スポーツⅠ	演習	1		○															
		運動スポーツⅡ	演習	1			○														

科 目		履 修 法	単 位		1 年		2 年		備 考	フ ァ ッ シ ョ ン ア ン ド パ イ ザ ー	ブ ラ イ ダ ル ア シ ス タ ン ト コ ー デ ィ ン グ	D T P デ ザ イ ナ ー	W e b デ ザ イ ナ ー	情 報 処 理 士	医 療 秘 書 実 務 士	介 護 保 険 実 務 士	社 会 福 祉 主 事 任 用 資 格	介 護 職 員 初 任 者 研 修	
			必	選	春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ	秋学期 4セメ											
共通専門教育科目	日本の文化	日本の文化・着付けⅠ	演習	1			○			★	★								
		日本の文化・着付けⅡ	演習	1				○			★								
		日本の文化・茶道	演習	1				○			★								
	クラフト工芸	陶 芸 Ⅰ	演習	2			○	○				★							
		陶 芸 Ⅱ	演習	2				○	○			★							
		染 色 Ⅰ	演習	2				○	○			★							
		染 色 Ⅱ	演習	2					○	○		★							
	ビジュアルデザイン	フォトタッチソフトウェア	演習	1	○							★	★						
		レイアウトソフトウェア	演習	1		○						★	☆						
		日本の芸術・文化	講義	2	○							★	☆						
	生活と福祉	介 護 概 論	講義	2	○					人権教育を含む						☆	★		◇ ★
		栄 養 学	講義	2	○														◇
		介 護 の 理 解	講義	2		○				学内集中（1年夏）									★
		介 護 保 険	講義	2			○										★		
		手 話 Ⅰ	演習	1			○									★			
		基 礎 法 学	講義	2				△		日本国憲法よみかえ						★			◇

科 目		履修法	単位	1 年		2 年		備 考	ファッションアドバイザー	フライングアシスタント コーディネーター	Webデザイナー DTPデザイナー	ビジネス実務士	情報処理士	医療秘書実務士	介護保険実務士	診療情報管理実務士	社会福祉士主任任用資格	介護職員初任者研修
				必 選	春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ	秋学期 4セメ										
共通専門教育科目	ビジネス実務	事務管理	講義	2	○							★	★					
		ビジネス実務総論	講義	2		○								★				
		ビジネス実務演習Ⅰ	演習	1	(○)		(○)		隔年開講(奇数年)						★			
	情報処理	現代社会論	講義	2			○					☆	☆	★	★			
		表計算演習Ⅰ	演習	1		○						★	★	★	★			
		プレゼンテーション概論	講義	2		○						★	★					
		表計算演習Ⅱ	演習	1			○							☆				
	ジョブラーニング	情報ネットワーク論	講義	2			○											
		情報処理演習	演習	1				○										
		インターンシップⅠ	実習	1														
		インターンシップⅡ	実習	1														
	その他	インターンシップⅢ	実習	2														
		インターンシップⅣ	実習	2														
		社会貢献演習Ⅲ	演習	1	●	●	●	●										
		社会貢献演習Ⅳ	演習	1	●	●	●	●										

科 目		履修法	単位	1 年		2 年		備 考	ファッションアドバイザー	フライングアシスタント コーディネーター	Webデザイナー DTPデザイナー	ビジネス実務士	情報処理士	医療秘書実務士	介護保険実務士	診療情報管理実務士	社会福祉士主任任用資格	介護職員初任者研修
				必 選	春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ	秋学期 4セメ										
ファッション＆ブライダル 専門教育科目	服飾製作	服飾構成演習Ⅰ	演習	2	○○				★									
		服飾構成演習Ⅱ	演習	2		○○			★									
		卒業制作Ⅰ	演習	4			◎◎		★									
		卒業制作Ⅱ	演習	4				◎◎	★									
	ファッション＆ブライダル	ホテル・レストラン演習Ⅰ	演習	1		○				★								
		ホテル・レストラン演習Ⅱ	演習	1			○			★								
		カラーコーディネート論	講義	2	○				★	★								
		衣装制作	演習	2		○○			★	★								
		ウエディング総論	講義	2		○			★									
		洋裁技術検定対策	講義	2			○											
		ファッションビジネス販売検定対策	講義	2		○			★	★								
		ファッションマネージメント	講義	2	○				★	★								
		ウエディングプランニング	講義	2			○			★								
		ファッション販売	講義	2			○		★									
		ファッション流行論	講義	2			○		★									
		ファッションショー企画	講義	1			●		★									
	アートクラフト	トータルスタイリング	講義	2			○		★	★								
		イメージ配色	講義	2				○	★	★								
		キャリアデザイン対策	講義	2		○			★	★								
		ファッションデザインテクニク	講義	2	○				★	★								
	ビューティーレッスン	ファッション造形Ⅰ	演習	2	○○				★									
		ファッション造形Ⅱ	演習	2		○○			★									
		ホビークラフト	演習	1				○	★	★								
		織物	演習	2			○○		★									
		メイクアップ演習	演習	1	○				★	★								
		ネイルアートⅠ	演習	1	○				★	★								
		ネイルアートⅡ	演習	1			○		★	★								
		ウォーキングレッスンⅠ	演習	1		○			★									
		ウォーキングレッスンⅡ	演習	1				○	★									

科 目		履 修 法	単 位	1 年		2 年		備 考	フ ァ ッ シ ョ ン ア ッ ド バ イ ザ ー	ブ ラ イ ダ ル ア シ ス タ ン ト コ ー デ ィ ン グ	D T P デ ザ ィ ナ ー	W e b デ ザ ィ ナ ー	ビ ジ ネ ス 入 業 務 士	医 療 秘 書 実 務 士	介 護 保 険 実 務 士	診 療 情 報 管 理 実 務 士	社 会 福 祉 主 事 任 用 資 格	介 護 職 員 初 任 者 研 修	
				必 選	春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ												秋学期 4セメ
専門教育科目	ベーシック デザイン	基 礎 デ ザ イ ン	演習	2	○						★	★							
		デ ザ イ ン 表 現	演習	2		○					★	☆							
		素 描 I	演習	2	○						★								
		素 描 II	演習	2		○					★								
		色 彩 演 習 I	演習	1	○						★	★							
		色 彩 演 習 II	演習	1		○					★	★							
	DTP デザイン	D T P 基 礎	演習	1	○						★								
		ブ リ プ レ ス 演 習	演習	1		○					★								
		D T P 演 習 I	演習	2			○	○			★								
	グラフィック デザイン	D T P 演 習 II	演習	2				○	○		★								
		デ ザ イ ン 演 習	演習	1		○					★								
		写 真 I	演習	2	○						★	★							
		写 真 II	演習	2		○					★	★							
		イ ラ ス ト レ ー シ ョ ン I	演習	1			○				★	☆							
		イ ラ ス ト レ ー シ ョ ン II	演習	2				○	○		★	☆							
	ウェブ デザイン	ウ ェ ブ プ ロ グ ラ ミ ン グ 演 習 I	演習	1	○							★							
		ウ ェ ブ プ ロ グ ラ ミ ン グ 演 習 II	演習	1		○						★							
		ウ ェ ブ デ ザ イ ン 演 習 I	演習	1			○					★							
	クロス メディア	ウ ェ ブ デ ザ イ ン 演 習 II	演習	2				○	○			★							
		3 D C G 演 習	演習	1	○														
		ク ロ ス メ デ ィ ア デ ザ イ ン I	演習	1	○							☆	★						
		ク ロ ス メ デ ィ ア デ ザ イ ン II	演習	1		○						★							
		デ ジ タ ル ア ー ト I	演習	2			○	○				★							
		デ ジ タ ル ア ー ト II	演習	2				○	○			★							
	ファイン アート	動 画 演 習 I	演習	1			○						★						
		動 画 演 習 II	演習	2				○	○				★						
		ド ロ ー イ ン グ 研 究	演習	1	○					夏季集中		★	☆						
絵 画 I		演習	2				○	○			★								
絵 画 II		演習	2					○	○		★								
ブ ラ ン ニ ン グ		演習	1			○					★								
制作実習	制 作 実 習 I	演習	2			○	○		卒業制作		★	★							
	制 作 実 習 II	演習	2					○	○	卒業制作		★	★						
医療事務 コース 専門教育科目	医療事務	デ ザ イ ン 研 究	演習	1	●	●	●	●	通年										
		医 療 事 務 総 論	講義	2	○										★		★		
		医 療 事 務 演 習 I	演習	1	○										★		★		
		医 療 事 務 演 習 II	演習	1	○										★		★		
		医 療 事 務 演 習 III	演習	1		○									★		★		
		医 療 事 務 演 習 IV	演習	1			○								★	★	★		
		コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 演 習	演習	1			○								★				
		医 療 安 全 講 義	講義	2			○								★				
		レ セ プ ト 検 定 対 策 I	演習	1		○									☆				
		レ セ プ ト 検 定 対 策 II	演習	1		○									☆				
	レ セ プ ト 検 定 対 策 III	演習	1				○							☆					
	レ セ プ ト 検 定 対 策 IV	演習	1				○							☆					
	医療秘書	医 療 秘 書 実 務 講 義	講義	2	○										★		★		
		看 護 概 論 講 義	講義	2		○									★			◇	
電 子 カ ル テ 実 務 総 論 講 義		講義	2		△				診療情報管理論Ⅰ										

科 目		履 修 法	単 位		1 年		2 年		備 考	フ ァ ッ シ ョ ン ア ド バ イ ザ ー	フ ラ イ ド リ ン グ シ ス テ ム ア ド バ イ ザ ー	D T P デ ザ イ ナ ー	W e b デ ザ イ ナ ー	ビ ジ ネ ス 実 務 士	情 報 処 理 士	医 療 秘 書 実 務 士	介 護 保 険 実 務 士	診 療 情 報 管 理 実 務 士	社 会 福 祉 主 事 任 用 資 格	介 護 職 員 初 任 者 研 修
			必 選	春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ	秋学期 4セメ													
医療秘書	医 事 コ ン プ ュ ー タ	演習	1			○														
	医 療 秘 書 実 務 実 習Ⅰ	実習	1			○		学外実習							★		★			
	医 療 秘 書 実 務 実 習Ⅱ	実習	1			○		学外実習							☆					
	医 療 秘 書 実 務 実 習Ⅲ	実習	2			○	○	学外実習							☆					
	電 子 カ ル テ 実 務 演 習	演習	1			△		医事コンピュータ												
基礎医学	解 剖 学	講義	2	○												★		★		
	生 理 学	講義	2	○												★		★		
	薬 と 検 査	講義	2		○											★		★		
	公 衆 衛 生 学	講義	2		○											★		★	◇	★
	基 礎 医 学	講義	1		●											★	★	★		☆
介護事務	介 護 技 術Ⅰ	演習	1	○													★		★	
	介 護 技 術Ⅱ	演習	1		○														★	
	介 護 実 習	実習	1		○			学外実習											★	
	高 齢 者 心 理 学	講義	1			●		夏季集中									★			
	介 護 事 務 演 習	演習	1				○								☆					
診療情報	手 話Ⅱ	演習	1				○									★				
	臨 床 医 学 概 論Ⅰ	講義	2	○											☆			★		
	診 療 情 報 管 理 論Ⅰ	講義	2	○														★		
	臨 床 医 学 概 論Ⅱ	講義	2		○										☆			★		
	病 名 コーディング演習Ⅰ	演習	1			○													★	
情報 リテラシー	診 療 情 報 管 理 論Ⅱ	講義	2				○												★	
	病 名 コーディング演習Ⅱ	演習	1				○												★	
	シ ス テ ム 設 計	講義	2				○								☆					
	卒 業 研 究	演習	2				○	○								★				

※○印は90分授業 1 コマ15週 ○○印は90分授業 2 コマ15週

●印は90分授業 1 コマ 8 週 ★印は、各資格の必修科目 ☆印は、資格の推奨科目

専門教科科目から50単位以上、基礎科目・外国語・体育を含めて62単位以上取得しなければ、卒業できない。

社会貢献演習Ⅰ～Ⅳは2時間×8回以上の貢献をもって演習1単位とする。

キャリア教育は2年間で8回以上受講すること。

社会福祉主事任用資格を取得するには、◇印の科目を3つ以上受講すること

DTPデザイナーを取得するには、陶芸・染色のどちらかを受講すること

デザイン研究は2年間を通じて2時間×15回以上の参加をもって演習1単位とする

ICDコーディング実務課程取得条件

①医療秘書実務士資格の取得 ②情報処理検定3級以上の取得

③臨床医学概論Ⅰ（2単位）診療情報管理論Ⅰ（2単位）病名コーディング演習Ⅰ（1単位）の取得

医事コンピュータ実務課程取得条件

①医療秘書実務士資格の取得 ②情報処理検定3級以上の取得 ③医事コンピュータ（1単位）の取得

電子カルテ実務課程取得条件

①医療秘書実務士資格の取得 ②情報処理検定3級以上の取得 ③電子カルテ実務総論（1単位）の取得

④電子カルテ実務演習（1単位）の取得

手話講習会入門課程取得条件

①手話Ⅰ（1単位）の取得 ②手話Ⅱ（1単位）の取得

都合により、開講時期等が変更になることがあります。

令和7年度カリキュラムマップ

【2025ライフデザイン総合学科：ファッションブライダルコース】

建学の精神：自立・自活できる人材の育成

教育理念と3つのポリシー：学生生活ハンドブック【学生便覧】を参照してください。

ライフデザイン総合学科【ディプロマポリシー】DP

社会に対応し専門職としてのニーズに応えられる努力ができる。さらに、はば広い教養と専門的な知識を学び、時代の求める人材をめざすことができる。

ファッションブライダルコース【ディプロマポリシー】DP

- ・ファッション業界やブライダル業界の基礎的な知識や技術を身につける努力ができる。
- ・業界で活躍できる実践力と就業力を修得する努力ができる。

フィールド		1年生春学期 1セメスター	1年生秋学期 2セメスター	2年生春学期 3セメスター
基礎教育	基礎科目	コミュニケーション論 日本語表現 情報科学 社会福祉 経営学	大分再発見 ICTと社会	人間関係論 ICTの活用 リーダーシップ論
		【通年】キャリア教育 インターンシップ 社会貢献演習Ⅰ		
	外国語	英語Ⅰ 中国語Ⅰ	英語Ⅱ 中国語Ⅱ	
	体育	運動スポーツⅠ	運動スポーツⅡ	
共通専門科目	日本の文化			日本の文化・着付けⅠ
	クラフト工芸			陶芸Ⅰ 染色Ⅰ
	ビジネス実務	事務管理	ビジネス実務総論	現代社会論
	情報処理		表計算演習Ⅰ プレゼンテーション概論	表計算演習Ⅱ 情報ネットワーク論
	ジョブラーニング	【通年】インターンシップⅠ インターンシップⅡ インターンシップⅢ		
専門教育科目	被服製作	服飾構成演習Ⅰ	服飾構成演習Ⅱ	卒業制作Ⅰ
	ファッション & ブライダル	カラーコーディネート論 ファッションマネージメント	ホテル・レストラン演習Ⅰ ウエディング総論 ファッションビジネス販売検定対策 キャリアデザイン対策 衣装制作	ホテル・レストラン演習Ⅱ ウエディングプランニング ファッション販売 ファッション流行論 トータルスタイリング
	アートクラフト	ファッションデザインテクニック 工芸デザイン⇒ファッション造形Ⅰ	ファッション造形Ⅱ	織物
	ビューティー レッスン	メイクアップ演習	ネイルアートⅠ ウオーキングレッスンⅠ	

2年生秋学期 4セメスター	 学 修 成 果	卒業制作作品の完成と披露・検定試験や資格の取得 希望する卒業後の進路（就職・進学等）の内定	卒業と同時に取得をめざす資格
大分の人と学問 国際関係学 日本国憲法			情報処理士 ビジネス実務士 ブライダルアシスタントコーディネーター ファッションアドバイザー
社会貢献演習Ⅱ			
日本の文化・着付けⅡ 日本の文化・茶道			
陶芸Ⅱ 染色Ⅱ			
情報処理演習			
インターンシップⅣ（集中授業）			
卒業制作Ⅱ			
洋裁技術検定対策 イメージ配色			
ホビークラフト			
ネイルアートⅡ ウォーキングレッスンⅡ			

令和7年度カリキュラムマップ

【2025ライフデザイン総合学科：グラフィックデザインコース】

建学の精神：自立・自活できる人材の育成

教育理念と3つのポリシー：学生生活ハンドブック【学生便覧】を参照してください。

ライフデザイン総合学科【ディプロマポリシー】DP

社会に対応し専門職としてのニーズに応えられる努力ができる。さらに、はば広い教養と専門的な知識を学び、時代の求める人材をめざすことができる。

グラフィックデザインコース【ディプロマポリシー】DP

- ・専門分野の基礎的な知識や技術を修得する努力ができる。
- ・専門分野で主体的に取り組むことができる。
- ・専門分野で通用する就業力を修得する努力ができる。

フィールド		1年生春学期 1セメスター	1年生秋学期 2セメスター	2年生春学期 3セメスター
基礎教育	基礎科目	コミュニケーション論 日本語表現 情報科学 社会福祉 経営学	大分再発見 ICTと社会	人間関係論 リーダーシップ論 ICTの活用
		【通年】 キャリア教育 インターンシップ 社会貢献演習Ⅰ		
	外国語	英語Ⅰ 中国語Ⅰ	英語Ⅱ 中国語Ⅱ	
	体育	運動スポーツⅠ	運動スポーツⅡ	
共通専門科目	クラフト工芸			陶芸Ⅰ 染色Ⅰ
	ビジュアルデザイン	フォトレタッチソフトウェア演習 日本の芸術・文化	レイアウトソフトウェア演習	
	ビジネス実務	事務管理	ビジネス実務総論	現代社会論
	情報処理		表計算演習Ⅰ プレゼンテーション概論	表計算演習Ⅱ 情報ネットワーク論 プレゼンテーション演習
	ジョブラーニング	【通年】 インターンシップⅠ	インターンシップⅡ	インターンシップⅢ
専門教育科目	ベーシックデザイン	基礎デザイン 素描Ⅰ 色彩演習Ⅰ	デザイン表現 素描Ⅱ 色彩演習Ⅱ	
	DTPデザイン	DTP基礎	プリプレス演習	DTP演習Ⅰ
	グラフィックデザイン	写真Ⅰ	写真Ⅱ デザイン演習	イラストレーションⅠ
	ウェブデザイン	ウェブプログラミング演習Ⅰ	ウェブプログラミング演習Ⅱ	ウェブデザイン演習Ⅰ
	クロスメディア	クロスメディアデザインⅠ 3DCG演習	クロスメディアデザインⅡ	デジタルアートⅠ 動画演習Ⅰ
	ファインアート	ドローイング研究		絵画Ⅰ
	制作実習			制作実習Ⅰ ブランニング
【通年】 デザイン研究				

2年生秋学期 4セメスター		希望する卒業後の進路（就職・進学等）の内定 卒業制作作品の完成と披露・検定試験や資格の取得	卒業と同時に取得をめざす資格 DTPデザイナー Webデザイナー ビジネス実務士 情報処理士
日本国憲法 大分の人と学問 国際関係学			
社会貢献演習Ⅱ			
陶芸Ⅱ 染色Ⅱ			
情報処理演習			
インターンシップⅣ（集中授業）			
DTP演習Ⅱ			
イラストレーションⅡ			
ウェブデザイン演習Ⅱ			
デジタルアートⅡ			
動画演習Ⅱ			
絵画Ⅱ			
制作実習Ⅱ			

令和7年度カリキュラムマップ

【2025ライフデザイン総合学科：医療事務コース】

建学の精神：自立・自活できる人材の育成

教育理念と3つのポリシー：学生生活ハンドブック【学生便覧】を参照してください。

ライフデザイン総合学科【ディプロマポリシー】DP

社会に対応し専門職としてのニーズに応えられる努力ができる。さらに、はば広い教養と専門的な知識を学び、時代の求める人材をめざすことができる。

医療事務コース【ディプロマポリシー】DP

- ・ビジネスや医療事務の現場で求められる汎用的・専門的な知識と技能を身につけることができる。
- ・社会人や職業人として常に求められるコミュニケーション能力を修得できる。
- ・地域社会において、自ら課題を発見・解決し、社会に貢献できる。

フィールド		1年生春学期 1セメスター	1年生秋学期 2セメスター	2年生春学期 3セメスター
基礎教育	基礎科目	コミュニケーション論 日本語表現 情報科学 社会福祉 経営学	大分再発見 ICTと社会	人間関係論 ICTの活用 リーダーシップ論
	外国語	英語Ⅰ 中国語Ⅰ	英語Ⅱ 中国語Ⅱ	
	体育	運動スポーツⅠ	運動スポーツⅡ	
共通専門科目	日本の文化			日本の文化・着付けⅠ
	クラフト工芸			陶芸Ⅰ 染色Ⅰ
	ビジュアルデザイン	フォトレタッチソフトウェア演習 日本の芸術・文化	レイアウトソフトウェア演習	
	生活と福祉	介護概論 栄養学	介護の理解	手話Ⅰ
	ビジネス実務	事務管理	ビジネス実務総論	現代社会論
	情報処理		表計算演習Ⅰ プレゼンテーション概論	表計算演習Ⅱ 情報ネットワーク論
	ジョブラーニング	【通年】 インターンシップⅠ インターンシップⅡ インターンシップⅢ		
専門教育科目	医療事務	医療事務総論 医療事務演習Ⅰ 医療事務演習Ⅱ	医療事務演習Ⅲ レセプト検定対策Ⅰ レセプト検定対策Ⅱ	医療事務演習Ⅳ コミュニケーション演習 医療安全
	医療秘書	医療秘書実務	看護概論 電子カルテ実務総論	医事コンピュータ 医療秘書実務実習Ⅰ 医療秘書実務実習Ⅱ 医療秘書実務実習Ⅲ 電子カルテ実務演習
	基礎医学	解剖学 生理学	薬と検査 公衆衛生学 基礎医学	
	介護事務	介護技術Ⅰ	介護技術Ⅱ 介護実習	高齢者心理学
	診療情報		臨床医学概論Ⅰ 診療情報管理論Ⅰ	臨床医学概論Ⅱ 病名コーディング演習Ⅰ
	情報リテラシー			

2年生秋学期 4セメスター		卒業研究発表会・検定試験や資格の取得	希望する卒業後の進路（就職・進学等）の内定	卒業と同時に取得をめざす資格
日本国憲法 大分の人と学問 国際関係学				
社会貢献演習Ⅱ				
日本の文化・着付けⅡ 日本の文化・茶道・華道				
陶芸Ⅱ 染色Ⅱ				
情報処理演習				
インターンシップⅣ（集中授業） レセプト検定対策Ⅲ レセプト検定対策Ⅳ				
介護事務演習 手話Ⅱ				
診療情報管理論Ⅱ 病名コーディング演習Ⅱ				
システム設計 卒業研究				

ライフデザイン総合学科 到達目標一覧表

[令和 7 年 4 月入学生]

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
コミュニケーション論	① コミュニケーションの役割や使いどころを理解する。 ② 専門分野で得た知識や技能を実社会で活かすための言動ができる。 ③ 人間関係を築くためのコミュニケーションを理解できる。	○	○	○
日本語表現	① ビジネスの場で活躍するのに必要な実践的国語表現力を身に付ける。 ② 就職活動や各種検定試験にも対応できる国語表現力を身に付ける。 ③ コミュニケーション力を磨き、対人関係を築く資質を身に付ける。 ④ 適切な言葉で書き、適切な言葉で話し、適切に情報を伝える力を身に付ける。	○	○	○
日本国憲法	① 憲法とはなにか、憲法の理念、日本国憲法の構造について理解できる。 ② 憲法の保障する権利、国の統治形態などについて理解することができる。 ③ 社会の様々な問題を、憲法の観点から考え、検討することができる。	○	○	
情報科学	① 情報実務に関する基本的な用語を説明できる。 ② 情報実務で必要な情報機器の基本的な操作ができる。	○		○
人間関係論	① 介護職等、専門的職業現場をはじめ、現代社会における複雑で多様な人間関係の在り方を理解し、「問題」に対応しうる職業人材や良識ある社会人としての成長を目指す。 ② 臨床心理学や社会心理学、またはその周辺領域における基礎的な知見や技術、人々の間での関係調節能力を身につける。	○		○
社会福祉	① 社会福祉の基本となる理念や歴史を知り、理解できる。 ② 社会保険制度など、社会保障の仕組みを理解できる。 ③ 児童福祉、高齢者福祉、障がい者福祉、地域福祉等の福祉体系を理解できる。 ④ 今日の福祉課題に対する問題点を理解することができる。	○		○
大分再発見	① 大分県に残る朝鮮半島からの影響について学習する。 ② 県内各地の行事について理解を深める。	○	○	
大分の人と学問	① 大分の特色や課題について説明できる。 ② 大分に縁のある学問分野や人物について説明できる。 ③ テーマに基づいて他者と意見交換したり、協調しながら課題に取り組んだりすることができる。 ④ 授業内容から派生的な課題を自ら見だし、文献等の調査に基づいたアイデアを論述することができる。	○	○	
国際関係学	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に着けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
ICTと社会	① 情報社会の現状を理解し、健全な情報社会の一員として社会に参画できる。 ② 情報リテラシーを身に着ける。 ③ 受け取った情報を活用し、自身の考えを他者へプレゼンテーションする力を身につける。	○	○	○
ICTの活用	① 情報を収集・分析し、適切な表現方法を選択することができる。 ② 聴衆の理解を促すわかりやすいスライドを作成できる。 ③ プレゼンテーションソフトの基本的な操作ができる。	○	○	○
キャリア教育	① 社会人として生きるための基礎力を磨き社会について知る。 ② 地域社会に必要なキャリア形成について理解できる。			○
インターンシップ	① 社会現場を経験することにより職業意識や労働意欲を高めることができる。			○
社会貢献演習Ⅰ	① 地域、社会に貢献する人材になることができる。 ② 人間的成長ができる。			○
社会貢献演習Ⅱ	① 地域、社会に貢献できる人材になることができる。 ② 人間的成長ができる。			○
リーダーシップ論	① 活躍する中小企業の経営者の話を聞き即戦力として活躍できる。 ② 『リーダーシップ』と『経営者の姿勢』について知り身につける。 ③ 中小企業の経営者との質疑応答を通しコミュニケーション能力を向上する。 ④ 自分の意見をまとめ、発表することができる。		○	○
経営学	① 活躍する中小企業の経営者の話を聞き即戦力として活躍できる。 ② 『リーダーシップ』と『経営者の姿勢』について知り身につける。 ③ 中小企業の経営者との質疑応答を通しコミュニケーション能力を向上する。 ④ 自分の意見をまとめ、発表することができる。		○	○
英語Ⅰ	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることに自信を高めることができる。	○	○	
英語Ⅱ	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることに自信を高めることができる。	○	○	
中国語Ⅰ	① 中国語による基礎的なコミュニケーションができる。 ② 文化体験授業を通して、基本的な知識を身につけることができる。	○	○	○
中国語Ⅱ	① 中国語の基礎的なコミュニケーションのスキルを向上できる。 ② 文化体験授業を通して、中国に対する理解を深めることができる。	○	○	○
運動スポーツⅠ	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	
運動スポーツⅡ	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
日本の文化・着付けⅠ	① 着物の種類や和装一式の名称を覚えることができる。 ② ゆかた、小紋の着付け、帯結びを習得することができる。 ③ 和装の心得について知ることができる。	○	○	
日本の文化・着付けⅡ	① 着物の種類や和装一式の名称を覚えることができる。 ② 袴、振袖の着付け、帯結びを習得することができる。 ③ 和装の心得について知ることができる。	○	○	
日本の文化・茶道	① 和室での立ち居振る舞いなど、日本古来の伝統文化を身につけることができる。 ② 生涯学習として、茶道の精神を日常でも活かすことができる。 ③ 盆路点前ができる。	○	○	
陶芸Ⅰ	① デザインについて必要となる造形力を理解するとともに実践力を身につける。 ② 日本の伝統工芸としての陶芸、身近な実用品としての陶磁器について学ぶことができる。 ③ 陶芸演習において技術とセンスを育み、個性ある作品を制作できる。 ④ 卒業制作展に展示。	○	○	○
陶芸Ⅱ	① デザインについて必要となる造形力を理解するとともに実践力を身につける。 ② 日本の伝統工芸としての陶芸、身近な実用品としての陶磁器について学ぶことができる。 ③ 陶芸演習において技術とセンスを育み、個性ある作品を制作できる。 ④ 卒業制作展に展示。	○	○	○
染色Ⅰ	① 工芸、クラフトとしての染色を学ぶことができる。 ② 染色の技法を修得しテキスタイルデザインを知ることができる。 ③ 自らの手で「モノ」を作ることを学ぶことができる。	○	○	
染色Ⅱ	① 工芸、クラフトとしての染色を学ぶことができる。 ② 染色の技法を修得しテキスタイルデザインを知ることができる。 ③ 自らの手で「モノ」を作ることを学ぶことができる。	○	○	
フォトタッチソフトウェア演習	① Adobe Photoshopの操作を基礎から学ぶことができる。 ② 画像を自由に加工、編集できる知識と技術の習得できる。	○		
レイアウトソフトウェア演習	① イメージを自由に表現する技術を習得できる。 ② Adobe Illustratorを使用した具体的な作品制作することができる。 ③ Adobe InDesignの基礎を学ぶことができる。	○	○	○
日本の芸術・文化	① 日本の芸術・文化の歴史的背景について知ることができる。	○	○	
介護概論	① 介護職の仕事内容や働く現場の事を理解できる。 ② 人権と尊厳を支える支援や自立に向けた介護を理解できる。 ③ 介護職の役割や専門性と他職種との連携を理解できる。 ④ 食事に関連した自立に向けた介護を理解できる。	○	○	○
栄養学	① 各栄養素の種類及び体内でのはたらきを説明できる。 ② 消化と吸収について理解できる。 ③ エネルギー代謝について理解できる。	○	○	○
介護の理解	① 介護におけるコミュニケーションを理解できる。 ② 老化に伴うこころとからだの変化と高齢者の健康を理解できる。 ③ 認知症を取り巻く状況や家族への支援を理解できる。 ④ 介護過程の基礎的内容を理解することができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
手話 I	① 聴覚障害者とのコミュニケーション方法を説明することができる。 ② 聞こえない人達が抱える問題や福祉について理解することができる。 ③ 手話で挨拶や自己紹介、趣味などを話題に会話ができる。	○	○	○
基礎法学	① 憲法とはなにか、憲法の理念、日本国憲法の構造について理解できる。 ② 憲法の保障する権利、国の統治形態などについて理解することができる。 ③ 社会の様々な問題を、憲法の観点から考え、検討することができる。	○	○	
事務管理	① 社会人・職業人としての心構えと社会や経済、企業や仕事の仕組みを理解できる。 ② キャリアビジョンの構築や法務・財務・税務等の基礎的なビジネス能力向上の重要性を理解できる。 ③ 組織の共通目標が達成できる基盤が「事務」であることを理解できる。	○	○	○
ビジネス実務総論	① 学生から社会人になる為の意識改革をし、ビジネスマナーの基本を身につけることができる。 ② 基本的なビジネスマナーを修得した上で、面接試験に充分活かせるよう学習することができる。	○	○	○
現代社会論	① 現代社会の様々な変化とその問題点について理解することができる。 ② 社会の変化に対する対応策と課題について理解ができる。 ③ 社会に積極的に関わっていく知識と対応力を身につけることができる。	○		○
表計算演習 I	① 数式の入力（四則演算）ができる。 ② 関数（SUM・ROUND・RANKなど）を使うことができる。 ③ 関数（IF・VLOOKUPなど）を使うことができる。 ④ グラフの作成ができる。	○		○
プレゼンテーション概論	① コミュニケーションは双方向であることを理解し、相手から聞いてもらえる「人間力」を磨くことができる。 ② 「考える」「まとめる」「発信する」を繰り返す行い、相手に届くプレゼンテーションを体得できる。	○	○	
表計算演習 II	① 関数（SUM・ROUND・RANKなど）を使うことができる。 ② 関数（IF・AND・OR・VLOOKUPなど）応用し使うことができる。 ③ セル証明ができる。 ④ 多様なグラフの作成ができる。	○		○
情報ネットワーク論	① 見出しの作成・画像の挿入ができる。 ② リンク元・リンク先の設定ができる。 ③ スタイルシートの設定ができる。 ④ HTMLやJavaScriptの編集ができる。	○		○
情報処理演習	① 自ら目標を設定し、より高度な技術を身に付けることができる。 ② 情報処理について理解を深めることができる。	○	○	○
服飾構成演習 I	① 洋服の基礎的な知識と技術を修得することができる。 ② 洋服の構造について理解することができる。 ③ パターンを使って裁断や印付けをすることができる。 ④ ミシンを使用して縫製することができる。	○		○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
服飾構成演習Ⅱ	① 洋裁の基礎的な知識と技術を修得することができる。 ② 被服の構造について理解することができる。 ③ 裏地付の被服を製作できる。	○		○
卒業制作Ⅰ	① 衣装制作に関する知識や技術を修得することができる。 ② 制作から演出まで主体性をもってショーの企画に協同することができる。 ③ 作品に見合ったトータルコーディネートで自己表現することができる。 ④ ファッションショーで作品を発表することができる。	○	○	○
卒業制作Ⅱ	① 衣装制作に関する知識や技術を修得することができる。 ② 制作から演出まで主体性をもってショーの企画に協同することができる。 ③ 作品に見合ったトータルコーディネートで自己表現することができる。 ④ ファッションショーで作品を発表することができる。	○	○	○
ホテル・レストラン 演習Ⅰ	① 1流のプロになるために現場で即必要とされる接客の知識や技法を知ることができる。 ② テーブルセッティングなどを実践を交えて確実に習得できる。	○		○
ホテル・レストラン 演習Ⅱ	① ホテル・レストランサービスの基本となる立ち居振る舞いや姿勢・お辞儀・言葉遣いなどの基本を習得できる。 ② ホテルにおけるフロント・客室・ブライダル・ご宴会などの仕事に必要な知識・接客・接遇の意味を理解できる。	○		○
カラーコーディネート 論	① 色彩についての基本的な知識を理解できる。 ② 色彩の心理的、生理的な側面を体験することができる。 ③ 色彩を効果的に配色、カラーコーディネートする方法を習得。AFT3級受験を目指すことができる。 ④ ファッション、ブライダル業界に必要な知識を身につけ色彩センスを磨くことができる。	○	○	○
衣装製作	① ファッションショーに向けて衣装を作ることができる。 ② 基本的な縫製技術を習得することができる。	○	○	○
ウェディング総論	① ウェディングプランナーやブライダルに関わる様々な職種 の知識や業務を理解し、資格取得に必要なスキルを習得できる。 ② 『WBJ認定ウェディングプランナー』資格取得できる。 ③ 資格を取得することにより、ウェディングプランナー業務 に求められるお客様満足に必要なホスピタリティ（おもてなし の精神）を理解できる。	○	○	○
洋裁技術検定対策	① 洋裁についての基本的な知識を理解出来る。 ② 洋裁技術認定試験（1月）の初級取得を目標とする。	○		
ファッションビジネス 販売検定対策	① ファッションに関する仕事全般について正確かつ具体的に認識 することができる。 ② ファッションビジネス製品の計画や生産など全体の流れを把握 することができる。 ③ ファッションビジネス製品の販売や宣伝方法などを認識する ことができる。 ④ 製品や商品に関する基礎知識を修得することができる。	○	○	○
ファッション マネージメント	① 「考える」事の体現、実行ができる。 ② 実社会における「目的→プロセス→予想→結果→考察」の過程 が理解できる。 ③ ファッションのトレンドを理解して、ファッション業界の流れ を把握する。	○		

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
ウェディングプランニング	① ブライダルの知識や業務を具体的に知り、ブライダルの職種の役割を理解することができる。 ② 模擬ウェディングの演習により、習得したスキルを実践することで身につけることができる。	○	○	○
ファッション販売	① ファッションビジネスの基礎的な知識・技術を習得できる。 ② ファッションビジネス能力検定3級の合格を目標とする。	○	○	○
ファッション流行論	① 服飾デザインに関する基礎知識を習得する事ができる。 ② 造形要素やディテールに関する知識を習得する事ができる。	○	○	○
ファッションショー企画	① ファッションショーのための企画構成・演出を立案し、構成をすることができる ② テーマ・スタイル画の製作ポスターの原案作成・プログラムの作成・BGMの選択・舞台演出等	○	○	
トータルスタイリング	① パーソナルカラー理論、骨格理論など個性を活かしたイメージアップに必要な基礎を習得することができる。 ② 自分の魅力を活かし、表現できるコーディネート方法を学習、実践することができる。 ③ ファッション、ブライダル業界に必要な分析方法を経験、活用できる。	○	○	○
イメージ配色	① ファッションだけでなく物づくりやビジネスシーンで効果的に配色する基礎を習得できる。 ② 自分の目指すイメージや他者に与えるイメージを表現できる。 ③ 色からイメージすることで感性を磨くことができる。	○	○	○
キャリアデザイン対策	① 前向きに就活に取り組み、自分らしさや強みを知ることができる。 ② 希望する職種や働き方を理解し、自分自身が満足するキャリアを選び、就活に活かすことができる。 ③ 社会人としてスタートするためのマナーやコミュニケーションスキルを学び活かすことができる。	○	○	○
ファッションデザインテクニック	① 洋服のデザイン画を描ける為の技術と基礎知識を習得することができる。 ② デザイン発想のイメージをもとにその完成された状態を予想し、描けるようになることができる。	○	○	○
ファッション造形Ⅰ	① 染色の技法（型染め、友禅染、絞り染め、ステンシル等）の基礎知識を学ぶことができる。 ② 多くの技法を用い、自分で考案した作品を制作することができる。	○	○	
ファッション造形Ⅱ	① 多くの技法を用い、自分で考案した作品を制作することができる。 ② 作品内容はドレス制作やファッションアイテム（アクセサリ）等の制作を考えている。 ③ ファッションショーで作品を発表することができる。	○	○	
ホビークラフト	① さまざまな刺しゅうテクニックを学ぶことが出来る。 ② 布に図案を写して、自由にステッチを入れて表現することが出来る。 ③ 布目がとりやすい布で、布目をカウントしながら入れていく手法、いろいろな表現が出来る。	○	○	○
織物	① 〔織機に糸をかける〕工程をグループで協力して行うことができる。 ② 織機を使い一人で〔織る〕ことができる。 ③ 用途に合わせて布をデザインすることができる。 ④ 織りあげた布の仕上げ・縫製を行うことができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
メイクアップ演習	① 皮膚理論や化粧品の役割を知り、基礎知識を習得することができる。 ② 自分の顔の形態を知り、自己表現のできる知識・技術を身につけることができる。 ③ 色々な方の個性を引き出して差し上げるアドバイスの知識・技術を身につけることができる。	○	○	○
ネイルアートⅠ	① ネイルを基礎から学び、ネイルアートの様々な技法を習得することができる。 ② ブライダルネイル、様々なネイルデザインのオリジナル性やファッションにおけるトータルバランスが理解できる。	○		
ネイルアートⅡ	① 難易度の高いネイルアートを学び、技法を習得することができる。 ② ブライダルネイル、様々なネイルデザインのオリジナル性や、ファッションにおけるトータルバランスを理解することができる。	○		
ウォーキング レッスンⅠ	① モデルについて知り、基本姿勢やウォーキングを身につける。 ② 制作した作品の特徴や魅力をより効果的に見せることができる。 ③ 作品のイメージに合った構成や演出を考えることができる。 ④ 業界で活躍できる実践力を修得できる。	○	○	○
ウォーキング レッスンⅡ	① ファッションショーのための正しい歩き方や表現力を身につけることができる。	○	○	○
基礎デザイン	① デザインにおける構成の仕組みについて知ることができる。 ② 演習で色や形、材質や空間などの構成感覚を養うことができる。 ③ グラフィックデザインの各種の技法、描写力をつけることができる。	○	○	○
デザイン表現	① 造形表現の形、色彩、変化、統一の関係を学ぶことができる。 ② 具体的、自律的な作品として研究することができる。 ③ 立体の基礎訓練のための展開図、制作を行う。	○	○	○
素描Ⅰ	① 実技演習を通して形態把握力を身につけることができる。 ② ビジュアルデザインの基本的な表現力を習得することができる。	○	○	
素描Ⅱ	① 素描Ⅰよりも難度の高い複数のモチーフを組み合わせて描くことができる。 ② 素描Ⅰよりさらに高い表現力と技術力及び応用力を習得することができる。	○	○	
色彩演習Ⅰ	① 色彩の基礎知識、色の見え方、三属性、対比を理解できる。 ② 配色等の基本を習得でき、色彩検定３級資格取得をめざすことができる。 ③ 配色演習で色彩感覚を磨き実践で使える基礎力を身につけることができる。	○	○	○
色彩演習Ⅱ	① 配色等の知識と技能を習得でき、色彩検定２級資格取得をめざすことができる。 ② マンセル表色系の表示方法を知ることができ、色を見分ける能力を養うことができる。 ③ デザインの様々な分野の知識を深めることができる。	○	○	○
DTP基礎	① Adobe Illustrator の操作を基礎を習得できる。 ② 具体的な、DTPやプリブレスの工程を知ることができる。 ③ 即戦力としての知識と技術の基礎を習得できる。	○	○	
プリブレス演習	① DTP、プリブレスの基礎知識、技術を作品作りを通して取得する。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
DTP演習Ⅰ	① 課題の意図を理解し、情報をまとめ、表現することができる。 ② 締め切りを意識し、制作スケジュールをたてることができる。 ③ デザイン意図を理解し、言葉で相手に説明することができる。	○	○	○
DTP演習Ⅱ	① 課題の意図を理解し、情報をまとめ、表現することができる。 ② 締め切りを意識し、制作スケジュールをたてることができる。 ③ デザイン意図を理解し、言葉で相手に説明することができる。	○	○	○
デザイン演習	① DTP、プリブレスの企画の作成技術を作品制作を通じて習得できる。	○	○	○
写真Ⅰ	① デジタルカメラを使った撮影の基礎的な知識と技術を習得することができる。	○	○	○
写真Ⅱ	① デザイン企画の中で必要な写真撮影の知識と技術を習得することができる。 ② 制作展に展示する作品を制作することができる。	○	○	○
イラストレーションⅠ	① 手描きのイラストレーションの基礎的な知識と技術を習得できる。 ② イラストレーションの考え方や捉え方、見せ方を学ぶことができる。 ③ イラストレーションのデジタル表現への応用を理解できる。	○	○	○
イラストレーションⅡ	① CDジャケット・ブックレット・ロゴマーク・販売促進グッズを制作できる。 ② ①を通じて、ページレイアウトやフォントの扱い方や行間等、冊子の作り方、閉じ方、印刷入稿データを理解できる。	○	○	○
ウェブプログラミング演習Ⅰ	① Webページの成り立ちを知ることができる。 ② HTMLとCSSによるWebページ作成の基礎を学ぶことができる。 ③ Webページ作成に必要な知識と技術を身につけることができる。	○	○	
ウェブプログラミング演習Ⅱ	① Dreamweaverを使い基礎的な Web ページを作成することができる。 ② ①に必要な知識と技術を身につけることができる。	○	○	
ウェブデザイン演習Ⅰ	① 現在のWebデザインのトレンドを知ることができる。 ② 基礎的なWebサイトを作成することができる。 ③ ②に必要な知識と技術を身につけることができる。	○	○	○
ウェブデザイン演習Ⅱ	① 現在のWebサイト作成のデザインのトレンドを知ることができる。 ② 基礎的なものから段階発展したWebサイトを制作することができる。 ③ ②に必要な知識と技術を身につけることができる。	○	○	○
3DCG演習	① 3DCGの基礎と概念を理解できる。 ② 3DCGソフトウェアの基本的な知識と技術を習得できる。	○		
クロスメディアデザインⅠ	① クロスメディアを知り、その表現力を獲得することができる。 ② 造形の基礎とプラットフォームとしてのkeynoteをマスターできる。	○	○	○
クロスメディアデザインⅡ	① クロスメディアについて知り、その表現力を獲得できる。 ② プラットフォームとしてのWordPressの基礎をマスターできる。	○	○	○
デジタルアートⅠ	① コンピュータを使用したアートの体験と制作をすることができる。 ② 「Photoshop」での表現機能をスキルアップできる。 ③ 「Illustrator」での表現機能をスキルアップできる。 ④ ビジュアルな表現力を習得できる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
デジタルアートⅡ	① コンピュータを使用したアートの探究ができる。 ② 使用ツールのクリエイティブな機能をスキルアップできる。 ③ アートの表現力を習得できる。	○	○	○
動画演習Ⅰ	① 動画制作に関する基礎を理解することができる。 ② 動画制作に必要とされる基礎的な知識と技術を身につけることができる。	○	○	
動画演習Ⅱ	① 動画制作に関する基礎を理解することができる。 ② 動画制作に必要とされる基礎的な知識と技術を身につけることができる。 ③ 動画の作品を制作することができる。	○	○	
ドローイング研究	① 各自の創作の起点となるドローイングの可能性とその表現領域の在り方を理解できる。	○	○	○
絵画Ⅰ	① 西洋および日本の美術史（特に絵画の歴史）の概要とともに絵画の概要が理解できる。 ② 油画の特性や技法が理解できる。 ③ 油画を制作する。	○	○	
絵画Ⅱ	① 近代および現代における美術の概要が理解できる。 ② 絵画の持つ多様な表現方法を理解し、各自が選択した技法により油画を制作する。	○	○	
プランニング	① 自分の考えたことを形にして他の人に発表することができる。 ② 柔軟な想像力を身に付け、発想力を高めることができる。	○	○	○
制作実習Ⅰ	① ＤＴＰ、プリブレスの基礎知識、技術を作品づくりを通して習得する。 ② テーマを設定し考えやアイデアを創出する技術を学ぶことができる。	○	○	○
制作実習Ⅱ	① ＤＴＰ、プリブレスの工程を通して知識、技術を習得する。	○	○	○
デザイン研究	① 修得した知識、技術を作品制作に生かすことができる。 ② イベントやコンクールに参加し、作品を発表することで、グラフィックデザイナーとしての総合的な力を身につけることができる。	○	○	○
医療事務総論	① 医療保険制度の理解を深めることができる。 ② 医療事務員として必要な基礎知識の習得を図ることで、専門性を高めることができる。	○	○	
医療事務演習Ⅰ	① 医療機関における医療保険制度の仕組みを知り説明することができる。 ② 基本・特掲診療料の算定方法を学び処理することができる。 ③ ②の内容を理解し診療報酬明細書に記入することができる。	○	○	○
医療事務演習Ⅱ	① 特掲診療科（処置・手術・麻酔・輸血・検査）の算定方法を学び処理することができる。 ② ①の内容を理解し診療報酬明細書に記入することができる。	○	○	○
医療事務演習Ⅲ	① 特掲診療科（画像診断・リハビリ・精神科・放射線）の算定方法を学び処理することができる。 ② ①の内容を理解し診療報酬明細書に記入することができる。 ③ 外来カルテの診療内容を理解し会計カードを作成することができる。	○	○	○
医療事務演習Ⅳ	① 医療事務演習Ⅰ～Ⅲの基礎学習を理解し会計カード・外来診療報酬明細書が作成できる。 ② 医療事務演習Ⅰ～Ⅲの基礎学習を理解し会計カード・入院診療報酬明細書が作成できる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
コミュニケーション 演習	① 受付対応・電話対応ができる。 ② 実習先での学びに感謝し、良好な人間関係を築くことができる。	○	○	○
医療安全	① 医療安全対策の必要性について理解できる。 ② ヒューマンエラーの特徴を理解できる。 ③ 感染対策の基本が理解できる。 ④ 個人情報の取扱いが理解できる。			○
レセプト検定対策Ⅰ	① 基本診療料（初再診・医学管理・在宅・投薬・注射）を処理できる。 ② ①の内容を診療報酬明細書（レセプト）に転記することができる。	○	○	○
レセプト検定対策Ⅱ	① 基本診療料（手術・麻酔・輸血・検査）を処理できる。 ② ①の内容を診療報酬明細書（レセプト）に転記することができる。	○	○	○
レセプト検定対策Ⅲ	① 基本診療料（画像診断・リハビリ・精神科・放射線）を処理できる。 ② ①の内容を診療報酬明細書（レセプト）に転記することができる。	○	○	○
レセプト検定対策Ⅳ	① 外来カルテの会計カードを作成・外来用レセプトに転記できる。 ② 入院カルテの会計カードを作成・入院用レセプトに転記できる。	○	○	○
医療秘書実務	① 医療秘書の役割が理解できる。 ② 秘書実務が遂行できる。 ③ チーム医療の意義が理解でき、中心的役割を果たす実務ができる。	○	○	○
看護概論	① ライフサイクルの変化の視点から看護の基礎知識を理解できる。 ② 医療・保健・福祉の視点からチーム連携のあり方を理解できる。	○		○
電子カルテ実務総論	① 診療情報管理の概要とその意義を理解できる。 ② 診療情報管理の背景と沿革、関係法規が理解できて、説明できる。	○	○	○
医事コンピュータ	① 医療事務演習の基礎学習を基に医療用パソコン入力ができる。 ② 医療用パソコンを使用することにより、診療報酬請求についての理解をより深める。	○	○	○
医療秘書実務実習Ⅰ	① 病院の業務全般の流れが理解できる。 ② 医事課業務について説明できる。	○	○	○
医療秘書実務実習Ⅱ	① 病院組織について理解できる。 ② 受付、窓口業務についての業務が作業・実践できる。	○	○	○
医療秘書実務実習Ⅲ	① 診療報酬請求業務についての理解を深める。 ② 医事課の事務的業務について理解できる。	○	○	○
電子カルテ実務演習	① 医療事務演習の基礎学習を基に医療用パソコンの入力ができる。 ② 医療用パソコンを使用することにより、診療報酬請求についての理解をより深める。	○	○	○
解剖学	① 解剖学の見地から、生命活動の不思議と人体の絶妙なしくみを理解する。 ② この学習を通して栄養学、食品学の基礎学習と発展的研究能力を培う。	○		
生理学	① 生理学の見地から、生命活動の不思議と人体の絶妙なしくみを理解する。 ② この学習を通して栄養学、食品学の基礎学習と発展的研究能力を培う。	○		

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
薬と検査	① 生体に何らかの変化を起こす化学物質は、全て薬物であることが理解できる。 ② 薬は使い方を誤れば病状を悪化させ、時には命を奪うこともあることを理解する。 ③ 正しい薬との付き合い方・飲み方について基本的な知識が理解できる。	○	○	○
公衆衛生学	① 予防医学の概念について説明できる。 ② 疾病と死因の年次推移について説明できる。 ③ 健康と環境との関係を説明できる。	○	○	○
基礎医学	① 「介護保険実務士」取得に必要な医学的知識が理解できる。 ② 5 疾病、アレルギーについての理解を深めることができる。	○	○	○
介護技術Ⅰ	① 基本的な介護を実践するために必要な知識・技術を理解できる。 ② 介護を要する人の潜在能力を引き出す視点の大切さを理解できる。 ③ 相手の立場に立ち考える姿勢をもつことの大切さを理解できる。	○	○	○
介護技術Ⅱ	① 基本的な介護を実践するために必要な知識・技術を理解できる。 ② 介護を要する人の潜在能力を引き出す視点の大切さを理解できる。 ③ 相手の立場に立ち考える姿勢をもつことの大切さを理解できる。	○	○	○
介護実習	① 積極的に周囲に働きかけ、自ら気づきを得ることができる。 ② 気づきを自分なりに整理・考察し、報告することができる。 ③ 社会人としてふさわしい行動を取ることができる。	○	○	○
介護事務演習	① 介護保険制度を理解し介護被保険者証より利用者基本情報を読み取ることができる。 ② 介護保険制度を理解しケアプランよりサービスの内容を読み取ることができる。 ③ ①②を理解し介護報酬サービスコード表を使い介護給付費明細書を作成することができる。	○		○
手話Ⅱ	① 「聞こえない」とはどういう事か、困ること・対応方法を説明することができる。 ② 手話通訳の立場に立った考え方、対応について理解することができる。 ③ 手話で身近な生活や出来事などを話題に会話ができる。	○	○	○
臨床医学概論Ⅰ	① 内科系分野の主要な疾患の症状・検査・診断・治療を理解できる。 ② 内科系分野の病気の種類や、専門用語について理解できる。	○		○
診療情報管理論Ⅰ	① 診療情報管理の概要とその意義を理解できる。 ② 診療情報管理の背景と沿革、関係法規が理解できて、説明できる。	○	○	○
臨床医学概論Ⅱ	① 外科系分野の主要な疾患の症状・検査・診断・治療を理解できる。 ② 外科系分野の病気の種類や、専門用語について理解できる。	○		○
病名コーディング演習Ⅰ	① ICD（国際疾病分類）の基礎的な知識を習得できる。 ② 病名をICDに変換することができる。 ③ 疾病分類のルールに沿ってコーディングできる。	○		
診療情報管理論Ⅱ	① 病院運営における診療情報管理の現状を学び、実務の概要を理解できる。 ② 診療情報管理の最新の情報を把握し、実務に通じる知識を身につけることができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
病名コーディング 演習Ⅱ	① ICD（国際疾病分類）の応用での知識が習得できる。 ② 病名を選択しICDに変換することができる。 ③ 病名からDPC／PDPS（診断群分類別包括支払い制度）の計算 ができる。	○		
システム設計	① リレーショナルデータベースを作成することができる。 ② クエリを作成することができる。 ③ レポートを作成することができる。 ④ フォームを作成することができる。	○		○
卒業研究	① 研究テーマについて深く現状把握することができる。 ② 考えをまとめ、内容を深め、論理的に整理することができる。 ③ 自分の考えを聴衆に伝えるためのプレゼンテーションができる。	○	○	○

ライフデザイン総合学科〔日本語コース〕 教育課程

[令和 7 年 4 月入学生]

科 目		履修法	単 位		1 年		2 年		備 考
			必	選	春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ	秋学期 4セメ	
基礎教育	基礎科目	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	講義	2	○				基礎科目については 8 単位以上取得すること ※「国際関係学」は英語のみで教授される科目です。
		日 本 語 表 現	講義	2			○		
		情 報 科 学	講義	2		○			
		I C T と 社 会	演習	1		○			
		I C T 基 礎	講義	2	○				
		人 間 関 係 論	講義	2				○	
		日 本 事 情 I	講義	2	○				
		日 本 事 情 II	講義	2				○	
		国 際 関 係 学	講義	2				○	
		キ ャ リ ア 教 育	講義	1	●	●	●	●	
	外国語	イ ン タ ー ン シ ッ プ	実習	1	●	●	●	●	外国語から 2 単位以上取得すること
		社 会 貢 献 演 習 I	演習	1	●	●	●	●	
		社 会 貢 献 演 習 II	演習	1	●	●	●	●	
		英 語 I	演習	1	○				
	体育	英 語 II	演習	1		○			
		中 国 語 I	演習	1	○				
		中 国 語 II	演習	1		○			
	体育	運 動 ス ポ ー ツ I	演習	1		○			
		運 動 ス ポ ー ツ II	演習	1			○		

科 目		履修法	単 位		1 年		2 年		備 考
			必	選	春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ	秋学期 4セメ	
専門教育科目	ビジネス実務	ビ ジ ネ ス マ ナ ー	講義	2	○				英語で開講
		表 計 算 演 習 I	演習	1				○	
		プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 演 習	演習	1				○	
		情 報 ネ ッ ト ワ ー ク 論	講義	2			○		
		国 際 関 係 学 総 論	講義	2				○	
		日 本 の 文 化	演習	1	○				
		日 本 語 実 践 会 話	講義	2	○	○	○	○	
		日 本 語 実 践 文 書 作 成	講義	2	○	○	○	○	
		ビ ジ ネ ス 日 本 語	講義	2	○	○	○	○	
	日本語	総 合 日 本 語 A	演習	2	○○				
		総 合 日 本 語 B	演習	2	○○				
		総 合 日 本 語 C	演習	2	○○				
		総 合 日 本 語 D	演習	2	○○				
		総 合 日 本 語 E	演習	2	○○				
		総 合 日 本 語 F	演習	2	○○				
		総 合 日 本 語 G	演習	1	○				
		総 合 日 本 語 H	演習	1	○				
		総 合 日 本 語 I	演習	1	○				

科 目		履 修 法	単 位		1 年		2 年		備 考
					春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ	秋学期 4セメ	
			必	選					
専門教育科目	日 本 語	日 本 語 中 級 A	演習	2		〇〇			
		日 本 語 中 級 B	演習	2		〇〇			
		日 本 語 中 級 C	演習	2		〇〇			
		日 本 語 中 級 D	演習	2		〇〇			
		日 本 語 中 級 E	演習	1		〇			
		日 本 語 中 級 F	演習	1		〇			
		日 本 語 中 級 G	演習	1		〇			
		日 本 語 中 上 級 A	演習	1			〇		
		日 本 語 中 上 級 B	演習	1			〇		
		日 本 語 中 上 級 C	演習	1			〇		
		日 本 語 中 上 級 D	演習	1			〇		
		日 本 語 中 上 級 E	演習	1			〇		
		日 本 語 中 上 級 F	演習	1			〇		
		日 本 語 中 上 級 G	演習	1			〇		
		日 本 語 中 上 級 H	演習	1			〇		
		日 本 語 上 級 A	演習	1				〇	
		日 本 語 上 級 B	演習	1				〇	
		日 本 語 上 級 C	演習	1				〇	
		日 本 語 上 級 D	演習	1				〇	
		日 本 語 上 級 E	演習	1				〇	
		日 本 語 上 級 F	演習	1				〇	
		日 本 語 上 級 G	演習	1				〇	
		日 本 語 上 級 H	演習	1				〇	
		日本語能力試験対策Ⅰ（聴解）	演習	1	〇				
		日本語能力試験対策Ⅰ（文字語彙）	演習	1	〇				
		日本語能力試験対策Ⅰ（文法）	演習	1	〇				
		日本語能力試験対策Ⅰ（読解）	演習	1	〇				
		日本語能力試験対策Ⅱ（聴解）	演習	1		〇			
		日本語能力試験対策Ⅱ（文字語彙）	演習	1		〇			
		日本語能力試験対策Ⅱ（文法）	演習	1		〇			
		日本語能力試験対策Ⅱ（読解）	演習	1		〇			
		日本語能力試験対策Ⅲ（聴解）	演習	1			〇		
		日本語能力試験対策Ⅲ（文字語彙）	演習	1			〇		
		日本語能力試験対策Ⅲ（文法）	演習	1			〇		
		日本語能力試験対策Ⅲ（読解）	演習	1			〇		
		日本語能力試験対策Ⅳ（聴解）	演習	1				〇	
		日本語能力試験対策Ⅳ（文字語彙）	演習	1				〇	
		日本語能力試験対策Ⅳ（文法）	演習	1				〇	
		日本語能力試験対策Ⅳ（読解）	演習	1				〇	
		日 本 語 能 力 試 験 対 策	演習	1	●	●	●	●	通年
		日 本 留 学 試 験 対 策	演習	1	●	●	●	●	通年
ラー ニング	ジョ ブ	イン タ ー ン シ ッ プ Ⅰ	実習	1	●	●	●	●	
		イン タ ー ン シ ッ プ Ⅱ	実習	1	●	●	●	●	
		イン タ ー ン シ ッ プ Ⅲ	実習	1	●	●	●	●	
		イン タ ー ン シ ッ プ Ⅳ	実習	1	●	●	●	●	

※〇印は90分授業 1コマ15週 〇〇印は90分授業 2コマ15週

●印は90分授業 1コマ 8週

専門教育科目から50単位以上、基礎科目・外国語・体育を含めて62単位以上取得しなければ、卒業できない。

社会貢献演習Ⅰ・Ⅱは2時間×8回以上の貢献をもって演習1単位とする。

「キャリア教育」は2年間を通じて8回以上受講すること。

都合により、開講時期等が変更になることがある。

令和7年度カリキュラムマップ

【2025ライフデザイン総合学科：日本語コース（4月入学生）】

建学の精神：自立・自活できる人材の育成

教育目標と3つのポリシー：学生生活ハンドブック【学生便覧】を参照してください。

ライフデザイン総合学科【ディプロマポリシー】DP

社会に対応し専門職としてのニーズに応えられる努力ができる。さらに、はば広い教養と専門的な知識を学び、時代の求める人材をめざすことができる。

日本語コース【ディプロマポリシー】DP

- ・日本社会に必要な知識、教養のみならず、文化、習慣を理解することができる。
- ・日本語の基礎能力を習得・統合し、自身の目的に応じて実社会で駆使することができる。
- ・多様な文化や価値観を持つ人々とかわり、他者の意見に耳を傾けながら日本語で自らの気持ちや考えを的確に表現する力、および伝達する力を身につけることができる

フィールド		1年生春学期 1セメスター	1年生秋学期 2セメスター	2年生春学期 3セメスター
基礎教育	基礎科目	コミュニケーション論 ICT基礎 日本事情Ⅰ	ICTと社会 情報科学	日本語表現
		【通年】 キャリア教育 インターンシップ 社会貢献演習Ⅰ		
	外国語	英語Ⅰ 中国語Ⅰ	英語Ⅱ 中国語Ⅱ	
	体育		運動スポーツⅠ	運動スポーツⅡ
専門教育	ビジネス実務	日本の文化 ビジネスマナー		情報ネットワーク論
		【通年】 日本語実践会話 日本語実践文書作成 ビジネス日本語		
	日本語	総合日本語A 総合日本語B 総合日本語C 総合日本語D 総合日本語E 総合日本語F 総合日本語G 総合日本語H 総合日本語Ⅰ 日本語能力試験対策Ⅰ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅰ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅰ（文法） 日本語能力試験対策Ⅰ（読解）	日本語中級A 日本語中級B 日本語中級C 日本語中級D 日本語中級E 日本語中級F 日本語中級G 日本語能力試験対策Ⅱ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅱ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅱ（文法） 日本語能力試験対策Ⅱ（読解）	日本語中上級A 日本語中上級B 日本語中上級C 日本語中上級D 日本語中上級E 日本語中上級F 日本語中上級G 日本語中上級H 日本語能力試験対策Ⅲ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅲ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅲ（文法） 日本語能力試験対策Ⅲ（読解）
		【通年】 日本語能力試験対策 日本留学試験対策		
	ジョブラーニング	【通年】 インターンシップⅠ インターンシップⅡ インターンシップⅢ		

2年生秋学期 4セメスター		希望する卒業後の進路（就職・進学等）の内定 検定試験の合格
人間関係論 国際関係学 日本事情Ⅱ		
社会貢献演習Ⅱ		
表計算演習Ⅰ プレゼンテーション演習 国際関係学総論		
日本語上級A 日本語上級B 日本語上級C 日本語上級D 日本語上級E 日本語上級F 日本語上級G 日本語上級H		
日本語能力試験対策Ⅳ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅳ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅳ（文法） 日本語能力試験対策Ⅳ（読解）		
インターンシップⅣ		

ライフデザイン総合学科〔日本語コース〕到達目標一覧表

[令和7年4月入学生]

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
コミュニケーション論	① 言語・非言語コミュニケーションを理解できる。 ② 相手に伝わる話し方（言葉遣い・声のトーン・態度）を習得できる。	○	○	○
日本語表現	① 「聞く、話す、読む、書く」の日本語表現能力の向上ができる。 ② 観察力やデジタル基本スキルを活かして、自分の意見やアイデアなどを表現することができる。	○	○	○
情報科学	① 情報実務に関する基本的な用語を説明できる。 ② 情報実務に必要な情報機器の基本的な操作ができる。	○		○
ICTと社会	① 情報社会の現状を理解し、健全な情報社会の一員として社会に参画できる。 ② 情報リテラシーを身に着ける。 ③ 受け取った情報を活用し、自身の考えを他者へプレゼンテーションする力を身につける。	○	○	○
ICT基礎	① 自ら目標を設定し、より高度な技術を身に付けることができる。 ② 情報処理について理解を深めることができる。	○	○	○
人間関係論	① 自己と他者の心理・行動について理解を深めことができる。 ② より良い人間関係を築く力を身に付けることができる。	○	○	○
日本事情Ⅰ	① 日本社会に必要な知識、教養、習慣を理解し、適用できる。 ② 日本人の考え方やルールを学び、実生活で運用できる。 ③ 大学生としての知識を身につけ、新しい環境に適用できる。	○	○	
日本事情Ⅱ	① 将来設計に基づき、各進路に必要な知識を学び、実践できる。 ② 国際人として自立し、積極的に日本社会に参画できる。	○	○	○
国際関係学	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に着けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○	○	○
キャリア教育	① キャリア形成のためのプロセスを知り、自己理解を深める。 ② 自分らしく生きていくために必要な知識や能力を身につける。 ③ 地域社会に必要なキャリア形成について理解できる。		○	○
インターンシップ	① 社会現場を経験することにより職業意識や勤労意欲を高めることができる。			○
社会貢献演習Ⅰ	① 地域・社会に貢献する人財（人材）になることができる。 ② 貢献活動を通して人間的成長ができる。		○	○
社会貢献演習Ⅱ	① 地域・社会に貢献する人財（人材）になることができる。 ② 貢献活動を通して人間的成長ができる。		○	○
英語Ⅰ	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることに自信を高めることができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
英語Ⅱ	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることに自信を高めることができる。	○	○	
中国語Ⅰ	① 中国語による基礎的なコミュニケーションができる。 ② 文化体験授業を通して、基本的な知識を身につけることができる。	○	○	○
中国語Ⅱ	① 中国語の基礎的なコミュニケーションのスキルを向上できる。 ② 文化体験授業を通して、中国に対する理解を深めることができる。	○	○	○
運動スポーツⅠ	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	
運動スポーツⅡ	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	
ビジネスマナー	① 日本社会に必要な基礎知識、マナーを理解することができる。 ② 面接、電話応対で用いられる日本語表現を使うことができる。 ③ 日本人のビジネススタイルや価値観を理解することができる。	○	○	○
表計算演習Ⅰ	① 数式の入力（四則演算）ができる。 ② 関数（SUM・ROUND・RANKなど）を使うことができる。 ③ 関数（IF・VLOOKUPなど）を使うことができる。 ④ グラフの作成ができる。	○		○
プレゼンテーション演習	① 情報を収集・分析し、適切な表現方法を選択することができる。 ② 聴衆の理解を促すわかりやすいスライドを作成できる。 ③ プレゼンテーションソフトの基本的な操作ができる。	○	○	○
情報ネットワーク論	① 見出しの作成・画像の挿入ができる。 ② リンク元・リンク先の設定ができる。 ③ スタイルシートの設定ができる。 ④ HTMLやJavaScriptの編集ができる。	○		○
国際関係学総論	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に着けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○		
日本の文化	① 演習を通して、日本の文化や歴史、習慣に触れることができる。 ② 自国の文化や習慣と比較し、説明することができる。 ③ コミュニケーション能力を身につけ、協調することができる。	○	○	○
日本語実践会話	① 丁寧な日本語を使い、自分の意見を主張することができる。 ② 他者の意見に耳を傾け、コミュニケーションをとることができる。	○	○	○
日本語実践文書作成	① 日本語を用いて文章を書くことができる。 ② 自身の意見を論理立てて記述することができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
ビジネス日本語	① ビジネスに必要な日本語や基礎知識を理解し、運用できる。	○	○	○
総合日本語A	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語B	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語C	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語D	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語E	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○		
総合日本語F	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語G	① 基礎的な漢字の意味、書き方を理解することができる。 ② 基礎的な漢字で書かれた文章を読み取ることができる。	○	○	
総合日本語H	① 簡単な日本語の音を聞き分けることができる。 ② 簡単な日本語の音声を聞き、理解し推測することができる。	○	○	
総合日本語I	① 簡単な日本語の文章を読み、理解できる。 ② 文章を読んで、簡単に意見や感想が言える。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅰ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅰ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅰ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使うことができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅰ (読解)	① 日本社会で必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 日常生活において読む力を適用できる。	○	○	
日本語中級 A	① 場面や状況に応じて日本語を理解、運用できる。 ② 自分の意見や感情を簡単に伝えることができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を伸ばすことができる。	○	○	
日本語中級 B	① 場面や状況に応じて日本語を理解、運用できる。 ② 自分の意見や感情を簡単に伝えることができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を伸ばすことができる。	○	○	
日本語中級 C	① 場面や状況に応じて日本語を理解、運用できる。 ② 自分の意見や感情を簡単に伝えることができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を伸ばすことができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
日本語中級D	① 場面や状況に応じて日本語を理解、運用できる。 ② 自分の意見や感情を簡単に伝えることができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を伸ばすことができる。	○	○	
日本語中級E	① 既習の漢字をそれぞれの場面に沿って正しく使うことができる。 ② 漢字の語彙を増やし、意味を理解することができる。 ③ 未習の漢字を含む発展的な内容の情報を推測することができる。	○	○	
日本語中級F	① 短い文章を読んで理解し、要約することができる。 ② 内容について意見を言うことができる。	○	○	
日本語中級G	① 日本語の音声を聞き、日本語の特徴を理解することができる。 ② 習得した知識を応用して聞き取るすることができる。 ③ 文脈から推測したり類推し、判断することができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。 ④ TPOに応じた日本語の使い方が理解できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅱ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使うことができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (読解)	① 日本社会で必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 日常生活において読む力を応用できる。	○	○	
日本語中上級A	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級B	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級C	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級D	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級E	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級F	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級G	① 日本語の漢字の音読み訓読みを知り、読むこと、書くことができる。 ② 日常生活でよく使う漢字の習得をし、実生活で使うことができる。	○	○	
日本語中上級H	① 日常よく接する場面における会話の「聞く力」と「話す力」を身につける。 ② 場面に応じた表現の選択が意識できるようになる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅲ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。 ④ TPOに応じた日本語の使い方を習得できる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
日本語能力試験対策Ⅲ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅲ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使うことができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅲ (読解)	① 日本社会で必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 読解力を日常生活からビジネスシーンまで応用できる。	○	○	
日本語上級 A	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 B	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 C	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 D	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 E	① 社会生活を営むために必要な会話力を学び、コミュニケーション力を身につけることができる。	○	○	
日本語上級 F	① 社会生活を営むために必要な会話力を学び、コミュニケーション力を身につけることができる。	○	○	
日本語上級 G	① 日本語の漢字の音読み訓読みを知り、読むこと、書くことができる。 ② 日常生活でよく使う漢字の習得をし、実生活で使うことができる。	○	○	
日本語上級 H	① CDを聞いて答える練習ができる。 ② 会話力をつねながら、実用的な日本語の力をつけることができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅳ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。 ④ TPOに応じた日本語の使い方を習得し、運用できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅳ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅳ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使うことができる。 ③ 個々の日本語能力に合った発展的な問題に取り組むことができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅳ (読解)	① 日本社会で必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 場面を問わず読む力を応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策	① 日本社会に必要な文字、語彙、文法の知識を修得し、運用できる。	○	○	
日本留学試験対策	① 大学等での勉学に対応できる文字、語彙、文法を修得し運用できる。	○	○	

ライフデザイン総合学科〔ビジネス・観光コース〕 教育課程

[令和 7 年 4 月入学生]

科 目			履 修 法	単 位		1 年		2 年		ビ ジ ネ ス 実 務 士	情 報 処 理 士	観 光 実 務 士	温 泉 コ ン シ ェ ル ジ ュ 課 程	温 泉 入 浴 ア ド バ イ ザ ー 課 程	備 考
						春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ	秋学期 4セメ						
				必	選										
基礎教育	基礎科目	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	講義	2	○					★				基礎科目については8単位 以上取得すること ※「国際関係学」は英語のみ で教授される科目です。	
		日 本 語 表 現	講義	2			○			★					
		情 報 科 学	講義	2		○				★	★				
		I C T と 社 会	演習	1		○					★				
		I C T 基 礎	講義	2	○										
		人 間 関 係 論	講義	2					○	★	★				
		リ ー ダ ー シ ッ プ	講義	2				○		★	★				
		経 営 学	講義	2	○										
		国 際 関 係 学	講義	2					○						
		日 本 事 情 I	講義	2	○										
		日 本 事 情 II	講義	2					○						
		キ ャ リ ア 教 育	講義	1		●	●	●	●						
		イ ン タ ー シ ッ プ	実習	1		●	●	●	●						
		社 会 貢 献 演 習 I	演習	1		●	●	●	●						
		社 会 貢 献 演 習 II	演習	1		●	●	●	●						
	外国語	英 語 I	演習	1	○									外国語から2単位以上取得 すること	
		英 語 II	演習	1		○									
		中 国 語 I	演習	1	○										
	体育	中 国 語 II	演習	1		○									
		運 動 ス ポ ー ツ I	演習	1		○									
		運 動 ス ポ ー ツ II	演習	1				○							

科 目		履 修 法	単位		1 年		2 年		ビジネス実務士	情報処理士	観光実務士	温泉コンシェルジュ課程	温泉入浴アドバイザー課程	備 考	
					春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ	秋学期 4セメ							
			必	選											
専門教育科目	ビジネス実務	ビジネス実務総論	講義	2		○			★						
		ビジネス実務演習	演習	1	○				★						
		ビジネスマナー	講義	2	○										
		表計算演習Ⅰ	演習	1		○				★					
		表計算演習Ⅱ	演習	1			○								
		現代社会論	講義	2	○					★	★				
		プレゼンテーション概論	講義	2		○				★	★				
		プレゼンテーション演習	演習	1		○				★					
		情報ネットワーク論	講義	2			○			★					
		事務管理	講義	2				○		★	★				
		企業理解	講義	1	●										
		経済学入門	講義	2				○		★		☆			
		経済学概論	講義	2				○							
		エコノミックピアサポート概論	講義	2				○		★					
		財務会計論	講義	2	○					★	★				
		簿記Ⅰ	講義	2		○									
		ファイナンス論	講義	2				○							
		管理会計論	講義	2					○						
		マーケティング論	講義	2	○										
		サービスマーケティング	講義	2		○									
		経営学総論	講義	2				○							
		貿易実務	講義	2		○									
		起業学	講義	2				○							
		国際関係学総論	講義	2					○						英語で開講
		日本語実践会話	講義	2	○	○	○	○	○						
		日本語実践文書作成	講義	2	○	○	○	○	○						
		ビジネス日本語	講義	2	○	○	○	○	○	★					

専 門 教 育 科 目	科 目	履 修 法	単 位		1 年		2 年		ビ ジ ネ ス 実 務 士	情 報 処 理 士	観 光 実 務 士	温 泉 コ ン シ ェ ル ジ ュ 課 程	温 泉 入 浴 ア ド バ イ サ ー 課 程	備 考
			必	選	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期						
					1 セ マ	2 セ マ	3 セ マ	4 セ マ						
専門教育科目	日本語	日 本 語 中 上 級 A	演習	1	○									
		日 本 語 中 上 級 B	演習	1	○									
		日 本 語 中 上 級 C	演習	1	○									
		日 本 語 中 上 級 D	演習	1	○									
		日 本 語 中 上 級 E	演習	1	○									
		日 本 語 中 上 級 F	演習	1	○									
		日 本 語 上 級 A	演習	1		○								
		日 本 語 上 級 B	演習	1		○								
		日 本 語 上 級 C	演習	1		○								
		日 本 語 上 級 D	演習	1		○								
		日 本 語 上 級 E	演習	1		○								
		日 本 語 上 級 F	演習	1		○								
		実 践 日 本 語 A	演習	1			○							
		実 践 日 本 語 B	演習	1			○							
		実 践 日 本 語 C	演習	1			○							
		実 践 日 本 語 D	演習	1			○							
		実 践 日 本 語 E	演習	1				○						
		実 践 日 本 語 F	演習	1				○						
		実 践 日 本 語 G	演習	1				○						
		実 践 日 本 語 H	演習	1				○						
		日 本 語 能 力 試 験 対 策 I (聴 解)	演習	1	○									
		日 本 語 能 力 試 験 対 策 I (文 字 語 彙)	演習	1	○									
		日 本 語 能 力 試 験 対 策 I (文 法)	演習	1	○									
		日 本 語 能 力 試 験 対 策 I (読 解)	演習	1	○									
		日 本 語 能 力 試 験 対 策 II (聴 解)	演習	1		○								
		日 本 語 能 力 試 験 対 策 II (文 字 語 彙)	演習	1		○								
		日 本 語 能 力 試 験 対 策 II (文 法)	演習	1		○								
		日 本 語 能 力 試 験 対 策 II (読 解)	演習	1		○								
		日 本 語 能 力 試 験 対 策 III (聴 解)	演習	1			○							
		日 本 語 能 力 試 験 対 策 III (文 字 語 彙)	演習	1			○							
		日 本 語 能 力 試 験 対 策 III (文 法)	演習	1			○							
		日 本 語 能 力 試 験 対 策 III (読 解)	演習	1			○							
		日 本 語 能 力 試 験 対 策 IV (聴 解)	演習	1				○						
		日 本 語 能 力 試 験 対 策 IV (文 字 語 彙)	演習	1				○						
		日 本 語 能 力 試 験 対 策 IV (文 法)	演習	1				○						
		日 本 語 能 力 試 験 対 策 IV (読 解)	演習	1				○						
		日 本 語 能 力 試 験 対 策	演習	1	●	●	●	●						通年
		日 本 留 学 試 験 対 策	演習	1	●	●	●	●						通年
	観光・サービス	日 本 の 文 化	演習	1	○						☆			
		写 真 (写 真 I)	演習	2	○ ○									
		宿 泊 業 務 演 習	演習	1	●	●	●	●			☆			
		ホ テ ル ・ レ ス ト ラ ン 演 習 I	演習	1		○					☆			
		ホ テ ル ・ レ ス ト ラ ン 演 習 II	演習	1			○				☆			
		ホ テ ル ・ 観 光 英 語	演習	1			○				☆			
		日 中 通 訳 入 門	講義	1				●			☆			
		観 光 ・ 地 域 体 験 学	講義	2	●	●	●	●			★	★		集中 (30時間)
		温 泉 の 歴 史 と 発 展	講義	2	○						★	★	★	
		地 域 有 名 の 観 光 要 素 の 発 見	講義	2			○				★	★	★	
		お も て な し の 心 を 学 ぶ	講義	2	○						★	★	★	
		温 泉 コ ン シ ェ ル ジ ュ の 基 礎	講義	2	○						★	★	★	
		大 分 県 立 温 泉 学	講義	2				○			★	★	★	
		温 泉 文 化 と 活 用	講義	2				○			★	★	★	
		温 泉 医 療 養 護 指 導 論	講義	1		●					★	★	★	
		温 泉 入 浴 指 導 概 論	講義	1		●					★	★	★	
	ジョブ ラーニング	イ ン タ ー ン シ ッ プ I	実習	1	●	●	●	●						
		イ ン タ ー ン シ ッ プ II	実習	1	●	●	●	●						
		イ ン タ ー ン シ ッ プ III	実習	1	●	●	●	●						
		イ ン タ ー ン シ ッ プ IV	実習	1	●	●	●	●						

※○印は90分授業 1コマ15週 ○○印は90分授業 2コマ15週

●印は90分授業 1コマ8週

★印は、各資格の必修科目

☆印は、各資格の推奨科目

専門教育科目から50単位以上、基礎科目・外国語・体育を含めて62単位以上取得しなければ、卒業できない。

社会貢献演習Ⅰ・Ⅱは2時間×8回以上の貢献をもって演習1単位とする。

「キャリア教育」は2年間を通じて8回以上受講すること。

都合により、開講時期等が変更になることがある。

・観光実務士資格は☆印の選択科目から12単位以上取得すること。

令和7年度カリキュラムマップ

【2025ライフデザイン総合学科：ビジネス・観光コース（4月入学生）】

建学の精神：自立・自活できる人材の育成

教育目標と3つのポリシー：学生生活ハンドブック【学生便覧】を参照してください。

ライフデザイン総合学科【ディプロマポリシー】DP

社会に対応し専門職としてのニーズに応えられる努力ができる。さらに、はば広い教養と専門的な知識を学び、時代の求める人材をめざすことができる。

ビジネス・観光コース【ディプロマポリシー】DP

- ・自分自身の意見を明確に主張しつつ、他者の意見に耳を傾ける柔軟なコミュニケーション能力とリーダーシップを有し、自立的に判断して行動することができる。

フィールド		1年生春学期 1セメスター	1年生秋学期 2セメスター	2年生春学期 3セメスター
基礎教育	基礎科目	コミュニケーション論 ICT基礎 経営学 日本事情Ⅰ	ICTと社会 情報科学	日本語表現 リーダーシップ論
		【通年】 キャリア教育 インターンシップ 社会貢献演習Ⅰ		
	外国語	英語Ⅰ 中国語Ⅰ	英語Ⅱ 中国語Ⅱ	
	体育	運動スポーツⅠ	運動スポーツⅡ	
専門教育	ビジネス実務	ビジネス実務演習Ⅰ ビジネスマナー 現代社会論 企業理解 財務会計論 マーケティング論	ビジネス実務総論 表計算演習Ⅰ プレゼンテーション概論 プレゼンテーション演習 簿記Ⅰ サービスマーケティング 貿易実務	表計算演習Ⅱ 情報ネットワーク論 エコノミックピアサポート概論 ファイナンス論 経営学総論 起業学
		【通年】 日本語実践会話 日本語実践文書作成 ビジネス日本語		
	日本語	日本語中上級A 日本語中上級B 日本語中上級C 日本語中上級D 日本語中上級E 日本語中上級F 日本語能力試験対策Ⅰ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅰ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅰ（文法） 日本語能力試験対策Ⅰ（読解）	日本語上級A 日本語上級B 日本語上級C 日本語上級D 日本語上級E 日本語上級F 日本語能力試験対策Ⅱ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅱ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅱ（文法） 日本語能力試験対策Ⅱ（読解）	実践日本語A 実践日本語B 実践日本語C 実践日本語D 日本語能力試験対策Ⅲ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅲ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅲ（文法） 日本語能力試験対策Ⅲ（読解）
		【通年】 日本語能力試験対策 日本留学試験対策		
	観光・サービス	日本の文化 写真 別府の歴史と発展 おもてなしの心を学ぶ 温泉コンシェルジュの基礎	ホテル・レストラン演習Ⅰ 温泉医療療養指導論 温泉入浴指導概論	ホテル・レストラン演習Ⅱ ホテル・観光英語 温泉学 地域固有の観光要素の発見
ジョブラーニング		【通年】 宿泊業務演習 観光・地域体験学 おもてなし温泉学演習 【通年】 インターンシップⅠ インターンシップⅡ インターンシップⅢ		

・社会人として必要なビジネス実務、観光・サービスに関する基本的な知識・技術と高い日本語能力を有し、社会において実践できる。

2年生秋学期 4セメスター			卒業と同時に取得をめざす資格
人間関係論 国際関係学 日本事情Ⅱ	学修成果	希望する卒業後の進路（就職・進学等）の内定 検定試験合格や資格の取得	温泉入浴アドバイザー課程 観光実務士 情報処理士 ビジネス実務士
社会貢献演習Ⅱ			
事務管理 経済学入門 経済学概論 管理会計論 国際関係学総論			
実践日本語E 実践日本語F 実践日本語G 実践日本語H 日本語能力試験対策Ⅳ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅳ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅳ（文法） 日本語能力試験対策Ⅳ（読解）			
日中通訳入門 大分学 温泉文化と活用			
インターンシップⅣ			

ライフデザイン総合学科〔ビジネス・観光コース〕到達目標一覧表

[令和7年4月入学生]

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
コミュニケーション論	① 言語・非言語コミュニケーションを理解できる。 ② 相手に伝わる話し方（言葉遣い・声のトーン・態度）を習得できる。	○	○	○
日本語表現	① 「聞く、話す、読む、書く」の日本語表現能力の向上ができる。 ② 考察力やデジタル基本スキルを活かして、自分の意見やアイデアなどを表現することができる。	○	○	○
情報科学	① 情報実務に関する基本的な用語を説明できる。 ② 情報実務で必要な情報機器の基本的な操作ができる。	○		○
ICTと社会	① 情報社会の現状を理解し、健全な情報社会の一員として社会に参画できる。 ② 情報リテラシーを身に着ける。 ③ 受け取った情報を活用し、自身の考えを他者へプレゼンテーションする力を身につける。	○	○	○
ICT基礎	① 自ら目標を設定し、より高度な技術を身に付けることができる。 ② 情報処理について理解を深めることができる。	○	○	○
人間関係論	① 自己と他者の心理・行動について理解を深めことができる。 ② より良い人間関係を築く力を身に付けることができる。	○	○	○
リーダーシップ論	① 活躍する中小企業の経営者の話を聞き即戦力として活躍できる。 ② 『リーダーシップ』と『経営者の姿勢』について知り身につける。 ③ 中小企業の経営者との質疑応答を通しコミュニケーション能力を向上する。 ④ 自分の意見をまとめ、発表することができる。		○	○
経営学	① 活躍する中小企業の経営者の話を聞き即戦力として活躍できる。 ② 『リーダーシップ』と『経営者の姿勢』について知り身につける。 ③ 中小企業の経営者との質疑応答を通しコミュニケーション能力を向上する。 ④ 自分の意見をまとめ、発表することができる。		○	○
国際関係学	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に着けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○	○	○
日本事情Ⅰ	① 日本社会で必要な知識、教養、習慣を理解し、適用できる。 ② 日本人の考え方やルールを学び、実生活で運用できる。 ③ 大学生としての知識を身につけ、新しい環境に適用できる。	○	○	
日本事情Ⅱ	① 将来設計に基づき、各進路に必要な知識を学び、実践できる。 ② 国際人として自立し、積極的に日本社会に参画できる。	○	○	○
キャリア教育	① キャリア形成のためのプロセスを知り、自己理解を深める。 ② 自分らしく生きていくために必要な知識や能力を身につける。 ③ 地域社会に必要なキャリア形成について理解できる。		○	○
インターンシップ	① 社会現場を経験することにより職業意識や勤労意欲を高めることができる。			○
社会貢献演習Ⅰ	① 地域・社会に貢献する人材（人材）になることができる。 ② 貢献活動を通して人間の成長ができる。		○	○
社会貢献演習Ⅱ	① 地域・社会に貢献する人材（人材）になることができる。 ② 貢献活動を通して人間の成長ができる。		○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
英語 I	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることへの自信を高めることができる。	○	○	
英語 II	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることへの自信を高めることができる。	○	○	
中国語 I	① 中国語による基礎的なコミュニケーションができる。 ② 文化体験授業を通して、基本的な知識を身につけることができる。	○	○	○
中国語 II	① 中国語の基礎的なコミュニケーションのスキルを向上できる。 ② 文化体験授業を通して、中国に対する理解を深めることができる。	○	○	○
運動スポーツ I	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	
運動スポーツ II	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	
ビジネス実務総論	① 日本の企業、店舗で働くための考え方を養うことができる。 ② 日本の企業が求める接遇、コミュニケーション力を養うことができる。	○	○	○
ビジネスマナー	① 日本社会で必要な基礎知識、マナーを理解することができる。 ② 面接、電話対応で用いられる日本語表現を使うことができる。 ③ 日本人のビジネススタイルや価値観を理解することができる。	○	○	○
表計算演習 I	① 数式の入力（四則演算）ができる。 ② 関数（SUM・ROUND・RANKなど）を使うことができる。 ③ 関数（IF・VLOOKUPなど）を使うことができる。 ④ グラフの作成ができる。	○		○
表計算演習 II	① 関数（SUM・ROUND・RANKなど）を使うことができる。 ② 関数（IF・AND・OR・VLOOKUPなど）を応用し使うことができる。 ③ セル証明ができる。 ④ 多様なグラフの作成ができる。	○		○
現代社会論	① 現代社会の様々な変化とその問題点について理解することができる。 ② 社会の変化に対する対応策と課題について理解ができる。 ③ 社会に積極的に関わっていく知識と対応力を身につけることができる。	○		○
プレゼンテーション 概論	① コミュニケーションは双方向であることを理解し、相手に聞いてもらえる「人間力」を磨くことができる。 ② 「考える」「まとめる」「発信する」を繰り返し行い、相手に届くプレゼンテーションを体得できる。	○	○	○
プレゼンテーション 演習	① 情報を収集・分析し、適切な表現方法を選択することができる。 ② 聴衆の理解を促すわかりやすいスライドを作成できる。 ③ プレゼンテーションソフトの基本的な操作ができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
情報ネットワーク論	① 見出しの作成・画像の挿入ができる。 ② リンク元・リンク先の設定ができる。 ③ スタイルシートの設定ができる。 ④ HTMLやJavaScriptの編集ができる。	○		○
事務管理	① 社会人・職業人としての心構えと社会や経済、企業や仕事の仕組みを理解できる。 ② キャリアビジョンの構築や法務・財務・税務等の基礎的なビジネス能力向上の重要性を理解できる。 ③ 組織の共通目標が達成できる基盤が「事務」であることを理解できる。	○	○	○
企業理解	① 企業について理解し、就職活動に役立てることができる。 ② 実践をととし、ビジネスへの理解を深めることができる。 ③ 対外的な社会人としてのマナーを身につけ、実践できる。			○
経済学入門	① 経済学の基本的知識・考え方・基礎理論を身につけることができる。 ② 新聞の経済記事を理解したり、経済問題について論理的に考えることができる。	○	○	
経済学概論	① 経済学の基本的知識・考え方・基礎理論をホセムヒカ元ウルグアイ大統領の絵本作成と斎藤幸平氏の「人新生の資本論」から読み解く。 ② 絵本を読むことによって、日本語も上達し、一石二鳥により経済学を理解できる。 ③ ホセムヒカ氏・斎藤幸平氏のグローバル経済における問題点指摘により、今後の経済の在り方を読み解く。	○	○	
エコノミックピアサポート概論	① 現代の企業において、伸びている企業では、仕事のスキル以外に、やる気の起こる、風通しの良い職場環境の整備に重点を置き、その成果が告げられている。これまでの成果主義における企業の在り方が問われ、新たに人を大切にする企業ほど結果的には実益を得ている。人間関係や、コミュニケーションを大切にする企業とはどういう企業なのか。またやる気を起こる社員そのものの「人間力アップ」とはどのようなものなのか。まずそのアップに努力している数社の実態を学ぶ。 ② 「人間力アップ」に必要なスキル「ピア・サポートプログラム10」を学び、実際の社会における職場にて役立つスキルを学ぶ。 ③ 短い経済関係講話の朗読で、経済スキルと日本語の上達を促します。(HN学習)	○	○	○
財務会計論	① 配布するテキストを読むことができる。 ② 会計用語の意味と企業の財務諸表について、ある程度理解できる。 ③ 財務会計が、ビジネスパーソンとしてどのように活かされるかを理解できる。	○	○	○
簿記Ⅰ	① 配布するテキストを読むことができる。 ② 簿記の基本的用語や馴染みのない手続きを、ある程度理解できる。 ③ 取引発生から財務諸表作成までの簿記の一連の流れを、ある程度理解できる。	○	○	○
ファイナンス論	① ファイナンスの基本用語を理解し説明できる。 ② 資金調達と投資の仕組みを理解できる。 ③ 将来的に応用可能な基礎知識を身につけることができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
管理会計論	① 原価計算論を学ぶことにより、原価の3要素の意義が理解できる。 ② 材料、労務費、経費についての簡単な仕訳が理解できる。 ③ 個別原価計算等オーダーメイド製品についてのコスト計算ができる。	○	○	○
マーケティング論	① マーケティングという考え方を理解し説明できる。 ② 消費者行動やSWOTの分析について理解して説明できる。 ③ マーケティングのフレームワークについて理解し説明できる。	○	○	○
サービス マーケティング	① サービス・マーケティングという考え方を理解し説明できる。 ② 消費者行動やSWOTの分析について理解して説明できる。 ③ 観光動態について理解し説明できる。	○	○	○
経営学総論	① マネジメントの基本的な考え方を理解し説明できる。 ② 企業経営について幅広く理解して説明できる。 ③ ビジネスに役立つ知識を習得・理解し説明できる。	○	○	○
貿易実務	① 国際ビジネスに携わる者としての基礎的な知識を身につけることができる。 ② 貿易実務者としてのルールの基礎知識が理解できる。 ③ 貿易実務者として輸入取引必須の貿易英語の基礎が理解できる。	○	○	○
起業学	① 起業とは何かを学び、起業に必要な心構えを理解できる。 ② 起業することによっていかに社会に貢献できるかを理解することができる。 ③ 起業するに当たって、事前にどのようなことを準備しておくかを学ぶことができる。	○	○	○
国際関係学総論	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に着けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○		
日本語実践会話	① 丁寧な日本語を使い、自分の意見を主張することができる。 ② 他者の意見に耳を傾け、コミュニケーションをとることができる。	○	○	○
日本語実践文書作成	① 日本語を用いて文章を書くことができる。 ② 自身の意見を論理立てて記述することができる。	○	○	
ビジネス日本語	① ビジネスに必要な日本語や基礎知識を理解し、運用できる。	○	○	○
日本語中上級A	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級B	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級C	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級D	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級E	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級F	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
日本語能力試験対策Ⅰ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅰ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅰ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使うことができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅰ (読解)	① 日本社会で必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 日常生活において読む力を適用できる。	○	○	
日本語上級 A	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 B	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 C	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 D	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 E	① 社会生活を営むために必要な会話を学び、コミュニケーション力を身につけることができる。	○	○	
日本語上級 F	① 社会生活を営むために必要な会話を学び、コミュニケーション力を身につけることができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。 ④ TPOに応じた日本語の使い方が理解できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅱ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使うことができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (読解)	① 日本社会で必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 日常生活において読む力を応用できる。	○	○	
実践日本語 A	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
実践日本語 B	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
実践日本語 C	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	○
実践日本語 D	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
日本語能力試験対策Ⅲ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。 ④ TPOに応じた日本語の使い方を習得できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅲ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅲ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使うことができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅲ (読解)	① 日本社会に必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 読解力を日常生活からビジネスシーンまで応用できる。	○	○	
実践日本語E	① 場面や相手の気持ちに配慮しながら適切な言い方で自分の気持ちや意見を言うことができるようになる。	○	○	
実践日本語F	① 場面や相手の気持ちに配慮しながら適切な言い方で自分の気持ちや意見を言うことができるようになる。	○	○	
実践日本語G	① 場面や相手の気持ちに配慮しながら適切な言い方で自分の気持ちや意見を言うことができるようになる。			
実践日本語H	① 場面や相手の気持ちに配慮しながら適切な言い方で自分の気持ちや意見を言うことができるようになる。			
日本語能力試験対策Ⅳ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。 ④ TPOに応じた日本語の使い方を習得し、運用できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅳ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策	① 日本社会に必要な文字、語彙、文法の知識を修得し、運用できる。	○	○	
日本留学試験対策	① 大学等での勉学に対応できる文字、語彙、文法を修得し運用できる。	○	○	
日本の文化	① 演習を通して、日本の文化や歴史、習慣に触れることができる。 ② 自国の文化や習慣と比較し、説明することができる。 ③ コミュニケーション能力を身につけ、協調することができる。	○	○	○
写真（写真Ⅰ）	① デジタルカメラを使った撮影の基礎的な知識と技術を習得することができる。	○	○	○
宿泊業務演習	① 宿泊業で必要とされる知識・技能を理解することができる。 ② 宿泊業に従事するための5つのカテゴリーの技能を身につける。	○	○	○
ホテル・レストラン 演習Ⅰ	① 現場で即必要とされる基本的な接客の知識や技法を知ること で、一流のプロとなれる礎をつくることができる。 ② テーブルセッティング、対人技能などを実践を交えて確実に 習得できる。	○		○
ホテル・レストラン 演習Ⅱ	① サービススタッフに必要な「お客様に満足を提供すること」、 すなわち「接遇」を理解、一流の立ち居振る舞いを極める。 ② サービススタッフの仕事に必要な対人技能、実務技能をより 深く理解し、一流の対応を極める。	○		○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
ホテル・観光英語	① ホテル・観光業にふさわしい接客接遇（おもてなし）英語及びサービスマウンドを習得できる。 ② ①の習得により、ホテル観光業において即戦力となり、インバウンド訪問客の満足度向上に貢献できる。		○	○
日中通訳入門	① 日中通訳に必要とする基礎的な通訳技術を習得でき、日本語能力を向上させることができる。 ② ビジネス通訳や観光案内の基本をマスターできる。	○	○	○
観光・地域体験学	① 別府の歴史・人物・文化・自然などから別府地域について、別府八湯の視点から一定の知識がある。 ② 各地域の特色を説明できる。 ③ 顧客が別府を訪れる際に必要な観光資源として基礎的な情報を説明できる。 ④ 地域の歴史文化や観光サービスについて、実体験を通して自身の言葉で説明できる。 ⑤ 他者と協力しあい、物事を遂行することができる。	○	○	○
温泉学	① 温泉資源の利活用について幅広く実践的な基礎知識を身につけることができる。 ② 大分県の温泉、特に別府温泉を題材に温泉の自然と文化を学ぶことができる。 ③ 温泉県大分の情報発信ができる温泉コンシェルジュをめざすことができる。	○	○	
別府の歴史と発展	① 別府発展の歴史の特色を、自然・人物・文化・産業の視点で説明できる。 ② 別府発展のポイントを、歴史と周辺地域の連携という視点で説明できる。 ③ 取得した情報をもとに、物事をわかりやすく説明して伝えることができる。 ④ 情報や知識を様々な観点から論理的に分析し、表現（説明）できる。	○	○	○
地域固有の観光要素の発見	① 紹介する地域や都市の特性を如何にして理解したら良いかが分かる。 ② 地域や都市の全体像を理解し、別府の地域特性を説明できる。 ③ 顧客対応に利用する情報をストックし整理することができる。 ④ 別府のまちづくりや特色ある産業について他地域と比較し説明できる。	○	○	
おもてなしの心を学ぶ	① 日本の接客業における、総合的なおもてなしの心や業務が分かることができる。 ② 日本や世界のおもてなしの心と作法をもとに、接客サービスができる。	○	○	○
大分学	① 大分県内の特徴（歴史・人物・文化・産業 等）について学ぶ。 ② 大分県の魅力を全国に発信することができる。	○	○	
温泉文化と活用	① 温泉の活用法を知り、別府でのサービス等の情報発信ができる。 ② 他者を理解し、多様な価値観を受容することができる。 ③ 職場や地域での人的ネットワークを構築し、活用することができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
温泉コンシェルジュの基礎	1. 知識・理解 ①（別府）温泉コンシェルジュに必要な基礎的な知識や資質・能力を理解し、説明できる。 ② 別府の魅力・特色の概要を知り、顧客の求める心と体の健康を癒やすための別府散策のモデル的なプログラムを作成することができる。 2. 習得する資質・能力等 ① 他人の話に耳をよく傾け、多様な価値観を受容して自分なりの意見を持って適切な対応をしようと心がけることができる。	○	○	
温泉医療療養指導論	① 健康増進にむけた温泉の利用法を説明できる。 ② 安全に温泉を利用するための重要な点をきちんと挙げることができる。	○	○	○
温泉入浴指導概論	① 温泉の観光・健康・医療・食等の総合的な企画プログラムを提案できる。 ② 温泉による健康・医療について、温泉の様々な効能と泉質の関係を説明できる。 ③ 温泉を活用した健康づくりや温泉との関係に限らず広く癒しや健康増進プログラムの指導ができる。	○	○	○

ライフデザイン総合学科〔日本語コース〕 教育課程

[令和 7 年 9 月入学生]

科 目		履 修 法	単 位		1 年		2 年		備 考
			必	選	秋学期 1セメ	春学期 2セメ	秋学期 3セメ	春学期 4セメ	
基礎教育	基礎科目	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	講義	2		○			基礎科目については8単位 以上取得すること ※「国際関係学」は英語のみ で教授される科目です。
		日 本 語 表 現	講義	2			○		
		情 報 科 学	講義	2		○			
		I C T と 社 会	演習	1			○		
		I C 基 礎	講義	2	○				
		人 間 関 係 論	講義	2			○		
		日 本 事 情 I	講義	2	○				
		日 本 事 情 II	講義	2				○	
		国 際 関 係 学	講義	2			○		
		キ ャ リ ア 教 育	講義	1	●	●	●	●	
	外国語	イ ン タ ー ン シ ッ プ	実習	1	●	●	●	●	外国語から2単位以上取得 すること
		社 会 貢 献 演 習 I	演習	1	●	●	●	●	
		社 会 貢 献 演 習 II	演習	1	●	●	●	●	
		英 語 I	演習	1		○			
	体育	英 語 II	演習	1			○		
		中 国 語 I	演習	1		○			
		中 国 語 II	演習	1			○		
	体育	運 動 ス ポ ー ツ I	演習	1		○			
		運 動 ス ポ ー ツ II	演習	1			○		

科 目		履 修 法	単 位		1 年		2 年		備 考
			必	選	秋学期 1セメ	春学期 2セメ	秋学期 3セメ	春学期 4セメ	
専門教育科目	ビジネス実務	ビ ジ ネ ス マ ナ ー	講義	2	○				英語で開講
		表 計 算 演 習 I	演習	1			○		
		プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 演 習	演習	1			○		
		情 報 ネ ッ ト ワ ー ク 論	講義	2				○	
		国 際 関 係 学 総 論	講義	2			○		
		日 本 の 文 化	演習	1	○				
		日 本 語 実 践 会 話	講義	2	○	○	○	○	
		日 本 語 実 践 文 書 作 成	講義	2	○	○	○	○	
		ビ ジ ネ ス 日 本 語	講義	2	○	○	○	○	
	日本語	総 合 日 本 語 A	演習	2	○○				
		総 合 日 本 語 B	演習	2	○○				
		総 合 日 本 語 C	演習	2	○○				
		総 合 日 本 語 D	演習	2	○○				
		総 合 日 本 語 E	演習	2	○○				
		総 合 日 本 語 F	演習	2	○○				
		総 合 日 本 語 G	演習	1	○				
		総 合 日 本 語 H	演習	1	○				
		総 合 日 本 語 I	演習	1	○				

科 目		履 修 法	単 位		1 年		2 年		備 考
					秋学期 1セメ	春学期 2セメ	秋学期 3セメ	春学期 4セメ	
			必	選					
専門教育科目	日 本 語	日 本 語 中 級 A	演習	2		〇〇			
		日 本 語 中 級 B	演習	2		〇〇			
		日 本 語 中 級 C	演習	2		〇〇			
		日 本 語 中 級 D	演習	2		〇〇			
		日 本 語 中 級 E	演習	1		〇			
		日 本 語 中 級 F	演習	1		〇			
		日 本 語 中 級 G	演習	1		〇			
		日 本 語 中 上 級 A	演習	1			〇		
		日 本 語 中 上 級 B	演習	1			〇		
		日 本 語 中 上 級 C	演習	1			〇		
		日 本 語 中 上 級 D	演習	1			〇		
		日 本 語 中 上 級 E	演習	1			〇		
		日 本 語 中 上 級 F	演習	1			〇		
		日 本 語 中 上 級 G	演習	1			〇		
		日 本 語 中 上 級 H	演習	1			〇		
		日 本 語 上 級 A	演習	1				〇	
		日 本 語 上 級 B	演習	1				〇	
		日 本 語 上 級 C	演習	1				〇	
		日 本 語 上 級 D	演習	1				〇	
		日 本 語 上 級 E	演習	1				〇	
		日 本 語 上 級 F	演習	1				〇	
		日 本 語 上 級 G	演習	1				〇	
		日 本 語 上 級 H	演習	1				〇	
		日本語能力試験対策Ⅰ（聴解）	演習	1	〇				
		日本語能力試験対策Ⅰ（文字語彙）	演習	1	〇				
		日本語能力試験対策Ⅰ（文法）	演習	1	〇				
		日本語能力試験対策Ⅰ（読解）	演習	1	〇				
		日本語能力試験対策Ⅱ（聴解）	演習	1		〇			
		日本語能力試験対策Ⅱ（文字語彙）	演習	1		〇			
		日本語能力試験対策Ⅱ（文法）	演習	1		〇			
		日本語能力試験対策Ⅱ（読解）	演習	1		〇			
		日本語能力試験対策Ⅲ（聴解）	演習	1			〇		
		日本語能力試験対策Ⅲ（文字語彙）	演習	1			〇		
		日本語能力試験対策Ⅲ（文法）	演習	1			〇		
		日本語能力試験対策Ⅲ（読解）	演習	1			〇		
		日本語能力試験対策Ⅳ（聴解）	演習	1				〇	
		日本語能力試験対策Ⅳ（文字語彙）	演習	1				〇	
		日本語能力試験対策Ⅳ（文法）	演習	1				〇	
		日本語能力試験対策Ⅳ（読解）	演習	1				〇	
	ジョ ー ニ ン グ	日 本 語 能 力 試 験 対 策	演習	1	●	●	●	●	通年
		日 本 留 学 試 験 対 策	演習	1	●	●	●	●	通年
		イン タ ー ン シ ッ プ I	実習	1	●	●	●	●	
		イン タ ー ン シ ッ プ II	実習	1	●	●	●	●	
		イン タ ー ン シ ッ プ III	実習	1	●	●	●	●	
		イン タ ー ン シ ッ プ IV	実習	1	●	●	●	●	

※〇印は90分授業 1コマ15週 〇〇印は90分授業 2コマ15週

●印は90分授業 1コマ6週

専門教育科目から50単位以上、基礎科目・外国語・体育を含めて62単位以上取得しなければ、卒業できない。

社会貢献演習Ⅰ・Ⅱは2時間×8回以上の貢献をもって演習1単位とする。

「キャリア教育」は2年間を通じて8回以上受講すること。

都合により、開講時期等が変更になることがある。

令和7年度カリキュラムマップ

【2025ライフデザイン総合学科：日本語コース（9月入学生）】

建学の精神：自立・自活できる人材の育成

教育目標と3つのポリシー：学生生活ハンドブック【学生便覧】を参照してください。

ライフデザイン総合学科【ディプロマポリシー】DP

社会に対応し専門職としてのニーズに応えられる努力ができる。さらに、はば広い教養と専門的な知識を学び、時代の求める人材をめざすことができる。

日本語コース【ディプロマポリシー】DP

- ・日本社会で必要な知識、教養のみならず、文化、習慣を理解することができる。
- ・日本語の基礎能力を習得・統合し、自身の目的に応じて実社会で駆使することができる。
- ・多様な文化や価値観を持つ人々とかわり、他者の意見に耳を傾けながら日本語で自らの気持ちや考えを的確に表現する力、および伝達する力を身につけることができる。

フィールド		1年生秋学期 1セメスター	1年生春学期 2セメスター	2年生秋学期 3セメスター
基礎教育	基礎科目	日本事情Ⅰ ICT基礎	コミュニケーション論 情報科学	日本語表現 ICTと社会 人間関係論 国際関係学
		【通年】 キャリア教育 インターンシップ 社会貢献演習Ⅰ		
	外国語		英語Ⅰ 中国語Ⅰ	英語Ⅱ 中国語Ⅱ
	体育		運動スポーツⅠ	運動スポーツⅡ
専門教育	ビジネス実務	日本の文化 ビジネスマナー		表計算演習Ⅰ プレゼンテーション演習 国際関係学総論
		【通年】 日本語実践会話 日本語実践文書作成 ビジネス日本語		
	日本語	総合日本語A 総合日本語B 総合日本語C 総合日本語D 総合日本語E 総合日本語F 総合日本語G 総合日本語H 総合日本語I 日本語能力試験対策Ⅰ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅰ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅰ（文法） 日本語能力試験対策Ⅰ（読解）	日本語中級A 日本語中級B 日本語中級C 日本語中級D 日本語中級E 日本語中級F 日本語中級G 日本語能力試験対策Ⅱ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅱ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅱ（文法） 日本語能力試験対策Ⅱ（読解）	日本語中上級A 日本語中上級B 日本語中上級C 日本語中上級D 日本語中上級E 日本語中上級F 日本語中上級G 日本語中上級H 日本語能力試験対策Ⅲ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅲ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅲ（文法） 日本語能力試験対策Ⅲ（読解）
		【通年】 日本語能力試験対策 日本留学試験対策		
	ジョブラーニング	【通年】 インターンシップⅠ インターンシップⅡ インターンシップⅢ		

2年生春学期 4セメスター	学 修 成 果	希望する卒業後の進路（就職・進学等）の内定 検定試験の合格
日本事情Ⅱ		
社会貢献演習Ⅱ		
情報ネットワーク論		
日本語上級A		
日本語上級B		
日本語上級C		
日本語上級D		
日本語上級E		
日本語上級F		
日本語上級G		
日本語上級H		
日本語能力試験対策Ⅳ（聴解）		
日本語能力試験対策Ⅳ（文字語彙）		
日本語能力試験対策Ⅳ（文法）		
日本語能力試験対策Ⅳ（読解）		
インターンシップⅣ		

ライフデザイン総合学科〔日本語コース〕到達目標一覧表

[令和7年9月入学生]

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
コミュニケーション論	① 言語・非言語コミュニケーションを理解できる。 ② 相手に伝わる話し方（言葉遣い・声のトーン・態度）を習得できる。	○	○	○
日本語表現	① 「聞く、話す、読む、書く」の日本語表現能力の向上ができる。 ② 考察力やデジタル基本スキルを活かして、自分の意見やアイデアなどを表現することができる。	○	○	○
情報科学	① 情報実務に関する基本的な用語を説明できる。 ② 情報実務で必要な情報機器の基本的な操作ができる。	○		○
ICTと社会	① 情報社会の現状を理解し、健全な情報社会の一員として社会に参画できる。 ② 情報リテラシーを身に着ける。 ③ 受け取った情報を活用し、自身の考えを他者へプレゼンテーションする力を身につける。	○	○	○
I C T基礎	① 自ら目標を設定し、より高度な技術を身に付けることができる。 ② 情報処理について理解を深めることができる。	○	○	○
人間関係論	① 自己と他者の心理・行動について理解を深めることができる。 ② より良い人間関係を築く力を身に付けることができる。	○	○	○
日本事情Ⅰ	① 日本社会に必要な知識、教養、習慣を理解し、適用できる。 ② 日本人の考え方やルールを学び、実生活で運用できる。 ③ 大学生としての知識を身につけ、新しい環境に適用できる。	○	○	
日本事情Ⅱ	① 将来設計に基づき、各進路に必要な知識を学び、実践できる。 ② 国際人として自立し、積極的に日本社会に参画できる。	○	○	○
国際関係学	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に着けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○	○	○
キャリア教育	① キャリア形成のためのプロセスを知り、自己理解を深める。 ② 自分らしく生きていくために必要な知識や能力を身につける。 ③ 地域社会に必要なキャリア形成について理解できる。		○	○
インターンシップ	① 社会現場を経験することにより職業意識や労働意欲を高めることができる。			○
社会貢献演習Ⅰ	① 地域・社会に貢献する人財（人材）になることができる。 ② 貢献活動を通して人間的成長ができる。		○	○
社会貢献演習Ⅱ	① 地域・社会に貢献する人財（人材）になることができる。 ② 貢献活動を通して人間的成長ができる。		○	○
英語Ⅰ	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることへの自信を高めることができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
英語Ⅱ	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることに自信を高めることができる。	○	○	
中国語Ⅰ	① 中国語による基礎的なコミュニケーションができる。 ② 文化体験授業を通して、基本的な知識を身につけることができる。	○	○	○
中国語Ⅱ	① 中国語の基礎的なコミュニケーションのスキルを向上できる。 ② 文化体験授業を通して、中国に対する理解を深めることができる。	○	○	○
運動スポーツⅠ	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	
運動スポーツⅡ	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	
ビジネスマナー	① 日本社会に必要な基礎知識、マナーを理解することができる。 ② 面接、電話応対で用いられる日本語表現を使うことができる。 ③ 日本人のビジネススタイルや価値観を理解することができる。	○	○	○
表計算演習Ⅰ	① 数式の入力（四則演算）ができる。 ② 関数（SUM・ROUND・RANKなど）を使うことができる。 ③ 関数（IF・VLOOKUPなど）を使うことができる。 ④ グラフの作成ができる。	○		○
プレゼンテーション演習	① 情報を収集・分析し、適切な表現方法を選択することができる。 ② 聴衆の理解を促すわかりやすいスライドを作成できる。 ③ プレゼンテーションソフトの基本的な操作ができる。	○	○	○
情報ネットワーク論	① 見出しの作成・画像の挿入ができる。 ② リンク元・リンク先の設定ができる。 ③ スタイルシートの設定ができる。 ④ HTMLやJavaScriptの編集ができる。	○		○
国際関係学総論	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に付けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○		
日本の文化	① 演習を通して、日本の文化や歴史、習慣に触れることができる。 ② 自国の文化や習慣と比較し、説明することができる。 ③ コミュニケーション能力を身につけ、協調することができる。	○	○	○
日本語実践会話	① 丁寧な日本語を使い、自分の意見を主張することができる。 ② 他者の意見に耳を傾け、コミュニケーションをとることができる。	○	○	○
日本語実践文書作成	① 日本語を用いて文章を書くことができる。 ② 自身の意見を論理立てて記述することができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
ビジネス日本語	① ビジネスに必要な日本語や基礎知識を理解し、運用できる。	○	○	○
総合日本語A	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語B	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語C	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語D	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語E	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○		
総合日本語F	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語G	① 基礎的な漢字の意味、書き方を理解することができる。 ② 基礎的な漢字で書かれた文章を読み取ることができる。	○	○	
総合日本語H	① 簡単な日本語の音を聞き分けることができる。 ② 簡単な日本語の音声聞き、理解し推測することができる。	○	○	
総合日本語I	① 簡単な日本語の文章を読み、理解できる。 ② 文章を読んで、簡単に意見や感想が言える。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅰ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅰ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅰ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使用することができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅰ (読解)	① 日本社会で必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 日常生活において読む力を適用できる。	○	○	
日本語中級A	① 場面や状況に応じて日本語を理解、運用できる。 ② 自分の意見や感情を簡単に伝えることができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を伸ばすことができる。	○	○	
日本語中級B	① 場面や状況に応じて日本語を理解、運用できる。 ② 自分の意見や感情を簡単に伝えることができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を伸ばすことができる。	○	○	
日本語中級C	① 場面や状況に応じて日本語を理解、運用できる。 ② 自分の意見や感情を簡単に伝えることができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を伸ばすことができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
日本語中級D	① 場面や状況に応じて日本語を理解、運用できる。 ② 自分の意見や感情を簡単に伝えることができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を伸ばすことができる。	○	○	
日本語中級E	① 既習の漢字をそれぞれの場面に沿って正しく使うことができる。 ② 漢字の語彙を増やし、意味を理解することができる。 ③ 未習の漢字を含む発展的な内容の情報を推測することができる。	○	○	
日本語中級F	① 短い文章を読んで理解し、要約することができる。 ② 内容について意見を言うことができる。	○	○	
日本語中級G	① 日本語の音声を聞き、日本語の特徴を理解することができる。 ② 習得した知識を応用して聞き取ることができる。 ③ 文脈から推測したり類推し、判断することができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。 ④ TPOに応じた日本語の使い方が理解できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅱ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使うことができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (読解)	① 日本社会で必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 日常生活において読む力を応用できる。	○	○	
日本語中上級A	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級B	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級C	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級D	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級E	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級F	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級G	① 日本語の漢字の音読み訓読みを知り、読むこと、書くことができる。 ② 日常生活でよく使う漢字の習得をし、実生活で使うことができる。	○	○	
日本語中上級H	① 日常よく接する場面における会話の「聞く力」と「話す力」を身につける。 ② 場面に応じた表現の選択が意識できるようになる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅲ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。 ④ TPOに応じた日本語の使い方を習得できる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
日本語能力試験対策Ⅲ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅲ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使用することができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅲ (読解)	① 日本社会で必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 読解力を日常生活からビジネスシーンまで応用できる。	○	○	
日本語上級 A	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 B	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 C	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 D	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 E	① 社会生活を営むために必要な会話力を学び、コミュニケーション力を身につけることができる。	○	○	
日本語上級 F	① 社会生活を営むために必要な会話力を学び、コミュニケーション力を身につけることができる。	○	○	
日本語上級 G	① 日本語の漢字の音読み訓読みを知り、読むこと、書くことができる。 ② 日常生活でよく使う漢字の習得をし、実生活で使うことができる。	○	○	
日本語上級 H	① CDを聞いて答える練習ができる。 ② 会話力をつけながら、実用的な日本語の力をつけることができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅳ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。 ④ TPOに応じた日本語の使い方を習得し、運用できる。	○	○	○
日本語能力試験対策	① 日本社会に必要な文字、語彙、文法の知識を修得し、運用できる。	○	○	
日本留学試験対策	① 大学等での勉強に対応できる文字、語彙、文法を修得し運用できる。	○	○	

ライフデザイン総合学科〔ビジネス・観光コース〕 教育課程

[令和 7 年 9 月入学生]

科 目		履修法	単 位		1 年		2 年		ビジネス実務士	情報処理士	観光実務士	温泉コンシェルジュ課程	温泉入浴アドバイザー課程	備 考
			必	選	秋学期	春学期	秋学期	春学期						
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ						
基礎教育	基礎科目	コミュニケーション論	講義	2	2	○			★					基礎科目については 8単位以上取得すること ※「国際関係学」は英語のみ で教授される科目です。
		日本語表現	講義	2			○		★					
		情報科	講義	2		○			★	★				
		ICTと社会	演習	1			○			★				
		ICT基礎	講義	2	○									
		人間関係論	講義	2	2			○		★	★			
		リーダーシップ論	講義	2	2			○	★	★				
		経営学	講義	2		○								
		国際関係学	講義	2			○							
		日本事情Ⅰ	講義	2	○									
		日本事情Ⅱ	講義	2	2									
		キャリア教育	講義	1		●	●	●	●					
		インターンシップ	実習	1		●	●	●	●					
		社会貢献演習Ⅰ	演習	1		●	●	●	●					
		社会貢献演習Ⅱ	演習	1		●	●	●	●					
	外国語	英語Ⅰ	演習	1		○								外国語から2単位以上取得 すること
		英語Ⅱ	演習	1			○							
		中国語Ⅰ	演習	1			○							
		中国語Ⅱ	演習	1				○						
	体育	運動スポーツⅠ	演習	1			○							
		運動スポーツⅡ	演習	1				○						

科 目		履修法	単 位		1 年		2 年		ビジネス実務士	情報処理士	観光実務士	温泉コンシェルジュ課程	温泉入浴アドバイザー課程	備 考
			必	選	秋学期	春学期	秋学期	春学期						
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ						
専門教育科目	ビジネス実務	ビジネス実務総論	講義	2	○				★					英語で開講
		ビジネス実務演習	演習	1		○			★					
		ビジネスマナー	講義	2	○									
		表計算演習Ⅰ	演習	1			○			★				
		表計算演習Ⅱ	演習	1				○						
		現代社会論	講義	2		○			★	★				
		プレゼンテーション概論	講義	2	○				★	★				
		プレゼンテーション演習	演習	1			○			★				
		情報ネットワーク論	講義	2				○		★				
		事務管理	講義	2			○		★	★				
		企業管理	講義	1		●								
		経済学入門	講義	2	○				★		☆			
		経済学概論	講義	2	○									
		エコミックピアサポート概論	講義	2				○	★					
		財務会計論	講義	2		○			★	★				
		簿記Ⅰ	講義	2			○							
		管理会計論	講義	2			○							
		マーケティング論	講義	2		○								
		サービスマーケティング	講義	2			○							
		経営学総論	講義	2				○						
		貿易実務	講義	2	○									
		起業学	講義	2		○								
		国際関係学総論	講義	2			○							
		日本語実践会話	講義	2	○	○	○	○						
		日本語実践文書作成	講義	2	○	○	○	○						
		ビジネス日本語	講義	2	○	○	○	○	★					

科 目		履 修 法	単 位	1 年		2 年		ビジネス実務士	情報処理士	観光実務士	温泉コンシェルジュ課程	温泉入浴アドバイザー課程	備 考
				必	選	秋学期	春学期	秋学期	春学期				
						1セメ	2セメ	3セメ	4セメ				
専門教育科目	日本語	日 本 語 中 上 級 A	演習		1	○							
		日 本 語 中 上 級 B	演習	1	○								
		日 本 語 中 上 級 C	演習	1	○								
		日 本 語 中 上 級 D	演習	1	○								
		日 本 語 中 上 級 E	演習	1	○								
		日 本 語 中 上 級 F	演習	1	○								
		日 本 語 上 級 A	演習	1		○							
		日 本 語 上 級 B	演習	1		○							
		日 本 語 上 級 C	演習	1		○							
		日 本 語 上 級 D	演習	1		○							
		日 本 語 上 級 E	演習	1		○							
		日 本 語 上 級 F	演習	1		○							
		実 践 日 本 語 A	演習	1				○					
		実 践 日 本 語 B	演習	1				○					
		実 践 日 本 語 C	演習	1				○					
		実 践 日 本 語 D	演習	1				○					
		実 践 日 本 語 E	演習	1					○				
		実 践 日 本 語 F	演習	1					○				
		実 践 日 本 語 G	演習	1					○				
		実 践 日 本 語 H	演習	1					○				
	観光・サービス	日本語能力試験対策Ⅰ（聴解）	演習	1	○								
		日本語能力試験対策Ⅰ（文字語彙）	演習	1	○								
		日本語能力試験対策Ⅰ（文法）	演習	1	○								
		日本語能力試験対策Ⅰ（読解）	演習	1	○								
		日本語能力試験対策Ⅱ（聴解）	演習	1		○							
		日本語能力試験対策Ⅱ（文字語彙）	演習	1		○							
		日本語能力試験対策Ⅱ（文法）	演習	1		○							
		日本語能力試験対策Ⅱ（読解）	演習	1		○							
		日本語能力試験対策Ⅲ（聴解）	演習	1				○					
		日本語能力試験対策Ⅲ（文字語彙）	演習	1				○					
		日本語能力試験対策Ⅲ（文法）	演習	1				○					
		日本語能力試験対策Ⅲ（読解）	演習	1				○					
		日本語能力試験対策Ⅳ（聴解）	演習	1					○				
		日本語能力試験対策Ⅳ（文字語彙）	演習	1					○				
		日本語能力試験対策Ⅳ（文法）	演習	1					○				
		日本語能力試験対策Ⅳ（読解）	演習	1					○				
		日本語能力試験対策	演習	1		●	●	●	●				通年
		日本語試験対策	演習	1		●	●	●	●				通年
		日本留学試験対策	演習	1	○					☆			
	観光・サービス	写真（写真Ⅰ）	演習	2		○	○						
		宿泊業務演習	演習	1		●	●	●	●	☆			
		ホテル・レストラン演習Ⅰ	演習	1	○					☆			
		ホテル・レストラン演習Ⅱ	演習	1		○				☆			
		ホテル・観光英語	演習	1					○	☆			
		日 中 通 訳 入 門	講義	1		●				☆			集中
		観光・地域体験学	講義	2		●	●	●	●	★	★		（30時間）
		温泉の歴史と発展	講義	2					○	★	★	★	集中
		別府の歴史と発展	講義	2					○	★	★		
		地域固有の観光要素の発見	講義	2					○	★	★		集中
		おもてなしの心を学ぶ	講義	2		○				★	★		
		温泉コンシェルジュの基礎	講義	2					○	★	★		集中
		大分県	講義	2	○					☆	★		
		温泉文化と活用	講義	2		○				★	★		
		温泉医療療養指導論	講義	2				●		☆	★	★	
		温泉入浴指導概論	講義	2				●		☆	★	★	
	ジョブ ラーニング	インタースhipⅠ	実習	1		●	●	●	●				集中
		インタースhipⅡ	実習	1		●	●	●	●				
		インタースhipⅢ	実習	1		●	●	●	●				
		インタースhipⅣ	実習	1		●	●	●	●				

※○印は90分授業 1コマ15週 ○○印は90分授業 2コマ15週

●印は90分授業 1コマ 8週 ★印は、各資格の必修科目 ☆印は、各資格の推奨科目

専門教育科目から50単位以上、基礎科目・外国語・体育を含めて62単位以上取得しなければ、卒業できない。

社会貢献演習Ⅰ・Ⅱは2時間×8回以上の貢献をもって演習1単位とする。

「キャリア教育」は2年間を通じて8回以上受講すること。

都合により、開講時期等が変更になることがある。

〈温泉コンシェルジュコース 受講の注意〉

- ・おもてなし温泉学演習→必須条件：「おもてなしの心を学ぶ」を履修
- ・温泉医療療養指導→必須条件：春学期開講「温泉学」を履修
- ・観光実務士資格は☆印の選択科目から12単位以上取得すること。

令和7年度カリキュラムマップ

【2025ライフデザイン総合学科：ビジネス・観光コース（9月入学生）】

建学の精神：自立・自活できる人材の育成

教育目標と3つのポリシー：学生生活ハンドブック【学生便覧】を参照してください。

ライフデザイン総合学科【ディプロマポリシー】DP

社会に対応し専門職としてのニーズに応えられる努力ができる。さらに、はば広い教養と専門的な知識を学び、時代の求める人材をめざすことができる。

ビジネス・観光コース【ディプロマポリシー】DP

- ・自分自身の意見を明確に主張しつつ、他者の意見に耳を傾ける柔軟なコミュニケーション能力とリーダーシップを有し、自立的に判断して行動することができる。

フィールド		1年生秋学期 1セメスター	1年生春学期 2セメスター	2年生秋学期 3セメスター
基礎教育	基礎科目	ICT基礎 日本事情 I	コミュニケーション論 情報科学 経営学	日本語表現 ICTと社会 人間関係論 国際関係学
		【通年】 キャリア教育 インターンシップ 社会貢献演習 I		
	外国語		英語 I 中国語 I	英語 II 中国語 II
	体育		運動スポーツ I	運動スポーツ II
専門教育	ビジネス実務	ビジネス実務総論 ビジネスマナー プレゼンテーション概論 経済学入門 経済学概論 貿易実務	ビジネス実務演習 現代社会論 企業理解 財務会計論 マーケティング論 起業学	表計算演習 I プレゼンテーション演習 事務管理 簿記 I 管理会計論 サービスマーケティング 国際関係学総論
		【通年】 日本語実践会話 日本語実践文書作成 ビジネス日本語		
	日本語	日本語中上級A 日本語中上級B 日本語中上級C 日本語中上級D 日本語中上級E 日本語中上級F 日本語能力試験対策 I（聴解） 日本語能力試験対策 I（文字語彙） 日本語能力試験対策 I（文法） 日本語能力試験対策 I（読解）	日本語上級A 日本語上級B 日本語上級C 日本語上級D 日本語上級E 日本語上級F 日本語能力試験対策 II（聴解） 日本語能力試験対策 II（文字語彙） 日本語能力試験対策 II（文法） 日本語能力試験対策 II（読解）	実践日本語A 実践日本語B 実践日本語C 実践日本語D 日本語能力試験対策 III（聴解） 日本語能力試験対策 III（文字語彙） 日本語能力試験対策 III（文法） 日本語能力試験対策 III（読解）
		【通年】 日本語能力試験対策 日本留学試験対策		
	観光・サービス	日本の文化 ホテル・レストラン演習 I 日中通訳入門 大分学	写真 ホテル・レストラン演習 II おもてなしの心を学ぶ 温泉文化と活用	温泉医療療養指導論 温泉入浴指導概論
		【通年】 宿泊業務演習 観光・地域体験学 おもてなし温泉学演習		
	ジョブラーニング	【通年】 インターンシップ I インターンシップ II インターンシップ III		

・社会人として必要なビジネス実務、観光・サービスに関する基本的な知識・技術と高い日本語能力を有し、社会において実践できる。

2年生春学期 4セメスター			卒業と同時に取得をめざす資格
リーダーシップ論 日本事情Ⅱ 			
社会貢献演習Ⅱ			
表計算演習Ⅱ 情報ネットワーク論 エコノミックピアサポート概論 ファイナンス論 経営学総論			
実践日本語E 実践日本語F 実践日本語G 実践日本語H 日本語能力試験対策Ⅳ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅳ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅳ（文法） 日本語能力試験対策Ⅳ（読解）	学 修 成 果	希望する卒業後の進路 （就職・進学等）の内定 検定試験や資格の取得	温泉入浴アドバイザー課程 温泉コンシェルジュ課程 観光実務士 情報処理士 ビジネス実務士
ホテル・観光英語 温泉学 別府の歴史と発展 地域固有の観光要素の発見 温泉コンシェルジュの基礎			
インターンシップⅣ			

ライフデザイン総合学科〔ビジネス・観光コース〕到達目標一覧表

[令和7年9月入学生]

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
コミュニケーション論	① 言語・非言語コミュニケーションを理解できる。 ② 相手に伝わる話し方（言葉遣い・声のトーン・態度）を習得できる。	○	○	○
日本語表現	① 「聞く、話す、読む、書く」の日本語表現能力の向上ができる。 ② 考察力やデジタル基本スキルを活かして、自分の意見やアイデアなどを表現することができる。	○	○	○
情報科学	① 情報実務に関する基本的な用語を説明できる。 ② 情報実務に必要な情報機器の基本的な操作ができる。	○		○
ICTと社会	① 情報社会の現状を理解し、健全な情報社会の一員として社会に参画できる。 ② 情報リテラシーを身に着ける。 ③ 受け取った情報を活用し、自身の考えを他者へプレゼンテーションする力を身につける。	○	○	○
ICT基礎	① 自ら目標を設定し、より高度な技術を身に付けることができる。 ② 情報処理について理解を深めることができる。	○	○	○
人間関係論	① 自己と他者の心理・行動について理解を深めることができる。 ② より良い人間関係を築く力を身に付けることができる。	○	○	○
リーダーシップ論	① 活躍する中小企業の経営者の話を聞き即戦力として活躍できる。 ② 『リーダーシップ』と『経営者の姿勢』について知り身につける。 ③ 中小企業の経営者との質疑応答を通しコミュニケーション能力を向上する。 ④ 自分の意見をまとめ、発表することができる。		○	○
経営学	① 活躍する中小企業の経営者の話を聞き即戦力として活躍できる。 ② 『リーダーシップ』と『経営者の姿勢』について知り身につける。 ③ 中小企業の経営者との質疑応答を通しコミュニケーション能力を向上する。 ④ 自分の意見をまとめ、発表することができる。		○	○
国際関係学	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に着けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○	○	○
日本事情Ⅰ	① 日本社会で必要な知識、教養、習慣を理解し、適用できる。 ② 日本人の考え方やルールを学び、実生活で運用できる。 ③ 大学生としての知識を身につけ、新しい環境に適用できる。	○	○	
日本事情Ⅱ	① 将来設計に基づき、各進路に必要な知識を学び、実践できる。 ② 国際人として自立し、積極的に日本社会に参画できる。	○	○	○
キャリア教育	① キャリア形成のためのプロセスを知り、自己理解を深める。 ② 自分らしく生きていくために必要な知識や能力を身につける。 ③ 地域社会に必要なキャリア形成について理解できる。		○	○
インターンシップ	① 社会現場を経験することにより職業意識や勤労意欲を高めることができる。			○
社会貢献演習Ⅰ	① 地域・社会に貢献する人材（人材）になることができる。 ② 貢献活動を通して人間の成長ができる。		○	○
社会貢献演習Ⅱ	① 地域・社会に貢献する人材（人材）になることができる。 ② 貢献活動を通して人間の成長ができる。		○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
英語 I	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることに自信を高めることができる。	○	○	
英語 II	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることに自信を高めることができる。	○	○	
中国語 I	① 中国語による基礎的なコミュニケーションができる。 ② 文化体験授業を通して、基本的な知識を身につけることができる。	○	○	○
中国語 II	① 中国語の基礎的なコミュニケーションのスキルを向上できる。 ② 文化体験授業を通して、中国に対する理解を深めることができる。	○	○	○
運動スポーツ I	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	
運動スポーツ II	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	
ビジネス実務総論	① 日本の企業、店舗で働くための考え方を養うことができる。 ② 日本の企業が求める接遇、コミュニケーション力を養うことができる。	○	○	○
ビジネスマナー	① 日本社会で必要な基礎知識、マナーを理解することができる。 ② 面接、電話応対で用いられる日本語表現を使うことができる。 ③ 日本人のビジネススタイルや価値観を理解することができる。	○	○	○
表計算演習 I	① 数式の入力（四則演算）ができる。 ② 関数（SUM・ROUND・RANKなど）を使うことができる。 ③ 関数（IF・VLOOKUPなど）を使うことができる。 ④ グラフの作成ができる。	○		○
表計算演習 II	① 関数（SUM・ROUND・RANKなど）を使うことができる。 ② 関数（IF・AND・OR・VLOOKUPなど）を応用し使うことができる。 ③ セル証明ができる。 ④ 多様なグラフの作成ができる。	○		○
現代社会論	① 現代社会の様々な変化とその問題点について理解することができる。 ② 社会の変化に対する対応策と課題について理解ができる。 ③ 社会に積極的に関わっていく知識と対応力を身につけることができる。	○		○
プレゼンテーション 概論	① コミュニケーションは双方向であることを理解し、相手に聞いてもらえる「人間力」を磨くことができる。 ② 「考える」「まとめる」「発信する」を繰り返し行い、相手に届くプレゼンテーションを体得できる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
プレゼンテーション 演習	① 情報を収集・分析し、適切な表現方法を選択することができる。 ② 聴衆の理解を促すわかりやすいスライドを作成できる。 ③ プレゼンテーションソフトの基本的な操作ができる。	○	○	○
情報ネットワーク論	① 見出しの作成・画像の挿入ができる。 ② リンク元・リンク先の設定ができる。 ③ スタイルシートの設定ができる。 ④ HTMLやJavaScriptの編集ができる。	○		○
事務管理	① 社会人・職業人としての心構えと社会や経済、企業や仕事の仕組みを理解できる。 ② キャリアビジョンの構築や法務・財務・税務等の基礎的なビジネス能力向上の重要性を理解できる。 ③ 組織の共通目標が達成できる基盤が「事務」であることを理解できる。	○	○	○
企業理解	① 企業について理解し、就職活動に役立てることができる。 ② 実践をとおり、ビジネスへの理解を深めることができる。 ③ 対外的な社会人としてのマナーを身につけ、実践できる。			○
経済学入門	① 経済学の基本的知識・考え方・基礎理論を身につけることができる。 ② 新聞の経済記事を理解したり、経済問題について論理的に考えることができる。	○	○	
経済学概論	① 経済学の基本的知識・考え方・基礎理論をホセムヒカ元ウルグアイ大統領の絵本作成と斎藤幸平氏の「人新生の資本論」から読み解く。 ② 絵本を読むことによって、日本語も上達し、一石二鳥により経済学を理解できる。 ③ ホセムヒカ氏・斎藤幸平氏のグローバル経済における問題点指摘により、今後の経済の在り方を読み解く。	○	○	
エコノミックピア サポート概論	① 現代の企業において、伸びている企業では、仕事のスキル以外に、やる気の起こる、風通しの良い職場環境の整備に重点を置き、その成果が告げられている。これまでの成果主義における企業の在り方が問われ、新たに人を大切にする企業ほど結果的には実益を得ている。人間関係や、コミュニケーションを大切にしている企業とはどのような企業なのか。またやる気を起こる社員そのものの「人間力アップ」とはどのようなものなのか。まずそのアップに努力している数社の実態を学ぶ。 ② 「人間力アップ」に必要なスキル「ピア・サポートプログラム10」を学び、実際の社会における職場にて役立つスキルを学ぶ。 ③ 短い経済関係講話の朗読で、経済スキルと日本語の上達を促します。(HN学習)	○	○	○
財務会計論	① 配布するテキストを読むことができる。 ② 会計用語の意味と企業の財務諸表について、ある程度理解できる。 ③ 財務会計が、ビジネスパーソンとしてどのように活かされるかを理解できる。	○	○	○
簿記 I	① 配布するテキストを読むことができる。 ② 簿記の基本的用語や馴染みのない手続きを、ある程度理解できる。 ③ 取引発生から財務諸表作成までの簿記の一連の流れを、ある程度理解できる。	○	○	○
ファイナンス論	① ファイナンスの基本用語を理解し説明できる。 ② 資金調達と投資の仕組みを理解できる。 ③ 将来的に応用可能な基礎知識を身につけることができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
管理会計論	① 原価計算論を学ぶことにより、原価の3要素の意義が理解できる。 ② 材料、労務費、経費についての簡単な仕訳が理解できる。 ③ 個別原価計算等オーダーメイド製品についてのコスト計算ができる。	○	○	○
マーケティング論	① マーケティングという考え方を理解し説明できる。 ② 消費者行動やSWOTの分析について理解して説明できる。 ③ マーケティングのフレームワークについて理解し説明できる。	○	○	○
サービス マーケティング	① サービス・マーケティングという考え方を理解し説明できる。 ② 消費者行動やSWOTの分析について理解して説明できる。 ③ 観光動態について理解し説明できる。	○	○	○
経営学総論	① マネジメントの基本的な考え方を理解し説明できる。 ② 企業経営について幅広く理解して説明できる。 ③ ビジネスに役立つ知識を習得・理解し説明できる。	○	○	○
貿易実務	① 国際ビジネスに携わる者としての基礎的な知識を身につけることができる。 ② 貿易実務者としてのルールの基礎知識が理解できる。 ③ 貿易実務者として輸入取引必須の貿易英語の基礎が理解できる。	○	○	○
起業学	① 起業とは何かを学び、起業に必要な心構えを理解できる。 ② 起業することでいかに社会に貢献できるかを理解することができる。 ③ 起業するに当たって、事前にどのようなことを準備しておくかを学ぶことができる。	○	○	○
国際関係学総論	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に着けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○		
日本語実践会話	① 丁寧な日本語を使い、自分の意見を主張することができる。 ② 他者の意見に耳を傾け、コミュニケーションをとることができる。	○	○	○
日本語実践文書作成	① 日本語を用いて文章を書くことができる。 ② 自身の意見を論理立てて記述することができる。	○	○	
ビジネス日本語	① ビジネスに必要な日本語や基礎知識を理解し、運用できる。	○	○	○
日本語中上級A	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級B	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級C	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級D	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級E	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級F	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
日本語能力試験対策Ⅰ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅰ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅰ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使用することができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅰ (読解)	① 日本社会で必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 日常生活において読む力を適用できる。	○	○	
日本語上級 A	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 B	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 C	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 D	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 E	① 社会生活を営むために必要な会話を学び、コミュニケーション力を身につけることができる。	○	○	
日本語上級 F	① 社会生活を営むために必要な会話を学び、コミュニケーション力を身につけることができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。 ④ TPOに応じた日本語の使い方が理解できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅱ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使用することができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (読解)	① 日本社会で必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 日常生活において読む力を応用できる。	○	○	
実践日本語 A	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
実践日本語 B	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
実践日本語 C	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	○
実践日本語 D	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅲ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。 ④ TPOに応じた日本語の使い方を習得できる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
日本語能力試験対策Ⅲ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅲ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使うことができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅲ (読解)	① 日本社会で必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 読解力を日常生活からビジネスシーンまで応用できる。	○	○	
実践日本語E	① 場面や相手の気持ちに配慮しながら適切な言い方で自分の気持ちや意見を言うことができるようになる。	○	○	
実践日本語F	① 場面や相手の気持ちに配慮しながら適切な言い方で自分の気持ちや意見を言うことができるようになる。	○	○	
実践日本語G	① 場面や相手の気持ちに配慮しながら適切な言い方で自分の気持ちや意見を言うことができるようになる。			
実践日本語H	① 場面や相手の気持ちに配慮しながら適切な言い方で自分の気持ちや意見を言うことができるようになる。			
日本語能力試験対策Ⅳ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。 ④ TPOに応じた日本語の使い方を習得し、運用できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅳ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策	① 日本社会に必要な文字、語彙、文法の知識を修得し、運用できる。	○	○	
日本留学試験対策	① 大学等での勉学に対応できる文字、語彙、文法を修得し運用できる。	○	○	
日本の文化	① 演習を通して、日本の文化や歴史、習慣に触れることができる。 ② 自国の文化や習慣と比較し、説明することができる。 ③ コミュニケーション能力を身につけ、協調することができる。	○	○	○
写真（写真Ⅰ）	① デジタルカメラを使った撮影の基礎的な知識と技術を習得することができる。	○	○	○
宿泊業務演習	① 宿泊業で必要とされる知識・技能を理解することができる。 ② 宿泊業に従事するための5つのカテゴリーの技能を身につける。	○	○	○
ホテル・レストラン 演習Ⅰ	① 現場で即必要とされる基本的な接客の知識や技法を知ること で、一流のプロとなれる礎をつくることができる。 ② テーブルセッティング、対人技能などを実践を交えて確実に 習得できる。	○		○
ホテル・レストラン 演習Ⅱ	① サービススタッフに必要な「お客様に満足を提供すること」、 すなわち「接客」を理解、一流の立ち居振る舞いを極める。 ② サービススタッフの仕事に必要な対人技能、実務技能をより 深く理解し、一流の応対を極める。	○		○
ホテル・観光英語	① ホテル・観光業にふさわしい接客接客（おもてなし）英語及び サービスマウンドを習得できる。 ② ①の習得により、ホテル観光業において即戦力となり、イン バウンド訪問客の満足度向上に貢献できる。		○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
日中通訳入門	① 日中通訳に必要とする基礎的な通訳技術を習得でき、日本語能力を向上させることができる。 ② ビジネス通訳や観光案内の基本をマスターできる。	○	○	○
観光・地域体験学	① 別府の歴史・人物・文化・自然などから別府地域について、別府八湯の視点から一定の知識がある。 ② 各地域の特色を説明できる。 ③ 顧客が別府を訪れる際に必要な観光資源として基礎的な情報を説明できる。 ④ 地域の歴史文化や観光サービスについて、実体験を通して自身の言葉で説明できる。 ⑤ 他者と協力しあい、物事を遂行することができる。	○	○	○
温泉学	① 温泉資源の利活用について幅広く実践的な基礎知識を身につけることができる。 ② 大分県の温泉、特に別府温泉を題材に温泉の自然と文化を学ぶことができる。 ③ 温泉県大分の情報発信ができる温泉コンシェルジュをめざすことができる。	○	○	
別府の歴史と発展	① 別府発展の歴史の特色を、自然・人物・文化・産業の視点で説明できる。 ② 別府発展のポイントを、歴史と周辺地域の連携という視点で説明できる。 ③ 取得した情報をもとに、物事をわかりやすく説明して伝えることができる。 ④ 情報や知識を様々な観点から論理的に分析し、表現（説明）できる。	○	○	○
地域固有の観光要素の発見	① 紹介する地域や都市の特性を如何にして理解したら良いかが分かる。 ② 地域や都市の全体像を理解し、別府の地域特性を説明できる。 ③ 顧客対応に利用する情報をストックし整理することができる。 ④ 別府のまちづくりや特色ある産業について他地域と比較し説明できる。	○	○	
おもてなしの心を学ぶ	① 日本の接客業における、総合的なおもてなしの心や業務が分かることができる。 ② 日本や世界のおもてなしの心と作法をもとに、接客サービスができる。	○	○	○
大分学	① 大分県内の特色（歴史・人物・文化・産業 等）について学ぶ。 ② 大分県の魅力を全国に発信することができる。	○	○	
温泉文化と活用	① 温泉の活用法を知り、別府でのサービス等の情報発信ができる。 ② 他者を理解し、多様な価値観を受容することができる。 ③ 職場や地域での人的ネットワークを構築し、活用することができる。	○	○	
温泉コンシェルジュの基礎	1. 知識・理解 ①（別府）温泉コンシェルジュに必要な基礎的な知識や資質・能力を理解し、説明できる。 ② 別府の魅力・特色の概要を知り、顧客の求める心と体の健康を癒やすための別府散策のモデル的なプログラムを作成することができる。 2. 習得する資質・能力等 ① 他人の話に耳をよく傾け、多様な価値観を受容して自分なりの意見を持って適切な対応をしようと心がけることができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
温泉医療療養指導論	① 健康増進にむけた温泉の利用法を説明できる。 ② 安全に温泉を利用するための重要な点をきちんと挙げることができる。	○	○	○
温泉入浴指導概論	① 温泉の観光・健康・医療・食等の総合的な企画プログラムを提案できる。 ② 温泉による健康・医療について、温泉の様々な効能と泉質の関係を説明できる。 ③ 温泉を活用した健康づくりや温泉との関係に限らず広く癒しや健康増進プログラムの指導ができる。	○	○	○

食物栄養学科〔保育健康コース〕 教育課程

[令和 7 年 4 月入学生]

科 目		履修法	単位	1 年		2 年		栄養士	栄養教諭	社会福祉士 主任任用資格 保育栄養アドバイザー	介護職員 初任者研修	温泉入浴アドバイザー コース 子ども食物アレルギー実務課程	履修	備 考
				必	選	春学期	秋学期							
						1セメ	2セメ	3セメ	4セメ					
基礎教育	基礎科目	人間関係論講義	2					○				☆		基礎科目については 8 単位以上取得すること
		人権教育概論講義	1			●				★	☆			
		日本語表現講義	2			○	○			☆				
		情報処理学講義	2			○				★	★	☆		
		大分再発見講義	1					●						
		大分の人と学問講義	2			(○)		(○)						
		大分県立大学講義	2			(○)		(○)						
		日本国憲法講義	2					○		★	☆			
		国際関係学講義	2			(○)		(○)						
		ICTと社会の活用演習	1					○		★				
		ICTの活用講義	2				○							
		キャリア教育講義	1			●		●						
		インターンシップ実習	1			●	●	●	●					
		社会貢献演習Ⅰ	1			●	●	●	●					
		社会貢献演習Ⅱ	1			●	●	●	●					
	外国語	英会話Ⅰ	1			○				★				英語・中国語いずれかを 2 単位以上取得すること
		英語Ⅱ	1				○			★				
		中国語Ⅰ	1			○				★				
	体育	中国語Ⅱ	1				○			★				体育科目から 2 単位 以上取得すること
		生涯スポーツ講義	1			●				☆	★			
		体育実技	1			●	○			★				
		運動スポーツⅠ	1			○				☆				
		運動スポーツⅡ	1				○			☆				

科 目		履修法	単位	1 年		2 年		栄養士	栄養教諭	社会福祉士 主任任用資格 保育栄養アドバイザー	介護職員 初任者研修	温泉入浴アドバイザー コース 子ども食物アレルギー実務課程	履修	備 考
				必	選	春学期	秋学期							
						1セメ	2セメ	3セメ	4セメ					
専門教育科目	社会生活と健康	公衆衛生学講義	2					○		★		◇	☆	
		社会福祉学講義	2			○				★		◇	★	
		保健社会学講義	2			○				★				
		生活文化学講義	2					○		★				
		生活文化学実習	1					○	○	★				
		運動生理学講義	2					○		★				
	食品と衛生	基礎医学講義	1			●				★		◇	★	
		食品学総論講義	2				○			★				
		食品学各論講義	2					○		★				食品加工学を含む 食品加工実習を含む 食品加工実習を含む
		食品学実験Ⅰ	1				○			★				
		食品学実験Ⅱ	1					○		★				
		食品衛生学講義	2			○				★				
	栄養と健康	食品衛生学実験	1					○		★				
		栄養学総論講義	2			○				★		◇		
		栄養学各論講義	2					○		★				
		栄養学実習Ⅰ	1						○	★				
		臨床栄養学講義	2				○			★			★	
		臨床栄養学実習	1					○	○	★			☆	
	栄養の指導	運動栄養学講義	2					○		★				
		栄養指導論Ⅰ講義	2			○				★		◇		
		栄養指導論Ⅱ講義	2				○			★				
		栄養指導実習Ⅰ	1				○			★			☆	
		栄養指導実習Ⅱ	1					○	○	★				
		公衆栄養学講義	2					○		★				
	給食の運営	給食計画論講義	1			●				★				
		給食実務論講義	1			●				★				
		給食管理実習Ⅰ	1				○	○		★				
		給食管理実習Ⅱ	1					○	○	★				
		給食管理実習Ⅲ	1					○	○	★				
		調理実習Ⅰ	2			○				★				
		調理実習Ⅱ	1			○				★			☆	
		調理実習Ⅲ	1				○			★			☆	
		調理実習Ⅳ	1					○		★				
		調理実習Ⅴ	1					○		★				

科 目			履 修 法	単 位	1 年		2 年		栄 養 士	栄 養 教 諭	保 育 栄 養 ア ド バ イ ザ ー	社 会 福 祉 主 事 任 用 資 格	介 護 職 員 初 任 者 研 修	こ ども 食 物 ア レ ル ギ ー 実 務 課 程	温 泉 入 浴 ア ド バ イ ザ ー 課 程	履 修	備 考
				必 選	春 学 期 1 セ マ	秋 学 期 2 セ マ	春 学 期 3 セ マ	秋 学 期 4 セ マ									
専 門 教 育 科 目	応 用 と 実 践	調 理 学 実 習 IV	実 習	1				○ ○	☆						☆		
		実 践 給 食 管 理 実 習	実 習	1	●	●	●	●	☆								学 内 集 中 (30 時 間)
		給 食 管 理 実 習 III	実 習	1			○ ○	(○ ○)	☆								学 外 集 中 (2 年 夏)
		食 と こ こ ろ	講 義	1		○			☆	☆			☆				
		健 康 と 医 療	講 義	1					☆				☆		★		
		温 泉 入 浴 指 導 概 論	講 義	1		●							☆		★		集 中
	栄 養 教 諭 二 種	栄 養 士 の た め の 情 報 処 理	演 習	1				○	☆	☆							
		学 校 栄 養 教 育 論	講 義	2			○			★							
		教 職 概 論	講 義	2	○					★							
		教 育 心 理 学	講 義	1		●				★							社 会 的 ・ 制 度 的 ・ 経 営 的 事 項 を 含 む
		発 達 心 理 学	講 義	1	(●)		(●)			★							隔 年 開 講 (奇 数 年) (夏 季 集 中)
		特 別 支 援 教 育 概 論	講 義	1			●			★							
		道 徳 ・ 特 別 活 動 ・ 教 育 課 程 論 (総 合 的 な 学 習 の 時 間 を 含 む)	講 義	2	○					★							教 育 課 程 の 意 義 及 び 編 成 の 方 法 (カ リ キ ュ ラ ム ・ マ ネ ジ メ ン ト を 含 む) を 含 む
		教 育 方 法 論	講 義	1		●				★							学 内 集 中 (1 年 春)
		生 徒 指 導 論	講 義	1			●			★							
		教 育 相 談 論	講 義	1			●			★							
		教 職 実 践 演 習	演 習	2	●	●	●	●		★							学 内 集 中 (30 時 間)
		事 前 事 後 指 導	講 義	1		●	●	●		★							学 内 集 中 (15 時 間)
		栄 養 教 育 実 習	実 習	1			(●)	●		☆							学 外 集 中
		保 育 原 理	講 義	1	●					☆	★						学 内 集 中 (1 年 夏)
		障 害 児 保 育 / 家 族 援 助 論	講 義	1			●			☆	★						
		乳 児 ・ 小 児 栄 養	講 義	1				●	☆	★					★		
		保 育 栄 養 指 導 法	講 義	1				●	☆	★	★				★		
	福 祉 関 係 科 目	介 護 概 論	講 義	2	○					☆		◇	★				人 権 教 育 を 含 む
		介 護 の 理 解	講 義	2	○								★				学 内 集 中 (1 年 夏)
		介 護 技 術 I	演 習	1	○								★				
		介 護 技 術 II	演 習	1		○							★				
		介 護 実 習	実 習	1		○							★				学 外 集 中 (1 年 春)
	そ の 他	卒 業 研 究 演 習	演 習	2			○	○									学 内 集 中
		観 光 学 入 門	講 義	1	●												
		温 泉 コ ン シ ェ ル ジ ュ の 基 礎	講 義	2	○												
		別 府 の 歴 史 と 発 展	講 義	2	○												
		地 域 固 有 の 観 光 要 素 の 発 見	講 義	2	(○)		(○)										隔 年 開 講 (奇 数 年) (集 中)
		温 泉 学	講 義	2	○											★	集 中
		イ ン タ ー ン シ ッ プ I	実 習	1										☆			
		イ ン タ ー ン シ ッ プ II	実 習	1													
		イ ン タ ー ン シ ッ プ III	実 習	2													
		イ ン タ ー ン シ ッ プ IV	実 習	2													
		社 会 貢 献 演 習 III	演 習	1													
		社 会 貢 献 演 習 IV	演 習	1													

※○印は、90分授業、1コマ15週

○○印は、90分授業、2コマ15週

●印は、90分授業、1コマ8週

★印は、資格の必修科目

☆印は、資格の推奨科目（その資格での就職をめざす人は受講すべき科目）

専門教育科目から50単位以上、基礎科目・外国語・体育を含めて62単位以上取得しなければ、卒業できない。

社会貢献演習Ⅰ～Ⅳは2時間×8回以上の貢献をもって演習1単位とする。

キャリア教育は、2年間を通じて8回以上受講すること。

体育科目については栄養教諭資格取得者以外は「運動スポーツⅠ」「運動スポーツⅡ」を選択すること。

栄養教諭を取得するには、栄養士免許の取得が必須である。

保育栄養アドバイザーを取得するには、栄養士免許の取得が必須である。

社会福祉主事任用資格を取得するには、◇印の科目を3つ以上受講すること。

こども食物アレルギー実務課程修了証を取得するには、★の科目4単位と☆の選択科目から1単位以上取得すること。

都合により、開講時期等が変更になることがある。

令和7年度カリキュラムマップ【2025食物栄養学科：保育健康コース】

建学の精神：自立・自活できる人材の育成

教育理念と3つのポリシー：学生生活ハンドブック【学生便覧】を参照してください。

食物栄養学科【ディプロマポリシー】DP

食物栄養の学びをとおして、疾病を予防し、健康を維持増進する努力ができる。

保育健康コース【ディプロマポリシー】DP

子どもを対象として、生涯にわたって健康を維持増進するための食育ができる。

フィールド		1年生春学期 1セメスター	1年生秋学期 2セメスター	2年生春学期 3セメスター
基礎教育	基礎科目	化学 情報処理論 情報処理論	人権教育概論 日本語表現 大分の人と学問 大分学 国際関係学 ICT活用	人間関係論
		【通年】キャリア教育 インターンシップ 社会貢献演習Ⅰ		
	外国語	英語Ⅰ 中国語Ⅰ	英語Ⅱ 中国語Ⅱ	
	体育	運動スポーツⅠ 生涯スポーツ/体育実技	運動スポーツⅡ 体育実技	
専門教育科目	社会生活と健康	社会福祉		
	人体の構造と機能	解剖学 生理学	基礎医学	生化学 運動生理学
	食品と衛生	食品衛生学	食品学総論 食品学実験Ⅰ	食品学各論 食品学実験Ⅱ 食品衛生学実験
	栄養と健康	栄養学総論	臨床栄養学	栄養学各論 臨床栄養学実習
	栄養の指導	栄養指導論Ⅰ	栄養指導論Ⅱ 栄養指導実習Ⅰ	栄養指導実習Ⅱ
	給食の運営	給食計画論 給食実務論 調理学 調理学実習Ⅰ	給食管理実習ⅠA 調理学実習Ⅱ	給食管理実習Ⅱ 調理学実習Ⅲ
	応用と実践	実践給食管理実習 食とこころ	実践給食管理実習 健康と医療 温泉入浴指導概論 栄養士のための情報処理	実践給食管理実習 給食管理実習Ⅲ
		【通年】実践給食管理実習		
	栄養教諭二種	教職概論 道徳・特別活動・教育課程論 (総合的な学習の時間を含む) 保育原理	教育原理 教育方法論	学校栄養教育論 発達心理学 特別支援教育概論 生徒指導論 教育相談論 栄養教育実習 障害児保育／家族援助論
		【通年】教職実践演習		
	福祉関係科目	介護概論 介護技術Ⅰ	介護の理解 介護技術Ⅱ 介護実習	
	その他	観光学入門 温泉コンシェルジュの基礎 別府の歴史と発展 地域固有の観光要素の発見 温泉学	健康運動指導論 健康マネジメント論	高齢者心理学 【通年】卒業研究

2年生秋学期 4セメスター			卒業と同時に取得をめざす資格
大分再発見 大分の人と学問 大分学 日本国憲法 国際関係学 ICTと社会 社会貢献演習Ⅱ	希望する卒業後の進路（就職・進学等）の内定	卒業研究の論文作成と発表	温泉入浴アドバイザー課程 こども食物アレルギー実務課程 社会福祉主事任用資格 保育栄養アドバイザー 栄養教諭 栄養士
			在学中に取得できる資格
公衆衛生学 生化学実験	学修成果	食育の知識・技能の修得 疾病を予防し、健康を維持増進できる知識技能の修得	各種検定試験資格 介護職員初任者研修修了証
栄養学実習 運動栄養学 公衆栄養学			
給食管理実習ⅠB			
実践給食管理実習 調理学実習Ⅳ			
乳児・小児栄養 保育栄養指導法			

食物栄養学科〔保育健康コース〕到達目標一覧表

〔令和7年4月入学生〕

科目名	授業目標	知識	主体性	就業力
人間関係論	① 介護職等、専門的職業現場をはじめ、現代社会における複雑で多様な人間関係の在り方を理解し、「問題」に対応しうる職業人材や良識ある社会人としての成長を目指す。 ② 臨床心理学や社会心理学、またはその周辺領域における基礎的な知見や技術、人々との関係調節能力を身につける。	○		○
人権教育概論	① 人権についての理解力が深化し、自己及び他人の人権を尊重する資質能力が磨かれる。 ② いじめや差別のない社会の創造への意欲が喚起される。 ③ 思いやりの心が磨かれ、子ども等弱い立場の人々への前向きな考えが膨らむ。 ④ 豊かな人間性が培養され、偏見や差別の解消に向けた実践力が身につく。	○	○	○
日本語表現	① ビジネスの場で活躍するのに必要な実践的国語表現力を身に付ける。 ② 就職活動や各種検定試験にも対応できる国語表現力を身に付ける。 ③ コミュニケーション力を磨き、対人関係を築く資質を身に付ける。 ④ 適切な言葉で書き、適切な言葉で話し、適切に情報を伝える力を身に付ける。	○	○	○
化学	① 化学に関する基礎的知識の理解ができる。 ② 化学に関する基礎的実験技術の理解ができる。 ③ 物質について簡単な定量的な扱いができる。 以上の目標を達成し、専門科目の学修につなげる。	○	○	
情報処理論	① 情報実務に関する基本的な用語を説明できる。 ② 情報実務で必要な情報機器の基本的な操作ができる。	○		○
大分再発見	① 大分県に残る朝鮮半島からの影響について学習する。 ② 県内各地の行事について理解を深める。	○	○	
大分の人と学問	① 大分の特色や課題について説明できる。 ② 大分に縁のある学問分野や人物について説明できる。 ③ テーマに基づいて他者と意見交換したり、協調しながら課題に取り組んだりすることができる。 ④ 授業内容から派生的な課題を自ら見だし、文献等の調査に基づいたアイデアを論述することができる。	○	○	
大分学	① 大分県内の特徴（歴史・人物・文化・産業等）について学ぶ。 ② 大分県の魅力を全国に発信することができる。	○	○	
日本国憲法	① 憲法とは何か、憲法の理念、日本国憲法の構造について理解できる。 ② 憲法の保障する権利、国の統治形態などについて理解することができる。 ③ 社会の様々な問題を、憲法の観点から考え、検討することができる。	○	○	
国際関係学	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に付けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
ICTと社会	① 情報社会の現状を理解し、健全な情報社会の一員として社会に参画できる。 ② 情報リテラシーを身に着ける。 ③ 受け取った情報を活用し、自身の考えを他者へプレゼンテーションする力を身につける。	○	○	○
ICTの活用	① 情報を収集・分析し、適切な表現方法を選択することができる。 ② 聴衆の理解を促すわかりやすいスライドを作成できる。 ③ プレゼンテーションソフトの基本的な操作ができる。	○		○
キャリア教育	① 企業・組織の経営者や地域事業を行う代表者たちと対話することができる。 ② 就職や社会生活を通じた自己実現（キャリア形成）について語ることができる。 ③ 自らの進路を説明できる。	○	○	○
インターンシップ	① 職業観、就労意識の醸成をめざし、将来のキャリアを考える機会を作る事ができる。 ② 社会や企業に対する理解度の向上をはかり、人間的成長を目標とする。 ③ 自分自身の適性、持ち味の確認を行なうことができる。		○	○
社会貢献演習Ⅰ	① 地域社会の課題を説明できる。 ② 地域の課題の解決方法について考えることができる。 ③ 地域等の課題解決へ向けて自ら行動ができる。	○	○	○
社会貢献演習Ⅱ	① 地域社会の課題を説明できる。 ② 地域の課題の解決方法について考えることができる。 ③ 地域等の課題解決へ向けて自ら行動ができる。	○	○	○
英語Ⅰ	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることへの自信を高めることができる。	○	○	○
英語Ⅱ	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることへの自信を高めることができる。	○	○	○
中国語Ⅰ	① 中国語による基礎的なコミュニケーションができる。 ② 文化体験授業を通して、基本的な知識を身につけることができる。	○	○	○
中国語Ⅱ	① 中国語の基礎的なコミュニケーションのスキルを向上できる。 ② 文化体験授業を通して、中国に対する理解を深めることができる。	○	○	○
生涯スポーツ	① 健康・運動・スポーツの実践の基盤となる理論的な事柄について理解できる。 ② 健康・体力・運動について正しい知識を身につけることができる。 ③ 様々な生活習慣病について学び、運動・栄養・休養との関係を理解できる。	○	○	
体育実技	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
運動スポーツⅠ	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	○
運動スポーツⅡ	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	
公衆衛生学	① 予防医学の概念について説明できる。 ② 疾病と死因の年次推移について説明できる。 ③ 健康と環境との関係を説明できる。	○	○	○
社会福祉	① 社会福祉の基本となる理念や歴史を知り、理解できる。 ② 社会保険制度など、社会保障の仕組みを理解できる。 ③ 児童福祉、高齢者福祉、障がい者福祉、地域福祉等の福祉体系を理解できる。 ④ 今日の福祉課題に対する問題点を理解することができる。	○		○
解剖学	① 解剖学の見地から、生命活動の不思議と人体の絶妙なしくみを理解する。 ② この学習を通して栄養学、食品学の基礎学習と発展的研究能力を培う。	○		
生理学	① 生理学の見地から、生命活動の不思議と人体の絶妙なしくみを理解する。 ② この学習を通して栄養学、食品学の基礎学習と発展的研究能力を培う。	○		
生化学	① 体内における食物の変化・役割について理解することができる。 ② 人体の仕組みを正しく理解し、健康維持増進のための食育ができる。 ③ 栄養素などの働きについて説明することができるようになる。	○	○	
生化学実験	① 生化学等の講義で学んだ知識について、実験をととして理解を深めることができる。 ② 実験で学習した内容の中から、興味のあるテーマを班ごとに自主的に決め、パソコンでインターネットを利用し調べ学習を行うため理解を深めることができる。 ③ 実験で修得した知識により、健康を維持増進するための食育ができる。	○	○	○
運動生理学	① 筋収縮の発現など運動の特性について理解できる。 ② 運動時の呼吸・循環器系及び体温調節の働きについて理解する。 ③ 食事と運動の両面から生活指導のできる栄養士をめざす。	○	○	
基礎医学	① 医療秘書実務士「栄養士」取得に必要な医学的知識が理解できる。 ② 5疾病、アレルギーについての理解を深めることができる。	○	○	○
食品学総論	① 健康を支える食品の成分、特徴、物性等について科学的な知識を理解する。 ② 食品学で学んだ知識を、日々の食生活に活用することができる。	○	○	
食品学各論	① 食品材料の一般成分・食品分類・食品形態・食品の原産地など食品の特徴について理解する。 ② 食文化や食品の健康に及ぼす影響について理解を深めることができる。 ③ さらに、健康を維持し、安全な食品を得る為の正しい食品選択ができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
食品学実験Ⅰ	① 実験、実習に関する用語や数値及び薬品の調整等、基本的な事柄を知る。 ② 実験、実習に使用する器具や薬品の安全な正しい取り扱い方を知る。 ③ 各食品の構成成分や特徴、働きを知り、人々の健康で心豊かな食生活のあり方を知る。 ④ 食品の安全で衛生的な取り扱いや製造方法を知る。	○	○	○
食品学実験Ⅱ	① 実験、実習を通して薬品の調整等、基本的な事柄を知る。 ② 実験、実習に使用する器具や薬品の安全な正しい取り扱い方を知る。 ③ 各食品の構成成分や特徴、働きを知り、人々の健康で心豊かな食生活のあり方を知る。 ④ 食品の安全で衛生的な取り扱いや製造方法を知る。	○	○	○
食品衛生学	① 食中毒の種類とその原因及び対策を説明できる。 ② 食品添加物の安全性とその考え方を説明できる。 ③ 食品表示について説明できる。	○	○	○
食品衛生学実験	① 身近な食品・食材中の細菌の検査方法を実施できる。 ② 実験で得られたデータを説明できる。 ③ HACCPについて説明できる。	○	○	○
栄養学総論	① 各栄養素の種類及び体内でのはたらきを説明できる。 ② 消化と吸収について理解できる。 ③ エネルギー代謝について理解できる。	○	○	
栄養学各論	① 「健康日本21」でめざしていることを説明できる。 ② “健康寿命”の延伸について説明できる。 ③ ライフステージごとに人の生体変化とそれに対応する栄養について説明できる。	○	○	○
栄養学実習	① 人生のライフステージごとの健康を維持・増進できる食のあり方を理解する。 ② 実習をととして、具体的に食事の質と量を実感することにより理解を深める。	○	○	○
臨床栄養学	① 解剖学、生理学、栄養学を基礎とし、正常な体の機能を理解できる。 ② 各疾患の病態生理や食との関連について概要を理解できる。 ③ 各疾病、症状に応じた食事療法を理解できる。 ④ 疾患予防と健康増進のための食事、生活習慣を説明できる。	○	○	○
臨床栄養学実習	① 個人の検査値、食事摂取状況等から栄養状態の把握方法を理解できる。 ② 臨床栄養学の知識をもとに病態別の栄養管理について理解を深める。 ③ 糖尿病交換表を使用し、献立の作成ができる。 ④ 適切な調理方法や食品の選択、常食から治療食の献立展開ができる。	○	○	○
運動栄養学	① 健康のための運動と効率的な栄養摂取を理解することができる。 ② 健康増進の為の知識を修得することができる。	○	○	
栄養指導論Ⅰ	① 栄養教育の意義や目的について理解できる。 ② 食の楽しさを伝える為の栄養教育を理解できる。 ③ 栄養教育の方法論を理解し、栄養アセスメント計画を理解することができる。	○	○	
栄養指導論Ⅱ	① ライフステージごとの対象者の特徴を理解できる。 ② ライフステージごとの栄養教育について理解できる。 ③ 対象に応じた栄養教育プログラムをマネジメントできる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
栄養指導実習Ⅰ	① 生涯にわたって健康を維持増進するための栄養教育を計画することができる。 ② 子どもの発育・発達に応じた目標を設定し、指導案を作成することができる。 ③ 効果的な媒体を作成し、栄養教育に活用することができる。 ④ 栄養教育を実践し、教育効果を評価し、フィードバックを行うことができる。	○	○	○
栄養指導実習Ⅱ	① 対象者の状態に応じた目標を設定し、指導案を作成することができる。 ② 科学的根拠に基づいた情報を収集し、対象者に正しく伝えることができる。 ③ 効果的な媒体を作成し、栄養教育に活用することができる。 ④ 栄養教育を実践し、教育効果を評価し、フィードバックを行うことができる。	○	○	○
公衆栄養学	① 個人または集団の健康を維持・増進するために必要な健康・栄養活動を知る。 ② 健康・栄養活動を企画・実施・評価する方法を理解する。 ③ 健康・栄養問題の歴史的経緯、現在の問題点について理解を深めることができる。	○	○	
給食計画論	① 特定給食施設について関係法規を含め理解できる。 ② 栄養管理、食事管理、食材料管理、給食作業管理を理解できる。 ③ 食品衛生や労務管理を含めた安全管理を理解できる。 ④ 設置基準等、関係法規を含めた施設・設備管理を理解できる。	○		○
給食実務論	① 給食を運営する団体の組織体系について理解できる。 ② 給食経営に関わる費用について理解する。 ③ 各特定給食施設給食について各特色と関係法規を理解する。	○		○
給食管理実習Ⅰ A	① 給食栄養目標量を設定することができる。 ② 食品構成の役割とその作成方法を理解できる。 ③ 栄養量を意識した1日分の献立作成ができる。 ④ 作業工程の考え方、発注法を理解する。	○	○	○
給食管理実習Ⅰ B	① 給食管理の集大成としてPDCAに則った給食を実践できる。 ② 献立作成、発注、調理及び調理指示を適切に行うことができる。 ③ 喫食者の嗜好や満足度に対して意識を向けることができる。 ④ 互いの個性や力量を見極め、協働することができる。	○	○	○
給食管理実習Ⅱ	① 特定給食施設において、現場の栄養士・管理栄養士から実地訓練を受ける。 ② 栄養士としての具備すべき知識及び技能全般を体得する。		○	○
調理学	① 食品素材を衛生的で安全に、栄養的価値のある料理においしく仕上げることができる。 ② おいしく安全な料理を作るために必要な「調理科学」の理論や知識を体系的に学ぶことができる。 ③ 「調理のこつ」といわれる調理操作が科学的根拠に基づいていることを理解できるようになる。	○	○	
調理学実習Ⅰ	① 望ましい食事作りの為の基礎知識を把握する。 ② 基礎的な調理法の実践を修得する。 ③ 食生活全般にわたっての総合的な判断力・実践力の修得をする。 ④ 食中毒や安全性を考慮した食品の扱いができる。	○	○	○
調理学実習Ⅱ	① 日常食の調理を身につける。 ② 食生活をより楽しく、健康的に営む為の基本を学習する。 ③ 応用料理へ発展させる能力を修得する。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
調理学実習Ⅲ	① 調理学実習Ⅰ、Ⅱで身につけた基礎を基に、大量調理を行うにあたっての技術の習得をする。 ② 大量調理の適切な献立作成ができる。 ③ 大量調理実習の発注・検収・衛生管理等ができる。	○	○	○
調理学実習Ⅳ	① 調理学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの基礎をさらに発展させ、応用する。 ② 食文化や行事食について調理実習を通して理解を深める。	○	○	○
実践給食管理実習	① 栄養士としての具体的演習及び実習を行い、理解を深める。 ② 献立立案、食材の選別、作業計画などの給食管理について理解する。 ③ 食材の理解を深める。	○	○	○
給食管理実習Ⅲ	① 給食管理実習Ⅱに引き続き、さらに現場の栄養士の体験を積む。 ② 特定給食施設において、現場の栄養士・管理栄養士から実地訓練を受ける。 ③ 給食管理の実際と合わせて、栄養士として具備すべき知識及び技術を体得する。		○	○
食とこころ	① メンタルヘルスへの理解が深まる。 ② 適切な食と生活習慣が心身に与える影響について理解できる。 ③ ストレスへの対処が出来る。	○	○	○
健康と医療	① 健康増進にむけた温泉の利用法を説明できる。 ② 安全に温泉を利用するための重要な点をきちんと挙げることができる。	○	○	○
温泉入浴指導概論	① 温泉の観光・健康・医療・食等の総合的な企画プログラムを提案できる。 ② 温泉による健康・医療について、温泉の様々な効能と泉質の関係を説明できる。 ③ 温泉を活用した健康づくりや温泉との関係に限らず広く癒しや健康増進プログラムの指導ができる。			
栄養士のための情報処理	① 数式の入力（四則演算）ができる。 ② 関数（SUM・ROUND・RANKなど）を使うことができる。 ③ 関数（IF・VLOOKUPなど）を使うことができる。 ④ グラフの作成ができる。	○		○
学校栄養教育論	① 栄養教諭の役割および職務内容を理解できる。 ② 「食に関する指導」と「給食の管理」の基礎知識を身につける。 ③ 学校給食を教材とした「食に関する指導」の実施をめざす。	○	○	
教職概論	① 教職の社会的意義と教員に求められる役割を理解している。 ② 職員組織及び職務内容並びに教員に課せられる服務上・身分上の義務と身分保障を理解している。 ③ 教育の動向と課題への組織的対応の重要性を理解している。	○	○	
教育原理	① 教育本質論・教育目的論・教師論について理解できる。 ② 教育理念の認識・教育経営の意義を理解し、実践的態度を形成する。	○	○	○
発達心理学	① 幼児・児童・生徒の心身の発達と学習の過程を説明できる。 ② 生涯発達の理論と各年齢段階の心理的特徴を説明できる。 ③ 障がい児も含めて言語・認知・社会性の発達を説明できる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
特別支援教育概論	① 特別な支援を必要とする各種障害の特性や心身の発達過程、各種制度の概要等を理解する。 ② インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の知識や特別支援の方法を理解する。 ③ 各職種や関係機関、家庭との連携等、組織対応する意味を理解する。 ④ 特別の教育的ニーズが必要とされるケースの理解と対応について学んでいく。	○	○	
道徳・特別活動・教育課程論（総合的な学習の時間を含む）	① 教育課程の意義や編成のあり方について理解している。 ② カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、実践的態度を形成する。 ③ 道徳教育の意義や原理、目標や内容を理解している。 ④ 特別活動の意義や原理、目標や内容を理解できている。 ⑤ 総合的な学習の時間の意義や原理、指導計画の作成について理解し、実践するための基礎的な能力を身に付ける。	○	○	
教育方法論	① 効果的な教育方法を理解し、その技術を身に付ける。 ② 現場に合わせた食育のための教育方法の工夫や改善を図ることができる。 ③ 食育のための教材作成、校務活動などに情報機器を活用できる。	○	○	○
生徒指導論	① 教育課程における生徒指導の機能とその方法原理を理解している。 ② 生徒指導上の課題の様相と校内外の連携による対応の在り方を例示することができる。	○	○	
教育相談論	① こどもの理解の意義、理論と方法を理解する。 ② 保育・教育相談の目的と内容を理解する。 ③ カウンセリングの基礎知識や技法を理解する。 ④ 保育・教育相談の理論と方法を理解する。	○	○	○
教職実践演習	① 子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。 ② 組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。 ③ 子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。 ④ 板書、話し方、表情など授業を行う上での基本的な表現力を身に付けている。	○	○	○
事前事後指導	① 事前指導では、教育実習生としての資質、教養、専門的な知識・技能を身に付ける。 ② 事後指導では、教育実習の事後報告と情報交換を行い、栄養教諭としての理解を深める。	○	○	○
栄養教育実習	① 栄養教諭の職務内容について理解を深めることができる。 ② 児童生徒に対する指導の実際を学び、体験することができる。 ③ 責任のある教育活動を営む実践力を身に付けることができる。	○	○	○
保育原理	① 保育や養護について理解し、記述したり述べたりすることができる。 ② 保育所保育や養護に関する基本原則について理解し、記述したり述べたりすることができる。 ③ 保育や食育の実践力を高める方法について理解し、記述したり述べたりすることができる。	○	○	
障害児保育／家族援助論	① 障害の概念を理解する。 ② 観察と実践に基づいた保育・教育活動を理解する。 ③ 家庭支援の意義と役割を理解する。 ④ 家庭支援の展開を理解する。	○		

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
乳児・小児栄養	① 子どもの発育と心身の健康、疾患などの基礎知識が理解できる。 ② 子どもを取り巻く環境及び生活習慣について理解する。	○	○	
保育栄養指導法	① 幼児期の発達段階に応じた栄養のはたす役割が理解できる。 ② 現代の子どもたちにおける食生活の問題点を学び、食育のあり方について理解を深める。 ③ 特に保育園や幼稚園で課題となる食物アレルギーに関する理解を深める。	○	○	○
介護概論	① 介護職の仕事内容や働く現場の事を理解できる。 ② 人権と尊厳を支える支援や自立に向けた介護を理解できる。 ③ 介護職の役割や専門性他職種との連携を理解できる。 ④ 食事に関連した自立に向けた介護を理解できる。	○	○	○
介護の理解	① 介護におけるコミュニケーションを理解できる。 ② 老化に伴うところからだの変化と高齢者の健康を理解できる。 ③ 認知症を取り巻く状況や家族への支援を理解できる。 ④ 介護過程の基礎的内容を理解することができる。	○	○	○
介護技術Ⅰ	① 基本的な介護を実践するために必要な知識・技術を理解できる。 ② 介護を要する人の潜在能力を引き出す視点の大切さを理解できる。 ③ 相手の立場に立ち考える姿勢をもつことの大切さを理解できる。	○	○	○
介護技術Ⅱ	① 基本的な介護を実践するために必要な知識・技術を理解できる。 ② 介護を要する人の潜在能力を引き出す視点の大切さを理解できる。 ③ 相手の立場に立ち考える姿勢をもつことの大切さを理解できる。	○	○	○
介護実習	① 積極的に周囲に働きかけ、自ら気づきを得ることができる。 ② 気づきを自分なりに整理・考察し、報告することができる。 ③ 社会人としてふさわしい行動を取ることができる。	○	○	○
卒業研究	① 「食」及び「地域」等に関する課題について多面的・多角的に調査し考察できる。 ② 研究結果をまとめ、表現できる。 ③ 地域における課題解決を提案できる。	○	○	○
観光学入門	① 別府の歴史・人物・文化・自然などから別府地域について、別府八湯の視点から一定の知識がある。 ② 各地域の特色を説明できる。 ③ 顧客が別府を訪れる際に必要な観光資源として基礎的な情報を説明できる。	○	○	○
温泉コンシェルジュの基礎	1. 知識・理解 ① (別府)温泉コンシェルジュに必要な基礎的な知識や資質・能力を理解し、説明できる。 ② 別府の魅力・特色の概要を知り、顧客の求める心と体の健康を癒やすための別府散策のモデル的なプログラムを作成することができる。 2. 習得する資質・能力等 ① 他人の話に耳をよく傾け、多様な価値観を受容して自分なりの意見を持って適切な対応をしようと心がけることができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
別府の歴史と発展	① 別府発展の歴史の特色を、自然・人物・文化・産業の視点で説明できる。 ② 別府発展のポイントを、歴史と周辺地域の連携という視点で説明できる。 ③ 取得した情報をもとに、物事をわかりやすく説明して伝えることができる。 ④ 情報や知識を様々な観点から論理的に分析し、表現（説明）できる。	○	○	
地域固有の観光要素の発見	① 紹介する地域や都市の特性を如何にして理解したら良いかが分かる。 ② 地域や都市の全体像を理解し、別府の地域特性を説明できる。 ③ 顧客対応に利用する情報をストックし整理することができる。 ④ 別府のまちづくりや特色ある産業について他地域と比較し説明できる。	○		
温泉学	① 温泉資源の利活用について幅広く実践的な基礎知識を身につけることができる。 ② 大分県の温泉、特に別府温泉を題材に温泉の自然と文化を学ぶことができる。 ③ 温泉県大分の情報発信ができる温泉コンシェルジュをめざすことができる。	○	○	○

食物栄養学科〔医事健康コース〕 教育課程

[令和7年4月入学生]

科 目		履修法	単位	1 年		2 年		栄養士	医療秘書実務士	社会福祉任用資格	介護職員初任者研修	こども食物アレルギー実務課程	温泉入浴アドバイザー課程	履修	備 考		
				必	選	春学期	秋学期									春学期	秋学期
						1セメ	2セメ									3セメ	4セメ
基礎教育	基礎科目	人間関係論講義	2				○					☆			基礎科目については 8 単位以上取得すること		
		人権教育概論講義	1			●					☆						
		日本語表現講義	2			○											
		化学講義	2		○				★								
		情報処理解論講義	2		○				★								
		大分の再発見講義	1					●									
		大分の人問講義	2			(○)		(○)									
		大分の学問講義	2			(○)		(○)									
		日本国憲法講義	2					○									
		国際関係学講義	2			(○)		(○)									
	ICTと社会演習	1					○										
	外国語	ICTの活用講義	2				○								英語・中国語いずれか 2 単位以上取得すること		
		キャリア教育講義	1			●	●	●	●								
		インターシップ実習	1	1		●	●	●	●								
		社会貢献演習Ⅰ	1			●	●	●	●								
		社会貢献演習Ⅱ	1	1		●	●	●	●								
		英語Ⅰ演習	1	1	○					★	★						
		英語Ⅱ演習	1	1		○				★	★						
		中国語Ⅰ演習	1	1	○					★	★						
		中国語Ⅱ演習	1	1		○				★	★						
	体育	運動スポーツⅠ	1	1		○				★							
運動スポーツⅡ		1	1			○			★								

科 目		履修法	単位	1 年		2 年		栄養士	医療秘書実務士	社会福祉任用資格	介護職員初任者研修	こども食物アレルギー実務課程	温泉・浴アロバイザ課程	履修	備 考
				必	選	春学期	秋学期	春学期	秋学期						
						1セメ	2セメ	3セメ	4セメ						
専門教育科目	社会生活と健康	公衆衛生学講義	2						○	★	★	◇	☆		
		社会福祉学講義	2			○				★	★	◇	★		
		解剖生理学講義	2			○				★	★				
		生化学講義	2					○		★	★				
		生化学実験	1						○	★	☆				
		運動生理学講義	2					○		★	☆				
		基礎医学講義	1			●				★	☆	◇	★		
	食品と衛生	食品学総論講義	2				○			★	☆				食品加工学を含む 食品加工実習を含む 食品加工実習を含む
		食品学実験Ⅰ	1				○			★	☆				
		食品学実験Ⅱ	1					○		★	☆				
		食品衛生学講義	2			○				★	☆				
	栄養と健康	食品衛生学実験	1					○		★	☆				
		栄養学総論講義	2			○				★	☆	◇			
		栄養学各論講義	2					○		★	☆				
		栄養学実習Ⅰ	1						○	★	☆				
		臨床栄養学講義	2				○			★	☆		★		
		臨床栄養学実習	1					○		★	☆		☆		
	栄養の指導	運動栄養学講義	2						○	★	☆				
		栄養指導論Ⅰ講義	2			○				★	☆	◇			
		栄養指導論Ⅱ講義	2				○			★	☆		☆		
		栄養指導実習Ⅰ	1				○			★	☆		☆		
		栄養指導実習Ⅱ	1					○		★	☆				
		公衆栄養学講義	2						○	★	☆				
	給食の運営	給食計画論講義	1			●				★	☆				学外集中（2年夏）
		給食実務論講義	1			●				★	☆				
		給食管理実習ⅠA	1				○			★	☆				
		給食管理実習ⅠB	1						○	★	☆				
		給食管理実習Ⅱ	1					○	○	★	☆				
		給食管理講義	2			○				★	☆				
		調理実習Ⅰ	1			○				★	☆				
		調理実習Ⅱ	1				○			★	☆		☆		
		調理実習Ⅲ	1					○		★					

科 目		履修法	単 位		1 年		2 年		栄養士	医療秘書実務士	社会福祉任用資格	介護職員初任者研修	こども食物アレルギー実務課程	温泉入浴アドバイザー課程	履修	備 考
			必	選	春学期	秋学期	春学期	秋学期								
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ								
専門教育科目	応用と実践	調理学実習Ⅳ	実習	1				○	☆				☆			
		実践給食管理実習	実習	1	●	●	●	●	☆							学内集中(30時間)
		給食と管理実習Ⅲ	実習	1			○	○	☆							学外集中(2年夏)
		食とこころ	講義	1		○			☆			☆				
		健康と医療	講義	1		●			☆	☆					★	
		温泉入浴指導概論	講義	1		●						☆			★	集中
		乳児・小児栄養	講義	1				●	☆					★		
		保育栄養指導法	講義	1				●	☆				★			
		栄養士のための情報処理	演習	1				○	☆							
		医療秘書実務講義	講義	2	○					★						
	医療と介護	医療事務総論	講義	2	○					★						
		医療事務演習Ⅰ	演習	1	○					★						
		医療事務演習Ⅱ	演習	1	○					★						
		医療事務演習Ⅲ	演習	1		○				★						
		医療事務演習Ⅳ	演習	1			○			★						
		薬と検査	講義	2		○				★						
		看護概論	講義	2				○		★						
		介護概論	講義	2	○						◇	★				人権教育を含む
		介護の理解	講義	2	○							★				学内集中(1年夏)
		介護技術Ⅰ	演習	1	○							★				
		介護技術Ⅱ	演習	1		○						★				
		介護実習	実習	1		○						★				学内集中(1年春)
		医療秘書実習Ⅰ	実習	1			○			★						学外集中(1週間)
		医療秘書実習Ⅱ	実習	1			○			☆						学外集中(1週間)
		医療秘書実習Ⅲ	実習	2			○	○		☆						学外集中(2週間)
		ビジネス実務総論	講義	2		○				★						
		コミュニケーション演習	演習	1			○			★						
		手話Ⅰ	演習	1			○			★						
		手話Ⅱ	演習	1				○		★						
		卒業研究	演習	2			○	○								学内集中
	その他	観光学入門	講義	1	●											
		温泉コンシェルジュの基礎	講義	2	○											
		別府の歴史と発展	講義	2	○											
		地域固有の観光要素の発見	講義	2	(○)		(○)									隔年開講(奇数年)(集中)
		温泉学	講義	2	○									★		集中
		インターンシップⅠ	実習	1									☆			
		インターンシップⅡ	実習	1												
		インターンシップⅢ	実習	2												
		インターンシップⅣ	実習	2												
		社会貢献演習Ⅲ	演習	1												
		社会貢献演習Ⅳ	演習	1												

※○印は、90分授業、1コマ15週

○印は、90分授業、2コマ15週

●印は、90分授業、1コマ2週

★印は、資格の必修科目

☆印は、資格の推奨科目(その資格での就職をめざす人は受講すべき科目)

専門教育科目から50単位以上、基礎科目・外国語・体育を含めて62単位以上取得しなければ、卒業できない。

社会貢献演習Ⅰ～Ⅳは2時間×8回以上の貢献をもって演習1単位とする。

キャリア教育は、2年間を通じて8回以上受講すること。

社会福祉主事任用資格を取得するには、◇印の科目を3つ以上受講すること

手話入門課程取得条件①手話Ⅰ(1単位)の取得②手話Ⅱ(1単位)の取得。

こども食物アレルギー実務課程修証を取得するには、★の科目4単位と☆の選択科目から1単位以上取得すること。

都合により、開講時期等が変更になることがある。

令和7年度カリキュラムマップ【2025食物栄養学科：医事健康コース】

建学の精神：自立・自活できる人材の育成

教育理念と3つのポリシー：学生生活ハンドブック【学生便覧】を参照してください。

食物栄養学科【ディプロマポリシー】DP

食物栄養の学びをとおして、疾病を予防し、健康を維持増進する努力ができる。

医事健康コース【ディプロマポリシー】DP

情報処理能力を身につけ、他者とのコミュニケーションをはかり、多様な社会の中で業務を遂行できる。

フィールド		1年生春学期 1セメスター	1年生秋学期 2セメスター	2年生春学期 3セメスター
基礎教育	基礎科目	化学 情報処理論	人権教育概論 日本語表現 大分の人と学問 大分学 国際関係学 ICTの活用	人間関係論
		【通年】キャリア教育 インターンシップ 社会貢献演習Ⅰ		
	外国語	英語Ⅰ 中国語Ⅰ	英語Ⅱ 中国語Ⅱ	
	体育	運動スポーツⅠ	運動スポーツⅡ	
専門教育科目	社会生活と健康	社会福祉		
	人体の構造と機能	解剖学 生理学	基礎医学	生化学 運動生理学
	食品と衛生	食品衛生学	食品学総論 食品学実験Ⅰ	食品学各論 食品学実験Ⅱ 食品衛生学実験
	栄養と健康	栄養学総論	臨床栄養学	栄養学各論 臨床栄養学実習
	栄養の指導	栄養指導論Ⅰ	栄養指導論Ⅱ 栄養指導実習Ⅰ	栄養指導実習Ⅱ
	給食の運営	給食計画論 給食実務論 調理学 調理学実習Ⅰ	給食管理実習ⅠA 調理学実習Ⅱ	給食管理実習Ⅱ 調理学実習Ⅲ
	応用と実践	実践給食管理実習 食とこころ	実践給食管理実習 健康と医療 温泉入浴指導概論 栄養士のための情報処理	実践給食管理実習 給食管理実習Ⅲ
		【通年】実践給食管理実習		
	医療と介護	医療秘書実務 医療事務総論 医療事務演習Ⅰ 医療事務演習Ⅱ 介護概論 介護技術Ⅰ	医療事務演習Ⅲ 薬と検査 介護の理解 介護技術Ⅱ 介護実習 ビジネス実務総論	医療事務演習Ⅳ 医療秘書実務実習Ⅰ 医療秘書実務実習Ⅱ 医療秘書実務実習Ⅲ コミュニケーション演習 手話Ⅰ
	その他	観光学入門 温泉コンシェルジュの基礎 別府の歴史と発展 地域固有の観光要素の発見 温泉学		【通年】卒業研究

2年生秋学期 4セメスター		希望する卒業後の進路（就職・進学等）の内で 卒業研究の論文作成と発表	卒業と同時に取得をめざす資格
大分再発見 大分の人と学問 大分学 日本国憲法 国際関係学 ICTと社会			温泉入浴アドバイザー課程 こども食物アレルギー実務課程 社会福祉主事任用資格 介護保険実務士 医療保険実務士 栄養士
社会貢献演習Ⅱ			
公衆衛生学 生化学実験			
栄養学実習 運動栄養学 公衆栄養学			卒業前に取得できる資格
給食管理実習ⅠB			各種検定試験資格 介護職員初任者研修修了証
実践給食管理実習 調理学実習Ⅳ 乳児・小児栄養 保育栄養指導法			
看護概論 手話Ⅱ			

食物栄養学科〔医事健康コース〕到達目標一覧表

〔令和 7 年 4 月入学生〕

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
人間関係論	① 介護職等、専門的職業現場をはじめ、現代社会における複雑で多様な人間関係の在り方を理解し、「問題」に対応しうる職業人材や良識ある社会人としての成長を目指す。 ② 臨床心理学や社会心理学、またはその周辺領域における基礎的な知見や技術、人々との関係調節能力を身につける。	○		○
人権教育概論	① 人権についての理解力が深化し、自己及び他人の人権を尊重する資質能力が磨かれる。 ② いじめや差別のない社会の創造への意欲が喚起される。 ③ 思いやりの心が磨かれ、子ども等弱い立場の人々への前向きな考えが膨らむ。 ④ 豊かな人間性が培養され、偏見や差別の解消に向けた実践力が身につく。	○	○	○
日本語表現	① ビジネスの場で活躍するのに必要な実践的国語表現力を身に付ける。 ② 就職活動や各種検定試験にも対応できる国語表現力を身に付ける。 ③ コミュニケーション力を磨き、対人関係を築く資質を身に付ける。 ④ 適切な言葉で書き、適切な言葉で話し、適切に情報を伝える力を身に付ける。	○	○	○
化学	① 化学に関する基礎的知識の理解ができる。 ② 化学に関する基礎的実験技術の理解ができる。 ③ 物質について簡単な定量的な扱いができる。	○	○	
情報処理論	① 情報実務に関する基本的な用語を説明できる。 ② 情報実務で必要な情報機器の基本的な操作ができる。	○		○
大分再発見	① 大分県に残る朝鮮半島からの影響について学習する。 ② 県内各地の行事について理解を深める。	○	○	
大分の人と学問	① 大分の特色や課題について説明できる。 ② 大分に縁のある学問分野や人物について説明できる。 ③ テーマに基づいて他者と意見交換したり、協調しながら課題に取り組んだりすることができる。 ④ 授業内容から派生的な課題を自ら見だし、文献等の調査に基づいたアイデアを論述することができる。	○	○	
大分学	① 大分県内の特徴（歴史・人物・文化・産業 等）について学ぶ。 ② 大分県の魅力を全国に発信することができる。	○	○	
日本国憲法	① 憲法とは何か、憲法の理念、日本国憲法の構造について理解できる。 ② 憲法の保障する権利、国の統治形態などについて理解することができる。 ③ 社会の様々な問題を、憲法の観点から考え、検討することができる。	○	○	
国際関係学	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に付けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
ICTと社会	① 情報社会の現状を理解し、健全な情報社会の一員として社会に参画できる。 ② 情報リテラシーを身に着ける。 ③ 受け取った情報を活用し、自身の考えを他者へプレゼンテーションする力を身につける。	○	○	○
ICTの活用	① 情報を収集・分析し、適切な表現方法を選択することができる。 ② 聴衆の理解を促すわかりやすいスライドを作成できる。 ③ プレゼンテーションソフトの基本的な操作ができる。	○		○
キャリア教育	① 企業・組織の経営者や地域事業を行う代表者たちと対話することができる。 ② 就職や社会生活を通した自己実現（キャリア形成）について語ることができる。 ③ 自らの進路を説明できる。	○	○	○
インターンシップ	① 職業観、就労意識の醸成をめざし、将来のキャリアを考える機会を作る事ができる。 ② 社会や企業に対する理解度の向上をはかり、人間的成長を目標とする。 ③ 自分自身の適性、持ち味の確認を行なうことができる。		○	○
社会貢献演習Ⅰ	① 地域社会の課題を説明できる。 ② 地域の課題の解決方法について考えることができる。 ③ 地域等の課題解決へ向けて自ら行動ができる。	○	○	○
社会貢献演習Ⅱ	① 地域社会の課題を説明できる。 ② 地域の課題の解決方法について考えることができる。 ③ 地域等の課題解決へ向けて自ら行動ができる。	○	○	○
英語Ⅰ	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることへの自信を高めることができる。	○	○	○
英語Ⅱ	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることへの自信を高めることができる。	○	○	○
中国語Ⅰ	① 中国語による基礎的なコミュニケーションができる。 ② 文化体験授業を通して、基本的な知識を身につけることができる。	○	○	○
中国語Ⅱ	① 中国語の基礎的なコミュニケーションのスキルを向上できる。 ② 文化体験授業を通して、中国に対する理解を深めることができる。	○	○	○
運動スポーツⅠ	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	○
運動スポーツⅡ	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	
公衆衛生学	① 予防医学の概念について説明できる。 ② 疾病と死因の年次推移について説明できる。 ③ 健康と環境との関係を説明できる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
社会福祉	① 社会福祉の基本となる理念や歴史を知り、理解できる。 ② 社会保険制度など、社会保障の仕組みを理解できる。 ③ 児童福祉、高齢者福祉、障がい者福祉、地域福祉等の福祉体系を理解できる。 ④ 今日の福祉課題に対する問題点を理解することができる。	○		○
解剖学	① 解剖学の見地から、生命活動の不思議と人体の絶妙なしくみを理解する。 ② この学習を通して栄養学、食品学の基礎学習と発展的研究能力を培う。	○		
生理学	① 生理学の見地から、生命活動の不思議と人体の絶妙なしくみを理解する。 ② この学習を通して栄養学、食品学の基礎学習と発展的研究能力を培う。	○		
生化学	① 体内における食物の変化・役割について理解することができる。 ② 人体の仕組みを正しく理解し、健康維持増進のための食育ができる。 ③ 栄養素などの働きについて説明することができるようになる。	○	○	
生化学実験	① 生化学等の講義で学んだ知識について、実験をとおして理解を深めることができる。 ② 実験で学習した内容の中から、興味のあるテーマを班ごとに自主的に決め、パソコンでインターネットを利用し調べ学習を行うため理解を深めることができる。 ③ 実験で修得した知識により、健康を維持増進するための食育ができる。	○	○	○
運動生理学	① 筋収縮の発現など運動の特性について理解できる。 ② 運動時の呼吸・循環器系及び体温調節の働きについて理解する。 ③ 食事と運動の両面から生活指導のできる栄養士をめざす。	○	○	
基礎医学	① 医療秘書実務士「栄養士」取得に必要な医学的知識が理解できる。 ② 5 疾病、アレルギーについての理解を深めることができる。	○	○	○
食品学総論	① 健康を支える食品の成分、特徴、物性等について科学的な知識を理解する。 ② 食品学で学んだ知識を、日々の食生活に活用することができる。	○	○	
食品学各論	① 食品材料の一般成分・食品分類・食品形態・食品の原産地など食品の特徴について理解する。 ② 食文化や食品の健康に及ぼす影響について理解を深めることができる。 ③ さらに、健康を維持し、安全な食品を得る為の正しい食品選択ができる。	○	○	
食品学実験Ⅰ	① 実験、実習に関する用語や数値及び薬品の調整等、基本的な事柄を知る。 ② 実験、実習に使用する器具や薬品の安全な正しい取り扱い方を知る。 ③ 各食品の構成成分や特徴、働きを知り、人々の健康で心豊かな食生活のあり方を知る。 ④ 食品の安全で衛生的な取り扱いや製造方法を知る。	○	○	○
食品学実験Ⅱ	① 実験、実習を通して薬品の調整等、基本的な事柄を知る。 ② 実験、実習に使用する器具や薬品の安全な正しい取り扱い方を知る。 ③ 各食品の構成成分や特徴、働きを知り、人々の健康で心豊かな食生活のあり方を知る。 ④ 食品の安全で衛生的な取り扱いや製造方法を知る。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
食品衛生学	① 食中毒の種類とその原因及び対策を説明できる。 ② 食品添加物の安全性とその考え方を説明できる。 ③ 食品表示について説明できる。	○	○	○
食品衛生学実験	① 身近な食品・食材中の細菌の検査方法を実施できる。 ② 実験で得られたデータを説明できる。 ③ HACCPについて説明できる。	○	○	○
栄養学総論	① 各栄養素の種類及び体内でのはたらきを説明できる。 ② 消化と吸収について理解できる。 ③ エネルギー代謝について理解できる。	○	○	
栄養学各論	① 「健康日本21」でめざしていることを説明できる。 ② “健康寿命”の延伸について説明できる。 ③ ライフステージごとに人の生体変化とそれに対応する栄養について説明できる。	○	○	○
栄養学実習	① 人生のライフステージごとの健康を維持・増進できる食のあり方を理解する。 ② 実習をととして、具体的に食事の質と量を実感することにより理解を深める。	○	○	○
臨床栄養学	① 解剖学、生理学、栄養学を基礎とし、正常な体の機能を理解できる。 ② 各疾患の病態生理や食との関連について概要を理解できる。 ③ 各疾病、症状に応じた食事療法を理解できる。 ④ 疾患予防と健康増進のための食事、生活習慣を説明できる。	○	○	○
臨床栄養学実習	① 個人の検査値、食事摂取状況等から栄養状態の把握方法を理解できる。 ② 臨床栄養学の知識をもとに病態別の栄養管理について理解を深める。 ③ 糖尿病交換表を使用し、献立の作成ができる。 ④ 適切な調理方法や食品の選択、常食から治療食の献立展開ができる。	○	○	○
運動栄養学	① 健康のための運動と効率的な栄養摂取を理解することができる。 ② 健康増進の為の知識を修得することができる。	○	○	
栄養指導論Ⅰ	① 栄養教育の意義や目的について理解できる。 ② 食の楽しさを伝える為の栄養教育を理解できる。 ③ 栄養教育の方法論を理解し、栄養アセスメント計画を理解することができる。	○	○	
栄養指導論Ⅱ	① ライフステージごとの対象者の特徴を理解できる。 ② ライフステージごとの栄養教育について理解できる。 ③ 対象に応じた栄養教育プログラムをマネジメントできる。	○	○	
栄養指導実習Ⅰ	① 生涯にわたって健康を維持増進するための栄養教育を計画することができる。 ② 子どもの発育・発達に応じた目標を設定し、指導案を作成することができる。 ③ 効果的な媒体を作成し、栄養教育に活用することができる。 ④ 栄養教育を実践し、教育効果を評価し、フィードバックを行うことができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
栄養指導実習Ⅱ	① 対象者の状態に応じた目標を設定し、指導案を作成することができる。 ② 科学的根拠に基づいた情報を収集し、対象者に正しく伝えることができる。 ③ 効果的な媒体を作成し、栄養教育に活用することができる。 ④ 栄養教育を実践し、教育効果を評価し、フィードバックを行うことができる。	○	○	○
公衆栄養学	① 個人または集団の健康を維持・増進するために必要な健康・栄養活動を知る。 ② 健康・栄養活動を企画・実施・評価する方法を理解する。 ③ 健康・栄養問題の歴史的経緯、現在の問題点について理解を深めることができる。	○	○	
給食計画論	① 特定給食施設について関係法規を含め理解できる。 ② 栄養管理、食事管理、食材料管理、給食作業管理を理解できる。 ③ 食品衛生や労務管理を含めた安全管理を理解できる。 ④ 設置基準等、関係法規を含めた施設・設備管理を理解できる。	○		○
給食実務論	① 給食を運営する団体の組織体系について理解できる。 ② 給食経営に関わる費用について理解する。 ③ 各特定給食施設給食について各特色と関係法規を理解する。	○		○
給食管理実習ⅠA	① 給食栄養目標量を設定することができる。 ② 食品構成の役割とその作成方法を理解できる。 ③ 栄養量を意識した1日分の献立作成ができる。 ④ 作業工程の考え方、発注法を理解する。	○	○	○
給食管理実習ⅠB	① 給食管理の集大成としてPDCAに則った給食を実践できる。 ② 献立作成、発注、調理及び調理指示を適切に行うことができる。 ③ 喫食者の嗜好や満足度に対して意識を向けることができる。 ④ 互いの個性や力量を見極め、協働することができる。	○	○	○
給食管理実習Ⅱ	① 特定給食施設において、現場の栄養士・管理栄養士から実地訓練を受ける。 ② 栄養士としての具備すべき知識及び技能全般を体得する。		○	○
調理学	① 食品素材を衛生的で安全に、栄養的価値のある料理に美味しく仕上げることができる。 ② おいしく安全な料理を作るために必要な「調理科学」の理論や知識を体系的に学ぶことができる。 ③ 「調理のこつ」といわれる調理操作が科学的根拠に基づいていることを理解できるようになる。	○	○	
調理学実習Ⅰ	① 望ましい食事作りの為の基礎知識を把握する。 ② 基礎的な調理法の実践を修得する。 ③ 食生活全般にわたっての総合的な判断力・実践力の修得をする。 ④ 食中毒や安全性を考慮した食品の扱いができる。	○	○	○
調理学実習Ⅱ	① 日常食の調理を身につける。 ② 食生活をより楽しく、健康的に営む為の基本を学習する。 ③ 応用料理へ発展させる能力を修得する。	○	○	○
調理学実習Ⅲ	① 調理学実習Ⅰ、Ⅱで身につけた基礎を基に、大量調理を行うにあたっての技術の習得をする。 ② 大量調理の適切な献立作成ができる。 ③ 大量調理実習の発注・検収・衛生管理等ができる。	○	○	○
調理学実習Ⅳ	① 調理学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの基礎をさらに発展させ、応用する。 ② 食文化や行事食について調理実習を通して理解を深める。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
実践給食管理実習	① 栄養士としての具体的演習及び実習を行い、理解を深める。 ② 献立立案、食材の選別、作業計画などの給食管理について理解する。 ③ 食材の理解を深める。	○	○	○
給食管理実習Ⅲ	① 給食管理実習Ⅱに引き続き、さらに現場の栄養士の体験を積む。 ② 特定給食施設において、現場の栄養士・管理栄養士から実地訓練を受ける。 ③ 給食管理の実際と合わせて、栄養士として具備すべき知識及び技術を体得する。		○	○
食とこころ	① メンタルヘルスへの理解が深まる。 ② 適切な食と生活習慣が心身に与える影響について理解できる。 ③ ストレスへの対処が出来る。	○	○	○
健康と医療	① 健康増進にむけた温泉の利用法を説明できる。 ② 安全に温泉を利用するための重要な点をきちんと挙げることができる。	○	○	○
温泉入浴指導概論	① 温泉の観光・健康・医療・食等の総合的な企画プログラムを提案できる。 ② 温泉による健康・医療について、温泉の様々な効能と泉質の関係を説明できる。 ③ 温泉を活用した健康づくりや温泉との関係に限らず広く癒しや健康増進プログラムの指導ができる。			
乳児・小児栄養	① 子どもの発育と心身の健康、疾患などの基礎知識が理解できる。 ② 子どもを取り巻く環境及び生活習慣について理解する。	○	○	
保育栄養指導法	① 幼児期の発達段階に応じた栄養のはたす役割が理解できる。 ② 現代の子どもたちにおける食生活の問題点を学び、食育のあり方について理解を深める。 ③ 特に保育園や幼稚園で課題となる食物アレルギーに関する理解を深める。	○	○	○
栄養士のための情報処理	① 数式の入力（四則演算）ができる。 ② 関数（SUM・ROUND・RANKなど）を使うことができる。 ③ 関数（IF・VLOOKUPなど）を使うことができる。 ④ グラフの作成ができる。	○		○
医療秘書実務	① 医療秘書の役割が理解できる。 ② 秘書実務が遂行できる。 ③ チーム医療の意義が理解でき、中心的役割を果たす実務ができる。	○	○	○
医療事務総論	① 医療保険制度の理解を深めることができる。 ② 医療事務員として必要な基礎知識の習得を図ることで、専門性を高めることができる。	○	○	
医療事務演習Ⅰ	① 医療機関における医療保険制度の仕組みを知り説明することができる。 ② 基本・特掲診療料の算定方法を学び処理することができる。 ③ ②の内容を理解し診療報酬明細書に記入することができる。	○	○	○
医療事務演習Ⅱ	① 特掲診療科(処置・手術・麻酔・輸血・検査)の算定方法を学び処理することができる。 ② ①の内容を理解し診療報酬明細書に記入することができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
医療事務演習Ⅲ	① 特掲診療科(画像診断・リハビリ・精神科・放射線)の算定方法を学び処理することができる。 ② ①の内容を理解し診療報酬明細書に記入することができる。 ③ 外来カルテの診療内容を理解し会計カードを作成することができる。	○	○	○
医療事務演習Ⅳ	① 医療事務演習Ⅰ・Ⅲの基礎学習を理解し会計カード・外来診療報酬明細書が作成できる。 ② 医療事務演習Ⅰ・Ⅲの基礎学習を理解し会計カード・入院診療報酬明細書が作成できる。	○	○	○
薬と検査	① 生体に何らかの変化を起こす化学物質は、全て薬物であることが理解できる。 ② 薬は使い方を誤れば病状を悪化させ、時には命を奪うこともあることを理解する。 ③ 正しい薬との付き合い方・飲み方について基本的な知識が理解できる。	○	○	○
看護概論	① ライフサイクルの変化の視点から看護の基礎知識を理解できる。 ② 医療・保健・福祉の視点からチーム連携のあり方を理解できる。	○		○
介護概論	① 介護職の仕事内容や働く現場の事を理解できる。 ② 人権と尊厳を支える支援や自立に向けた介護を理解できる。 ③ 介護職の役割や専門性と他職種との連携を理解できる。 ④ 食事に関連した自立に向けた介護を理解できる。	○	○	○
介護の理解	① 介護におけるコミュニケーションを理解できる。 ② 老化に伴うこころとからだの変化と高齢者の健康を理解できる。 ③ 認知症を取り巻く状況や家族への支援を理解できる。 ④ 介護過程の基礎的内容を理解することができる。	○	○	○
介護技術Ⅰ	① 基本的な介護を実践するために必要な知識・技術を理解できる。 ② 介護を要する人の潜在能力を引き出す視点の大切さを理解できる。 ③ 相手の立場に立ち考える姿勢をもつことの大切さを理解できる。	○	○	○
介護技術Ⅱ	① 基本的な介護を実践するために必要な知識・技術を理解できる。 ② 介護を要する人の潜在能力を引き出す視点の大切さを理解できる。 ③ 相手の立場に立ち考える姿勢をもつことの大切さを理解できる。	○	○	○
介護実習	① 積極的に周囲に働きかけ、自ら気づきを得ることができる。 ② 気づきを自分なりに整理・考察し、報告することができる。 ③ 社会人としてふさわしい行動を取ることができる。	○	○	○
介護事務演習	① 積極的に周囲に働きかけ、自ら気づきを得ることができる。 ② 気づきを自分なりに整理・考察し、報告することができる。 ③ 社会人としてふさわしい行動を取ることができる。	○	○	○
医療秘書実務実習Ⅰ	① 病院の業務全般の流れが理解できる。 ② 医事課業務について説明できる。	○	○	○
医療秘書実務実習Ⅱ	① 病院組織について理解できる。 ② 受付、窓口業務についての業務が作業・実践できる。	○	○	○
医療秘書実務実習Ⅲ	① 診療報酬請求業務についての理解を深める。 ② 医事課の事務的業務について理解できる。	○	○	○
ビジネス実務総論	① 学生から社会人になる為の意識改革をし、ビジネスマナーの基本を身につけることができる。 ② 基本的なビジネスマナーを修得した上で、面接試験に充分活かせるよう学習することができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
コミュニケーション 演習	① 受付対応・電話対応ができる。 ② 実習先での学びに感謝し、良好な人間関係を築くことができる。	○	○	○
手話Ⅰ	① 聴覚障害者とのコミュニケーション方法を説明することができる。 ② 聞こえない人達が抱える問題や福祉について理解することができる。 ③ 手話で挨拶や自己紹介、趣味などを話題に会話ができる。	○	○	○
手話Ⅱ	① 「聞こえない」とはどういう事が、困ること・対応方法を説明することができる。 ② 手話通訳の立場に立った考え方、対応について理解することができる。 ③ 手話で身近な生活や出来事などを話題に会話ができる。	○	○	○
卒業研究	① 「食」及び「地域」等に関する課題について多面的・多角的に調査し考察できる。 ② 研究結果をまとめ、表現できる。 ③ 地域における課題解決を提案できる。	○	○	○
観光学入門	① 別府の歴史・人物・文化・自然などから別府地域について、別府八湯の視点から一定の知識がある。 ② 各地域の特色を説明できる。 ③ 顧客が別府を訪れる際に必要な観光資源として基礎的な情報を説明できる。	○	○	○
温泉コンシェルジュの 基礎	1. 知識・理解 ① (別府)温泉コンシェルジュに必要な基礎的な知識や資質・能力を理解し、説明できる。 ② 別府の魅力・特色の概要を知り、顧客の求める心と体の健康を癒やすための別府散策のモデル的なプログラムを作成することができる。 2. 習得する資質・能力等 ① 他人の話に耳をよく傾け、多様な価値観を受容して自分なりの意見を持って適切な対応をしようと心がけることができる。	○	○	
別府の歴史と発展	① 別府発展の歴史の特色を、自然・人物・文化・産業の視点で説明できる。 ② 別府発展のポイントを、歴史と周辺地域の連携という視点で説明できる。 ③ 取得した情報をもとに、物事をわかりやすく説明して伝えることができる。 ④ 情報や知識を様々な観点から論理的に分析し、表現(説明)できる。	○	○	
地域固有の観光要素の 発見	① 紹介する地域や都市の特性を如何にして理解したら良いかが分かる。 ② 地域や都市の全体像を理解し、別府の地域特性を説明できる。 ③ 顧客対応に利用する情報をストックし整理することができる。 ④ 別府のまちづくりや特色ある産業について他地域と比較し説明できる。	○		
温泉学	① 温泉資源の利活用について幅広く実践的な基礎知識を身につけることができる。 ② 大分県の温泉、特に別府温泉を題材に温泉の自然と文化を学ぶことができる。 ③ 温泉県大分の情報発信ができる温泉コンシェルジュをめざすことができる。	○	○	○

食物栄養学科〔温泉・観光コース〕 教育課程

〔令和 7 年 4 月入学生〕

科 目	履 修 法	単 位		1 年		2 年		温泉入浴アドバイザー課程 温泉コンシェルジュ課程	栄養士 栄養士 栄養士	観光実務士	社会福祉主事任用資格	ビジネス実務士	介護職員初任者研修	こども食物アレルギー実務課程	備 考
		必	選	春学期	秋学期	春学期	秋学期								
				1セメ	2セメ	3セメ	4セメ								
基礎教育	基礎科目	人間関係論	講義	2				☆				★	☆		基礎科目については8単位以上取得すること 「国際関係学」は英語のみで教授される 英語・中国語いずれか2単位以上取得すること
		人権教育概論	講義	1	●	○							☆		
		日本語表現	講義	2	○			☆				◇			
		情報処理	講義	2	○				★						
		大分県と学	講義	1				☆	★			◇			
		大分県と学	講義	2	(○)		(○)	☆							
		大分県と学	講義	2	○			★			☆				
		日本国憲法	講義	2			○								
		国際関係学	講義	2	(○)		(○)	☆							
		ICTと社会	演習	1			○								
		ICTと社会	講義	2	○										
		キャリアアップ	講義	1	●	●	●								
		インターンシップ	実習	1	●	●	●	☆							
		社会貢献演習Ⅰ	演習	1	●	●	●	☆				☆			
外国語	英語	社会貢献演習Ⅱ	演習	1	●	●	●	☆							
		英語Ⅰ	演習	1	○			★	★						
		英語Ⅱ	演習	1	○			★	★						
		中国語Ⅰ	演習	1	○			★	★						
		中国語Ⅱ	演習	1	○			★	★						
体育	運動	運動	演習	1	○					★					
		運動	演習	1	○				★						

科 目	履 修 法	単 位		1 年		2 年		温泉入浴アドバイザー課程 温泉コンシェルジュ課程	栄養士	観光実務士	社会福祉主事任用資格	ビジネス実務士	介護職員初任者研修	こども食物アレルギー実務課程	備 考
		必	選	春学期	秋学期	春学期	秋学期								
				1セメ	2セメ	3セメ	4セメ								
専門教育科目	社会生活と健康	公衆衛生学	講義	2				☆	★		◇	☆			
		社会福祉学	講義	2	○		○	☆	★		◇	★			
		解剖生理学	講義	2	○				★						
		生化学	講義	2	○				★						
		生化学実験	実験	1			○		★						
	食品と衛生	運動生理学	講義	2		○			★						食品加工学を含む 食品加工実習を含む 食品加工実習を含む
		基礎医学	講義	1	●			★	★		◇	★			
		食品学総論	講義	2	○		○	☆	★						
		食品学実験Ⅰ	実験	1		○			★						
		食品学実験Ⅱ	実験	1		○			★						
	栄養と健康	食品衛生学	講義	2	○		○	☆	★						
		食品衛生学実験	実験	1		○			★						
		養食学総論	講義	2	○			☆	★		◇				
		養食学各論	講義	2	1		○		★						
		養食学実習	実習	2			○		★						
	栄養の指導	臨床栄養学	講義	2	○			☆	★					★	☆
		臨床栄養学実習	実習	1		○			★						
		運動栄養学	講義	2			○	☆	★						
		栄養指導Ⅰ	講義	2	○			☆	★		◇				
		栄養指導Ⅱ	講義	2		○			★					☆	
	給食の運営	栄養指導実習Ⅰ	実習	1		○			★					☆	学外集中(2年夏)
		栄養指導実習Ⅱ	実習	1		○			★						
		公衆栄養学	講義	2	1		○		★						
		給食計画	講義	1	●				★						
		給食実務	講義	1	●				★						
		給食管理実習ⅠA	実習	1		○			★						
		給食管理実習ⅠB	実習	1				○	★						
		給食管理実習Ⅱ	実習	1			○	(○)	★						
		調理実習Ⅰ	実習	2	○				★						
		調理実習Ⅱ	実習	1	○	○			★					☆	
		調理実習Ⅲ	実習	1		○			★					☆	

科 目		履 修 法	単 位		1 年		2 年		温泉 コンシェルジュ 課程	温泉 入浴アドバイザー 課程	栄養士	観光実務士	社会福祉 主事任用資格	ビジネス 実務士	介護職員 初任者研修	こども食 物アレルギー 実務課程	備 考
			必	選	春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ	秋学期 4セメ									
専門教育科目	応用と実践	調理学実習Ⅳ	実習	1				〇〇			☆					☆	
		実践給食管理実習	実習	1	●	●	●	●		☆							学内集中(30時間)
		給食管理実習Ⅲ	実習	1			〇〇	(〇〇)		☆							学外集中(2年夏)
		食とこころ	講義	1		〇			☆	☆				☆			
		乳児・小児栄養	講義	1				●	☆	☆						★	
		保育栄養指導法	講義	1				●	☆	☆						★	
	温泉 コンシェルジュ 教育科目	栄養士のための情報処理	演習	1				〇	☆	☆				☆			
		観光・地域体験学	講義	2	●	●	●	●	★			★					(30時間)
		温泉コンシェルジュの基礎	講義	2	〇				★			★					
		別府の歴史と発展	講義	2	〇				★			★					
		地域固有の観光要素の発見	講義	2	(〇)		(〇)		☆			★					隔年開講(奇数年)(集中)
		温泉学	講義	2	〇				★	★		★					集中
		おもてなしの心を学ぶ	講義	2	〇				★	☆		★					
		温泉文化と活用	講義	2			〇		★			★					
		温泉医療療養指導論	講義	1		●			★	★							
		温泉入浴指導概論	講義	1		●			★	★		☆					集中
	ビジネス 実務	ビジネス実務総論	講義	2		〇			☆						★		
		事務管理総論	講義	2		〇			☆						★		
		コミュニケーション演習	演習	1			〇		☆						◇		
		プレゼンテーション概論	講義	2				〇						◇			
		情報ネットワーク論	講義	2			〇		☆					◇			
		リーダーシップ論	講義	2			〇		☆					◇			
		現代社会論	講義	2			〇		☆					◇			
		経済学入門	講義	2		(〇)		(〇)				☆					
	キャリア・ 教養	手話Ⅰ	演習	1			〇		☆								
		手話Ⅱ	演習	1				〇	☆								
		介護概論	講義	2	〇				☆			◇			★		人権教育を含む
		介護の理解	講義	2	〇				☆					★			学外集中(1年夏)
	福祉関係 科目	介護技術Ⅰ	演習	1	〇				☆					★			
		介護技術Ⅱ	演習	1		〇			☆					★			
		介護実習	実習	1		〇			☆					★			学外集中(1年春)
		卒業実習	演習	2			〇	〇	★								学内集中
	その他	インターンシップⅠ	実習	1					☆			☆				☆	
		インターンシップⅡ	実習	1					☆								
		インターンシップⅢ	実習	2													
		インターンシップⅣ	実習	2													
		社会貢献演習Ⅳ	演習	1													
		社会貢献演習Ⅳ	演習	1													

※○印は、90分授業、1コマ15週

〇〇印は、90分授業、2コマ15週

●印は、90分授業、1コマ8週

★印は、資格の必修科目

☆印は、資格の推奨科目（その資格での就職をめざす人は受講すべき科目）

専門教育科目から50単位以上、基礎科目・外国語・体育を含めて62単位以上取得しなければ、卒業できない。

社会貢献演習Ⅰ～Ⅳは2時間×8回以上の貢献をもって演習1単位とする。

キャリア教育は、2年間を通じて8回以上受講すること。

社会福祉主事任用資格を取得するには、◇印の科目を3つ以上受講すること。

温泉コンシェルジュ資格は、英語または中国語を受講すること。

観光実務士資格は☆印の選択科目から10単位以上取得すること。

ビジネス実務士資格は★の必修科目6単位と◇印の選択科目から10単位以上取得すること。

手話入門課程取得条件①手話Ⅰ（1単位）の取得②手話Ⅱ（1単位）の取得。

こども食物アレルギー実務課程修了証を取得するには、★の科目4単位と☆の選択科目から1単位以上取得する

都合により、開講時期等が変更になることがあります。

令和7年度カリキュラムマップ【2025食物栄養学科：温泉・観光コース】

建学の精神：自立・自活できる人材の育成

教育理念と3つのポリシー：学生生活ハンドブック【学生便覧】を参照してください。

食物栄養学科【ディプロマポリシー】DP

食物栄養の学びをとおして、疾病を予防し、健康を維持増進する努力ができる。

温泉コンシェルジュコース【ディプロマポリシー】DP

心と体の健康・癒し（いやし）のために、温泉をベースとしたプログラムを提案できる。

フィールド		1年生春学期 1セメスター	1年生秋学期 2セメスター	2年生春学期 3セメスター
基礎教育	基礎科目	化学 情報処理論	人権教育概論 日本語表現 大分の人と学問 大分学 国際関係学 ICTの活用	人間関係論
		【通年】キャリア教育 インターンシップ 社会貢献演習Ⅰ		
	外国語	英語Ⅰ 中国語Ⅰ	英語Ⅱ 中国語Ⅱ	
	体育	運動スポーツⅠ	運動スポーツⅡ	
専門教育科目	社会生活と健康	社会福祉		
	人体の構造と機能	解剖学 生理学	基礎医学	生化学 運動生理学
	食品と衛生	食品衛生学	食品学総論 食品学実験Ⅰ	食品学各論 食品学実験Ⅱ 食品衛生学実験
	栄養と健康	栄養学総論	臨床栄養学	栄養学各論 臨床栄養学実習
	栄養の指導	栄養指導論Ⅰ	栄養指導論Ⅱ 栄養指導実習Ⅰ	栄養指導実習Ⅱ
	給食の運営	給食計画論 給食実務論 調理学 調理学実習Ⅰ	給食管理実習ⅠA 調理学実習Ⅱ	給食管理実習Ⅱ 調理学実習Ⅲ
	応用と実践	実践給食管理実習 食とこころ	実践給食管理実習 栄養士のための情報処理	実践給食管理実習 給食管理実習Ⅲ
		【通年】実践給食管理実習		
	温泉コンシェル ジュ教育科目	温泉コンシェルジュの基礎 別府の歴史と発展 地域固有の観光要素の発見 温泉学 おもてなしの心を学ぶ	温泉医療療養指導 温泉入浴指導員養成講座	【通年】温泉コンシェルジュ演習
		【通年】観光・地域体験学 おもてなし温泉学演習		
	ビジネス実務		ビジネス実務総論	事務管理 コミュニケーション演習 情報ネットワーク論 リーダーシップ論 現代社会論
	キャリア・教養			手話Ⅰ
	デザイン			
	福祉関係科目	介護概論 介護技術Ⅰ	介護の理解 介護技術Ⅱ 介護実習	
	その他			
		【通年】卒業研究		

2年生秋学期 4セメスター		卒業研究の論文作成と発表 希望する卒業後の進路（就職・進学等）の内定 医療分野の事務処理能力の修得 疾病を予防し、健康を維持増進できる知識技能の修得	卒業と同時に取得をめざす資格
大分再発見 大分の人と学問 日本国憲法 国際関係学 ＩＣＴと社会			こども食物アレルギー実務課程 温泉入浴アドバイザー課程 社会福祉主事任用資格 ビジネス実務士 観光実務士 「別府温泉コンシェルジュ」認定証 温泉コンシェルジュ課程修了証 栄養士
社会貢献演習Ⅱ			卒業前に取得できる資格
公衆衛生学 生化学実験			
栄養学実習 運動栄養学 公衆栄養学			
給食管理実習ⅠＢ			
実践給食管理実習 調理学実習Ⅳ 乳児・小児栄養 保育栄養指導法			
温泉文化と活用			各種検定試験資格 温泉マイスター 介護職員初任者研修修了証
プレゼンテーション概論			
手話Ⅱ			

食物栄養学科〔温泉・観光コース〕到達目標一覧表

[令和 7 年 4 月入学生]

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
人間関係論	① 介護職等、専門的職業現場をはじめ、現代社会における複雑で多様な人間関係の在り方を理解し、「問題」に対応しうる職業人材や良識ある社会人としての成長を目指す。 ② 臨床心理学や社会心理学、またはその周辺領域における基礎的な知見や技術、人々間での関係調節能力を身につける。	○		○
人権教育概論	① 人権についての理解力が深化し、自己及び他人の人権を尊重する資質能力が磨かれる。 ② いじめや差別のない社会の創造への意欲が喚起される。 ③ 思いやりの心が磨かれ、子ども等弱い立場の人々への前向きな考えが膨らむ。 ④ 豊かな人間性が培養され、偏見や差別の解消に向けた実践力が身につく。	○	○	○
日本語表現	① ビジネスの場で活躍するのに必要な実践的国語表現力を身に付ける。 ② 就職活動や各種検定試験にも対応できる国語表現力を身に付ける。 ③ コミュニケーション力を磨き、対人関係を築く資質を身に付ける。 ④ 適切な言葉で書き、適切な言葉で話し、適切に情報を伝える力を身に付ける。	○	○	○
化学	① 化学に関する基礎的知識の理解ができる。 ② 化学に関する基礎的実験技術の理解ができる。 ③ 物質について簡単な定量的な扱いができる。	○	○	
情報処理論	① 情報実務に関する基本的な用語を説明できる。 ② 情報実務で必要な情報機器の基本的な操作ができる。	○		○
大分再発見	① 大分県に残る朝鮮半島からの影響について学習する。 ② 県内各地の行事について理解を深める。	○	○	
大分の人と学問	① 大分の特色や課題について説明できる。 ② 大分に縁のある学問分野や人物について説明できる。 ③ テーマに基づいて他者と意見交換したり、協調しながら課題に取り組んだりすることができる。 ④ 授業内容から派生的な課題を自ら見だし、文献等の調査に基づいたアイデアを論述することができる。	○	○	
大分学	① 大分県内の特徴（歴史・人物・文化・産業 等）について学ぶ。 ② 大分県の魅力を全国に発信することができる。	○	○	
日本国憲法	① 憲法とは何か、憲法の理念、日本国憲法の構造について理解できる。 ② 憲法の保障する権利、国の統治形態などについて理解することができる。 ③ 社会の様々な問題を、憲法の観点から考え、検討することができる。	○	○	
国際関係学	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に付けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
ICTと社会	① 情報社会の現状を理解し、健全な情報社会の一員として社会に参画できる。 ② 情報リテラシーを身に着ける。 ③ 受け取った情報を活用し、自身の考えを他者へプレゼンテーションする力を身につける。	○	○	○
ICTの活用	① 情報を収集・分析し、適切な表現方法を選択することができる。 ② 聴衆の理解を促すわかりやすいスライドを作成できる。 ③ プレゼンテーションソフトの基本的な操作ができる。	○		○
キャリア教育	① 企業・組織の経営者や地域事業を行う代表者たちと対話することができる。 ② 就職や社会生活を通じた自己実現（キャリア形成）について語ることができる。 ③ 自らの進路を説明できる。	○	○	○
インターンシップ	① 職業観、就労意識の醸成をめざし、将来のキャリアを考える機会を作る事ができる。 ② 社会や企業に対する理解度の向上をはかり、人間的成長を目標とする。 ③ 自分自身の適性、持ち味の確認を行なうことができる。		○	○
社会貢献演習Ⅰ	① 地域社会の課題を説明できる。 ② 地域の課題の解決方法について考えることができる。 ③ 地域等の課題解決へ向けて自ら行動ができる。	○	○	○
社会貢献演習Ⅱ	① 地域社会の課題を説明できる。 ② 地域の課題の解決方法について考えることができる。 ③ 地域等の課題解決へ向けて自ら行動ができる。	○	○	○
英語Ⅰ	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることへの自信を高めることができる。	○	○	○
英語Ⅱ	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることへの自信を高めることができる。	○	○	○
中国語Ⅰ	① 中国語による基礎的なコミュニケーションができる。 ② 文化体験授業を通して、基本的な知識を身につけることができる。	○	○	○
中国語Ⅱ	① 中国語の基礎的なコミュニケーションのスキルを向上できる。 ② 文化体験授業を通して、中国に対する理解を深めることができる。	○	○	○
運動スポーツⅠ	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	○
運動スポーツⅡ	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	
公衆衛生学	① 予防医学の概念について説明できる。 ② 疾病と死因の年次推移について説明できる。 ③ 健康と環境との関係を説明できる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
社会福祉	① 社会福祉の基本となる理念や歴史を知り、理解できる。 ② 社会保険制度など、社会保障の仕組みを理解できる。 ③ 児童福祉、高齢者福祉、障がい者福祉、地域福祉等の福祉体系を理解できる。 ④ 今日の福祉課題に対する問題点を理解することができる。	○		○
解剖学	① 解剖学の見地から、生命活動の不思議と人体の絶妙なしくみを理解する。 ② この学習を通して栄養学、食品学の基礎学習と発展的研究能力を培う。	○		
生理学	① 生理学の見地から、生命活動の不思議と人体の絶妙なしくみを理解する。 ② この学習を通して栄養学、食品学の基礎学習と発展的研究能力を培う。	○		
生化学	① 体内における食物の変化・役割について理解することができる。 ② 人体の仕組みを正しく理解し、健康維持増進のための食育ができる。 ③ 栄養素などの働きについて説明することができるようになる。	○	○	
生化学実験	① 生化学等の講義で学んだ知識について、実験をとおして理解を深めることができる。 ② 実験で学習した内容の中から、興味のあるテーマを班ごとに自主的に決め、パソコンでインターネットを利用し調べ学習を行うため理解を深めることができる。 ③ 実験で修得した知識により、健康を維持増進するための食育ができる。	○	○	○
運動生理学	① 筋収縮の発現など運動の特性について理解できる。 ② 運動時の呼吸・循環器系及び体温調節の働きについて理解する。 ③ 食事と運動の両面から生活指導のできる栄養士をめざす。	○	○	
基礎医学	① 「医療秘書実務士」「栄養士」取得に必要な医学的知識が理解できる。 ② 5 疾病、アレルギーについての理解を深めることができる。	○	○	○
食品学総論	① 健康を支える食品の成分、特徴、物性等について科学的な知識を理解する。 ② 食品学で学んだ知識を、日々の食生活に活用することができる。	○	○	
食品学各論	① 食品材料の一般成分・食品分類・食品形態・食品の原産地など食品の特徴について理解する。 ② 食文化や食品の健康に及ぼす影響について理解を深めることができる。 ③ さらに、健康を維持し、安全な食品を得る為の正しい食品選択ができる。	○	○	
食品学実験 I	① 実験、実習に関する用語や数値及び薬品の調整等、基本的な事柄を知る。 ② 実験、実習に使用する器具や薬品の安全な正しい取り扱い方を知る。 ③ 各食品の構成成分や特徴、働きを知り、人々の健康で心豊かな食生活のあり方を知る。 ④ 食品の安全で衛生的な取り扱いや製造方法を知る。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
食品学実験Ⅱ	① 実験、実習を通して薬品の調整等、基本的な事柄を知る。 ② 実験、実習に使用する器具や薬品の安全な正しい取り扱い方を知る。 ③ 各食品の構成成分や特徴、働きを知り、人々の健康で心豊かな食生活のあり方を知る。 ④ 食品の安全で衛生的な取り扱いや製造方法を知る。	○	○	○
食品衛生学	① 食中毒の種類とその原因及び対策を説明できる。 ② 食品添加物の安全性とその考え方を説明できる。 ③ 食品表示について説明できる。	○	○	○
食品衛生学実験	① 身近な食品・食材中の細菌の検査方法を実施できる。 ② 実験で得られたデータを説明できる。 ③ HACCPについて説明できる。	○	○	○
栄養学総論	① 各栄養素の種類及び体内でのはたらきを説明できる。 ② 消化と吸収について理解できる。 ③ エネルギー代謝について理解できる。	○	○	
栄養学各論	① 「健康日本21」でめざしていることを説明できる。 ② “健康寿命”の延伸について説明できる。 ③ ライフステージごとに人の生体変化とそれに対応する栄養について説明できる。	○	○	○
栄養学実習	① 人生のライフステージごとの健康を維持・増進できる食のあり方を理解する。 ② 実習をとおして、具体的に食事の質と量を実感することにより理解を深める。	○	○	○
臨床栄養学	① 解剖学、生理学、栄養学を基礎とし、正常な体の機能を理解できる。 ② 各疾患の病態生理や食との関連について概要を理解できる。 ③ 各疾病、症状に応じた食事療法を理解できる。 ④ 疾患予防と健康増進のための食事、生活習慣を説明できる。	○	○	○
臨床栄養学実習	① 個人の検査値、食事摂取状況等から栄養状態の把握方法を理解できる。 ② 臨床栄養学の知識をもとに病態別の栄養管理について理解を深める。 ③ 糖尿病交換表を使用し、献立の作成ができる。 ④ 適切な調理方法や食品の選択、常食から治療食の献立展開ができる。	○	○	○
運動栄養学	① 健康のための運動と効率的な栄養摂取を理解することができる。 ② 健康増進の為の知識を修得することができる。	○	○	
栄養指導論Ⅰ	① 栄養教育の意義や目的について理解できる。 ② 食の楽しさを伝える為の栄養教育を理解できる。 ③ 栄養教育の方法論を理解し、栄養アセスメント計画を理解することができる。	○	○	
栄養指導論Ⅱ	① ライフステージごとの対象者の特徴を理解できる。 ② ライフステージごとの栄養教育について理解できる。 ③ 対象に応じた栄養教育プログラムをマネジメントできる。	○	○	
栄養指導実習Ⅰ	① 生涯にわたって健康を維持増進するための栄養教育を計画することができる。 ② 子どもの発育・発達に応じた目標を設定し、指導案を作成することができる。 ③ 効果的な媒体を作成し、栄養教育に活用することができる。 ④ 栄養教育を実践し、教育効果を評価し、フィードバックを行うことができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
栄養指導実習Ⅱ	① 対象者の状態に応じた目標を設定し、指導案を作成することができる。 ② 科学的根拠に基づいた情報を収集し、対象者に正しく伝えることができる。 ③ 効果的な媒体を作成し、栄養教育に活用することができる。 ④ 栄養教育を実践し、教育効果を評価し、フィードバックを行うことができる	○	○	○
公衆栄養学	① 個人または集団の健康を維持・増進するために必要な健康・栄養活動を知る。 ② 健康・栄養活動を企画・実施・評価する方法を理解する。 ③ 健康・栄養問題の歴史的経緯、現在の問題点について理解を深めることができる。	○	○	
給食計画論	① 特定給食施設について関係法規を含め理解できる。 ② 栄養管理、食事管理、食材料管理、給食作業管理を理解できる。 ③ 食品衛生や労務管理を含めた安全管理を理解できる。 ④ 設置基準等、関係法規を含めた施設・設備管理を理解できる。	○		○
給食実務論	① 給食を運営する団体の組織体系について理解できる。 ② 給食経営に関わる費用について理解する。 ③ 各特定給食施設給食について各特色と関係法規を理解する。	○		○
給食管理実習ⅠA	① 給食栄養目標量を設定することができる。 ② 食品構成の役割とその作成方法を理解できる。 ③ 栄養量を意識した1日分の献立作成ができる。 ④ 作業工程の考え方、発注法を理解する。	○	○	○
給食管理実習ⅠB	① 給食管理の集大成としてPDCAに則った給食を実践できる。 ② 献立作成、発注、調理及び調理指示を適切に行うことができる。 ③ 喫食者の嗜好や満足度に対して意識を向けることができる。 ④ 互いの個性や力量を見極め、協働することができる。	○	○	○
給食管理実習Ⅱ	① 特定給食施設において、現場の栄養士・管理栄養士から実地訓練を受ける。 ② 栄養士としての具備すべき知識及び技能全般を体得する。		○	○
調理学	① 食品素材を衛生的で安全に、栄養的価値のある料理に美味しく仕上げることができる。 ② おいしく安全な料理を作るために必要な「調理科学」の理論や知識を体系的に学ぶことができる。 ③ 「調理のこつ」といわれる調理操作が科学的根拠に基づいていることを理解できるようになる。	○	○	
調理学実習Ⅰ	① 望ましい食事作りの為の基礎知識を把握する。 ② 基礎的な調理法の実践を修得する。 ③ 食生活全般にわたっての総合的な判断力・実践力の修得をする。 ④ 食中毒や安全性を考慮した食品の扱いができる。	○	○	○
調理学実習Ⅱ	① 日常食の調理を身につける。 ② 食生活をより楽しく、健康的に営む為の基本を学習する。 ③ 応用料理へ発展させる能力を修得する。	○	○	○
調理学実習Ⅲ	① 調理学実習Ⅰ、Ⅱで身につけた基礎を基に、大量調理を行うにあたっての技術の習得をする。 ② 大量調理の適切な献立作成ができる。 ③ 大量調理実習の発注・検収・衛生管理等ができる。	○	○	○
調理学実習Ⅳ	① 調理学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの基礎をさらに発展させ、応用する。 ② 食文化や行事食について調理実習を通して理解を深める。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
実践給食管理実習	① 栄養士としての具体的演習及び実習を行い、理解を深める。 ② 献立立案、食材の選別、作業計画などの給食管理について理解する。 ③ 食材の理解を深める。	○	○	○
給食管理実習Ⅲ	① 給食管理実習Ⅱに引き続き、さらに現場の栄養士の体験を積む。 ② 特定給食施設において、現場の栄養士・管理栄養士から実地訓練を受ける。 ③ 給食管理の実際と合わせて、栄養士として具備すべき知識及び技術を体得する。		○	○
食とこころ	① メンタルヘルスへの理解が深まる。 ② 適切な食と生活習慣が心身に与える影響について理解できる。 ③ ストレスへの対処が出来る。	○	○	○
乳児・小児栄養	① 子どもの発育と心身の健康、疾患などの基礎知識が理解できる。 ② 子どもを取り巻く環境及び生活習慣について理解する。	○	○	
保育栄養指導法	① 幼児期の発達段階に応じた栄養のはたす役割が理解できる。 ② 現代の子どもたちにおける食生活の問題点を学び、食育のあり方について理解を深める。 ③ 特に保育園や幼稚園で課題となる食物アレルギーに関する理解を深める。	○	○	○
栄養士のための 情報処理	① 数式の入力（四則演算）ができる。 ② 関数（SUM・ROUND・RANKなど）を使うことができる。 ③ 関数（IF・VLOOKUPなど）を使うことができる。 ④ グラフの作成ができる。	○		○
観光・地域体験学	① 別府の歴史・人物・文化・自然などから別府地域について、別府八湯の視点から一定の知識がある。 ② 各地域の特色を説明できる。 ③ 顧客が別府を訪れる際に必要な観光資源として基礎的な情報を説明できる。 ④ 地域の歴史文化や観光サービスについて、実体験を通して自身の言葉で説明できる。 ⑤ 他者と協力しあい、物事を遂行することができる。	○	○	○
温泉コンシェルジュの 基礎	1. 知識・理解 ① （別府）温泉コンシェルジュに必要な基礎的な知識や資質・能力を理解し、説明できる。 ② 別府の魅力・特色の概要を知り、顧客の求める心と体の健康を癒やすための別府散策のモデル的なプログラムを作成することができる。 2. 習得する資質・能力等 ① 他人の話に耳をよく傾け、多様な価値観を受容して自分なりの意見を持って適切な対応をしようと心がけることができる。	○	○	
別府の歴史と発展	① 別府発展の歴史の特色を、自然・人物・文化・産業の視点で説明できる。 ② 別府発展のポイントを、歴史と周辺地域の連携という視点で説明できる。 ③ 取得した情報をもとに、物事をわかりやすく説明して伝えることができる。 ④ 情報や知識を様々な観点から論理的に分析し、表現（説明）できる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
地域固有の観光要素の発見	① 紹介する地域や都市の特性を如何にして理解したら良いかが分かる。 ② 地域や都市の全体像を理解し、別府の地域特性を説明できる。 ③ 顧客対応に利用する情報をストックし整理することができる。 ④ 別府のまちづくりや特色ある産業について他地域と比較し説明できる。	○		
温泉学	① 温泉資源の利活用について幅広く実践的な基礎知識を身につけることができる。 ② 大分県の温泉、特に別府温泉を題材に温泉の自然と文化を学ぶことができる。 ③ 温泉県大分の情報発信ができる温泉コンシェルジュをめざすことができる。	○	○	○
おもてなしの心を学ぶ	① 日本の接客業における、総合的なおもてなしの心や業務が分かることができる。 ② 日本や世界のおもてなしの心と作法をもとに、接客サービスができる。	○	○	○
温泉文化と活用	① 温泉の活用法を知り、別府でのサービス等の情報発信ができる。 ② 他者を理解し、多様な価値観を受容することができる。 ③ 職場や地域での人的ネットワークを構築し、活用することができる。	○	○	
温泉医療療養指導論	① 健康増進にむけた温泉の利用法が説明できる。 ② 安全に温泉を利用するための重要な点をきちんと挙げることができる。	○	○	○
温泉入浴指導概論	① 温泉の観光・健康・医療・食等の総合的な企画プログラムを提案できる。 ② 温泉による健康・医療について、温泉の様々な効能と泉質の関係を説明できる。 ③ 温泉を活用した健康づくりや温泉との関係に限らず広く癒しや健康増進プログラムの指導ができる。	○	○	○
ビジネス実務総論	① 学生から社会人になる為の意識改革をし、ビジネスマナーの基本を身につけることができる。 ② 基本的なビジネスマナーを修得した上で、面接試験に充分活かせるよう学習することができる。	○	○	○
事務管理	① 社会人・職業人としての心構えと社会や経済、企業や仕事の仕組みを理解できる。 ② キャリアビジョンの構築や法務・財務・税務等の基礎的なビジネス能力向上の重要性を理解できる。 ③ 組織の共通目標が達成できる基盤が「事務」であることを理解できる。	○	○	○
コミュニケーション演習	① 受付応対・電話応対ができる。 ② 実習先での学びに感謝し、良好な人間関係を築くことができる。	○	○	○
プレゼンテーション概論	① コミュニケーションは双方向であることを理解し、聞いてもらえる「人間力」を磨くことができる。 ② 「考える」「まとめる」「発信する」を繰り返し行い、相手に届くプレゼンテーションを体得できる。	○	○	
情報ネットワーク論	① 見出しの作成・画像の挿入ができる。 ② リンク元・リンク先の設定ができる。 ③ スタイルシートの設定ができる。 ④ HTMLやJavaScriptの編集ができる。	○		○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
リーダーシップ論	① 活躍する中小企業の経営者の話を聞き即戦力として活躍できる。 ② 『リーダーシップ』と『経営者の姿勢』について知り身につける。 ③ 中小企業の経営者との質疑応答を通しコミュニケーション能力を向上する。 ④ 自分の意見をまとめ、発表することができる。		○	○
現代社会論	① 現代社会の様々な変化とその問題点について理解することができる。 ② 社会の変化に対する対応策と課題について理解ができる。 ③ 社会に積極的に関わっていく知識と対応力を身につけることができる。	○		○
手話Ⅰ	① 聴覚障害者とのコミュニケーション方法を説明することができる。 ② 聞こえない人達が抱える問題や福祉について理解することができる。 ③ 手話で挨拶や自己紹介、趣味などを話題に会話ができる。	○	○	○
手話Ⅱ	① 「聞こえない」とはどういう事か、困ること・対応方法を説明することができる。 ② 手話通訳の立場に立った考え方、対応について理解することができる。 ③ 手話で身近な生活や出来事などを話題に会話ができる。	○	○	○
介護概論	① 介護職の仕事内容や働く現場の事を理解できる。 ② 人権と尊厳を支える支援や自立に向けた介護を理解できる。 ③ 介護職の役割や専門性と他職種との連携を理解できる。 ④ 食事に関連した自立に向けた介護を理解できる。	○	○	○
介護の理解	① 介護におけるコミュニケーションを理解できる。 ② 老化に伴うことからの変化と高齢者の健康を理解できる。 ③ 認知症を取り巻く状況や家族への支援を理解できる。 ④ 介護過程の基礎的内容を理解することができる。	○	○	○
介護技術Ⅰ	① 基本的な介護を実践するために必要な知識・技術を理解できる。 ② 介護を要する人の潜在能力を引き出す視点の大切さを理解できる。 ③ 相手の立場に立ち考える姿勢をもつことの大切さを理解できる。	○	○	○
介護技術Ⅱ	① 基本的な介護を実践するために必要な知識・技術を理解できる。 ② 介護を要する人の潜在能力を引き出す視点の大切さを理解できる。 ③ 相手の立場に立ち考える姿勢をもつことの大切さを理解できる。	○	○	○
介護実習	① 積極的に周囲に働きかけ、自ら気づきを得ることができる。 ② 気づきを自分なりに整理・考察し、報告することができる。 ③ 社会人としてふさわしい行動を取ることができる。	○	○	○
卒業研究	① 「食」及び「地域」等に関する課題について多面的・多角的に調査し考察できる。 ② 研究結果をまとめ、表現できる。 ③ 地域における課題解決を提案できる。	○	○	○

食物栄養学科〔留学生コース〕 教育課程

[令和7年4月入学生]

科 目		履 修 法	単 位		1 年		2 年		温 泉 コ ン シ ェ ル ジ ュ 課 程	温 泉 入 浴 ア ド バ イ ザ ー 課 程	備 考
			必	選	春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ	秋学期 4セメ			
基礎教育	基礎科目	コミュニケーション論	講義	2	○						基礎科目については8単位以上取得すること ※「国際関係学」は英語のみで教授される科目です。
		日本語表現	講義	2			○				
		情報科社会学	講義	2		○					
		ICTと社会	演習	1		○					
		ICT基礎	講義	2	○						
		人間関係論	講義	2				○			
		大分県学	講義	2		○			★		
		日本事情Ⅰ	講義	2	○						
		日本事情Ⅱ	講義	2				○			
		国際関係学	講義	2				○			
	外国語	キャリアアセスメント	講義	1	●	●	●	●			外国語から2単位以上取得すること
		インターンシップⅠ	実習	1	●	●	●	●			
		社会貢献演習Ⅰ	演習	1	●	●	●	●			
		社会貢献演習Ⅱ	演習	1	●	●	●	●			
		英語Ⅰ	演習	1	○						
		英語Ⅱ	演習	1		○					
		中国語Ⅰ	演習	1	○						
		中国語Ⅱ	演習	1		○					
	体育	運動スポーツⅠ	演習	1		○					
		運動スポーツⅡ	演習	1			○				

科 目		履 修 法	単 位		1 年		2 年		温 泉 コ ン シ ェ ル ジ ュ 課 程	温 泉 入 浴 ア ド バ イ ザ ー 課 程	備 考
			必	選	春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ	秋学期 4セメ			
専門教育科目	食物栄養	栄養学総論	講義	2			○				11から8単位以上取得すること わくわく応用調理と同時開講
		食品学総論	講義	2				○			
		食品学実験Ⅰ	実験	1		○○					
		食品学実験Ⅱ	実験	1			○○				
		食品衛生学	講義	2			○				
		公衆衛生学	講義	2				○			
		運動栄養学	講義	2				○			
		調理学	講義	2			○				
		調理と食文化Ⅰ	講義	2	○						
		調理と食文化Ⅱ	講義	2	○						
		フードサービス概論	講義	2	●	●	●	●			
		調理学実習Ⅰ	実習	1			○○				
		おもてなしの料理	演習	2				○○			
		インターンシップⅠ	実習	1							
		インターンシップⅡ	実習	1							
		インターンシップⅢ	実習	1							
		インターンシップⅣ	実習	1							
		プレゼンテーション概論	講義	2		○					
		観光・地域体験学	講義	2	●	●	●	●	★		
		温泉学	講義	2			○		★		
		別府の歴史と発展	講義	2			○		★		
		地域固有の観光要素の発見	講義	2			○		☆		
		おもてなしの心を学ぶ	講義	2	○				★		
		温泉文化と活用	講義	2				○	★	★	
		温泉コンシェルジュの基礎	講義	2	○				★		
		温泉医療療養指導論	講義	1		●			★	★	
		温泉入浴指導概論	講義	1				●	★	★	

科 目		履 修 法	単 位		1 年		2 年		温泉 コンシ エルジ ュ課程	温泉 入浴ア ドバイ ザー 課程	備 考
			必	選	春学期	秋学期	春学期	秋学期			
					1 セメ	2 セメ	3 セメ	4 セメ			
専門教育科目	ビジネス実務	ビジネスマナー	講義	2	○						
		表計算演習Ⅰ	演習	1				○			
		情報ネットワーク論	講義	2			○				
		国際関係学総論	講義	2				○			英語で開講
		日本の文化	演習	1	○						
		日本語実践会話	講義	2	○	○	○	○			
		日本語実践文書作成	講義	2	○	○	○	○			
		ビジネス日本語	講義	2	○	○	○	○			
		総合日本語 A	演習	2	○○						
		総合日本語 B	演習	2	○○						
	日本語	総合日本語 C	演習	2	○○						
		総合日本語 D	演習	2	○○						
		総合日本語 E	演習	2	○○						
		総合日本語 F	演習	2	○○						
		総合日本語 G	演習	1	○						
		総合日本語 H	演習	1	○						
		総合日本語 I	演習	1	○						
		日本語中級 A	演習	2		○○					
		日本語中級 B	演習	2		○○					
		日本語中級 C	演習	2		○○					
		日本語中級 D	演習	2		○○					
		日本語中級 E	演習	1		○					
		日本語中級 F	演習	1		○					
		日本語中級 G	演習	1		○					
		日本語中上級 A	演習	1			○				
		日本語中上級 B	演習	1			○				
		日本語中上級 C	演習	1			○				
		日本語中上級 D	演習	1			○				
		日本語中上級 E	演習	1			○				
		日本語中上級 F	演習	1			○				
		日本語中上級 G	演習	1			○				
		日本語中上級 H	演習	1			○				
		日本語上級 A	演習	1				○			
		日本語上級 B	演習	1				○			
		日本語上級 C	演習	1				○			
		日本語上級 D	演習	1				○			
		日本語上級 E	演習	1				○			
		日本語上級 F	演習	1				○			
		日本語上級 G	演習	1				○			
		日本語上級 H	演習	1				○			
		日本語能力試験対策Ⅰ（聴解）	演習	1	○						
		日本語能力試験対策Ⅰ（文字語彙）	演習	1	○						
		日本語能力試験対策Ⅰ（文法）	演習	1	○						
		日本語能力試験対策Ⅰ（読解）	演習	1	○						
		日本語能力試験対策Ⅱ（聴解）	演習	1		○					
		日本語能力試験対策Ⅱ（文字語彙）	演習	1		○					
		日本語能力試験対策Ⅱ（文法）	演習	1		○					
		日本語能力試験対策Ⅱ（読解）	演習	1		○					
		日本語能力試験対策Ⅲ（聴解）	演習	1			○				
		日本語能力試験対策Ⅲ（文字語彙）	演習	1			○				
		日本語能力試験対策Ⅲ（文法）	演習	1			○				
		日本語能力試験対策Ⅲ（読解）	演習	1			○				
		日本語能力試験対策Ⅳ（聴解）	演習	1				○			
		日本語能力試験対策Ⅳ（文字語彙）	演習	1				○			
		日本語能力試験対策Ⅳ（文法）	演習	1				○			
		日本語能力試験対策Ⅳ（読解）	演習	1				○			
		日本語能力試験対策	演習	1	●	●	●	●			通年
		日本語留学試験対策	演習	1	●	●	●	●			通年

※○印は90分授業 1コマ15週 ○○印は90分授業 2コマ15週

●印は90分授業 1コマ8週 ★印は、各資格の必修科目 ☆印は、資格の推奨科目

専門教育科目から50単位以上、基礎科目・外国語・体育を含めて62単位以上取得しなければ、卒業できない。

社会貢献演習Ⅰ・Ⅱは2時間×8回以上の貢献をもって演習1単位とする。

「キャリア教育」は2年間を通じて8回以上受講すること。

都合により、開講時期等が変更になることがある。

〈温泉コンシェルジュコース 受講の注意〉

- ・おもてなし温泉学演習→必須条件:「おもてなしの心学ぶ」を履修
- ・温泉医療養護指導→必須条件:春学期開講「温泉学」を履修

令和7年度カリキュラムマップ【2025食物栄養学科：留学生コース（4月入学生）】

建学の精神：自立・自活できる人材の育成

教育目標と3つのポリシー：学生生活ハンドブック【学生便覧】を参照してください。

食物栄養学科【ディプロマポリシー】DP

食物栄養の学びをとおして、疾病を予防し、健康を維持増進する努力ができる。

留学生コース【ディプロマポリシー】DP

- ・食を通じ、日本社会で必要な知識、教養のみならず、文化、習慣を理解することができる。
- ・日本語の基礎能力を習得・統合し、自身の目的に応じて実社会で駆使することができる。

フィールド		1年生春学期 1セメスター	1年生秋学期 2セメスター	2年生春学期 3セメスター
基礎教育	基礎科目	コミュニケーション論 ICT基礎 日本事情Ⅰ	ICTと社会 大分学 情報科学	日本語表現
		【通年】 キャリア教育 インターンシップ 社会貢献演習Ⅰ		
	外国語	英語Ⅰ 中国語Ⅰ	英語Ⅱ 中国語Ⅱ	
	体育		運動スポーツⅠ	運動スポーツⅡ
専門教育	食物栄養	調理と食文化Ⅰ 調理と食文化Ⅱ 温泉コンシェルジュの基礎 おもてなしの心を学ぶ	食品学実験Ⅰ プレゼンテーション概論 温泉医療療養指導論	栄養学総論 食品学実験Ⅱ 食品衛生学 調理学 調理学実習Ⅰ 温泉学 別府の歴史と発展 地域固有の観光要素の発見
		【通年】 フードサービス概論 観光・地域体験学		
	ビジネス実務	日本の文化 ビジネスマナー		情報ネットワーク論
		【通年】 日本語実践会話 日本語実践文書作成 ビジネス日本語		
	日本語	総合日本語A 総合日本語B 総合日本語C 総合日本語D 総合日本語E 総合日本語F 総合日本語G 総合日本語H 総合日本語Ⅰ 日本語能力試験対策Ⅰ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅰ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅰ（文法） 日本語能力試験対策Ⅰ（読解）	日本語中級A 日本語中級B 日本語中級C 日本語中級D 日本語中級E 日本語中級F 日本語中級G 日本語能力試験対策Ⅱ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅱ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅱ（文法） 日本語能力試験対策Ⅱ（読解）	日本語中上級A 日本語中上級B 日本語中上級C 日本語中上級D 日本語中上級E 日本語中上級F 日本語中上級G 日本語中上級H 日本語能力試験対策Ⅲ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅲ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅲ（文法） 日本語能力試験対策Ⅲ（読解）
		【通年】 日本語能力試験対策 日本留学試験対策		

- ・多様な文化や価値観を持つ人々とかかわり、他者の意見に耳を傾けながら日本語で自らの気持ちや考えを明確に表現する力、および伝達する力を身につけることができる。

2年生秋学期 4セメスター		卒業と同時に取得をめざす資格
人間関係論 国際関係学 日本事情Ⅱ	 学 修 成 果	希望する卒業後の進路（就職・進学等）の内定 検定試験合格や資格の取得 温泉入浴アドバイザー課程 温泉コンシェルジュ課程
社会貢献演習Ⅱ		
食品学総論 公衆衛生学 運動栄養学 おもてなしの料理 温泉文化と活用 温泉入浴指導概論		
表計算演習Ⅰ 国際関係学総論		
日本語上級A 日本語上級B 日本語上級C 日本語上級D 日本語上級E 日本語上級F 日本語上級G 日本語上級H		
日本語能力試験対策Ⅳ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅳ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅳ（文法） 日本語能力試験対策Ⅳ（読解）		

食物栄養学科 〔留学生コース〕到達目標一覧表

[令和7年4月入学生]

科目名	授業目標	知識	主体性	就業力
コミュニケーション論	① 言語・非言語コミュニケーションを理解できる。 ② 相手に伝わる話し方（言葉遣い・声のトーン・態度）を習得できる。	○	○	○
日本語表現	① 「聞く、話す、読む、書く」の日本語表現能力の向上ができる。 ② 考察力やデジタル基本スキルを活かして、自分の意見やアイデアなどを表現することができる。	○	○	○
情報科学	① 情報実務に関する基本的な用語を説明できる。 ② 情報実務に必要な情報機器の基本的な操作ができる。	○		○
ICTと社会	① 情報社会の現状を理解し、健全な情報社会の一員として社会に参画できる。 ② 情報リテラシーを身に着ける。 ③ 受け取った情報を活用し、自身の考えを他者へプレゼンテーションする力を身につける。	○	○	○
ICT基礎	① 自ら目標を設定し、より高度な技術を身に付けることができる。 ② 情報処理について理解を深めることができる。	○	○	○
人間関係論	① 自己と他者の心理・行動について理解を深めることができる。 ② より良い人間関係を築く力を身に付けることができる。	○	○	○
大分学	① 大分県内の特徴（歴史・人物・文化・産業 等）について学ぶ。 ② 大分県の魅力を全国に発信することができる。	○	○	
日本事情Ⅰ	① 日本社会に必要な知識、教養、習慣を理解し、適用できる。 ② 日本人の考え方やルールを学び、実生活で運用できる。 ③ 大学生としての知識を身に付け、新しい環境に適用できる。	○	○	
日本事情Ⅱ	① 将来設計に基づき、各進路に必要な知識を学び、実践できる。 ② 国際人として自立し、積極的に日本社会に参画できる。	○	○	○
国際関係学	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に着けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○	○	○
キャリア教育	① キャリア形成のためのプロセスを知り、自己理解を深める。 ② 自分らしく生きていくために必要な知識や能力を身につける。 ③ 地域社会に必要なキャリア形成について理解できる。		○	○
インターンシップ	① 社会現場を経験することにより職業意識や勤労意欲を高めることができる。			○
社会貢献演習Ⅰ	① 地域・社会に貢献する人財（人材）になることができる。 ② 貢献活動を通して人間の成長ができる。		○	○
社会貢献演習Ⅱ	① 地域・社会に貢献する人財（人材）になることができる。 ② 貢献活動を通して人間の成長ができる。		○	○
英語Ⅰ	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることへの自信を高めることができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
英語Ⅱ	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることに自信を高めることができる。	○	○	
中国語Ⅰ	① 中国語による基礎的なコミュニケーションができる。 ② 文化体験授業を通して、基本的な知識を身につけることができる。	○	○	○
中国語Ⅱ	① 中国語の基礎的なコミュニケーションのスキルを向上できる。 ② 文化体験授業を通して、中国に対する理解を深めることができる。	○	○	○
運動スポーツⅠ	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをとおしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	
運動スポーツⅡ	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをとおしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	
栄養学総論	① 各栄養素の種類及び体内ではたらきを説明できる。 ② 消化と吸収について理解できる。 ③ エネルギー代謝について理解できる。	○	○	
食品学総論	① 健康を支える食品の成分、特徴、物性等について科学的な知識を理解する。 ② 食品学で学んだ知識を、日々の食生活に活用することができる。	○	○	
食品学実験Ⅰ	① 実験、実習に関する用語や数値及び薬品の調整等、基本的な事柄を知る。 ② 実験、実習に使用する器具や薬品の安全な正しい取り扱い方を知る。 ③ 各食品の構成成分や特徴、働きを知り、人々の健康で心豊かな食生活のあり方を知る。 ④ 食品の安全で衛生的な取り扱いや製造方法を知る。	○	○	○
食品学実験Ⅱ	① 実験、実習を通して薬品の調整等、基本的な事柄を知る。 ② 実験、実習に使用する器具や薬品の安全な正しい取り扱い方を知る。 ③ 各食品の構成成分や特徴、働きを知り、人々の健康で心豊かな食生活のあり方を知る。 ④ 食品の安全で衛生的な取り扱いや製造方法を知る。	○	○	○
食品衛生学	① 食中毒の種類とその原因及び対策を説明できる。 ② 食品添加物の安全性とその考え方を説明できる。 ③ 食品表示について説明できる。	○	○	○
公衆衛生学	① 予防医学の概念について説明できる。 ② 疾病と死因の年次推移について説明できる。 ③ 健康と環境との関係を説明できる。	○	○	○
運動栄養学	① 健康のための運動と効率的な栄養摂取を理解することができる。 ② 健康増進の為の知識を修得することができる。	○	○	
調理学	① 食品素材を衛生的で安全に、栄養的価値のある料理に美しく仕上げるができる。 ② おいしく安全な料理を作るために必要な「調理科学」の理論や知識を体系的に学ぶことができる。 ③ 「調理のこつ」といわれる調理操作が科学的根拠に基づいていることを理解できるようになる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
調理と食文化Ⅰ	① 日本の食文化にふれ、日本の理解を深めることができる。 ② 多国籍の食文化にふれ、お互いの文化を理解し合う。	○	○	○
調理と食文化Ⅱ	① 調理と食文化Ⅰの応用料理を行う。 ② 日本の家庭料理の食材にふれ、料理を作り、その配膳方法、食事方法等知る。 ③ 多国籍の食文化と日本の食文化を比較することにより、さらに日本の食文化の理解を深めることができる。	○	○	○
フードサービス概論	① 外食業分野で必要な基本的な知識・技能を理解できる。 ② 衛生管理・調理・接客サービスについての基礎を身につける。	○	○	○
調理学実習Ⅰ	① 望ましい食事作りの為の基礎知識を把握する。 ② 基礎的な調理法の実践を修得する。 ③ 食生活全般にわたっての総合的な判断力・実践力の修得をする。 ④ 食中毒や安全性を考慮した食品の扱いができる。	○	○	○
おもてなしの料理	① 調理実習の基礎をさらに発展させ、応用調理することができる。 ② 食文化や行事食について調理実習を通して理解を深める。	○	○	
プレゼンテーション概論	① コミュニケーションは双方向であることを理解し、相手に聞いてもらえる「人間力」を磨くことができる。 ② 「考える」「まとめる」「発信する」を繰り返し行い、相手に届くプレゼンテーションを体得できる。	○	○	○
観光・地域体験学	① 別府の歴史・人物・文化・自然などから別府地域について、別府八湯の視点から一定の知識がある。 ② 各地域の特色を説明できる。 ③ 顧客が別府を訪れる際に必要な観光資源として基礎的な情報を説明できる。 ④ 地域の歴史文化や観光サービスについて、実体験を通して自身の言葉で説明できる。 ⑤ 他者と協力しあい、物事を遂行することができる。	○	○	○
温泉学	① 温泉資源の利活用について幅広く実践的な基礎知識を身につけることができる。 ② 大分県の温泉、特に別府温泉を題材に温泉の自然と文化を学ぶことができる。 ③ 温泉県大分の情報発信ができる温泉コンシェルジュをめざすことができる。	○	○	○
別府の歴史と発展	① 別府発展の歴史の特色を、自然・人物・文化・産業の視点で説明できる。 ② 別府発展のポイントを、歴史と周辺地域の連携という視点で説明できる。 ③ 取得した情報をもとに、物事をわかりやすく説明して伝えることができる。 ④ 情報や知識を様々な観点から論理的に分析し、表現（説明）できる。	○	○	
地域固有の観光要素の発見	① 紹介する地域や都市の特性を如何にして理解したら良いかが分かる。 ② 地域や都市の全体像を理解し、別府の地域特性を説明できる。 ③ 顧客対応に利用する情報をストックし整理することができる。 ④ 別府のまちづくりや特色ある産業について他地域と比較し説明できる。	○		
おもてなしの心を学ぶ	① 日本の接客業における、総合的なおもてなしの心や業務が分かることができる。 ② 日本や世界のおもてなしの心と作法をもとに、接客サービスができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
温泉文化と活用	① 温泉の活用法を知り、別府でのサービス等の情報発信ができる。 ② 他者を理解し、多様な価値観を受容することができる。 ③ 職場や地域での人的ネットワークを構築し、活用することができる。	○	○	
温泉コンシェルジュの基礎	1. 知識・理解 ① (別府) 温泉コンシェルジュに必要な基礎的な知識や資質・能力を理解し、説明できる。 ② 別府の魅力・特色の概要を知り、顧客の求める心と体の健康を癒やすための別府散策のモデル的なプログラムを作成することができる。 2. 習得する資質・能力等 ① 他人の話に耳をよく傾け、多様な価値観を受容して自分なりの意見を持って適切な対応をしようと心がけることができる。	○	○	
温泉医療療養指導論	① 健康増進にむけた温泉の利用法が説明できる。 ② 安全に温泉を利用するための重要な点をきちんと挙げることができる。	○	○	○
温泉入浴指導概論	① 温泉の観光・健康・医療・食等の総合的な企画プログラムを提案できる。 ② 温泉による健康・医療について、温泉の様々な効能と泉質の関係を説明できる。 ③ 温泉を活用した健康づくりや温泉との関係に限らず広く癒しや健康増進プログラムの指導ができる。	○	○	○
ビジネスマナー	① 日本社会で必要な基礎知識、マナーを理解することができる。 ② 面接、電話応対で用いられる日本語表現を使うことができる。 ③ 日本人のビジネススタイルや価値観を理解することができる。	○	○	○
表計算演習 I	① 数式の入力(四則演算)ができる。 ② 関数(SUM・ROUND・RANKなど)を使うことができる。 ③ 関数(IF・VLOOKUPなど)を使うことができる。 ④ グラフの作成ができる。	○		○
情報ネットワーク論	① 見出しの作成・画像の挿入ができる。 ② リンク元・リンク先の設定ができる。 ③ スタイルシートの設定ができる。 ④ HTMLやJavaScriptの編集ができる。	○		○
国際関係学総論	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に着けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○		
日本の文化	① 演習を通して、日本の文化や歴史、習慣に触れることができる。 ② 自国の文化や習慣と比較し、説明することができる。 ③ コミュニケーション能力を身につけ、協調することができる。	○	○	○
日本語実践会話	① 丁寧な日本語を使い、自分の意見を主張することができる。 ② 他者の意見に耳を傾け、コミュニケーションをとることができる。	○	○	○
日本語実践文書作成	① 日本語を用いて文章を書くことができる。 ② 自身の意見を論理立てて記述することができる。	○	○	
ビジネス日本語	① ビジネスに必要な日本語や基礎知識を理解し、運用できる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
総合日本語A	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語B	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語C	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語D	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語E	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○		
総合日本語F	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語G	① 基礎的な漢字の意味、書き方を理解することができる。 ② 基礎的な漢字で書かれた文章を読み取ることができる。	○	○	
総合日本語H	① 簡単な日本語の音を聞き分けることができる。 ② 簡単な日本語の音声聞き、理解し推測することができる。	○	○	
総合日本語I	① 簡単な日本語の文章を読み、理解できる。 ② 文章を読んで、簡単に意見や感想が言える。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅰ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅰ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅰ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使うことができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅰ (読解)	① 日本社会で必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 日常生活において読む力を適用できる。	○	○	
日本語中級 A	① 場面や状況に応じて日本語を理解、運用できる。 ② 自分の意見や感情を簡単に伝えることができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を伸ばすことができる。	○	○	
日本語中級 B	① 場面や状況に応じて日本語を理解、運用できる。 ② 自分の意見や感情を簡単に伝えることができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を伸ばすことができる。	○	○	
日本語中級 C	① 場面や状況に応じて日本語を理解、運用できる。 ② 自分の意見や感情を簡単に伝えることができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を伸ばすことができる。	○	○	
日本語中級 D	① 場面や状況に応じて日本語を理解、運用できる。 ② 自分の意見や感情を簡単に伝えることができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を伸ばすことができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
日本語中級E	① 既習の漢字をそれぞれの場面に沿って正しく使うことができる。 ② 漢字の語彙を増やし、意味を理解することができる。 ③ 未習の漢字を含む発展的な内容の情報を推測することができる。	○	○	
日本語中級F	① 短い文章を読んで理解し、要約することができる。 ② 内容について意見を言うことができる。	○	○	
日本語中級G	① 日本語の音声を聞き、日本語の特徴を理解することができる。 ② 習得した知識を応用して聞き取ることができる。 ③ 文脈から推測したり類推し、判断することができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。 ④ TPOに応じた日本語の使い方が理解できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅱ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使うことができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (読解)	① 日本社会で必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 日常生活において読む力を応用できる。	○	○	
日本語中上級A	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級B	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級C	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級D	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級F	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級G	① 日本語の漢字の音読み訓読みを知り、読むこと、書くことができる。 ② 日常生活でよく使う漢字の習得をし、実生活で使うことができる。	○	○	
日本語中上級H	① 日常よく接する場面における会話の「聞く力」と「話す力」を身につける。 ② 場面に応じた表現の選択が意識できるようになる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅲ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。 ④ TPOに応じた日本語の使い方を習得できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅲ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅲ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使うことができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
日本語能力試験対策Ⅲ (読解)	① 日本社会に必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 読解力を日常生活からビジネスシーンまで応用できる。	○	○	
日本語上級 A	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 B	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 C	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 D	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 E	① 社会生活を営むために必要な会話を学び、コミュニケーション力を身につけることができる。	○	○	
日本語上級 F	① 社会生活を営むために必要な会話を学び、コミュニケーション力を身につけることができる。	○	○	
日本語上級 G	① 日本語の漢字の音読み訓読みを知り、読むこと、書くことができる。 ② 日常生活でよく使う漢字の習得をし、実生活で使うことができる。	○	○	
日本語上級 H	① CDを聞いて答える練習ができる。 ② 会話力をつけながら、実用的な日本語の力をつけることができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅳ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。 ④ TPOに応じた日本語の使い方を習得し、運用できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅳ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策	① 日本社会に必要な文字、語彙、文法の知識を修得し、運用できる。	○	○	
日本留学試験対策	① 大学等での勉学に対応できる文字、語彙、文法を修得し運用できる。	○	○	

食物栄養学科〔留学生コース〕 教育課程

[令和 7 年 9 月入学生]

科 目		履修法	単 位		1 年		2 年		温泉コンシエルジュ課程	温泉入浴アドバイザー課程	備 考
			必	選	秋学期 1セメ	春学期 2セメ	秋学期 3セメ	春学期 4セメ			
基礎教育	基礎科目	コミュニケーション論	講義	2		○					基礎科目については8単位以上取得すること ※「国際関係学」は英語のみで教授される科目です。
		日本語表現	講義	2			○				
		情報科社会学	講義	2		○					
		ICTと社会	演習	1			○				
		ICT基礎	講義	2	○						
		人間関係論	講義	2			○				
		日本事情Ⅰ	講義	2	○						
		日本事情Ⅱ	講義	2				○			
		大分県学	講義	2					★		
		国際関係学	講義	2			○				
	外国語	キャリア教育	講義	1		●	●	●	●		外国語から2単位以上取得すること
		インターンシップ	実習	1		●	●	●	●		
		社会貢献演習Ⅰ	演習	1		●	●	●	●		
		社会貢献演習Ⅱ	演習	1		●	●	●	●		
		英語Ⅰ	演習	1		○					
		英語Ⅱ	演習	1			○				
	体育	中国語Ⅰ	演習	1			○				外国語から2単位以上取得すること
		中国語Ⅱ	演習	1			○				
	体育	運動スポーツⅠ	演習	1			○				
		運動スポーツⅡ	演習	1			○				

科 目		履修法	単 位		1 年		2 年		温泉コンシエルジュ課程	温泉入浴アドバイザー課程	備 考
			必	選	秋学期 1セメ	春学期 2セメ	秋学期 3セメ	春学期 4セメ			
専門教育科目	食物栄養	栄養学総論	講義	2				○			二つから8単位以上取得すること わくわく応用調理と同時開講 (30時間) 集中 集中
		食品学総論	講義	2			○				
		食品学実験Ⅰ	実験	1			○				
		食品学実験Ⅱ	実験	1				○			
		食品衛生学	講義	2				○			
		公衆衛生学	講義	2			○				
		運動栄養学	講義	2			○				
		調理学	講義	2				○			
		調理と食文化Ⅰ	講義	2				○			
		調理と食文化Ⅱ	講義	2				○			
		フードサービス概論	講義	2	●	●	●	●			
		調理学実習Ⅰ	実習	1		○					
		おもてなしの料理	演習	2			○				
		インターンシップⅠ	実習	1							
		インターンシップⅡ	実習	1							
		インターンシップⅢ	実習	1							
		インターンシップⅣ	実習	1							
		プレゼンテーション概論	講義	2			○				
		観光・地域体験学	講義	2	●	●	●	●	★		
		温泉	講義	2		○			★		
		別府の歴史と発展	講義	2				○	★		
		地域固有の観光要素の発見	講義	2				○	★		
		おもてなしの心を学ぶ	講義	2		○			☆		
		温泉文化と活用	講義	2			○		★	★	
		温泉コンシエルジュの基礎	講義	2		○			★		
		温泉医療療養指導論	講義	1	●				★	★	
		温泉入浴指導概論	講義	1			●		★	★	

科 目		履修法	単 位		1 年		2 年		温泉コンシェルジュ課程	温泉入浴アドバイザー課程	備 考
			必	選	秋学期 1セメ	春学期 2セメ	秋学期 3セメ	春学期 4セメ			
専門教育科目	ビジネス実務	ビジネスマナー	講義	2	○						
		表計算演習Ⅰ	演習	1			○				
		情報ネットワーク論	講義	2				○			
		国際関係学総論	講義	2			○				英語で開講
		日本の文化	演習	1	○						
		日本語実践会話	講義	2	○	○		○			
		日本語実践文書作成	講義	2	○	○	○	○			
		ビジネス日本語	講義	2	○	○	○	○			
		総合日本語A	演習	2	○○						
		総合日本語B	演習	2	○○						
	日本語	総合日本語C	演習	2	○○						
		総合日本語D	演習	2	○○						
		総合日本語E	演習	2	○○						
		総合日本語F	演習	2	○○						
		総合日本語G	演習	1	○						
		総合日本語H	演習	1	○						
		総合日本語I	演習	1	○						
		日本語中級A	演習	2		○○					
		日本語中級B	演習	2		○○					
		日本語中級C	演習	2		○○					
		日本語中級D	演習	2		○○					
		日本語中級E	演習	1		○					
		日本語中級F	演習	1		○					
		日本語中級G	演習	1		○					
		日本語中上級A	演習	1			○				
		日本語中上級B	演習	1			○				
		日本語中上級C	演習	1			○				
		日本語中上級D	演習	1			○				
		日本語中上級E	演習	1			○				
		日本語中上級F	演習	1			○				
		日本語中上級G	演習	1			○				
		日本語中上級H	演習	1			○				
		日本語上級A	演習	1				○			
		日本語上級B	演習	1				○			
		日本語上級C	演習	1				○			
		日本語上級D	演習	1				○			
		日本語上級E	演習	1				○			
		日本語上級F	演習	1				○			
		日本語上級G	演習	1				○			
		日本語上級H	演習	1				○			
		日本語能力試験対策Ⅰ（聴解）	演習	1	○						
		日本語能力試験対策Ⅰ（文字語彙）	演習	1	○						
		日本語能力試験対策Ⅰ（文法）	演習	1	○						
		日本語能力試験対策Ⅰ（読解）	演習	1	○						
		日本語能力試験対策Ⅱ（聴解）	演習	1		○					
		日本語能力試験対策Ⅱ（文字語彙）	演習	1		○					
		日本語能力試験対策Ⅱ（文法）	演習	1		○					
		日本語能力試験対策Ⅱ（読解）	演習	1		○					
		日本語能力試験対策Ⅲ（聴解）	演習	1			○				
		日本語能力試験対策Ⅲ（文字語彙）	演習	1			○				
		日本語能力試験対策Ⅲ（文法）	演習	1			○				
		日本語能力試験対策Ⅲ（読解）	演習	1			○				
		日本語能力試験対策Ⅳ（聴解）	演習	1				○			
		日本語能力試験対策Ⅳ（文字語彙）	演習	1				○			
		日本語能力試験対策Ⅳ（文法）	演習	1				○			
		日本語能力試験対策Ⅳ（読解）	演習	1				○			
		日本語能力試験対策	演習	1	●	●	●	●			通年
		日本語留学試験対策	演習	1	●	●	●	●			通年

※○印は90分授業 1コマ15週 ○○印は90分授業 2コマ15週

●印は90分授業 1コマ8週 ★印は、各資格の必修科目 ☆印は、資格の推奨科目

専門教育科目から50単位以上、基礎科目・外国語・体育を含めて62単位以上取得しなければ、卒業できない。

社会貢献演習Ⅰ・Ⅱは2時間×8回以上の貢献をもって演習1単位とする。

「キャリア教育」は2年間を通じて8回以上受講すること。

都合により、開講時期等が変更になることがある。

〈温泉コンシェルジュコース 受講の注意〉

・おもてなし温泉学演習→必須条件：「おもてなしの心を学ぶ」を履修

・温泉医療療養指導→必須条件：春学期開講「温泉学」を履修

令和7年度カリキュラムマップ【2025食物栄養学科：留学生コース（9月入学生）】

建学の精神：自立・自活できる人材の育成

教育目標と3つのポリシー：学生生活ハンドブック【学生便覧】を参照してください。

食物栄養学科【ディプロマポリシー】DP

食物栄養の学びをとおして、疾病を予防し、健康を維持増進する努力ができる。

留学生コース【ディプロマポリシー】DP

- ・食を通じ、日本社会で必要な知識、教養のみならず、文化、習慣を理解することができる。
- ・日本語の基礎能力を習得・統合し、自身の目的に応じて実社会で駆使することができる。

フィールド		1年生秋学期 1セメスター	1年生春学期 2セメスター	2年生秋学期 3セメスター
基礎教育	基礎科目	日本事情Ⅰ ICT基礎	コミュニケーション論 情報科学	日本語表現 ICTと社会 人間関係論 国際関係学 大分学
		【通年】キャリア教育	インターンシップ	社会貢献演習Ⅰ
	外国語		英語Ⅰ 中国語Ⅰ	英語Ⅱ 中国語Ⅱ
	体育		運動スポーツⅠ	運動スポーツⅡ
専門教育	食物栄養	温泉入浴指導概論	調理学実習Ⅰ 温泉コンシェルジュの基礎 おもてなしの心を学ぶ 温泉学 地域固有の観光要素の発見	食品学総論 食品学実験Ⅰ 公衆衛生学 運動栄養学 おもてなしの料理 プレゼンテーション概論 温泉文化と活用 温泉医療療養指導論
		【通年】フードサービス概論	観光・地域体験学	
	ビジネス実務	日本の文化 ビジネスマナー 情報処理演習		表計算演習Ⅰ 国際関係学総論
		【通年】日本語実践会話	日本語実践文書作成	ビジネス日本語
	日本語	総合日本語A 総合日本語B 総合日本語C 総合日本語D 総合日本語E 総合日本語F 総合日本語G 総合日本語H 総合日本語Ⅰ 日本語能力試験対策Ⅰ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅰ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅰ（文法） 日本語能力試験対策Ⅰ（読解）	日本語中級A 日本語中級B 日本語中級C 日本語中級D 日本語中級E 日本語中級F 日本語中級G 日本語能力試験対策Ⅱ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅱ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅱ（文法） 日本語能力試験対策Ⅱ（読解）	日本語中上級A 日本語中上級B 日本語中上級C 日本語中上級D 日本語中上級E 日本語中上級F 日本語中上級G 日本語中上級H 日本語能力試験対策Ⅲ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅲ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅲ（文法） 日本語能力試験対策Ⅲ（読解）
		【通年】日本語能力試験対策	日本語能力試験対策	日本留学試験対策

- ・多様な文化や価値観を持つ人々とかかわり、他者の意見に耳を傾けながら日本語で自らの気持ちや考えを的確に表現する力、および伝達する力を身につけることができる。

2年生春学期 4セメスター		希望する卒業後の進路（就職・進学等）の内定 検定試験合格や資格の取得	卒業と同時に取得をめざす資格
日本事情Ⅱ 社会貢献演習Ⅱ 栄養学総論 食品学実験Ⅱ 食品衛生学 調理学 調理と食文化Ⅰ 調理と食文化Ⅱ 別府の歴史と発展 情報ネットワーク論 日本語上級A 日本語上級B 日本語上級C 日本語上級D 日本語上級E 日本語上級F 日本語上級G 日本語上級H 日本語能力試験対策Ⅳ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅳ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅳ（文法） 日本語能力試験対策Ⅳ（読解）			温泉入浴アドバイザー課程 温泉コンシェルジュ課程

食物栄養学科 〔留学生コース〕到達目標一覧表

[令和7年9月入学生]

科目名	授業目標	知識	主体性	就業力
コミュニケーション論	① 言語・非言語コミュニケーションを理解できる。 ② 相手に伝わる話し方（言葉遣い・声のトーン・態度）を習得できる。	○	○	○
日本語表現	① 「聞く、話す、読む、書く」の日本語表現能力の向上ができる。 ② 考察力やデジタル基本スキルを活かして、自分の意見やアイデアなどを表現することができる。	○	○	○
情報科学	① 情報実務に関する基本的な用語を説明できる。 ② 情報実務に必要な情報機器の基本的な操作ができる。	○		○
ICTと社会	① 情報社会の現状を理解し、健全な情報社会の一員として社会に参画できる。 ② 情報リテラシーを身に着ける。 ③ 受け取った情報を活用し、自身の考えを他者へプレゼンテーションする力を身につける。	○	○	○
ICT基礎	① 自ら目標を設定し、より高度な技術を身に付けることができる。 ② 情報処理について理解を深めることができる。	○	○	○
人間関係論	① 自己と他者の心理・行動について理解を深めることができる。 ② より良い人間関係を築く力を身に付けることができる。	○	○	○
日本事情Ⅰ	① 日本社会に必要な知識、教養、習慣を理解し、適用できる。 ② 日本人の考え方やルールを学び、実生活で運用できる。 ③ 大学生としての知識を身につけ、新しい環境に適用できる。	○	○	
日本事情Ⅱ	① 将来設計に基づき、各進路に必要な知識を学び、実践できる。 ② 国際人として自立し、積極的に日本社会に参画できる。	○	○	○
大分学	① 大分県内の特徴（歴史・人物・文化・産業等）について学ぶ。 ② 大分県の魅力を全国に発信することができる。	○	○	
国際関係学	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に付けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○	○	○
キャリア教育	① キャリア形成のためのプロセスを知り、自己理解を深める。 ② 自分らしく生きていくために必要な知識や能力を身につける。 ③ 地域社会に必要なキャリア形成について理解できる。		○	○
インターンシップ	① 社会現場を経験することにより職業意識や勤労意欲を高めることができる。			○
社会貢献演習Ⅰ	① 地域・社会に貢献する人材（人材）になることができる。 ② 貢献活動を通して人間の成長ができる。		○	○
社会貢献演習Ⅱ	① 地域・社会に貢献する人材（人材）になることができる。 ② 貢献活動を通して人間の成長ができる。		○	○
英語Ⅰ	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることへの自信を高めることができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
英語Ⅱ	① To improve English skill 英語スキルを向上・上達できる。 ② To improve confidence in communicating in English 英語でコミュニケーションを取ることに自信を高めることができる。	○	○	
中国語Ⅰ	① 中国語による基礎的なコミュニケーションができる。 ② 文化体験授業を通して、基本的な知識を身につけることができる。	○	○	○
中国語Ⅱ	① 中国語の基礎的なコミュニケーションのスキルを向上できる。 ② 文化体験授業を通して、中国に対する理解を深めることができる。	○	○	○
運動スポーツⅠ	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	
運動スポーツⅡ	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる	○	○	
栄養学総論	① 各栄養素の種類及び体内ではたらきを説明できる。 ② 消化と吸収について理解できる。 ③ エネルギー代謝について理解できる。	○	○	
食品学総論	① 健康を支える食品の成分、特徴、物性等について科学的な知識を理解する。 ② 食品学で学んだ知識を、日々の食生活に活用することができる。	○	○	
食品学実験Ⅰ	① 実験、実習に関する用語や数値及び薬品の調整等、基本的な事柄を知る。 ② 実験、実習に使用する器具や薬品の安全な正しい取り扱い方を知る。 ③ 各食品の構成成分や特徴、働きを知り、人々の健康で心豊かな食生活のあり方を知る。 ④ 食品の安全で衛生的な取り扱いや製造方法を知る。	○	○	○
食品学実験Ⅱ	① 実験、実習を通して薬品の調整等、基本的な事柄を知る。 ② 実験、実習に使用する器具や薬品の安全な正しい取り扱い方を知る。 ③ 各食品の構成成分や特徴、働きを知り、人々の健康で心豊かな食生活のあり方を知る。 ④ 食品の安全で衛生的な取り扱いや製造方法を知る。	○	○	○
食品衛生学	① 食中毒の種類とその原因及び対策を説明できる。 ② 食品添加物の安全性とその考え方を説明できる。 ③ 食品表示について説明できる。	○	○	○
公衆衛生学	① 予防医学の概念について説明できる。 ② 疾病と死因の年次推移について説明できる。 ③ 健康と環境との関係を説明できる。	○	○	○
運動栄養学	① 健康のための運動と効率的な栄養摂取を理解することができる。 ② 健康増進の為の知識を修得することができる。	○	○	
調理学	① 食品素材を衛生的で安全に、栄養的価値のある料理に美しく仕上げるができる。 ② おいしく安全な料理を作るために必要な「調理科学」の理論や知識を体系的に学ぶことができる。 ③ 「調理のこつ」といわれる調理操作が科学的根拠に基づいていることを理解できるようになる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
調理と食文化Ⅰ	① 日本の食文化にふれ、日本の理解を深めることができる。 ② 多国籍の食文化にふれ、お互いの文化を理解し合う。	○	○	○
調理と食文化Ⅱ	① 調理と食文化Ⅰの応用料理を行う。 ② 日本の家庭料理の食材にふれ、料理を作り、その配膳方法、食事方法等知る。 ③ 多国籍の食文化と日本の食文化を比較することにより、さらに日本の食文化の理解を深めることができる。	○	○	○
フードサービス概論	① 外食業分野で必要な基本的な知識・技能を理解できる。 ② 衛生管理・調理・接客サービスについての基礎を身につける。	○	○	○
調理学実習Ⅰ	① 望ましい食事作りの為の基礎知識を把握する。 ② 基礎的な調理法の実践を修得する。 ③ 食生活全般にわたっての総合的な判断力・実践力の修得をする。 ④ 食中毒や安全性を考慮した食品の扱いができる。	○	○	○
おもてなしの料理	① 調理実習の基礎をさらに発展させ、応用調理することができる。 ② 食文化や行事食について調理実習を通して理解を深める。	○	○	
プレゼンテーション概論	① コミュニケーションは双方向であることを理解し、相手に聞いてもらえる「人間力」を磨くことができる。 ② 「考える」「まとめる」「発信する」を繰り返し行い、相手に届くプレゼンテーションを体得できる。	○	○	○
観光・地域体験学	① 別府の歴史・人物・文化・自然などから別府地域について、別府八湯の視点から一定の知識がある。 ② 各地域の特色を説明できる。 ③ 顧客が別府を訪れる際に必要な観光資源として基礎的な情報を説明できる。 ④ 地域の歴史文化や観光サービスについて、実体験を通して自身の言葉で説明できる。 ⑤ 他者と協力しあい、物事を遂行することができる。	○	○	○
温泉学	① 温泉資源の利活用について幅広く実践的な基礎知識を身につけることができる。 ② 大分県の温泉、特に別府温泉を題材に温泉の自然と文化を学ぶことができる。 ③ 温泉県大分の情報発信ができる温泉コンシェルジュをめざすことができる。	○	○	○
別府の歴史と発展	① 別府発展の歴史の特色を、自然・人物・文化・産業の視点で説明できる。 ② 別府発展のポイントを、歴史と周辺地域の連携という視点で説明できる。 ③ 取得した情報をもとに、物事をわかりやすく説明して伝えることができる。 ④ 情報や知識を様々な観点から論理的に分析し、表現（説明）できる。	○	○	
地域固有の観光要素の発見	① 紹介する地域や都市の特性を如何にして理解したら良いかが分かる。 ② 地域や都市の全体像を理解し、別府の地域特性を説明できる。 ③ 顧客対応に利用する情報をストックし整理することができる。 ④ 別府のまちづくりや特色ある産業について他地域と比較し説明できる。	○		
おもてなしの心を学ぶ	① 日本の接客業における、総合的なおもてなしの心や業務が分かることができる。 ② 日本や世界のおもてなしの心と作法をもとに、接客サービスができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
温泉文化と活用	① 温泉の活用法を知り、別府でのサービス等の情報発信ができる。 ② 他者を理解し、多様な価値観を受容することができる。 ③ 職場や地域での人的ネットワークを構築し、活用することができる。	○	○	
温泉コンシェルジュの基礎	1. 知識・理解 ① (別府) 温泉コンシェルジュに必要な基礎的な知識や資質・能力を理解し、説明できる。 ② 別府の魅力・特色の概要を知り、顧客の求める心と体の健康を癒やすための別府散策のモデル的なプログラムを作成することができる。 2. 習得する資質・能力等 ① 他人の話に耳をよく傾け、多様な価値観を受容して自分なりの意見を持って適切な対応をしようと心がけることができる。	○	○	
温泉医療療養指導論	① 健康増進にむけた温泉の利用法が説明できる。 ② 安全に温泉を利用するための重要な点をきちんと挙げることができる。	○	○	○
温泉入浴指導概論	① 温泉の観光・健康・医療・食等の総合的な企画プログラムを提案できる。 ② 温泉による健康・医療について、温泉の様々な効能と泉質の関係を説明できる。 ③ 温泉を活用した健康づくりや温泉との関係に限らず広く癒しや健康増進プログラムの指導ができる。	○	○	○
ビジネスマナー	① 日本社会で必要な基礎知識、マナーを理解することができる。 ② 面接、電話応対で用いられる日本語表現を使うことができる。 ③ 日本人のビジネススタイルや価値観を理解することができる。	○	○	○
表計算演習 I	① 数式の入力(四則演算)ができる。 ② 関数(SUM・ROUND・RANKなど)を使うことができる。 ③ 関数(IF・VLOOKUPなど)を使うことができる。 ④ グラフの作成ができる。	○		○
情報ネットワーク論	① 見出しの作成・画像の挿入ができる。 ② リンク元・リンク先の設定ができる。 ③ スタイルシートの設定ができる。 ④ HTMLやJavaScriptの編集ができる。	○		○
国際関係学総論	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に着けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○		
日本の文化	① 演習を通して、日本の文化や歴史、習慣に触れることができる。 ② 自国の文化や習慣と比較し、説明することができる。 ③ コミュニケーション能力を身につけ、協調することができる。	○	○	○
日本語実践会話	① 丁寧な日本語を使い、自分の意見を主張することができる。 ② 他者の意見に耳を傾け、コミュニケーションをとることができる。	○	○	○
日本語実践文書作成	① 日本語を用いて文章を書くことができる。 ② 自身の意見を論理立てて記述することができる。	○	○	
ビジネス日本語	① ビジネスに必要な日本語や基礎知識を理解し、運用できる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
総合日本語A	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語B	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語C	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語D	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語E	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○		
総合日本語F	① 基礎的な日本語を理解、運用できる。 ② 身近な話題で日常会話ができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を身につけることができる。	○	○	
総合日本語G	① 基礎的な漢字の意味、書き方を理解することができる。 ② 基礎的な漢字で書かれた文章を読み取ることができる。	○	○	
総合日本語H	① 簡単な日本語の音を聞き分けることができる。 ② 簡単な日本語の音声を聞き、理解し推測することができる。	○	○	
総合日本語I	① 簡単な日本語の文章を読み、理解できる。 ② 文章を読んで、簡単に意見や感想が言える。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅰ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅰ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅰ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使うことができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅰ (読解)	① 日本社会で必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 日常生活において読む力を適用できる。	○	○	
日本語中級A	① 場面や状況に応じて日本語を理解、運用できる。 ② 自分の意見や感情を簡単に伝えることができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を伸ばすことができる。	○	○	
日本語中級B	① 場面や状況に応じて日本語を理解、運用できる。 ② 自分の意見や感情を簡単に伝えることができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を伸ばすことができる。	○	○	
日本語中級C	① 場面や状況に応じて日本語を理解、運用できる。 ② 自分の意見や感情を簡単に伝えることができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を伸ばすことができる。	○	○	
日本語中級D	① 場面や状況に応じて日本語を理解、運用できる。 ② 自分の意見や感情を簡単に伝えることができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を伸ばすことができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
日本語中級E	① 既習の漢字をそれぞれの場面に沿って正しく使うことができる。 ② 漢字の語彙を増やし、意味を理解することができる。 ③ 未習の漢字を含む発展的な内容の情報を推測することができる。	○	○	
日本語中級F	① 短い文章を読んで理解し、要約することができる。 ② 内容について意見を言うことができる。	○	○	
日本語中級G	① 日本語の音声を聞き、日本語の特徴を理解することができる。 ② 習得した知識を応用して聞き取ることができる。 ③ 文脈から推測したり類推し、判断することができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。 ④ TPOに応じた日本語の使い方が理解できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅱ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使うことができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (読解)	① 日本社会に必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 日常生活において読む力を応用できる。	○	○	
日本語中上級A	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級B	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級C	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級D	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級E	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級F	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級G	① 日本語の漢字の音読み訓読みを知り、読むこと、書くことができる。 ② 日常生活でよく使う漢字の習得をし、実生活で使うことができる。	○	○	
日本語中上級H	① 日常よく接する場面における会話の「聞く力」と「話す力」を身につける。 ② 場面に応じた表現の選択が意識できるようになる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅲ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。 ④ TPOに応じた日本語の使い方を習得できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅲ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
日本語能力試験対策Ⅲ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使用することができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅲ (読解)	① 日本社会に必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 読解力を日常生活からビジネスシーンまで応用できる。	○	○	
日本語上級 A	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 B	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 C	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 D	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級 E	① 社会生活を営むために必要な会話を学び、コミュニケーション力を身につけることができる。	○	○	
日本語上級 F	① 社会生活を営むために必要な会話を学び、コミュニケーション力を身につけることができる。	○	○	
日本語上級 G	① 日本語の漢字の音読み訓読みを知り、読むこと、書くことができる。 ② 日常生活でよく使う漢字の習得をし、実生活で使うことができる。	○	○	
日本語上級 H	① CDを聞いて答える練習ができる。 ② 会話力をつけながら、実用的な日本語の力をつけることができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅳ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。 ④ TPOに応じた日本語の使い方を習得し、運用できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅳ (文字語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策	① 日本社会に必要な文字、語彙、文法の知識を修得し、運用できる。	○	○	
日本留学試験対策	① 大学等での勉強に対応できる文字、語彙、文法を修得し運用できる。	○	○	

幼児教育学科〔保育コース〕 教育課程

[令和 7 年 4 月入学生]

科 目		履修法	単位		1 年		2 年		保育士	幼稚園	社会福祉主事任用資格	ピアヘルパー	子ども食物アレルギー実務課程	准学校心理士	子ども音楽療育士	推奨科目	備 考
			必	選	春学期	秋学期	春学期	秋学期									
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ									
基礎教育	基礎科目	情報処理論	講義	2	○					★							基礎科目については 8単位以上取得すること 「国際関係学」は英語 のみで教授される
		日本国憲法	講義	2	○					★							
		ICTと教育	講義	2		○											
		ICTと社会	演習	1				○									
		大分再発見	講義	1				●									
		大分の人と学問	講義	2				○									
		国際関係学	講義	2				○									
		インターンシップ	実習	1	●	●											
		キャリア教育	講義	1	●	●	●	●									
		社会貢献演習Ⅰ	演習	1	◎												
		社会貢献演習Ⅱ	演習	1	●	●	●	●									
	外国語	英語Ⅰ	演習	1	○				★	★							英語・中国語いずれ かを2単位以上取得 すること
		英語Ⅱ	演習	2	1	○			★	★							
		中国語Ⅰ	演習	2	1	○			★	★							
		中国語Ⅱ	演習	1		○			★	★							
	体育	生涯スポーツ	講義	1	●				★	★							
		体育実技	実技	1	●	○			★	★							

科 目		履修法	単位		1 年		2 年		保育士	幼稚園	社会福祉主事任用資格	ピアヘルパー	子ども食物アレルギー実務課程	准学校心理士	子ども音楽療育士	推奨科目	備 考
			必	選	春学期	秋学期	春学期	秋学期									
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ									
専門教育科目	総合	総合表現Ⅰ	演習	2		○	○										集中を含む
		総合表現Ⅱ	演習	2				○	○								集中を含む
		卒業制作・論文	演習	2				○	○								
	原理・教育学	保育原理	講義	2	○				★								
		社会的養護Ⅰ	講義	2	○				★		◇						
		保育者論	講義	2			○		★								
		教育原理	講義	2	○				★	★							
		教職概論	講義	2	○				☆	★							
		教育方法論	講義	2			○		☆	★							
		教育課程総論	講義	2		○			★	★							
		保育・教職実践演習（幼稚園）	演習	2				○	★	★							
	心理	発達心理学	講義	2	○				★	★	★		★		☆		集中講義
		こども家庭支援の心理学	講義	2		○			★	★				☆			
		こどもの理解と援助	演習	1	○				★	★			★		☆		
		こどもの理解と保育・教育相談	講義	2			○		☆	★	★		★		☆		
	福祉	社会福祉	講義	2	○				★			◇					
		こども家庭福祉	講義	2		○			★			◇			☆		
		こども家庭支援論	講義	2			○		★			◇					
		こどもの保健	講義	2		○			★						☆		
	保健・栄養	こどもの食と栄養	演習	2			○	○	★				★				
		こどもの健康と安全	演習	1				○	★						☆		
	基礎技術	こどもの言語表現	演習	1	○												
		こどもの身体表現	演習	1	○												
		こどもの造形表現	演習	1		○											
		保育・教育の計画と文書	講義	2				○	☆								
		基礎音楽	演習	1	○										★	◇	
		音楽	演習	1		○									★	◇	
		演奏表現	演習	1			○								★	◇	
		こどもの音楽表現	演習	1			○								☆	◇	
		保育表現技術	演習	1			○		☆								

科 目	履 修 法	単 位		1 年		2 年		保 育 士	幼 稚 園 ビアヘルパー	社会福祉主事任用資格	進 学 校 心 理 士	こども食物アレルギー実務課程	こども音楽療育士	推 奨 科 目	備 考
		必	選	春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ	秋学期 4セメ								
専門教育科目	保育内容	保 育 内 容 (総 論)	演習	1	○			★	★						
		保 育 内 容 (健 康)	演習	1		○		☆	★						
		保 育 内 容 (人 間 関 係)	演習	1			○	★	★						
		保 育 内 容 (環 境)	演習	1			○	★	★						
		保 育 内 容 (言 葉)	演習	1		○		★	★						
		保 育 指 導 法 概 論	講義	2	○			☆							
		健 康 指 導 法	演習	1			○	★	★						
		人 間 関 係 指 導 法	演習	1				○	★	★					
		環 境 指 導 法	演習	1			○	○	★	★					
		言 葉 指 導 法	演習	1			○	★	★						
		保育内容(表現)の理論と方法	演習	1	○			★	★						
		音 楽 表 現 指 導 法	演習	1			○	★	★				☆		
		造 形 表 現 指 導 法	演習	1			○	☆	★						
		身 体 表 現 指 導 法	演習	1		○		★	★						
		乳 児 保 育 I	講義	2	○			★							
		乳 児 保 育 II	演習	1		○		★							
		特 別 支 援 教 育 概 論	演習	1			○	★	★		★		★		
		障 害 児 保 育	演習	1			○	★					☆		
		社 会 的 養 護 II	演習	1			○	★		◇					
		子 育 て 支 援	演習	1			○	★	★						
		児 童 文 化	演習	1	○			★							
	実習	保育実習指導Ⅰ(保育所)	演習	1	●	●		★							
		保育実習指導Ⅰ(施設)	演習	1		○		★							
		保育実習Ⅰ(保育所)	実習	2		◎		★				☆			
		保育実習Ⅰ(施設)	実習	2			◎	★							2年次 児童福祉施設他
		保育実習指導Ⅱ(保育所)	演習	1			●	●	☆						
		保育実習Ⅱ(保育所)	実習	2			◎	☆				☆			2年保いづれかを選択必修
		保 育 実 習 III	実習	2				☆							
		幼稚園教育実習指導Ⅰ	演習	1		○		★							観察実習実施
		幼稚園教育実習指導Ⅱ	講義	1			●		★						
		幼稚園教育実習Ⅰ	実習	2		○		★				☆			1年春
	その他	幼稚園教育実習Ⅱ	実習	2			◎		★			☆			2年夏
		こども音楽療育概論	講義	2	○								★		
		こども音楽療育演習	演習	1	○								★		集中9月
		こども音楽療育実習	実習	1	●	●	●						★		集中9月、12月
		インターンシップⅠ	実習	1	●	●	●	●							集中9月
		インターンシップⅡ	実習	1											
		インターンシップⅢ	実習	2											
		インターンシップⅣ	実習	2											
		社会貢献演習Ⅲ	演習	1											
		社会貢献演習Ⅳ	演習	1											

※○印は、90分授業、1コマ15週

○印は90分授業2コマ15週

◎印は規定時間実施

●印は90分授業1コマ8週

△印は統管科目

★印は各資格・免許の必修科目

☆印は各資格・免許の選択科目

保育士は☆印から9単位以上・基礎科目から8単位以上取得すること。

保育士は保育実習指導Ⅱ(保育所)を含み、保育実習Ⅱ(保育所)・保育実習Ⅲより3単位以上取得すること。

社会福祉主事任用資格は、◇印から3科目以上履修すること。

進学校心理士資格は、3科目6単位以上取得すること。

こども食物アレルギー実務課程修了証は、☆印から1単位以上取得すること。

こども音楽療育士は、☆印から12単位以上取得すること。

専門教育科目から50単位以上、基礎科目・外国語・体育を含めて62単位以上取得しなければ、卒業できない。

基礎科目「インターンシップ」は2年間で5日間以上受講すること。

基礎科目「キャリア教育」は2年間で8回以上受講すること。

社会貢献演習Ⅰ～Ⅳは2時間×8回以上の貢献をもって演習1単位とする。

都合により、開講時期や資格取得のための該当科目等が変更になることがある。

令和7年度カリキュラムマップ【2025幼児教育学科：保育コース】

建学の精神：自立・自活できる人材の育成

教育理念と3つのポリシー：学生生活ハンドブック【学生便覧】を参照してください。

幼児教育学科【ディプロマポリシー】DP

- ・教育と保育の基礎的な知識・技術が習得できる。
- ・教育と保育に関する問題や疑問を分析し、考察することができる。

フィールド		1 年生春学期 1 セメスター	1 年生秋学期 2 セメスター	2 年生春学期 3 セメスター
基礎教育	基礎科目	情報処理論 日本国憲法 社会貢献演習Ⅰ	ICTと教育	
		【通年】 社会貢献演習Ⅱ		
		【通年】 キャリア教育 インターンシップ（集中授業）		
	外国語	英語Ⅰ 中国語Ⅰ	英語Ⅱ 中国語Ⅱ	
体育	生涯スポーツ 体育実技	体育実技		
専門教育科目	総合		総合表現Ⅰ	卒業制作・論文
	原理・教育学	教職概論 教育原理 保育原理 社会的養護Ⅰ	教育課程総論	教育方法論 保育者論
	心理	発達心理学 こどもの理解と援助	こども家庭支援の心理学	こどもの理解と保育・教育相談
	福祉	社会福祉	こども家庭福祉	こども家庭支援論
	保健・栄養		こどもの保健	こどもの食と栄養
	基礎技術	こどもの身体表現 こどもの言語表現 基礎音楽	こどもの造形表現 音楽	保育表現技術 演奏表現
	保育内容	保育内容（総論） 保育指導法概論 保育内容（表現）の理論と方法 児童文化	保育内容（健康） 保育内容（言葉） 造形表現指導法 身体表現指導法 乳児保育Ⅰ	保育内容（人間関係） 保育内容（環境） 健康指導法 言葉指導法 音楽表現指導法 乳児保育Ⅱ 障害児保育
	実習		保育実習Ⅰ（保育所） 幼稚園教育実習Ⅰ	保育実習Ⅰ（施設） 保育実習Ⅱ（保育所）/保育実習Ⅲ 幼稚園教育実習Ⅱ
		保育実習指導Ⅰ（保育所）		保育実習指導Ⅱ（保育所）
			幼稚園教育実習指導Ⅰ	
			幼稚園教育実習指導Ⅱ	
		【通年】 保育実習指導Ⅰ（施設） 幼稚園教育実習指導		
	その他	こども音楽療育概論 こども音楽療育演習（集中）		レクリエーション演習
		こども音楽療育実習		
		【通年】 インターンシップⅠ インターンシップⅡ インターンシップⅢ		

- ・こどもを受容し、共感的態度で接することができる。
- ・自己の課題を見つけ、目標に向けて努力ができる。

2年生秋学期 4セメスター		卒業制作・論文の完成と披露・検定試験や資格の取得	希望する卒業後の進路（就職・進学等）の内で	卒業と同時に取得をめざす資格				
大分再発見 大分の人と学問 国際関係学 ICTと社会 生物学				児童指導員任用資格	こども音楽療育士	こどもアレルギー実務課程修了証	上級救命講習修了証	准学校心理士
						ピアヘルパー（准子育て支援教育カウンセラー）	社会福祉主事任用資格	保育士資格
						幼稚園教諭二種免許		
総合表現Ⅱ 卒業制作・論文 保育・教職実践演習（幼稚園）								
こどもの健康と安全 保育・教育の計画と文書 こどもの音楽表現								
人間関係指導法 言葉指導法 環境指導法 特別支援教育概論 社会的養護Ⅱ 子育て支援								
レクリエーション演習								
インターンシップⅣ（集中授業）								

幼児教育学科〔保育コース〕 到達目標一覧表

[令和7年4月入学生]

科目名	授業目標	知識	主体性	就業力
情報処理論	① 情報実務に関する基本的な用語を説明できる。 ② 情報実務で必要な情報機器の基本的な操作ができる。	○		○
日本国憲法	① 憲法の役割を理解する。 ② 憲法が保護する内容を正しく理解する。	○	○	
ICTと教育	① 情報を収集・分析し、適切な表現方法を選択することができる。 ② 聴衆の理解を促すわかりやすいスライドを作成できる。 ③ プレゼンテーションソフトの基本的な操作ができる。	○	○	○
生物学	① 身体に関する正しい知識を身につけることができる。 ② いろいろな生きものの姿や行動を理解できる。 ③ 保育現場で活用できる生きものに対する知識を得ることができる。	○		
ICTと社会	① 情報社会の現状を理解し、健全な情報社会の一員として社会に参画できる。 ② 情報リテラシーを身に着ける。 ③ 受け取った情報を活用し、自身の考えを他者へプレゼンテーションする力を身につける。	○	○	○
大分再発見	① 大分県に残る朝鮮半島からの影響について学習する。 ② 県内各地の行事について理解を深める。	○	○	
大分の人と学問	① 講義内容の要約及び感想・意見、大分の特色や課題などを他者に説明できる。 ② 講義内容から派生的な課題を自ら見つけ、文章として論述することができる	○	○	
国際関係学	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に着けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○	○	○
インターンシップ	① 社会体験を学生生活にフィードバックさせ学修に活かすことができる。 ② 職業に関する興味や関心、適正を自ら考えることができる。	○	○	○
キャリア教育	① 企業への就職や社会生活を通じた自己実現について熟慮する。 ② 大学卒業後に社会人として生きるための基礎力をつける。 ③ 現在の地域社会に必要なキャリア形成について説明できる。	○	○	○
社会貢献演習Ⅰ	① 地域交流と社会貢献の必要性を理解し、その実現を考える。 ② 社会貢献活動を通じて、地域社会の課題を理解する。	○	○	○
社会貢献演習Ⅱ	① 地域貢献活動を通して、自立・自覚できるようになる。 ② 社会活動を実践しながら、保育者としての対人技術を習得する。 ③ 様々な状況において、臨機応変に対応することができるようになる。	○	○	○
英語Ⅰ	① 保育現場で役に立つ実践的な英語スキルを習得できる。 ② 講義中をとおし異文化について理解・考察ができる。 ③ 様々なアクティビティをとおし多文化共生社会について考察できる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
英語Ⅱ	① 保育現場で役に立つ実践的な英語スキルを習得できる。 ② 講義中をとおし異文化について理解・考察ができる。 ③ 様々なアクティビティをとおし多文化共生社会について考察できる。	○	○	
中国語Ⅰ	① 中国語による基礎的なコミュニケーションができる。 ② 文化体験授業を通して、基本的な知識を身につけることができる。	○	○	○
中国語Ⅱ	① 中国語の基礎的なコミュニケーションのスキルを向上できる。 ② 文化体験授業を通して、中国に対する理解を深めることができる。	○	○	○
生涯スポーツ	① 健康・運動・スポーツの実践の基盤となる理論的な事柄について理解できる。 ② 健康・体力・運動について正しい知識を身につけることができる。 ③ 様々な生活習慣病について学び、運動・栄養・休養との関係を理解できる。	○	○	○
体育実技	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをとおしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	
総合表現Ⅰ	① こどもの援助者として、音楽・美術・体育表現を自らが実践する。 ② 実践過程から園児の学びにつながる表現技術を学ぶ。 ③ 集団行動を通して仲間との連携力やスピード感を身に着ける。 ④ 専門職の基本態度としてのPDCAサイクルを身につける	○	○	○
総合表現Ⅱ	① こどもの援助者として、音楽・美術・体育表現を自らが実践する。 ② 実践過程から園児の学びにつながる表現技術を学ぶ。 ③ 集団行動を通して仲間との連携力やスピード感を身に着ける。 ④ 専門職の基本態度としてのPDCAサイクルを身につける。	○	○	○
卒業制作・論文	① 保育者の視座からグループで協働し、分析、考察する。 ② 論理的に証明し、説得的な文章を構成・執筆できる力を身につける。 ③ 専門職としての課題を追求する力とその上で課題解決に取り組む基礎的な技術を身につける。 ④ 保育現場で自分の課題を明確に持ち探求力を身につける。	○	○	○
保育原理	① 保育の目的について理解し記述したり述べたりすることができる。 ② 保育の法令や制度を理解し記述したり述べたりすることができる。 ③ 保育の基本について理解し記述したり述べたりすることができる。 ④ 保育思想について理解し記述したり述べたりすることができる。	○	○	○
社会的養護Ⅰ	① 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷を理解する。 ② 児童福祉と社会的養護の関連性や児童の権利擁護について理解する。 ③ 制度体系や実施体系について理解する。 ④ 児童の人権擁護及び自立支援を理解する。	○	○	
保育者論	① 保育者の役割と倫理について理解できる。 ② 保育士の制度的な位置づけや専門性について理解できる。 ③ 保育者の連携・協働について理解できる。 ④ 保育者の資質向上とキャリア形成について理解できる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
教育原理	① 教育の意義、教育の目的、乳幼児期の教育の特性を理解し、記述したり述べたりすることができる。 ② 教育思想や歴史の変遷について理解し、記述したり述べたりすることができる。 ③ 教育実践の基礎理論（内容・方法・計画と評価）について理解し、記述したり述べたりすることができる。	○	○	○
教職概論	① 教職の意義と役割を理解している。 ② 職員組織及び職務内容を理解している。 ③ 教育の動向と課題への組織的対応の重要性を理解している。（その他、別紙参照）	○	○	
教育方法論	① 効果的な教育方法について基礎的な知識を理解し、その技術を身に付ける。 ② 幼児の実態に合わせ保育の工夫や改善を図ることができる。 ③ 教材作成、校務活動などに情報機器を活用できる。	○	○	○
教育課程総論	① 教育課程及び全体的な計画並びに指導計画の意義と目的を理解している。 ② 実際の保育を意識した指導計画が作成できる。	○	○	
保育・教職実践演習 （幼稚園）	① 保育や教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとすることができる。 ② 保育者や教員としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じて適切な言動をとることができる。 ③ 子どもに対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができる。 ④ 話し方、表情など保育を行う上での基本的な表現力や保育技能を身に付けており、活用したり表現したりすることができる。	○	○	○
発達心理学	① 幼児・児童・生徒の心身の発達と学習の過程を説明できる。 ② 生涯発達の理論と各年齢段階の心理的特徴を説明できる。 ③ 障がい児も含めて言語・認知・社会性の発達を説明できる。	○	○	
こども家庭支援の 心理学	① 発達と学習の過程、生活と遊びを通した保育・教育実践を理解する。 ② 家族・家庭の意義や機能を発達の観点から理解する。 ③ 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題を理解する。 ④ 子どもの心の健康とその課題について理解する。	○	○	
こどもの理解と援助	① こどもの理解を深める基礎的な方法を理解する。 ② こどもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本を理解する。 ③ 体験や学びの過程におけるこどもを理解する視点を身につける。 ④ 発達と学習の過程、生活と遊びを通した保育・教育実践を理解する。	○	○	○
こどもの理解と保育・ 教育相談	① こどもの理解の意義、理論と方法を理解する。 ② 保育・教育相談の目的と内容を理解する。 ③ カウンセリングの基礎知識や技法を理解する。 ④ 保育・教育相談の理論と方法を理解する。	○	○	○
社会福祉	① 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 ② 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 ③ 社会福祉における相談援助について理解する。 ④ 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 ⑤ 社会福祉の動向と課題について理解する。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
こども家庭福祉	① 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 ② 子どもの人権擁護について理解する。 ③ 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 ④ 子ども家庭福祉の現場と課題について理解する。 ⑤ 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。	○	○	○
こども家庭支援論	① 子育て家庭への支援の意義・目的を理解できる。 ② 保育を活かした家庭支援の意義と基本を理解できる。 ③ 子育て家庭の支援体制、園内外での連携を理解できる。 ④ 子育て支援の多様性と実践の現状、課題を理解できる	○		
こどもの保健	① 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解することができる。 ② 子どもの身体的発育・発達と保健の意義について理解することができる。 ③ 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解することができる。 ④ 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解することができる。	○	○	○
こどもの健康と安全	① 保育保健活動の意義を理解できる。 ② 乳幼児の身体の基礎知識（発育・発達）を理解し各保育技術（排泄世話 保清 栄養補助）を習得することが出来る。 ③ 乳幼児の疾患感染症について理解し演習及び実習で活かすことが出来る。 ④ 現在の子どもを取り巻く環境や児童福祉のあり方を理解することが出来る。 ⑤ 保育士としての知識 技術を身につけ保育士としての役割を理解できる。	○	○	
こどもの食と栄養	① 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を深める。 ② 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 ③ 食育の基本と園の内容及び食育のための環境を地域社会、文化との関わりの中で理解できる。 ④ 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 ⑤ 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解できる。	○	○	○
こどもの言語表現	① 保育の現場で求められるコミュニケーション力を修得する。 ② 正しい日本語を指導することができるスキルを修得する。 ③ こどもの言語表現を理解する力を身に付ける。	○	○	○
こどもの身体表現	① 身体表現活動における基本的知識や技術を習得する。 ② 身体表現活動におけるバランス能力の重要性を理解する。 ③ 身体表現活動に関わる教材等の活用及び作成技術を習得する。 ④ 身体表現活動におけるこどものつまづきを解決する指導方法を習得する。	○	○	○
こどもの造形表現	① 子どもの成長にとって造形表現がなす意味と効果を理解する。 ② 子どもの創造と鑑賞を援助するために必要な道具の適切で安全な使用方法を習得する。 ③ 子どもの創造と鑑賞を援助するために必要な造形素材の扱いを習得する。 ④ 子どもの創造と鑑賞を援助するために必要な造形技術を習得する。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
保育・教育の計画と文書	① 保育内容の充実と質の向上に資する保育計画及び評価について理解し、記述したり述べたりすることができる。 ② 全体的な計画と指導計画の作成についての意義と方法を理解し、記述したり述べたりすることができる。 ③ 子ども理解に基づく保育過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を理解し記述したり述べたりすることができる。 ④ 子どもの成長を図るとともに保育実践力を高める記録方法や記録の視点について理解することができる。 ⑤ 子ども理解に基づく保育過程を学ぶとともに、保育実践力や表現力を高めることができる。	○	○	○
基礎音楽	① 楽譜を表現するための基本的な理論や技法を理解することができる。 ② 幼児教育に関わる様々な歌に興味関心を持ち、感性を身に付けることができる。 ③ ピアノの基礎的テクニックを学び、習得に向けて自己研鑽することができる。	○	○	○
音楽	① 楽譜を表現するための基本的な理論や技術を継続して学び、高めることができる。 ② 幼児教育に関わる様々な歌の理解と表現を深め、“豊かな感性”へ発展できる。 ③ 基本的なコードを学び、コード演奏の実践を目指す。 ④ ピアノ演奏での表現力を学び、習得に向けて自己研鑽することができる。	○	○	○
演奏表現	① 「基礎音楽」「音楽」の内容を継続し、技術力、表現力を向上させることができる。 ② ピアノ以外の楽器奏法も学び、集団での表現方法について理解できる。 ③ 音楽表現の向上に向けて取り組む主体性と計画性を身に付けることができる。 ④ 音楽活動を使用した「幼児期に育てたい10の姿」に繋げる実践力を修得する。	○	○	○
こどもの音楽表現	① 「基礎音楽」「音楽」の内容を継続し、技術力、表現力を向上させることができる。 ② 「ひきうたい」の実践力、表現力を強化することができる。 ③ ピアノ以外の楽器奏法も学び、集団での表現方法の幅を広げることができる。 ④ 音楽活動を使用した「幼児期に育てたい10の姿」に繋げる実践力を向上させることができる。	○	○	○
保育表現技術	① 保育者に求められる豊かな表現力を身に付ける。 ② 表現技法の制作・実演を通して表現力を養う。 ③ 様々な道具・素材を使用して保育教材を作成し、保育に活かすことができるようになる。	○	○	○
保育内容（総論）	① 領域それぞれの学問的な背景や基盤となる考え方を総合的に捉えることができる。 ② 実践的事例を示すことで、保育実践力を身に付けることができる。	○	○	○
保育内容（健康）	① 健康な心と体を育む「健康」の基礎知識を身につける。 ② 発育・発達の特徴や安全な生活などの専門的事項を理解する。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
保育内容（人間関係）	① 領域「人間関係」のねらい及び内容について説明できる。 ② 幼児の生活と遊びの特性を理解し、発達の見通しをもって保育を構想する視点を身に付け活用できる。 ③ 保育の実践事例をもとに、指導上の留意点について理解し、教材研究の視点を身につけ活用できる。 ④ 領域「人間関係」の特性を踏まえ、保育計画を立案・実施し、振り返りを通して保育を改善する視点を身につけ活用できる。	○	○	
保育内容（環境）	① 教育、領域環境、保育内容の基礎的な知識・技術を習得できる。 ② 教育と保育に関する問題や疑問を分析し、考察できる。 ③ こどもを受容し環境を通して、共感的態度で接することができる。 ④ 自己の課題を見つけ、目標に向けて努力ができる。	○	○	
保育内容（言葉）	① なぜ人が「言葉」を使うのかを考察したり、「言葉」が持つ機能や社会的意義について理解したりすることができる。 ② 領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。 ③ 乳幼児の言葉の発達・課題・保育士等の役割について理解・考察することができる。	○	○	○
保育指導法概論	① 保育現場で要求される実践的態度を身につける。 ② 観察や記録の観点を習得する。 ③ 保育内容と子どもの理解とのかかわりについて理解する。 ④ 保育内容を理解したうえでその指導法を修得する。	○	○	○
健康指導法	① 領域「健康」及び保育内容指導法の基礎的な知識・技術を理解できる。 ② 安全に配慮した運動遊びの行い方を理解し、指導案を作成し指導ができる。 ③ 健康に関する基本的生活習慣の獲得のための指導案の作成と指導ができる。	○	○	○
人間関係指導法	① 5領域における人間関係の内容とねらいを理解できる。 ② 保育現場における人間関係のあり方を理解できる。 ③ 「人とのかかわり力」について高めることができる。	○	○	○
環境指導法	① 教育、領域環境、保育内容指導法の基礎的知識技術を習得できる。 ② 教育と保育に関する問題や疑問を分析し、考察できる。 ③ こどもを受容し環境を通して共感的な態度で接することができる。 ④ 自己の課題を見つけ、目標に向けて努力ができる。	○	○	○
言葉指導法	① 言葉の指導における幼児教育の基本と保育者の役割を理解する。 ② 言葉の指導法について理解し、その技術を習得することができる。 ③ 言葉の指導法における問題を分析し、考察することができる。	○	○	○
保育内容（表現）の理論と方法	① 乳幼児の遊びや生活における領域「表現」について説明できる。 ② 身近なものを五感で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。 ③ 乳幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 ④ 乳幼児が安心感と安定感をもつよう援助や関わりができる。	○	○	○
音楽表現指導法	① 領域「表現」領域のねらい及び内容について理解できる。 ② 乳幼児の発達と音楽表現の関連性について理解できる。 ③ 音楽表現における知識、技術を踏まえた指導を実践できる。 ④ 他者の表現を受けとめ、共感する視点を持つことができる。	○	○	○
造形表現指導法	① 幼児期の子どもの成長段階や障害に応じた造形表現指導に必要な知識と技法を習得する。 ② 子どもの成長にとって造形表現がなす意味と効果を理解し、適切な援助のあり方を探求する。 ③ 様々な造形表現技術を応用し、子どもに豊かな創造と想像の機会を提供することができるよう実践経験を積む。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
身体表現指導法	① こどもの発達と運動機能に関する知識や技術を理解する。 ② こどもたちが全身を使い自分なりに表現できる方法を修得する。 ③ こどもたちの豊かな感性に対応するための技術を理解する。 ④ こどもたちのお手本となり、生き生きと豊かな表現ができる。	○	○	○
乳児保育Ⅰ	① 乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割を知る。 ② 保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解し説明することができる。 ③ 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と運営体制について理解することができる。 ④ 乳児保育における職員間の連携及び保護者や地域の関係機関との連携を知る。	○	○	
乳児保育Ⅱ	① 乳児保育の計画を作成し、保育方法や環境構成、記録等について理解し考察することができる。 ② 乳児保育における子どもの生活や遊び、環境について養護と教育の一体性を理解することができる。 ③ 乳児保育における配慮の実践について事例を通して実践の方法を習得することができる。	○	○	
特別支援教育概論	① 特別な支援を必要とする各種障害の特性や心身の発達過程、各種制度の概要等を理解する。 ② インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の知識や特別支援の方法を理解する。 ③ 多職種や関係機関、家庭との連携等、組織対応する意味を理解する。 ④ 特別の教育的ニーズが必要とされるケースの理解と対応について学んでいく。	○	○	
障害児保育	① 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 ② 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 ③ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 ④ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 ⑤ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。	○	○	○
社会的養護Ⅱ	① 児童の権利擁護等社会福祉に必要な法律を理解する。 ② 施設養護及び社会的養護の実践を理解する。 ③ 個々の児童に応じた支援計画の作成することができる。	○	○	○
子育て支援	① 保護者への支援方法やその展開を理解できる。 ② 子育て支援の内容と方法、技術を理解できる。 ③ 支え合う関係を築く基礎態度（ピアヘルピング）を身につける。 ④ 教育カウンセリングの考え方や手法を理解できる。	○		
児童文化	① こどもの心身の発達や取り巻く環境と保育所保育指針の内容を理解できる。 ② 保育における児童文化財の活用と具体的展開のための実践法を理解できる。 ③ 子どもの発達段階に応じた生活と遊びを展開するための技術を理解できる。	○	○	○
保育実習指導Ⅰ （保育所）	① 保育所の意義・目的を理解する。 ② 子どもの人権と最善の利益・守秘義務等について理解する。 ③ 実習の計画から評価まで、その方法や内容を理解する。 ④ 事後指導を通して、新たな課題や学習目標を明確にする。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
保育実習指導Ⅰ (施設)	① 施設実習の意義・目的、内容、方法を理解する。 ② 施設実習のために必要な知識・技術を習得する。 ③ 施設における保育士に求められる力を理解する。 ④ 各自の課題を明確にし、今後の実習や学習に対する意欲を持つ。	○	○	
保育実習Ⅰ(保育所)	① 保育所の役割や機能を体験する。 ② 子どもとの関わりをとおして子どもへの理解を深める。 ③ 保育計画・観察・記録及び自己評価等を経験する。 ④ 保育士の業務内容や職務倫理について具体的に学ぶ。	○	○	○
保育実習Ⅰ(施設)	① 施設の特徴・役割・機能を理解する。 ② 子どもとの関わりをとおして子どもへの理解を深める。 ③ 保育計画・観察・記録及び自己評価等を通して施設保育士について理解する。 ④ 施設保育士の業務内容や職務倫理について理解する。	○	○	○
保育実習指導Ⅱ (保育所)	① 保育所の意義・目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 ② 既習の教科や実習を通して、保育実践力を養う。 ③ 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ④ 実習の総括と自己評価を行い、課題や認識を明確にする。	○	○	○
保育実習Ⅱ(保育所)	① 保育士としての専門性・職業倫理を実践の中で理解する。 ② 子どもとの関わりを通して保育の理解を深める。 ③ 保育計画から自己評価まで、実際に取り組み理解を深める。 ④ 保育に対する課題や認識を明確にする。	○	○	○
幼稚園教育実習指導Ⅰ	① 幼保連携型認定こども園と幼稚園の特性を理解することができる。 ② 教育実習の意義や基本的な心構え等を理解し意識を高め、具体的な目標を持ち挑むことができる。 ③ 教育実習の振り返りを的確に行うことができる。 ④ ブラクティスマップや履修カルテを通して個人の課題(教員免許取得までに修得すべき知識や技能等)を明確にすることができる。	○	○	○
幼稚園教育実習指導Ⅱ	① 幼稚園(幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園)の特性を深く理解することができる。 ② 教育実習の意義や基本的な心構え等を深く理解し意識を高め、具体的な実践目標を持つことができる。 ③ 教育実習の振り返りを的確に行うことができる。 ④ 履修カルテを通して自らの課題(教員免許取得までに修得すべき知識や技能等)を明確に持つことができる。	○	○	○
幼稚園教育実習Ⅰ	① 幼児一人一人に寄り添った幼稚園教諭の働きかけや様々な援助を観察することができる。 ② 幼児を観察したり幼児と共に活動したりする中で、幼児の心や気持ち・心身の発達状況を考え汲み取ることができる。 ③ 観察したり積極的に質問したりするなど、意欲的に観察実習に参加することができる。	○	○	○
幼稚園教育実習Ⅱ	① 愛情豊かに幼児一人一人の心に寄り添い、共感的・受容的・応答的に関わり、幼児一人一人との信頼関係を構築する。 ② 設定保育や日々の実習体験を通して表現力や保育思考力、保育実践力を高める。 ③ 意欲的に質問を行い適切な保育環境構成や援助方法を学び取るとともに、積極的に設定保育や教材準備を行う。 ④ 意欲的・積極的に動き、幼児教育の職務や職務に向かう姿勢を先輩教師から学び取る。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
レクリエーション概論	① 遊びの組み立て方や、指導法について理解することができる。 ② 主体的に活動するための方法を習得する。	○	○	○
レクリエーション演習	① 遊びの組み立て方や指導法について理解し、実践することができる。 ② 主体的に活動するための方法を習得できる。	○	○	○
こども音楽療法概論	① 障害のあるこどもの音楽療育に関する基本理念や理論や知識について理解できる。 ② 対象児の発達過程と音楽活動の役割、音楽と遊びの関係について理解できる。 ③ 音楽療育の意義を理解し、障害種別の具体的援助方法について考えることができる。	○	○	○
こども音楽療育演習	① 障害のあるこどもを対象とした音楽療育における必要な基礎的音楽知識と技術を身につけ、それを活用できる。 ② 対象児の発達過程と音楽活動を関連付け、音楽や内容を構成することができる。 ③ 音楽療育の意義を理解し、障害種別の具体的援助方法を実践できる。	○	○	○
こども音楽療育実習	① 実習の意義、目的が理解できる。 ② 実習を通して、現場での対象児への関わりについて観察し、計画、実践、考察、記録の書き方が理解できる。 ③ 実習を通して対象児への理解を深め、自己を客観的に振り替えることができる。	○	○	○

幼児教育学科〔福祉・介護コース〕 教育課程

[令和7年4月入学生]

科 目		履修法	単 位		1 年		2 年		介護福祉士	介護保険実務士	インストラクター	福祉レクリエーション ワーカール	社会福祉主事任用資格	備 考
			必	選	春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ	秋学期 4セメ						
基礎教育	基礎科目	人 間 関 係 論 講義	2				○					★	★	基礎科目については 8単位以上取得すること 「国際関係学」は英語のみで 教授される
		コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論 講義	2	○			○					★	★	
		人 権 教 育 概 論 講義	2				○					★	★	
		情 報 処 理 論 講義	2				○			★				
		I C T と 社 会 演習	1			○								
		I C T の 活 用 演習	2					○						
		大 分 の 人 と 学 問 講義	2			○								
		国 際 関 係 学 講義	2					○						
		社 会 貢 献 演 習 I 演習	1		●	●	●	●						
		社 会 貢 献 演 習 II 演習	1		●	●	●	●						
		キ ャ リ ア 教 育 講義	1		●	●	●	●		★				
	外国語	英 語 I 演習	1		○					★				
		英 語 II 演習	1			○				★				
	体育	運 動 ス ポ ー ツ I 演習	1		○					★	★	★		
		運 動 ス ポ ー ツ II 演習	1			○				★	★	★		

科 目		履修法	単 位		1 年		2 年		介護福祉士	介護保険実務士	インストラクター	福祉レクリエーション ワーカール	社会福祉主事任用資格	備 考
			必	選	春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ	秋学期 4セメ						
専門教育科目	基礎技術	こ だ も の 言 語 表 現 演習	1	○										
		こ だ も の 身 体 表 現 演習	1	○										
		こ だ も の 造 形 表 現 演習	1		○									
		保 育 ・ 教 育 の 計 画 と 文 書 講義	2					○						
		基 礎 音 楽 演習	1	○										
		音 楽 演習	1		○									
		演 奏 表 現 演習	1			○								
		こ だ も の 音 楽 表 現 演習	1				○							
		保 育 表 現 技 術 演習	1				○							
	人間の 理解	人 間 の 尊 厳 と 自 立 講義	2		○				◇	◇				
		人間関係とコミュニケーション 講義	4		○	○			◇	◇				
	社会の 理解	社 会 の 理 解 I 講義	2		○				◇	◇		◇		
		社 会 の 理 解 II 講義	2			○			◇	◇		◇		
	介護の 基本	現 代 社 会 論 講義	2			○			◇	◇				
		社 会 福 祉 概 論 講義	2			○			◇	◇		◇	◇	
		社 会 薬 理 学 講義	2					○	◇	◇				
		介 護 の 基 本 I 講義	4		○	○			◇	◇		◇		
		介 護 の 基 本 II 講義	4				○	○	◇	◇		◇		
		リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 論 講義	2		○				◇	◇		◇	◇	
		介 護 保 険 講義	2				○		◇	◇				
	コミュニケー ション技術	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 術 I 演習	1		○				◇	◇		◇		
		コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 術 II 演習	1			○			◇	◇		◇		
	生活支援 技術	生 活 支 援 技 術 I - A 演習	1		○				◇	◇		◇		
		生 活 支 援 技 術 I - B 演習	1					○	◇	◇		◇		
		生 活 支 援 技 術 II - A 演習	2		○○				◇	◇		◇		
		生 活 支 援 技 術 II - B 演習	2			○○			◇	◇		◇		
		生 活 支 援 技 術 III 演習	2				○○		◇	◇		◇		
		家 政 学 実 習 演習	2		○○				◇	◇		◇		
		生 活 支 援 実 習 演習	2					○○	◇	◇		◇		

科 目		履 修 法	単 位	1 年		2 年		介護福祉士	介護保険実務士	インストラクター	福祉レクリエーション ワーカール	社会福祉士主任任用資格	備 考
				必 選	春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ	秋学期 4セメ					
専門教育科目	介護過程	介護過程Ⅰ	演習	1	○				◇	◇			
		介護過程Ⅱ	演習	1		○			◇	◇			
		介護過程Ⅲ	演習	2			○	○	◇	◇			
		介護過程Ⅳ	演習	1				○	◇	◇			
	介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	演習	1	○				◇	◇			
		介護総合演習Ⅱ	演習	1		○			◇	◇			
		介護総合演習Ⅲ	演習	1			○		◇	◇			
		介護総合演習Ⅳ	演習	1				○	◇	◇			
	介護実習	介護実習Ⅰ－1	実習	2		◎◎			◇	◇			
		介護実習Ⅰ－2	実習	3			◎◎		◇	◇	◇		
		介護実習Ⅱ	実習	5				◎◎	◇	◇	◇		
	発達と老化の理解	心 理 学	講義	2	○				◇	◇		◇	
		発 達 と 老 化 の 理 解	講義	2		○			◇	◇			
	認知症の理解	認 知 症 の 理 解 Ⅰ	講義	2	○				◇	◇			
		認 知 症 の 理 解 Ⅱ	講義	2			○		◇	◇			
	障害の理解	障 害 の 理 解 Ⅰ	講義	2		○			◇	◇	◇		
		障 害 の 理 解 Ⅱ	講義	2			○		◇	◇	◇		
	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ－A	講義	2	○				◇	◇			
		こころとからだのしくみⅠ－B	講義	2	○				◇	◇	◇		
		こころとからだのしくみⅡ	講義	2		○			◇	◇			
		こころとからだのしくみⅢ	講義	2			○		◇	◇	◇		
	医療的ケア	医 療 的 ケ ア Ⅰ－A	講義	2		○			◇				
		医 療 的 ケ ア Ⅰ－B	講義	2		○			◇				
		医 療 的 ケ ア Ⅱ	演習	2			○	○	◇				
	日本語	介 護 の こ と ば Ⅰ	演習	2	○	○							
		介 護 の こ と ば Ⅱ	演習	2		○	○						
		日 本 語 中 上 級 A	演習	1	○								
		日 本 語 中 上 級 B	演習	1	○								
		日 本 語 中 上 級 C	演習	1	○								
		日 本 語 中 上 級 D	演習	1	○								
		日 本 語 中 上 級 E	演習	1	○								
		日 本 語 中 上 級 F	演習	1	○								
		日 本 語 上 級 A	演習	1		○							
		日 本 語 上 級 B	演習	1		○							
		日 本 語 上 級 C	演習	1		○							
		日 本 語 上 級 D	演習	1		○							
		日 本 語 上 級 E	演習	1		○							
		日 本 語 上 級 F	演習	1		○							
		日本語能力試験対策Ⅰ（聴解）	演習	1	○								
		日本語能力試験対策Ⅰ（文字・語彙）	演習	1	○								
		日本語能力試験対策Ⅰ（文法）	演習	1	○								
		日本語能力試験対策Ⅰ（読解）	演習	1	○								
		日本語能力試験対策Ⅱ（聴解）	演習	1		○							
		日本語能力試験対策Ⅱ（文字・語彙）	演習	1		○							
		日本語能力試験対策Ⅱ（文法）	演習	1		○							
		日本語能力試験対策Ⅱ（読解）	演習	1		○							
		介 護 の 日 本 語 A	演習	2	○	○							
		介 護 の 日 本 語 B	演習	2	○	○							
		介 護 の 日 本 語 C	演習	2		○	○						
		介 護 の 日 本 語 D	演習	2		○	○						
		ビ ジ ネ ス マ ナ ー	講義	2	○								
		日 本 の 文 化	演習	1	○								
		日 本 事 情 Ⅰ	講義	2	○								
		日 本 事 情 Ⅱ	講義	2		○							

科 目			履 修 法	単位		1 年		2 年		介護福祉士	介護保険実務士	福祉レクリエーション ワーカー	福祉レクリエーション インストラクター	社会福祉主事任用資格	備 考	
				必	選	春学期	秋学期	春学期	秋学期							
						1セメ	2セメ	3セメ	4セメ							
福祉関連科目	総 合	卒 業 研 究	演習	3				○	○○		◇				プレゼン含む	
		介 護 事 務 演 習	演習	1					○		◇					
		福 祉 レ ク リ エ ー シ ョ ン 論	講義	2				○					◇			
		福祉レクリエーション援助技術	演習	2				○	○				◇			
		福祉レクリエーション援助論	講義	2					○				◇			
		福 祉 環 境 論	講義	2				○					◇			
		レ ク リ エ ー シ ョ ン 論	講義	2			○					◇				
		レクリエーション活動援助法Ⅰ	演習	1	○							◇				
		レクリエーション活動援助法Ⅱ	演習	1			○					◇				
		ボ ラ ン テ ィ ア 概 論	講義	2					○	○						
		ボ ラ ン テ ィ ア 演 習	演習	4					○○	○○						
		福 祉 総 合 演 習 Ⅰ	演習	3	○		○○									
		福 祉 総 合 演 習 Ⅱ	演習	3					○	○○						
その他	その他	イ ン タ ー ン シ ッ プ Ⅰ	実習	1												
		イ ン タ ー ン シ ッ プ Ⅱ	実習	1												
		イ ン タ ー ン シ ッ プ Ⅲ	実習	2												
		イ ン タ ー ン シ ッ プ Ⅳ	実習	2												

※○印は、90分授業、1コマ15週

○○印は、90分授業、2コマ15週

◎印は規定時間実施

●印は、各資格・免許・コースの必修科目

◇印は、各資格・免許・コースの必修科目

基礎科目・外国語・体育・専門科目より71単位以上取得しなければ卒業できない。

基礎科目「社会貢献演習Ⅰ・Ⅱ」は、2時間×8回以上の貢献をもって演習1単位とする。

キャリア教育は2年間を通じて8回以上受講すること。

レクリエーション・インストラクター資格は、科目の履修・外部レク事業の参加を必要とする。

都合により、開講時期が変更になることがある。

令和7年度カリキュラムマップ【2025幼児教育学科：福祉・介護コース】

建学の精神：自立・自活できる人材の育成

教育目標と3つのポリシー：学生生活ハンドブック【学生便覧】を参照してください。

介護福祉学科【ディプロマポリシー】DP

- ・福祉現場で求められる日本語運用力および専門的な知識、技術を身につけることができる。
- ・多様化する社会で、人の健康や生活を大切に、積極的に地域社会に参画できる。

フィールド		1年生春学期 1セメスター	1年生秋学期 2セメスター	2年生春学期 3セメスター
基礎教育	基礎科目	コミュニケーション論	大分の人と学問	人間関係論 人権教育概論 情報処理論
		【通年】キャリア教育 社会貢献演習Ⅰ 社会貢献演習Ⅱ		
	外国語	英語Ⅰ	英語Ⅱ	
幼児関連科目	体育	運動スポーツⅠ	運動スポーツⅡ	
	基礎技術	こどもの身体表現 こどもの造形表現 基礎音楽	こどもの言語表現 音楽	演奏表現 保育表現技術
		人間の尊厳と自立 人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーション	
専門科目	人間の理解	人間の尊厳と自立 人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーション	
	社会の理解	社会の理解Ⅰ	社会の理解Ⅱ	
	選択科目		社会福祉概論	現代社会論
	介護の基本	介護の基本Ⅰ リハビリテーション論	介護の基本Ⅰ	介護の基本Ⅱ 介護保険
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術Ⅰ	コミュニケーション技術Ⅱ	
	生活支援技術	生活支援技術Ⅰ-A 生活支援技術Ⅱ-A 家政学実習	生活支援技術Ⅱ-B	生活支援技術Ⅲ
	介護過程	介護過程Ⅰ	介護過程Ⅱ	介護過程Ⅲ
	介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	介護総合演習Ⅱ	介護総合演習Ⅲ
	介護実習		介護実習Ⅰ-1	介護実習Ⅰ-2
	発達と老化の理解	心理学	発達と老化の理解	
	認知症の理解	認知症の理解Ⅰ		認知症の理解Ⅱ
	障害の理解		障害の理解Ⅰ	障害の理解Ⅱ
	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ-A こころとからだのしくみⅠ-B	こころとからだのしくみⅡ	こころとからだのしくみⅢ
	医療的ケア		医療的ケアⅠ-A 医療的ケアⅠ-B	
	日本語	介護のことばⅠ 日本語中上級A 日本語中上級B 日本語中上級C 日本語中上級D 日本語中上級E 日本語中上級F 日本語能力試験対策Ⅰ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅰ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅰ（文法） 日本語能力試験対策Ⅰ（読解） 介護の日本語A 介護の日本語B ビジネスマナー 日本の文化 日本事情Ⅰ	介護のことばⅡ 日本語上級A 日本語上級B 日本語上級C 日本語上級D 日本語上級E 日本語上級F 日本語能力試験対策Ⅱ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅱ（文字語彙） 日本語能力試験対策Ⅱ（文法） 日本語能力試験対策Ⅱ（読解） 介護の日本語C 介護の日本語D	
福祉関係科目		レクリエーション活動援助法Ⅰ 福祉総合演習Ⅰ	レクリエーション論 レクリエーション活動援助法Ⅱ 福祉総合演習Ⅰ	卒業研究 福祉レクリエーション論 福祉レクリエーション援助技術 福祉環境論 ボランティア概論 ボランティア演習 福祉総合演習Ⅱ

2年生秋学期 4セメスター		希望する卒業後の進路（就職・進学等）の内定 専門性の高いエビデンスに基づいた、現場実践に結びつく確かな知識・技術の取得
ICTの活用 国際関係学		
保育・教育の計画と文書 こどもの音楽表現		
プレゼンテーション論 社会薬理学 介護の基本Ⅱ		
生活支援技術Ⅰ－B 生活支援実習		
介護過程Ⅳ 介護総合演習Ⅳ 介護実習Ⅱ		
医療的ケアⅡ		
卒業研究 介護事務演習 福祉レクリエーション援助技術 福祉レクリエーション援助論 ボランティア概論 ボランティア演習 福祉総合演習Ⅱ		

幼児教育学科〔福祉・介護コース〕 到達目標一覧表

[令和 7 年 4 月入学生]

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
人間関係論	① 自己と他者の心理・行動について理解を深めることができる。 ② より良い人間関係を築く力を身に付けることができる。		○	○
コミュニケーション論	① 憲法の役割を理解する。 ② 憲法が保護する内容を正しく理解する。	○	○	
人権教育概論	① 情報を収集・分析し、適切な表現方法を選択することができる。 ② 聴衆の理解を促すわかりやすいスライドを作成できる。 ③ プレゼンテーションソフトの基本的な操作ができる。	○	○	○
情報処理論	① 情報実務に関する基本的な用語を説明できる。 ② 情報実務で必要な情報機器の基本的な操作ができる。	○	○	○
ICTと社会	① 情報社会の現状を理解し、健全な情報社会の一員として社会に参画できる。 ② 情報リテラシーを身に着ける。 ③ 受け取った情報を活用し、自身の考えを他者へプレゼンテーションする力を身につける。	○	○	○
ICTの活用	① 大分県に残る朝鮮半島からの影響について学習する。 ② 県内各地の行事について理解を深める。	○	○	
大分の人と学問	① 講義内容の要約及び感想・意見、大分の特色や課題などを他者に説明できる。 ② 講義内容から派生的な課題を自ら見つけ、文章として論述することができる。	○	○	
国際関係学	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に着けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○	○	○
社会貢献演習Ⅰ	① 地域交流と社会貢献の必要性を理解し、その実現を考える。 ② 社会貢献活動を通じて、地域社会の課題を理解する。	○	○	○
社会貢献演習Ⅱ	① 地域貢献活動を通して、自立・自覚できるようになる。 ② 社会活動を実践しながら、保育者としての対人技術を習得する。 ③ 様々な状況において、臨機応変に対応することができるようになる。	○	○	○
キャリア教育	① 企業への就職や社会生活を通じた自己実現について熟慮する。 ② 大学卒業後に社会人として生きるための基礎力をつける。 ③ 現在の地域社会に必要なキャリア形成について説明できる。	○	○	○
英語Ⅰ	① 保育現場で役に立つ実践的な英語スキルを習得できる。 ② 講義中をとおし異文化について理解・考察ができる。 ③ 様々なアクティビティをとおし多文化共生社会について考察できる。	○	○	
英語Ⅱ	① 保育現場で役に立つ実践的な英語スキルを習得できる。 ② 講義中をとおし異文化について理解・考察ができる。 ③ 様々なアクティビティをとおし多文化共生社会について考察できる。	○	○	
運動スポーツⅠ	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをとおしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
運動スポーツⅡ	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをとおしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	
こどもの言語表現	① 保育の現場で求められるコミュニケーション力を修得する。 ② 正しい日本語を指導することができるスキルを修得する。 ③ こどもの言語表現を理解する力を身に付ける。	○	○	○
こどもの身体表現	① 身体表現活動における基本的知識や技術を習得する。 ② 身体表現活動におけるバランス能力の重要性を理解する。 ③ 身体表現活動に関わる教材等の活用及び作成技術を習得する。 ④ 身体表現活動におけるこどものつまづきを解決する指導方法を習得する。	○	○	○
こどもの造形表現	① 子どもの成長にとって造形表現がなす意味と効果を理解する。 ② 子どもの創造と鑑賞を援助するために必要な道具の適切で安全な使用方法を習得する。 ③ 子どもの創造と鑑賞を援助するために必要な造形素材の扱いを習得する。 ④ 子どもの創造と鑑賞を援助するために必要な造形技術を習得する。	○	○	○
保育・教育の計画と文書	① 保育内容の充実と質の向上に資する保育計画及び評価について理解し、記述したり述べたりすることができる。 ② 全体的な計画と指導計画の作成についての意義と方法を理解し、記述したり述べたりすることができる。 ③ 子ども理解に基づく保育過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を理解し記述したり述べたりすることができる。 ④ 子どもの成長を図るとともに保育実践力を高める記録方法や記録の視点について理解することができる。 ⑤ 子ども理解に基づく保育過程を学ぶとともに、保育実践力や表現力を高めることができる。	○	○	○
基礎音楽	① 楽譜を表現するための基本的な理論や技法を理解することができる。 ② 幼児教育に関わる様々な歌に興味関心を持ち、感性を身に付けることができる。 ③ ピアノの基礎的テクニックを学び、習得に向けて自己研鑽することができる。	○	○	○
音楽	① 楽譜を表現するための基本的な理論や技術を継続して学び、高めることができる。 ② 幼児教育に関わる様々な歌の理解と表現を深め、“豊かな感性”へ発展できる。 ③ 基本的なコードを学び、コード演奏の実践を目指す。 ④ ピアノ演奏での表現力を学び、習得に向けて自己研鑽することができる。	○	○	○
演奏表現	① 「基礎音楽」「音楽」の内容を継続し、技術力、表現力を向上させることができる。 ② ピアノ以外の楽器奏法も学び、集団での表現方法について理解できる。 ③ 音楽表現の向上に向けて取り組む主体性と計画性を身に付けることができる。 ④ 音楽活動を使用した「幼児期に育てたい10の姿」に繋げる実践力を修得する。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
こどもの音楽表現	①「基礎音楽」「音楽」の内容を継続し、技術力、表現力を向上させることができる。 ②「ひきうたい」の実践力、表現力を強化することができる。 ③ピアノ以外の楽器奏法も学び、集団での表現方法の幅を広げることができる。 ④音楽活動を使用した「幼児期に育てたい10の姿」に繋げる実践力を向上させることができる。	○	○	○
人間の尊厳と自立	①人間の多面性について理解できる。 ②尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性が理解できる。 ③介護場面における倫理的課題についての対応力が理解できる。	○	○	○
人間関係とコミュニケーション	①相手の立場を理解し、適切な言動が取ることができる。 ②チーム運営を理解し、連携を図ることができる。	○	○	○
社会の理解Ⅰ	①個人が自立・自律した生活を営むことの必要性が理解できる。 ②個人・家族・近隣・地域・社会の単位で人間を捉える視点を理解し、基礎的態度を形成する。 ③人間の生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程が理解できる。 ④現代社会の中で生活と福祉を中心に据える基本的な知識が理解できる。	○	○	○
社会の理解Ⅱ	介護技術実践の基盤となる教養と倫理的態度の涵養に資する次について到達目標とする。 ①介護保険制度の目的としくみ、組織・団体・専門職について理解できる。 ②障害者保健福祉の動向、法体系、障害者総合支援制度について理解できる。 ③介護実践に関連する諸制度について概要を理解できる。	○	○	○
現代社会論	①団塊の世代が高齢者となっている現代社会について理解する。 ②医療・福祉・介護の視点から見られる様々な問題を理解する。 ③大分県に残る朝鮮半島からの影響についても理解する。	○	○	
社会福祉概論	①現行の社会福祉制度、福祉サービスの基礎的知識を形成する。 ②日本社会を再設計するための方法と視点を追求する。 ③同時に福祉に従事するための豊かな社会福祉観について理解できる。 ④政治・経済活動の全てが、人間の命をより輝かせるためにあるという理解ができる。	○	○	○
社会薬理学	①生体に何らかの変化を起こす化学物質は、全て薬物であることが理解できる。 ②薬は使い方を誤れば病状を悪化させ、時には命を奪うこともあることを理解する。 ③正しい薬との付き合い方・飲み方について基本的な知識が理解できる。	○	○	○
介護の基本Ⅰ	①尊厳の保持や自立支援の基本理念について理解できる。 ②地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面における介護福祉士の役割と機能について理解できる。 ③介護福祉の専門性と倫理について理解できる。 ④ICFの視点に基づくアセスメント、個々の状態に応じた環境整備や介護予防等について理解できる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
介護の基本Ⅱ	① 尊厳の保持、自立支援の理念を踏まえ、介護を受けて生活する人及びその生活について理解できる。 ② フォーマル及びインフォーマルな支援、地域連携について理解できる。 ③ リスクマネジメントについて理解できる。 ④ 他職種連携の必要性と他職種の役割について理解できる。	○	○	○
リハビリテーション論	① リハビリテーションの概念及び基本原則などを理解する。 ② PT・OT・STの内容を学びチームアプローチの重要性を理解する。 ③ 住宅改修・福祉用具に関する基礎知識を学び、説明することができる。 ④ 起居移乗介助法、筋力トレーニング、ストレッチングを実践できる。	○	○	○
介護保険	介護技術実践の基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する次について到達目標とする。 ① 介護保険制度の背景及び目的、動向について理解できる。 ② 介護保険制度のしくみについて理解できる。 ③ 介護保険制度における組織、団体の機能と役割、専門職の役割について理解できる。 ④ 介護保険の今後の課題について理解できる。	○	○	○
コミュニケーション技術Ⅰ	① 聴覚障害者とのコミュニケーション方法を説明することができる。 ② 聞こえない人達が抱える問題や福祉について理解することができる。 ③ 手話で挨拶や自己紹介、趣味などを話題に会話ができる。	○	○	○
コミュニケーション技術Ⅱ	介護技術実践の基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する次について到達目標とする。 ① コミュニケーションの意義や援助関係の構築、傾聴、受容、言語・非言語コミュニケーションの考え方や技術を理解できる。 ② 視覚障害や聴覚障害等さまざまなコミュニケーション障害のある人の特性と支援の方法を理解できる。 ③ 利用者の家族とどのようにかかわっていくかを理解できる。 ④ チーム力を高めるコミュニケーションの方法を理解できる。	○	○	○
生活支援技術Ⅰ－Ａ	① 生活を意識する時、何らかの障壁・障がいに直面することが理解できる。 ② 社会的問題を背景とした困難な状況が、生活問題となることが理解できる。 ③ 生活支援に必要な基本的な知識・技術が理解できる。 ④ 支援者は、生活問題の予防・回復・改善を多面的な視点で観る必要性が理解できる。	○	○	○
生活支援技術Ⅰ－Ｂ	① 生活を意識する時、何らかの障壁・障がいに直面することが理解できる。 ② 社会的問題を背景とした困難な状況が、生活問題となることが理解できる。 ③ 生活支援に必要な基本的な知識・技術が『生活支援技術Ⅰ－Ａ』以上に理解できる。 ④ 支援者は、生活問題の予防・回復・改善を多面的な視点で観る必要性が理解できる。	○	○	○
生活支援技術Ⅱ－Ａ	① 尊厳の保持の観点を踏まえ、利用者の状態にあった、自立・自律を尊重した対応の理解ができる。 ② 原理・法則性に基づいた技術を学習し、安全に援助できる技術や知識を理解し、実践することができる。 ③ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
生活支援技術Ⅱ－Ｂ	① 尊厳の保持の観点を踏まえ、利用者の自立・自律を尊重し適切な介護技術を理解することができる。 ② 原理・法則性に基づいた技術を学習し、安全に援助できる技術や知識を理解し、実践することができる。 ③ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○	○	○
生活支援技術Ⅲ	① 実際に起こりうる様々な事例の展開方法を実践することができる。 ② 様々な障がいについて理解し、障害に応じた適切な介護技術を実践する。 ③ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○		○
家政学実習	① 一人で食事づくりが可能な食に関する基礎的能力を形成する。 ② 望ましい食事のために役立つ基礎的知識が理解できる。 ③ 食生活全般に亘っての総合的な判断力・実践力の獲得ができる。 ④ 生活支援に必要な基本的な知識・技術を理解し、実践できる。	○	○	○
生活支援実習	① 高齢者・障がい者の食生活のあり方や、調理法についての実践的態度を形成する。 ② 人の健康と食との間に強い相関関係のあることが理解できる。 ③ 介護食についての特有な調理理論や科学があることが理解できる。 ④ 食生活支援にとって、食べる人の立場に立った食の提供の大切さを理解し、実践できる。	○	○	○
介護過程Ⅰ	① 介護過程のプロセスについて理解することができる。 ② ICFを活用した情報収集の方法について理解することができる。 ③ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○	○	
介護過程Ⅱ	① 他の科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程に反映展開し、利用者を理解することができる。 ② 事例を読み解き、介護過程を展開し、個別援助計画を作成することができる。 ③ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○	○	
介護過程Ⅲ	① 自立に向けた介護過程の展開ができる。 ② 利用者の潜在能力や個性を理解し、状態・状況に応じた介護計画の作成ができる。 ③ 介護計画実施、実施後の評価方法について理解できる。 ④ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○	○	
介護過程Ⅳ	① 個別援助計画とケアプランの関係性について理解する。 ② チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性について理解する。 ③ 事例発表を通して、介護過程の展開の重要性について理解する。 ④ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○	○	○
介護総合演習Ⅰ	① 学習到達状況に応じて学習することができる。 ② 介護実習の意義と目的について理解することができる。 ③ 介護実習Ⅰ－１へ向けての意識付けと準備をすることができる。	○	○	○
介護総合演習Ⅱ	① 介護実習Ⅰ－２へ向けての準備について理解することができる。 ② 介護過程の展開の能力などについて理解することができる。 ③ 実践場面に適応できる柔軟性や応用・判断力について理解することができる。	○	○	○
介護総合演習Ⅲ	① 実習に必要な知識や技術の確認について理解することができる。 ② 介護過程の展開について理解することができる。 ③ 介護場面で遭遇した課題を解決するための行動力を理解することができる。 ④ 柔軟性や応用力、判断力を習得し理解することができる。	○		○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
介護総合演習Ⅳ	① 実習に必要な知識や技術について理解することができる。 ② 介護過程の展開の能力等について理解することができる。 ③ 振り返りを行い、カンファレンスを行い理解することができる。	○	○	
介護実習Ⅰ－１	① 福祉施設の概要と機能を理解することができる。 ② 利用者とその生活を理解し、基本的な日常生活援助を学ぶことができる。 ③ 利用者の状況に応じた介護技術の必要性を学ぶことができる。 ④ 基本的なコミュニケーション能力を身に付け、利用者との人間的な触れ合いを図ることができる。	○	○	○
介護実習Ⅰ－２	① 様々な利用者への支援方法および多様なサービスの種類について理解することができる。 ② 利用者とその生活、基本的な日常生活支援について理解することができる。 ③ 適切なコミュニケーションスキルを用いて人間的な触れ合いの必要性について理解することができる。 ④ 基本的な生活支援技術について実践し、利用者の状況に応じた適切な介護を学ぶことができる。 ⑤ 他職種の役割について学び、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割について理解することができる。	○	○	○
介護実習Ⅱ	① 利用者の24時間の生活を学ぶことができる。 ② 介護過程の展開において、個々の利用者の情報を収集する中で生活背景や生活リズムについて理解し、自立支援の観点を学ぶことができる。 ③ 介護過程のプロセスを実践し、展開能力を身につけることができる。 ④ 自ら行った介護過程に基づく介護実践に対し、評価・修正を行うことができる。 ⑤ 組織の一員としてのチームワークの重要性を理解し、他職種との連携に取り組むことができる。	○	○	○
心理学	① 基礎的な心の仕組みを様々な視点から理解できる。 ② 心の理解に基づく援助や態度の基本を理解できる。	○		
発達と老化の理解	① 人間の成長と発達の基礎的面が理解できる。 ② 老化に伴うこころとからだの変化と生活が理解できる。	○		○
認知症の理解Ⅰ	① 認知症の人の心理や身体的機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。 ② 認知症ケアについて理解するための基本的な知識を習得する	○		○
認知症の理解Ⅱ	① 認知症の人の生活支援を理解し、制度や施策について学ぶ。 ② 認知症の人の生活支援、制度・関係機関などについて理解できる。	○		○
障害の理解Ⅰ	① 障害の概念について説明できる。 ② 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援について説明できる。	○		
障害の理解Ⅱ	① 基礎的知識を習得し、環境にも配慮した視点について学習する。 ② 医学的な基礎的知識、連携と家族への支援について理解できる。	○		○
こころとからだのしくみⅠ－Ａ	① 人間のこころのしくみが理解できる。	○	○	○
こころとからだのしくみⅠ－Ｂ	① 人体の構造や機能を理解する。 ② 移動に関連したこころとからだのしくみについて理解する。	○		○
こころとからだのしくみⅡ	① 人体の構造や機能、安全への留意点や配慮について学習する。 ② 生活支援の場面に応じた心身への影響を理解できる。	○		○
こころとからだのしくみⅢ	① 人体の構造や機能、安全の留意点や配慮について学習する。 ② 生活支援の場面に応じた心身への影響を理解できる。	○		○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
医療的ケアⅠ－Ａ	① 喀痰吸引、経管栄養を安全、適切な知識・技術を習得できる。 ② 安全な医療的ケアの基本的知識を理解することができる。	○	○	○
医療的ケアⅠ－Ｂ	① 喀痰吸引、経管栄養を安全、適切に行うための知識・技術を習得できる。 ② 利用者の状況を把握し適切な実施手順について説明することができる。	○	○	○
医療的ケアⅡ	① 喀痰吸引、経管栄養を実施手順に基づき安全・適切に実施できる。	○	○	○
介護のことばⅠ	① 介護に必要な基本的な知識・技能を理解し、使用することができる。	○	○	
介護のことばⅡ	① 介護福祉士に必要な基本的な知識・技能を理解し、使用することができる。	○	○	
日本語中上級Ａ	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級Ｂ	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級Ｃ	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級Ｄ	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級Ｅ	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語中上級Ｆ	① 身近なトピックについて、「聞く・読む・書く・話す」ことができるようになる。	○	○	
日本語上級Ａ	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級Ｂ	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級Ｃ	① 一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。 ② 多様な文章について、読み書きができる。	○	○	
日本語上級Ｄ	① 社会生活を営むために必要な会話を学び、コミュニケーション力を身につけることができる。	○	○	○
日本語上級Ｅ	① 社会生活を営むために必要な会話を学び、コミュニケーション力を身につけることができる。	○	○	
日本語上級Ｆ	① 社会生活を営むために必要な会話を学び、コミュニケーション力を身につけることができる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅰ（聴解）	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅰ（文字・語彙）	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅰ（文法）	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使用することができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅰ（読解）	① 日本社会で必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 日常生活において読む力を適用できる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
日本語能力試験対策Ⅱ (聴解)	① 日本社会に必要な聴解力を総合的に伸ばすことができる。 ② 文字語彙、文法の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 聴解力を養い日常生活のなかで応用できる。 ④ TPOに応じた日本語の使い方が理解できる。	○	○	○
日本語能力試験対策Ⅱ (文字・語彙)	① 日本社会に必要な語彙力を総合的に伸ばすことができる。 ② 練習問題を通じ、文字語彙の知識、日本語の言い回しを習得し、運用できる。 ③ 語彙力を養い日常生活のなかで応用できる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (文法)	① 文法項目を正しく理解し、適切に使用することができる。 ② 場面を問わず、習得した文法を使うことができる。	○	○	
日本語能力試験対策Ⅱ (読解)	① 日本社会で必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 日常生活において読む力を応用できる。	○	○	
介護の日本語A	① 介護・福祉の知識を学ぶ日本語力を育むことができる。 ② 介護の基本理念について概要を理解することができる。 ③ 福祉職・介護福祉士の役割について概要を理解することができる。	○	○	○
介護の日本語B	① 介護・福祉の知識を学ぶ日本語力を育むことができる。 ② 介護福祉士・福祉職の倫理について概要を理解することができる。 ③ 自立支援と介護予防について概要を理解することができる。	○	○	○
介護の日本語C	① 介護・福祉の知識を学ぶ日本語力を育むことができる。 ② 社会と生活のしくみについて概要を理解することができる。 ③ 地域共生社会について概要を理解することができる。	○	○	○
介護の日本語D	① 介護・福祉の知識を学ぶ日本語力を育むことができる。 ② 社会保障制度について概要を理解することができる。 ③ 介護保険制度について概要を理解することができる。	○	○	○
ビジネスマナー	① 日本社会で必要な基礎知識、マナーを理解することができる。 ② 面接、電話応対で用いられる日本語表現を使うことができる。 ③ 日本人のビジネススタイルや価値観を理解することができる。	○	○	○
日本の文化	① 演習を通して、日本の文化や歴史、習慣に触れることができる。 ② 自国の文化や習慣と比較し、説明することができる。 ③ コミュニケーション能力を身につけ、協調することができる。		○	○
日本事情Ⅰ	① 日本社会で必要な知識、教養、習慣を理解し、適用できる。 ② 日本人の考え方やルールを学び、実生活で運用できる。 ③ 大学生としての知識を身につけ、新しい環境に適用できる。	○	○	
日本事情Ⅱ	① 将来設計に基づき、各進路に必要な知識を学び、実践できる。 ② 国際人として自立し、積極的に日本社会に参画できる。	○	○	
卒業研究	① 介護福祉に関する諸問題について関心を持ち、自主的に取り組める研究テーマを設定できる。 ② グループワークを介して研究に取り組むことができる。 ③ プレゼンテーション能力・パワーポイント作成等、必要な基礎的知識が理解できる。	○	○	○
介護事務演習	① 介護保険制度を理解し介護保険被保険者証より利用者基本情報を読み取ることができる。 ② 介護保険制度を理解しケアプランよりサービスの内容を読み取ることができる。 ③ 介護報酬サービスコード表を使い介護給付費明細書を作成することができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
福祉レクリエーション論	① 福祉レクリエーションの基礎的知識を理解することができる。 ② 福祉レクの考え方・展開・援助を学習し理解することができる。 ③ 高齢者・障がい児を対象にした福祉レクリエーション支援を理解することができる。	○	○	○
福祉レクリエーション援助技術	① 1対1でかかわる個人への介入技術について理解することができる。 ② グループダイナミクスを活かした介入技術を理解することができる。 ③ レク活動への参加を促す環境づくりの方法を理解することができる。 ④ アレンジや展開方法を学び福祉レクワーカーについて理解することができる。	○	○	○
福祉レクリエーション援助論	① 支援に関する計画立案の方法について理解することができる。 ② 素材や活動の創作・アレンジ法について理解することができる。 ③ 展開演習など様々な方法を活用することを理解することができる。	○	○	
福祉環境論	介護技術実践の基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する次について到達目標とする。 ① 高齢者や障がい者の住みやすい住環境について理解できる。 ② 住環境に関連する医療・保健・福祉・建築の基本的知識について理解できる。 ③ バリアフリーとユニバーサルデザインの考え方について理解することができる。	○	○	○
レクリエーション論	① 自らの生活の中にあるレクリエーションについて理解できる。 ② 対象や支援の目的に合わせたプログラムを企画・展開する力を理解することができる。 ③ レクリエーションを通した、個人や集団等への働きかけについて理解することができる。	○	○	○
レクリエーション活動援助法Ⅰ	① レクリエーションの意義や支援の必要性を理解できる。 ② コミュニケーションを促進する方法を身につけプログラムを作成できる。 ③ レクリエーション活動の楽しさと展開方法を理解し実践できる。	○	○	○
レクリエーション活動援助法Ⅱ	① 支援が必要とされる具体的場面について理解を深めることができる。 ② 多くの素材・アクティビティを体験し対象にあわせて選択・活用できる。 ③ 対象者や目的にあわせた指導案を作成し展開することができる。	○	○	○
ボランティア概論	① 学外にてボランティア活動を実施するための理論と方法を知ることができる。 ② ボランティア活動の基本的精神を学び、実践に向けての基礎的態度を形成する。 ③ ボランティア活動の理念・社会的役割・基本的性格・定義について理解できる。 ④ 日本での非営利組織活動の重要な役割が理解できる。	○	○	○
ボランティア演習	① 学外にてボランティア活動を実施し、学生の主体性・自主性の大切さを理解する。 ② ボランティア実施のためのアポイント取り・事前訪問等を学び、その過程を理解する。 ③ 振り返りを行うことで、フィードバック受けより深い理解ができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
福祉総合演習Ⅰ	① 大正琴に取り組むことが、個人の特技として実習先で活かせることを体得する。 ② 学科全員で大正琴演奏を行うことで、連携について理解する。 ③ 個人やグループ練習をすることで、練習の大切さや忍耐力を理解する。 ④ 行事で演奏するための組織づくりや必要な基本的知識が理解できる。	○	○	○
福祉総合演習Ⅱ	① 大正琴に取り組むことが、個人の特技として実習先で活かせることを体得する。 ② 学科全員で大正琴演奏を行うことで、連携について理解する。 ③ 個人やグループ練習をすることで、練習の大切さや忍耐力を理解する。 ④ 行事で演奏するための組織づくりや必要な基本的知識が理解できる。	○	○	○

介護福祉学科 教育課程

[令和 7 年 4 月入学生]

科 目			履修法	単位		1 年		2 年		介護福祉士	介護保険実務士	インストラクター レクリエーション	福祉 ワーカ ワーカ ワーカ	社会福祉主事任用資格	備 考
				必	選	春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ	秋学期 4セメ						
基礎教育	基礎科目	人 間 関 係 論	講義	2								★	★		基礎科目については 8単位以上取得すること 「国際関係学」は英語のみで 教授される
		コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	講義	2	○							★	★		
		人 権 教 育 概 論	講義	2				○				★	★		
		情 報 処 理 論	講義	2				○			★				
		大 分 の 人 と 学 問	講義	2		○									
		国 際 関 係 学	講義	2					○						
		I C T の 活 用	講義	2					○						
		社 会 貢 献 演 習 I	演習	1		●	●	●	●						
		社 会 貢 献 演 習 II	演習	1		●	●	●	●						
		キ ャ リ ア 教 育	講義	1		●	●	●	●		★				
	外国語	英 語 I	演習	1		○					★				
		英 語 II	演習	1			○				★				
	体育	運 動 ス ポ ー ツ I	演習	1		○					★	★	★		
		運 動 ス ポ ー ツ II	演習	1			○				★	★	★		

科 目			履修法	単位		1 年		2 年		介護福祉士	介護保険実務士	インストラクター レクリエーション	福祉 ワーカ ワーカ ワーカ	社会福祉主事任用資格	備 考
				必	選	春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ	秋学期 4セメ						
専門教育科目	人間の理解	人 間 の 尊 厳 と 自 立	講義	2		○				★	★				
		人間関係とコミュニケーション	講義	4		○	○			★	★				
	社会の理解	社 会 の 理 解 I	講義	2		○				★	★		★		
		社 会 の 理 解 II	講義	2			○			★	★		★		
	選択科目	現 代 社 会 論	講義	2				○		★	★				
		社 会 福 祉 概 論	講義	2			○			★	★		★	★	
		社 会 薬 理 学	講義	2					○	★	★				
	介護の基本	介 護 の 基 本 I	講義	4		○	○			★	★		★		
		介 護 の 基 本 II	講義	4				○	○	★	★		★		
		リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 論	講義	2		○				★	★		★	★	集中講義
		介 護 保 険 概 論	講義	2				○		★	★		★		
	コミュニケーション技術	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 術 I	演習	1		○				★	★		★		手話
		コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 術 II	演習	1			○			★	★		★		
	生活支援技術	生 活 支 援 技 術 I - A	演習	1		○				★	★		★		
		生 活 支 援 技 術 I - B	演習	1					○	★	★		★		
		生 活 支 援 技 術 II - A	演習	2		○	○			★	★		★		
		生 活 支 援 技 術 II - B	演習	2			○	○		★	★		★		
		生 活 支 援 技 術 III	演習	2				○	○	★	★		★		
		家 政 学 実 習	演習	2		○	○			★	★		★		
		生 活 支 援 実 習	演習	2					○	○	★	★	★		

科 目			履 修 法	単 位	1 年		2 年		介護福祉士 介護保険実務士 インストラクター	福祉 レクリエーション ワーカール インストラクション	福祉 レクリエーション ワーカール インストラクション	社会福祉士主任任用資格	備 考
					必 選	春学期 1セメ	秋学期 2セメ	春学期 3セメ	秋学期 4セメ				
専門 教育 科目	介護過程	介護過程Ⅰ	演習	1		○				★	★		
		介護過程Ⅱ	演習	1			○			★	★		
		介護過程Ⅲ	演習	2				○	○	★	★		
		介護過程Ⅳ	演習	1					○	★	★		
	介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	演習	1		○				★	★		
		介護総合演習Ⅱ	演習	1			○			★	★		
		介護総合演習Ⅲ	演習	1				○		★	★		
		介護総合演習Ⅳ	演習	1					○	★	★		
	介護実習	介護実習Ⅰ－1	実習	2			◎◎			★	★	★	学外集中
		介護実習Ⅰ－2	実習	3				◎◎		★	★	★	学外集中
		介護実習Ⅱ	実習	5					◎◎	★	★	★	学外集中
	発達と老化の理解	心 理 学	講義	2		○				★	★	★	★
		発 達 と 老 化 の 理 解	講義	2			○			★	★		
	認知症の理解	認 知 症 の 理 解 Ⅰ	講義	2		○				★	★		
		認 知 症 の 理 解 Ⅱ	講義	2				○		★	★		
	障害の理解	障 害 の 理 解 Ⅰ	講義	2			○			★	★	★	
		障 害 の 理 解 Ⅱ	講義	2				○		★	★	★	
	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ－A	講義	2		○				★	★		
		こころとからだのしくみⅠ－B	講義	2		○				★	★	★	
		こころとからだのしくみⅡ	講義	2			○			★	★	★	
		こころとからだのしくみⅢ	講義	2				○		★	★	★	
	医療的ケア	医 療 的 ケ ア Ⅰ － A	講義	2			○			★			
		医 療 的 ケ ア Ⅰ － B	講義	2			○			★			
		医 療 的 ケ ア Ⅱ	演習	2				○	○	★			
福祉 関連 科目		卒 業 研 究	演習	3				○	○	★			プレゼンを含む
		介 護 事 務 演 習	演習	1					○	★			
		福 祉 レ ク リ エ ー シ ョ ン 論	講義	2				○				★	
		福 祉 レ ク リ エ ー シ ョ ン 援 助 技 術	演習	2				○	○			★	
		福 祉 レ ク リ エ ー シ ョ ン 援 助 論	講義	2					○			★	
		福 祉 環 境 論	講義	2				○				★	
		レ ク リ エ ー シ ョ ン 論	講義	2			○				★		
		レクリエーション活動援助法Ⅰ	演習	1		○					★		
		レクリエーション活動援助法Ⅱ	演習	1			○				★		
		ボ ラ ン テ ィ ア 概 論	講義	2				○	○				
		ボ ラ ン テ ィ ア 演 習	演習	4				○	○				
		福 祉 総 合 演 習 Ⅰ	演習	3		○	○						
		福 祉 総 合 演 習 Ⅱ	演習	3				○	○				

※○印は、90分授業、1コマ15週

○○印は、90分授業、2コマ15週

◎印は規定時間実施

●印は、90分授業、1コマ8週

★印は、各資格・免許・コースの必修科目

基礎科目・外国語・体育・専門科目より71単位以上取得しなければ卒業できない。

基礎科目「社会貢献演習Ⅰ・Ⅱ」は、2時間×8回以上の貢献をもって演習1単位とする。

キャリア教育は2年間を通じて8回以上受講すること。

レクリエーション・インストラクター資格は、科目の履修・外部レク事業の参加を必要とする。

都合により、開講時期が変更になることがある。

令和7年度カリキュラムマップ【2025介護福祉学科】

建学の精神：自立・自活できる人材の育成

教育目標と3つのポリシー：学生生活ハンドブック【学生便覧】を参照してください。

介護福祉学科【ディプロマポリシー】DP

介護福祉士資格取得をめざし、人間と社会、介護、こころとからだのしくみ、医療的ケアの4領域にわたる知識、技能を修得理解し行動できる。

・「人間と社会」に関して、介護実践技術の基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資することができる。

フィールド		1年生春学期 1セメスター	1年生秋学期 2セメスター	2年生春学期 3セメスター
基礎教育	基礎科目	コミュニケーション論	大分の人と学問	人間関係論 人権教育概論 情報処理論
		【通年】 キャリア教育 社会貢献演習Ⅰ 社会貢献演習Ⅱ		
	外国語	英語Ⅰ	英語Ⅱ	
	体育	運動スポーツⅠ	運動スポーツⅡ	
専門科目	人間の理解	人間の尊厳と自立 人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーション	
	社会の理解	社会の理解Ⅰ	社会の理解Ⅱ	
	選択科目		社会福祉概論	現代社会論
	介護の基本	介護の基本Ⅰ リハビリテーション論	介護の基本Ⅰ	介護の基本Ⅱ 介護保険
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術Ⅰ	コミュニケーション技術Ⅱ	
	生活支援技術	生活支援技術Ⅰ-A 生活支援技術Ⅱ-A 家政学実習	生活支援技術Ⅱ-B	生活支援技術Ⅲ
	介護過程	介護過程Ⅰ	介護過程Ⅱ	介護過程Ⅲ
	介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	介護総合演習Ⅱ	介護総合演習Ⅲ
	介護実習		介護実習Ⅰ-1	介護実習Ⅰ-2
	発達と老化の理解	心理学	発達と老化の理解	
	認知症の理解	認知症の理解Ⅰ		認知症の理解Ⅱ
	障害の理解		障害の理解Ⅰ	障害の理解Ⅱ
	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ-A こころとからだのしくみⅠ-B	こころとからだのしくみⅡ	こころとからだのしくみⅢ
	医療的ケア		医療的ケアⅠ-A 医療的ケアⅠ-B	
福祉関係科目		レクリエーション活動援助法Ⅰ 福祉総合演習Ⅰ	レクリエーション論 レクリエーション活動援助法Ⅱ 福祉総合演習Ⅰ	卒業研究 福祉レクリエーション論 福祉レクリエーション援助技術 福祉環境論 ボランティア概論 ボランティア演習 福祉総合演習Ⅱ

- ・「介護」に関して、尊厳の保持、自立支援の考え方を踏まえ、生活を支えることができる。
- ・「こころとからだのしくみ」に関して、多職種協働や適切な介護の提供ができる。

2年生秋学期 4セメスター		希望する卒業後の進路（就職・進学等）の内で 専門性の高いエビデンスに基づいた、現場実践に結びつく確かな知識・技術の取得	卒業と同時に取得をめざす資格
国際関係学 ICTの活用			福祉レクリエーションワーカー レクリエーションインストラクター 社会福祉主事任用資格 介護保険実務士 介護福祉士（受験資格取得）
プレゼンテーション論 社会薬理学 介護の基本Ⅱ			
生活支援技術Ⅰ－B 生活支援実習			
介護過程Ⅳ 介護総合演習Ⅳ 介護実習Ⅱ			
医療的ケアⅡ			
卒業研究 介護事務演習 福祉レクリエーション援助技術 福祉レクリエーション援助論 ボランティア概論 ボランティア演習 福祉総合演習Ⅱ			

介護福祉学科 到達目標一覧表

〔令和 7 年 4 月入学生〕

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
人間関係論	① 介護職等、専門的職業現場をはじめ、現代社会における複雑で多様な人間関係の在り方を理解し、「問題」に対応しうる職業人材や良識ある社会人としての成長を目指す。 ② 臨床心理学や社会心理学、またはその周辺領域における基礎的な知見や技術、人々の間での関係調節能力を身につける。	○	○	○
コミュニケーション論	① コミュニケーションの役割や使いどころを理解する。 ② 専門分野で得た知識や技能を実社会で活かすための言動ができる。 ③ 人間関係を築くためのコミュニケーションを理解できる。	○	○	○
人権教育概論	① 差別を正しく認識し、様々な不合理や差別の解消を図る意欲と実践力を身に付ける。 ② 進んで人権尊重の精神を身につけ、積極的に人権擁護に努める実践力を修得する。 ③ コミュニケーション力を身に付け、他者の存在を尊ぶ資質を育む。 ④ 特に介護の現場で求められる人権感覚を身に付ける。	○	○	
情報処理論	① 情報実務に関する基本的な用語を説明できる。 ② 情報実務で必要な情報機器の基本的な操作ができる。	○	○	○
大分の人と学問	① 大分の特色や課題について説明できる。 ② 大分に縁のある学問分野や人物について説明できる。 ③ テーマに基づいて他者と意見交換したり、協調しながら課題に取り組んだりすることができる。 ④ 授業内容から派生的な課題を自ら見だし、文献等の調査に基づいたアイデアを論述することができる。	○	○	○
国際関係学	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に着けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○	○	○
ICTの活用	① 情報を収集・分析し、適切な表現方法を選択することができる。 ② 聴衆の理解を促すわかりやすいスライドを作成できる。 ③ プレゼンテーションソフトの基本的な操作ができる。	○	○	○
社会貢献演習Ⅰ	① 修得した知識能力を実社会で行使し、生きた力に変えることができる。 ② 社会貢献について人間的成長を図ることが理解できる。	○	○	○
社会貢献演習Ⅱ	① 修得した知識能力を実社会で行使し、生きた力に変えることができる。 ② 社会貢献について人間的成長を図ることが『社会貢献Ⅰ』以上に理解できる。	○	○	○
キャリア教育	① 企業の経営者等の対話から、自己実現（キャリア形成）についての能力を形成する。 ② 卒業後の社会人として、生きるための基礎能力を磨くことができる。 ③ 現在の地域社会に必要なキャリア形成について理解できる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
英語 I	① Students will have acquired some basic vocabulary required for daily conversation. ② They will have an understanding of basic English grammar. ③ They will be able to ask and answer simple questions in English.	○	○	
英語 II	① Students will have overcome their hesitation to try to communicate in English. ② They will continue to broaden their knowledge of their basic grammar. ③ They will be able to ask and answer simple questions in English	○	○	
運動スポーツ I	① 健康的な心と体を培う知識を深める。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高める。 ③ 充実した生活を送るための体力を高める。	○	○	
運動スポーツ II	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	
人間の尊厳と自立	① 人間の多面性について理解できる。 ② 尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性が理解できる。 ③ 介護場面における倫理的課題についての対応力が理解できる。	○	○	○
人間関係とコミュニケーション	① 相手の立場を理解し、適切な言動が取ることができる。 ② チーム運営を理解し、連携を図ることができる。	○	○	○
社会の理解 I	① 個人が自立・自律した生活を営むことの必要性が理解できる。 ② 個人・家族・近隣・地域・社会の単位で人間を捉える視点を理解し、基礎的態度を形成する。 ③ 人間の生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程が理解できる。 ④ 現代社会の中で生活と福祉を中心に据える基本的な知識が理解できる。	○	○	○
社会の理解 II	介護技術実践の基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する次について到達目標とする。 ① 介護保険制度の目的としくみ、組織・団体・専門職について理解できる。 ② 障害者保健福祉の動向、法体系、障害者総合支援制度について理解できる。 ③ 介護実践に関連する諸制度について概要を理解できる。	○	○	○
現代社会論	① 団塊の世代が高齢者となっている現代社会について理解する。 ② 医療・福祉・介護の視点から見られる様々な問題を理解する。 ③ 大分県に残る朝鮮半島からの影響についても理解する。	○	○	
社会福祉概論	① 現行の社会福祉制度、福祉サービスの基礎的知識を形成する。 ② 日本社会を再設計するための方法と視点を追求する。 ③ 同時に福祉に従事するための豊かな社会福祉観について理解できる。 ④ 政治・経済活動の全てが、人間の命をより輝かせるためにあるという理解ができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
社会薬理学	① 生体に何らかの変化を起こす化学物質は、全て薬物であることが理解できる。 ② 薬は使い方を誤れば病状を悪化させ、時には命を奪うこともあることを理解する。 ③ 正しい薬との付き合い方・飲み方について基本的な知識が理解できる。	○	○	○
介護の基本Ⅰ	① 尊厳の保持や自立支援の基本理念について理解できる。 ② 地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面における介護福祉士の役割と機能について理解できる。 ③ 介護福祉の専門性と倫理について理解できる。 ④ ICFの視点に基づくアセスメント、個々の状態に応じた環境整備や介護予防等について理解できる。	○	○	○
介護の基本Ⅱ	① 尊厳の保持、自立支援の理念を踏まえ、介護を受けて生活する人及びその生活について理解できる。 ② フォーマル及びインフォーマルな支援、地域連携について理解できる。 ③ リスクマネジメントについて理解できる。 ④ 他職種連携の必要性和他職種の役割について理解できる。	○	○	○
リハビリテーション論	① リハビリテーションの概念及び基本原則などを理解する。 ② PT・OT・STの内容を学びチームアプローチの重要性を理解する。 ③ 住宅改修・福祉用具に関する基礎知識を学び、説明することができる。 ④ 起居移乗介助法、筋力トレーニング、ストレッチングを実践できる。	○	○	○
介護保険	介護技術実践の基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する次について到達目標とする。 ① 介護保険制度の背景及び目的、動向について理解できる。 ② 介護保険制度のしくみについて理解できる。 ③ 介護保険制度における組織、団体の機能と役割、専門職の役割について理解できる。 ④ 介護保険の今後の課題について理解できる。	○	○	○
コミュニケーション技術Ⅰ	① 聴覚障害者とのコミュニケーション方法を説明することができる。 ② 聞こえない人達が抱える問題や福祉について理解することができる。 ③ 手話で挨拶や自己紹介、趣味などを話題に会話ができる。	○	○	○
コミュニケーション技術Ⅱ	介護技術実践の基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する次について到達目標とする。 ① コミュニケーションの意義や援助関係の構築、傾聴、受容、言語・非言語コミュニケーションの考え方や技術を理解できる。 ② 視覚障害や聴覚障害等さまざまなコミュニケーション障害のある人の特性と支援の方法を理解できる。 ③ 利用者の家族とどのようにかかわっていくかを理解できる。 ④ チーム力を高めるコミュニケーションの方法を理解できる。	○	○	○
生活支援技術Ⅰ－A	① 生活を意識する時、何らかの障壁・障がいと直面することが理解できる。 ② 社会的問題を背景とした困難な状況が、生活問題となることが理解できる。 ③ 生活支援に必要な基本的な知識・技術が理解できる。 ④ 支援者は、生活問題の予防・回復・改善を多面的な視点で観る必要性が理解できる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
生活支援技術Ⅰ－Ｂ	① 生活を意識する時、何らかの障壁・障がいにより直面することが理解できる。 ② 社会的問題を背景とした困難な状況が、生活問題となることが理解できる。 ③ 生活支援に必要な基本的な知識・技術が『生活支援技術Ⅰ－Ａ』以上に理解できる。 ④ 支援者は、生活問題の予防・回復・改善を多面的な視点で観る必要性が理解できる。	○	○	○
生活支援技術Ⅱ－Ａ	① 尊厳の保持の観点を踏まえ、利用者の状態にあった、自立・自律を尊重した対応の理解ができる。 ② 原理・法則性に基づいた技術を学習し、安全に援助できる技術や知識を理解し、実践することができる。 ③ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○	○	
生活支援技術Ⅱ－Ｂ	① 尊厳の保持の観点を踏まえ、利用者の自立・自律を尊重し適切な介護技術を理解することができる。 ② 原理・法則性に基づいた技術を学習し、安全に援助できる技術や知識を理解し、実践することができる。 ③ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○	○	○
生活支援技術Ⅲ	① 実際に起こりうる様々な事例の展開方法を実践することができる。 ② 様々な障がいについて理解し、障害に応じた適切な介護技術を実践する。 ③ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○		○
家政学実習	① 一人で食事づくりが可能な食に関する基礎的能力を形成する。 ② 望ましい食事のために役立つ基礎的知識が理解できる。 ③ 食生活全般に亘っての総合的な判断力・実践力の獲得ができる。 ④ 生活支援に必要な基本的な知識・技術を理解し、実践できる。	○	○	○
生活支援実習	① 高齢者・障がい者の食生活のあり方や、調理法についての実践的態度を形成する。 ② 人の健康と食との間に強い相関関係のあることが理解できる。 ③ 介護食についての特有な調理理論や科学があることが理解できる。 ④ 食生活支援にとって、食べる人の立場に立った食の提供の大切さを理解し、実践できる。	○	○	○
介護過程Ⅰ	① 介護過程のプロセスについて理解することができる。 ② ICFを活用した情報収集の方法について理解することができる。 ③ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○	○	
介護過程Ⅱ	① 他の科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程に反映展開し、利用者を理解することができる。 ② 事例を読み解き、介護過程を展開し、個別援助計画を作成することができる。 ③ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○	○	
介護過程Ⅲ	① 自立に向けた介護過程の展開ができる。 ② 利用者の潜在能力や個性を理解し、状態・状況に応じた介護計画の作成ができる。 ③ 介護計画実施、実施後の評価方法について理解できる。 ④ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○	○	
介護過程Ⅳ	① 個別援助計画とケアプランの関係性について理解する。 ② チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性について理解する。 ③ 事例発表を通して、介護過程の展開の重要性について理解する。 ④ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
介護総合演習Ⅰ	① 学習到達状況に応じて学習することができる。 ② 介護実習の意義と目的について理解することができる。 ③ 介護実習Ⅰ-1へ向けての意識付けと準備をすることができる。	○	○	○
介護総合演習Ⅱ	① 介護実習Ⅰ-2へ向けての準備について理解することができる。 ② 介護過程の展開の能力などについて理解することができる。 ③ 実践場面に適応できる柔軟性や応用・判断力について理解することができる。	○	○	○
介護総合演習Ⅲ	① 実習に必要な知識や技術の確認について理解することができる。 ② 介護過程の展開について理解することができる。 ③ 介護場面で遭遇した課題を解決するための行動力を理解することができる。 ④ 柔軟性や応用力、判断力を習得し理解することができる。	○		○
介護総合演習Ⅳ	① 実習に必要な知識や技術について理解することができる。 ② 介護過程の展開の能力等について理解することができる。 ③ 振り返りを行い、カンファレンスを行い理解することができる。	○	○	
介護実習Ⅰ-1	① 福祉施設の概要と機能を理解することができる。 ② 利用者とその生活を理解し、基本的な日常生活援助を学ぶことができる。 ③ 利用者の状況に応じた介護技術の必要性を学ぶことができる。 ④ 基本的なコミュニケーション能力を身に付け、利用者との人間的な触れ合いを図ることができる。	○	○	○
介護実習Ⅰ-2	① 様々な利用者への支援方法および多様なサービスの種類について理解することができる。 ② 利用者とその生活、基本的な日常生活支援について理解することができる。 ③ 適切なコミュニケーションスキルを用いて人間的な触れ合いの必要性について理解することができる。 ④ 基本的な生活支援技術について実践し、利用者の状況に応じた適切な介護を学ぶことができる。 ⑤ 他職種の役割について学び、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割について理解することができる。	○	○	○
介護実習Ⅱ	① 利用者の24時間の生活を学ぶことができる。 ② 介護過程の展開において、個々の利用者の情報を収集する中で生活背景や生活リズムについて理解し、自立支援の観点を学ぶことができる。 ③ 介護過程のプロセスを実践し、展開能力を身につけることができる。 ④ 自ら行った介護過程に基づく介護実践に対し、評価・修正を行うことができる。 ⑤ 組織の一員としてのチームワークの重要性を理解し、他職種との連携に取り組むことができる。	○	○	○
心理学	① 基礎的な心の仕組みを様々な視点から理解できる。 ② 心の理解に基づく援助や態度の基本を理解できる。	○		
発達と老化の理解	① 人間の成長と発達の基礎的面的が理解できる。 ② 老化に伴うこころとからだの変化と生活が理解できる。	○		○
認知症の理解Ⅰ	① 認知症の人の心理や身体的機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。 ② 認知症ケアについて理解するための基本的な知識を習得する	○		○
認知症の理解Ⅱ	① 認知症の人の生活支援を理解し、制度や施策について学ぶ。 ② 認知症の人の生活支援、制度・関係機関などについて理解できる。	○		○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
障害の理解Ⅰ	① 障害の概念について説明できる。 ② 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援について説明できる。	○		
障害の理解Ⅱ	① 基礎的知識を習得し、環境にも配慮した視点について学習する。 ② 医学的な基礎的知識、連携と家族への支援について理解できる。	○		○
こころとからだのしくみⅠ－Ａ	① 人間のこころのしくみが理解できる。	○	○	
こころとからだのしくみⅠ－Ｂ	① 人体の構造や機能を理解する。 ② 移動に関連したこころとからだのしくみについて理解する。	○		○
こころとからだのしくみⅡ	① 人体の構造や機能、安全への留意点や配慮について学習する。 ② 生活支援の場面に応じた心身への影響を理解できる。	○		○
こころとからだのしくみⅢ	① 人体の構造や機能、安全の留意点や配慮について学習する。 ② 生活支援の場面に応じた心身への影響を理解できる。	○		○
医療的ケアⅠ－Ａ	① 喀痰吸引、経管栄養を安全、適切な知識・技術を習得できる。 ② 安全な医療的ケアの基本的知識を理解することができる。	○	○	○
医療的ケアⅠ－Ｂ	① 喀痰吸引、経管栄養を安全、適切に行うための知識・技術を習得できる。 ② 利用者の状況を把握し適切な実施手順について説明することができる。	○	○	○
医療的ケアⅡ	① 喀痰吸引、経管栄養を実施手順に基づき安全・適切に実施できる。	○	○	○
卒業研究	① 介護福祉に関する諸問題について関心を持ち、自主的に取り組める研究テーマを設定できる。 ② グループワークを介して研究に取り組むことができる。 ③ プレゼンテーション能力・パワーポイント作成等、必要な基礎的知識が理解できる。	○	○	○
介護事務演習	① 介護保険制度を理解し介護保険被保険者証より利用者基本情報を読み取ることができる。 ② 介護保険制度を理解しケアプランよりサービスの内容を読み取ることができる。 ③ 介護報酬サービスコード表を使い介護給付費明細書を作成することができる。	○	○	○
福祉レクリエーション論	① 福祉レクリエーションの基礎的知識を理解することができる。 ② 福祉レクの考え方・展開・援助を学習し理解することができる。 ③ 高齢者・障がい児を対象にした福祉レクリエーション支援を理解することができる。	○	○	○
福祉レクリエーション援助技術	① １対１でかかわる個人への介入技術について理解することができる。 ② グループダイナミクスを活かした介入技術を理解することができる。 ③ レク活動への参加を促す環境づくりの方法を理解することができる。 ④ アレンジや展開方法を学び福祉レクワーカーについて理解することができる。	○	○	○
福祉レクリエーション援助論	① 支援に関する計画立案の方法について理解することができる。 ② 素材や活動の創作・アレンジ法について理解することができる。 ③ 展開演習など様々な方法を活用することを理解することができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
福祉環境論	介護技術実践の基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する次について到達目標とする。 ① 高齢者や障がい者の住みやすい住環境について理解できる。 ② 住環境に関連する医療・保健・福祉・建築の基本的知識について理解できる。 ③ バリアフリーとユニバーサルデザインの考え方について理解することができる。	○	○	○
レクリエーション論	① 自らの生活の中にあるレクリエーションについて理解できる。 ② 対象や支援の目的に合わせたプログラムを企画・展開する力を理解することができる。 ③ レクリエーションを通した、個人や集団等への働きかけについて理解することができる。	○	○	○
レクリエーション活動援助法Ⅰ	① レクリエーションの意義や支援の必要性を理解できる。 ② コミュニケーションを促進する方法を身につけプログラムを作成できる。 ③ レクリエーション活動の楽しさと展開方法を理解し実践できる。	○	○	○
レクリエーション活動援助法Ⅱ	① 支援が必要とされる具体的場面について理解を深めることができる。 ② 多くの素材・アクティビティを体験し対象にあわせて選択・活用できる。 ③ 対象者や目的にあわせた指導案を作成し展開することができる。	○	○	○
ボランティア概論	① 学外にてボランティア活動を実施するための理論と方法を知ることができる。 ② ボランティア活動の基本的精神を学び、実践に向けての基礎的態度を形成する。 ③ ボランティア活動の理念・社会的役割・基本的性格・定義について理解できる。 ④ 日本での非営利組織活動の重要な役割が理解できる。	○	○	○
ボランティア演習	① 学外にてボランティア活動を実施し、学生の主体性・自主性の大切さを理解する。 ② ボランティア実施のためのアポイント取り・事前訪問等を学び、その過程を理解する。 ③ 振り返りを行うことで、フィードバック受けより深い理解ができる。	○	○	○
福祉総合演習Ⅰ	① 大正琴に取り組むことが、個人の特技として実習先で活かせることを体得する。 ② 学科全員で大正琴演奏を行うことで、連携について理解する。 ③ 個人やグループ練習をすることで、練習の大切さや忍耐力を理解する。 ④ 行事で演奏するための組織づくりや必要な基本的知識が理解できる。	○	○	○
福祉総合演習Ⅱ	① 大正琴に取り組むことが、個人の特技として実習先で活かせることを体得する。 ② 学科全員で大正琴演奏を行うことで、連携について理解する。 ③ 個人やグループ練習をすることで、練習の大切さや忍耐力を理解する。 ④ 行事で演奏するための組織づくりや必要な基本的知識が理解できる。	○	○	○

介護福祉学科〔留学生コース〕 教育課程

[令和 7 年 4 月入学生]

科 目			履修法	単位	1 年		2 年		介護福祉士	介護保険実務士	福祉レクリエーション ワーカール インストラクター	社会福祉主事任用資格	備 考
					必	選	春学期 1セメ	秋学期 2セメ					
基礎教育	基礎科目	人 間 関 係 論	講義	2			○				★	★	基礎科目については8単位 以上取得すること 「国際関係学」は英語のみで 教授される科目です。
		コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	講義	2	○						★	★	
		人 権 教 育 概 論	講義	2			○				★	★	
		情 報 処 理 論	講義	2			○			★			
		I C T と 社 会	演習	1		○							
		I C T の 活 用	講義	2				○					
		大 分 の 人 と 学 問	講義	2		○							
		国 際 関 係 学	講義	2					○				
	外国語	社 会 貢 献 演 習 I	演習	1		●	●	●	●				
		社 会 貢 献 演 習 II	演習	1		●	●	●	●				
		キ ャ リ ア 教 育	講義	1		●	●	●	●		★		
		英 語 I	演習	1		○					★		
	体育	英 語 II	演習	1			○				★		
		運 動 ス ポ ー ツ I	演習	1		○					★	★	★
		運 動 ス ポ ー ツ II	演習	1			○				★	★	★

科 目			履 修 法	単 位		1 年		2 年		介護福祉士 介護保険実務士 インストラクター 福祉レクリエーション ワーカール	社会福祉主事任用資格	備 考
専門教育科目	人間の理解	人 間 の 尊 厳 と 自 立	講義	2		○				★ ★		
		人間関係とコミュニケーション	講義	4		○	○			★ ★		
	社会の理解	社 会 の 理 解 I	講義	2		○				★ ★	★	
		社 会 の 理 解 II	講義	2			○			★ ★	★	
	選択科目	プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 論	講義	2					○	★ ★		
		現 代 社 会 論	講義	2				○		★ ★		
		社 会 福 祉 概 論	講義	2			○			★ ★	★ ★	
		社 会 薬 理 学	講義	2					○	★ ★		
	介護の基本	介 護 の 基 本 I	講義	4		○	○			★ ★	★	
		介 護 の 基 本 II	講義	4				○	○	★ ★	★	
		リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 論	講義	2		○				★ ★	★ ★	集中講義
		介 護 保 険	講義	2				○		★ ★	★	
	コミュニケーション技術	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 術 I	演習	1		○				★ ★	★	手話
		コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 術 II	演習	1			○			★ ★	★	
	生活支援技術	生 活 支 援 技 術 I - A	演習	1		○				★ ★	★	
		生 活 支 援 技 術 I - B	演習	1					○	★ ★	★	
		生 活 支 援 技 術 II - A	演習	2		○ ○				★ ★	★	
		生 活 支 援 技 術 II - B	演習	2			○ ○			★ ★	★	
		生 活 支 援 技 術 III	演習	2				○ ○		★ ★	★	
		家 政 学 実 習	演習	2		○ ○				★ ★	★	
	介護過程	生 活 支 援 実 習	演習	2					○ ○	★ ★	★	
		介 護 過 程 I	演習	1		○				★ ★		
		介 護 過 程 II	演習	1			○			★ ★		
		介 護 過 程 III	演習	2				○ ○		★ ★		
	介護総合演習	介 護 過 程 IV	演習	1					○	★ ★		
		介 護 総 合 演 習 I	演習	1		○				★ ★		
		介 護 総 合 演 習 II	演習	1			○			★ ★		
		介 護 総 合 演 習 III	演習	1				○		★ ★		
		介 護 総 合 演 習 IV	演習	1					○	★ ★		

科 目		履 修 法	単 位		1 年		2 年		介護福祉士	介護保険実務士	インストラクター	福祉レクリエーション ワーカール	社会福祉主事任用資格	備 考
					春学期		秋学期							
			必	選	1セメ	2セメ	3セメ	4セメ						
介護実習	介護実習Ⅰ－1	実習	2			◎◎			★	★	★			学外集中
	介護実習Ⅰ－2	実習	3				◎◎		★	★	★	★		学外集中
発達と老化の理解	介護実習Ⅱ	実習	5				◎◎		★	★	★			学外集中
	発達と老化の理解学	講義	2	○					★	★		★	★	
認知症の理解	認知症の理解Ⅰ	講義	2		○				★	★				
	認知症の理解Ⅱ	講義	2				○		★	★				
障害の理解	障害の理解Ⅰ	講義	2			○			★	★		★		
	障害の理解Ⅱ	講義	2				○		★	★		★		
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ－A	講義	2	○					★	★				
	こころとからだのしくみⅠ－B	講義	2	○					★	★		★		
	こころとからだのしくみⅡ	講義	2			○			★	★		★		
	こころとからだのしくみⅢ	講義	2				○		★	★		★		
医療的ケア	医療的ケアⅠ－A	講義	2			○			★					
	医療的ケアⅠ－B	講義	2			○			★					
	医療的ケアⅡ	演習	2				○○		★					
日本語	介護のことばⅠ	演習	2	○○										
	介護のことばⅡ	演習	2		○○									
	日本語中上級A	演習	1	○										
	日本語中上級B	演習	1	○										
	日本語中上級C	演習	1	○										
	日本語中上級D	演習	1	○										
	日本語中上級E	演習	1	○										
	日本語中上級F	演習	1	○										
	日本語上級A	演習	1		○									
	日本語上級B	演習	1		○									
	日本語上級C	演習	1		○									
	日本語上級D	演習	1		○									
	日本語上級E	演習	1		○									
	日本語上級F	演習	1		○									
	日本語能力試験対策Ⅰ（聴解）	演習	1	○										
	日本語能力試験対策Ⅰ（文字・語彙）	演習	1	○										
	日本語能力試験対策Ⅰ（文法）	演習	1	○										
	日本語能力試験対策Ⅰ（読解）	演習	1	○										
	日本語能力試験対策Ⅱ（聴解）	演習	1		○									
	日本語能力試験対策Ⅱ文字・語彙	演習	1		○									
	日本語能力試験対策Ⅱ（文法）	演習	1		○									
	日本語能力試験対策Ⅱ（読解）	演習	1		○									
	介護の日本語A	演習	2	○○										
	介護の日本語B	演習	2	○○										
	介護の日本語C	演習	2		○○									
	介護の日本語D	演習	2		○○									
ビジネスマナー	講義	2	○											
日本の文化	演習	1	○											
日本事情Ⅰ	講義	2	○											
日本事情Ⅱ	講義	2		○										
福祉関連科目	卒業研究	演習	3				○	○○		★				プレゼンを含む
	介護事務演習	演習	1					○		★				
	福祉レクリエーション論	講義	2				○					★		
	福祉レクリエーション援助技術	演習	2				○	○				★		
	福祉レクリエーション援助論	講義	2					○				★		
	福祉環境論	講義	2				○					★		
	レクリエーション論	講義	2		○						★			
	レクリエーション活動援助法Ⅰ	演習	1	○							★			
	レクリエーション活動援助法Ⅱ	演習	1		○						★			
	ボランティア概論	講義	2											
	ボランティア演習	演習	4				○○	○○						
	福祉総合演習Ⅰ	演習	3	○	○○									
	福祉総合演習Ⅱ	演習	3				○	○○						

※○印は、90分授業、1コマ15週

○印は、90分授業、2コマ15週

◎印は規定時間実施

●印は、90分授業、1コマ8週

★印は、各資格・免許・コースの必修科目

基礎科目・外国語・体育・専門科目より71単位以上取得しなければ卒業できない。

基礎科目「社会貢献演習Ⅰ・Ⅱ」は、2時間×8回以上の貢献をもって演習1単位とする。

キャリア教育は2年間を通じて8回以上受講すること。

レクリエーション・インストラクター資格は、科目の履修・外部レク事業の参加を必要とする。

都合により、開講時期が変更になることがある。

令和7年度カリキュラムマップ【2025介護福祉学科：留学生コース】

建学の精神：自立・自活できる人材の育成

教育理念と3つのポリシー：学生生活ハンドブック【学生便覧】を参照してください。

介護福祉学科【ディプロマポリシー】DP

介護福祉士資格取得をめざし、人間と社会、介護、こころとからだのしくみ、医療的ケアの4領域にわたる知識、技能を修得理解し行動できる。

- ・「人間と社会」に関して、介護実践技術の基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資することができる。
- ・「介護」に関して、尊厳の保持、自立支援の考え方を踏まえ、生活を支えることができる。

フィールド		1年生春学期 1 Semester	1年生秋学期 2 Semester	2年生春学期 3 Semester
基礎教育	基礎科目	コミュニケーション論	大分の人と学問 ICTと社会	人間関係論 人権教育概論 情報処理論
		【通年】 キャリア教育 社会貢献演習Ⅰ 社会貢献演習Ⅱ		
	外国語	英語Ⅰ	英語Ⅱ	
	体育	運動スポーツⅠ	運動スポーツⅡ	
専門教育	人間の理解	人間の尊厳と自立 人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーション	
	社会の理解	社会の理解Ⅰ	社会の理解Ⅱ	
	選択科目		社会福祉概論	現代社会論
	介護の基本	介護の基本Ⅰ リハビリテーション論	介護の基本Ⅰ	介護の基本Ⅱ 介護保険
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術Ⅰ	コミュニケーション技術Ⅱ	
	生活支援技術	生活支援技術Ⅰ-A 生活支援技術Ⅱ-A 家政学実習	生活支援技術Ⅱ-B	生活支援技術Ⅲ
	介護過程	介護過程Ⅰ	介護過程Ⅱ	介護過程Ⅲ
	介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	介護総合演習Ⅱ	介護総合演習Ⅲ
	介護実習		介護実習Ⅰ-1	介護実習Ⅰ-2
	発達と老化の理解	心理学	発達と老化の理解	
	認知症の理解	認知症の理解Ⅰ		認知症の理解Ⅱ
	障害の理解		障害の理解Ⅰ	障害の理解Ⅱ
	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ-A こころとからだのしくみⅠ-B	こころとからだのしくみⅡ	こころとからだのしくみⅢ
	医療的ケア		医療的ケアⅠ-A 医療的ケアⅠ-B	
	日本語	介護のことばⅠ 日本語中上級A 日本語中上級B 日本語中上級C 日本語中上級D 日本語中上級E 日本語中上級F 日本語能力試験対策Ⅰ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅰ（文字読解） 日本語能力試験対策Ⅰ（文法） 日本語能力試験対策Ⅰ（読解） 介護の日本語A 介護の日本語B ビジネスマナー 日本の文化 日本事情Ⅰ	介護のことばⅡ 日本語上級A 日本語上級B 日本語上級C 日本語上級D 日本語上級E 日本語上級F 日本語能力試験対策Ⅱ（聴解） 日本語能力試験対策Ⅱ（文字読解） 日本語能力試験対策Ⅱ（文法） 日本語能力試験対策Ⅱ（読解） 介護の日本語C 介護の日本語D 日本事情Ⅱ	
	福祉関係科目	レクリエーション活動援助法Ⅰ 福祉総合演習Ⅰ	レクリエーション論 レクリエーション活動援助法Ⅱ 福祉総合演習Ⅰ	卒業研究 福祉レクリエーション論 福祉レクリエーション援助技術 福祉環境論 ボランティア概論 ボランティア演習 福祉総合演習Ⅱ

- ・「こころとからだのしくみ」に関して、多職種協働や適切な介護の提供ができる。
- ・「医療的ケア」に関して、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施することができる。

介護福祉学科 留学生コース【ディプロマポリシー】DP

- ・介護現場で求められる日本語運用力および専門的な知識、技術を身につけることができる。
- ・多様化する社会で介護福祉士として自立し、積極的に地域社会に参画できる。

2年生秋学期 4セメスター		卒業と同時に取得をめざす資格	
国際関係学	 学 修 成 果	希望する卒業後の進路（就職・進学等）の内定 専門性の高いエビデンスに基づいた、現場実践に結びつく確かな知識・技術の取得	福祉レクリエーションワーカー レクリエーションインストラクター 社会福祉主事任用資格 介護保険実務士 介護福祉士（受験資格取得）
社会貢献演習Ⅱ			
プレゼンテーション論			
社会薬理学			
介護の基本Ⅱ			
生活支援技術Ⅰ-B			
生活支援実習			
介護過程Ⅳ			
介護総合演習Ⅳ			
介護実習Ⅱ			
医療的ケアⅡ			
卒業研究 介護事務演習 福祉レクリエーション援助技術 福祉レクリエーション援助論 ボランティア概論 ボランティア演習 福祉総合演習Ⅱ			

介護福祉学科〔留学生コース〕 到達目標一覧表

[令和 7 年 4 月入学生]

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
人間関係論	① 介護職等、専門的職業現場をはじめ、現代社会における複雑で多様な人間関係の在り方を理解し、「問題」に対応しうる職業人材や良識ある社会人としての成長を目指す。 ② 臨床心理学や社会心理学、またはその周辺領域における基礎的な知見や技術、人々の間での関係調節能力を身につける。	○	○	○
コミュニケーション論	① コミュニケーションの役割や使いどころを理解する。 ② 専門分野で得た知識や技能を実社会で活かすための言動ができる。 ③ 人間関係を築くためのコミュニケーションを理解できる。	○	○	○
人権教育概論	① 差別を正しく認識し、様々な不合理や差別の解消を図る意欲と実践力を身に付ける。 ② 進んで人権尊重の精神を身につけ、積極的に人権擁護に努める実践力を修得する。 ③ コミュニケーション力を身に付け、他者の存在を尊ぶ資質を育む。 ④ 特に介護の現場で求められる人権感覚を身に付ける。	○	○	
情報処理論	① 情報実務に関する基本的な用語を説明できる。 ② 情報実務で必要な情報機器の基本的な操作ができる。	○		○
大分の人と学問	① 大分の特色や課題について説明できる。 ② 大分に縁のある学問分野や人物について説明できる。 ③ テーマに基づいて他者と意見交換したり、協調しながら課題に取り組んだりすることができる。 ④ 授業内容から派生的な課題を自ら見だし、文献等の調査に基づいたアイデアを論述することができる。	○	○	
国際関係学	① To prepare students with skills to take English based courses at university. 大学の英語開講コースを受講するための基礎英語能力を身に着けることをめざします。 ② To learn and apply basic International Relations theories to current events taken from the newspaper. 新聞記事の時事問題を題材に、国際関係の基礎知識を学びます。 ③ To be able to discuss opinions on world politics. 国際政治について、自身の意見で論議できることをめざします。	○	○	○
ICTの活用	① 情報を収集・分析し、適切な表現方法を選択することができる。 ② 聴衆の理解を促すわかりやすいスライドを作成できる。 ③ プレゼンテーションソフトの基本的な操作ができる。	○	○	○
社会貢献演習Ⅰ	① 修得した知識能力を実社会で行使し、生きた力に変えることができる。 ② 社会貢献について人間的成長を図ることが理解できる。	○	○	○
社会貢献演習Ⅱ	① 修得した知識能力を実社会で行使し、生きた力に変えることができる。 ② 社会貢献について人間的成長を図ることが『社会貢献Ⅰ』以上に理解できる。	○	○	○
キャリア教育	① 企業の経営者等の対話から、自己実現（キャリア形成）についての能力を形成する。 ② 卒業後の社会人として、生きるための基礎能力を磨くことができる。 ③ 現在の地域社会に必要なキャリア形成について理解できる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
英語 I	① Students will have acquired some basic vocabulary required for daily conversation. ② They will have an understanding of basic English grammar. ③ They will be able to ask and answer simple questions in English.	○	○	
英語 II	① Students will have overcome their hesitation to try to communicate in English. ② They will continue to broaden their knowledge of their basic grammar. ③ They will be able to ask and answer simple questions in English	○	○	
運動スポーツ I	① 健康的な心と体を培う知識を深める。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高める。 ③ 充実した生活を送るための体力を高める。	○	○	
運動スポーツ II	① 健康的な心と体を培う知識を深めることができる。 ② スポーツをととしてコミュニケーション能力を高めることができる。 ③ 充実した生活を送るための体力を高めることができる。	○	○	
人間の尊厳と自立	① 人間の多面性について理解できる。 ② 尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性が理解できる。 ③ 介護場面における倫理的課題についての対応力が理解できる。	○	○	○
人間関係とコミュニケーション	① 相手の立場を理解し、適切な言動が取ることができる。 ② チーム運営を理解し、連携を図ることができる。	○	○	○
社会の理解 I	① 個人が自立・自律した生活を営むことの必要性が理解できる。 ② 個人・家族・近隣・地域・社会の単位で人間を捉える視点を理解し、基礎的態度を形成する。 ③ 人間の生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程が理解できる。 ④ 現代社会の中で生活と福祉を中心に据える基本的な知識が理解できる。	○	○	○
社会の理解 II	介護技術実践の基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する次について到達目標とする。 ① 介護保険制度の目的としくみ、組織・団体・専門職について理解できる。 ② 障害者保健福祉の動向、法体系、障害者総合支援制度について理解できる。 ③ 介護実践に関連する諸制度について概要を理解できる。	○	○	○
現代社会論	① 団塊の世代が高齢者となっている現代社会について理解する。 ② 医療・福祉・介護の視点から見られる様々な問題を理解する。 ③ 大分県に残る朝鮮半島からの影響についても理解する。	○	○	
社会福祉概論	① 現行の社会福祉制度、福祉サービスの基礎的知識を形成する。 ② 日本社会を再設計するための方法と視点を追求する。 ③ 同時に福祉に従事するための豊かな社会福祉観について理解できる。 ④ 政治・経済活動の全てが、人間の命をより輝かせるためにあるという理解ができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
社会薬理学	① 生体に何らかの変化を起こす化学物質は、全て薬物であることが理解できる。 ② 薬は使い方を誤れば病状を悪化させ、時には命を奪うこともあることを理解する。 ③ 正しい薬との付き合い方・飲み方について基本的な知識が理解できる。	○	○	○
介護の基本Ⅰ	① 尊厳の保持や自立支援の基本理念について理解できる。 ② 地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面における介護福祉士の役割と機能について理解できる。 ③ 介護福祉の専門性と倫理について理解できる。 ④ ICFの視点に基づくアセスメント、個々の状態に応じた環境整備や介護予防等について理解できる。	○	○	○
介護の基本Ⅱ	① 尊厳の保持、自立支援の理念を踏まえ、介護を受けて生活する人及びその生活について理解できる。 ② フォーマル及びインフォーマルな支援、地域連携について理解できる。 ③ リスクマネジメントについて理解できる。 ④ 他職種連携の必要性和他職種の役割について理解できる。	○	○	○
リハビリテーション論	① リハビリテーションの概念及び基本原則などを理解する。 ② PT・OT・STの内容を学びチームアプローチの重要性を理解する。 ③ 住宅改修・福祉用具に関する基礎知識を学び、説明することができる。 ④ 起居移乗介助法、筋力トレーニング、ストレッチングを実践できる。	○	○	○
介護保険	介護技術実践の基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する次について到達目標とする。 ① 介護保険制度の背景及び目的、動向について理解できる。 ② 介護保険制度のしくみについて理解できる。 ③ 介護保険制度における組織、団体の機能と役割、専門職の役割について理解できる。 ④ 介護保険の今後の課題について理解できる。	○	○	○
コミュニケーション技術Ⅰ	① 聴覚障害者とのコミュニケーション方法を説明することができる。 ② 聞こえない人達が抱える問題や福祉について理解することができる。 ③ 手話で挨拶や自己紹介、趣味などを話題に会話ができる。	○	○	○
コミュニケーション技術Ⅱ	介護技術実践の基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する次について到達目標とする。 ① コミュニケーションの意義や援助関係の構築、傾聴、受容、言語・非言語コミュニケーションの考え方や技術を理解できる。 ② 視覚障害や聴覚障害等さまざまなコミュニケーション障害のある人の特性と支援の方法を理解できる。 ③ 利用者の家族とどのようにかかわっていくかを理解できる。 ④ チーム力を高めるコミュニケーションの方法を理解できる。	○	○	○
生活支援技術Ⅰ－A	① 生活を意識する時、何らかの障壁・障がいと直面することが理解できる。 ② 社会的問題を背景とした困難な状況が、生活問題となることが理解できる。 ③ 生活支援に必要な基本的な知識・技術が理解できる。 ④ 支援者は、生活問題の予防・回復・改善を多面的な視点で観る必要性が理解できる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
生活支援技術Ⅰ－B	① 生活を意識する時、何らかの障壁・障がいにより直面することが理解できる。 ② 社会的問題を背景とした困難な状況が、生活問題となることが理解できる。 ③ 生活支援に必要な基本的な知識・技術が『生活支援技術Ⅰ－A』以上に理解できる。 ④ 支援者は、生活問題の予防・回復・改善を多面的な視点で観る必要性が理解できる。	○	○	○
生活支援技術Ⅱ－A	① 尊厳の保持の観点を踏まえ、利用者の状態にあった、自立・自律を尊重した対応の理解ができる。 ② 原理・法則性に基づいた技術を学習し、安全に援助できる技術や知識を理解し、実践することができる。 ③ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○	○	
生活支援技術Ⅱ－B	① 尊厳の保持の観点を踏まえ、利用者の自立・自律を尊重し適切な介護技術を理解することができる。 ② 原理・法則性に基づいた技術を学習し、安全に援助できる技術や知識を理解し、実践することができる。 ③ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○	○	○
生活支援技術Ⅲ	① 実際に起こりうる様々な事例の展開方法を実践することができる。 ② 様々な障がいについて理解し、障害に応じた適切な介護技術を実践する。 ③ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○		○
家政学実習	① 一人で食事づくりが可能な食に関する基礎的能力を形成する。 ② 望ましい食事のために役立つ基礎的知識が理解できる。 ③ 食生活全般に亘っての総合的な判断力・実践力の獲得ができる。 ④ 生活支援に必要な基本的な知識・技術を理解し、実践できる。	○	○	○
生活支援実習	① 高齢者・障がい者の食生活のあり方や、調理法についての実践的態度を形成する。 ② 人の健康と食との間に強い相関関係のあることが理解できる。 ③ 介護食についての特有な調理理論や科学があることが理解できる。 ④ 食生活支援にとって、食べる人の立場に立った食の提供の大切さを理解し、実践できる。	○	○	○
介護過程Ⅰ	① 介護過程のプロセスについて理解することができる。 ② ICFを活用した情報収集の方法について理解することができる。 ③ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○	○	
介護過程Ⅱ	① 他の科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程に反映展開し、利用者を理解することができる。 ② 事例を読み解き、介護過程を展開し、個別援助計画を作成することができる。 ③ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○	○	
介護過程Ⅲ	① 自立に向けた介護過程の展開ができる。 ② 利用者の潜在能力や個性を理解し、状態・状況に応じた介護計画の作成ができる。 ③ 介護計画実施、実施後の評価方法について理解できる。 ④ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
介護過程Ⅳ	① 個別援助計画とケアプランの関係性について理解する。 ② チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性について理解する。 ③ 事例発表を通して、介護過程の展開の重要性について理解する。 ④ 各領域での学びと実践の総合を習得することができる。	○	○	○
介護総合演習Ⅰ	① 学習到達状況に応じて学習することができる。 ② 介護実習の意義と目的について理解することができる。 ③ 介護実習Ⅰ-1へ向けての意識付けと準備をすることができる。	○	○	○
介護総合演習Ⅱ	① 介護実習Ⅰ-2へ向けての準備について理解することができる。 ② 介護過程の展開の能力などについて理解することができる。 ③ 実践場面で適応できる柔軟性や応用・判断力について理解することができる。	○	○	○
介護総合演習Ⅲ	① 実習に必要な知識や技術の確認について理解することができる。 ② 介護過程の展開について理解することができる。 ③ 介護場面で遭遇した課題を解決するための行動力を理解することができる。 ④ 柔軟性や応用力、判断力を習得し理解することができる。	○		○
介護総合演習Ⅳ	① 実習に必要な知識や技術について理解することができる。 ② 介護過程の展開の能力等について理解することができる。 ③ 振り返りを行い、カンファレンスを行い理解することができる。	○	○	
介護実習Ⅰ-1	① 福祉施設の概要と機能を理解することができる。 ② 利用者とその生活を理解し、基本的な日常生活援助を学ぶことができる。 ③ 利用者の状況に応じた介護技術の必要性を学ぶことができる。 ④ 基本的なコミュニケーション能力を身に付け、利用者との人間的な触れ合いを図ることができる。	○	○	○
介護実習Ⅰ-2	① 様々な利用者への支援方法および多様なサービスの種類について理解することができる。 ② 利用者とその生活、基本的な日常生活支援について理解することができる。 ③ 適切なコミュニケーションスキルを用いて人間的な触れ合いの必要性について理解することができる。 ④ 基本的な生活支援技術について実践し、利用者の状況に応じた適切な介護を学ぶことができる。 ⑤ 他職種の役割について学び、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割について理解することができる。	○	○	○
介護実習Ⅱ	① 利用者の24時間の生活を学ぶことができる。 ② 介護過程の展開において、個々の利用者の情報を収集する中で生活背景や生活リズムについて理解し、自立支援の観点を学ぶことができる。 ③ 介護過程のプロセスを実践し、展開能力を身につけることができる。 ④ 自ら行った介護過程に基づく介護実践に対し、評価・修正を行うことができる。 ⑤ 組織の一員としてのチームワークの重要性を理解し、他職種との連携に取り組むことができる。	○	○	○
心理学	① 基礎的な心の仕組みを様々な視点から理解できる。 ② 心の理解に基づく援助や態度の基本を理解できる。	○		
発達と老化の理解	① 人間の成長と発達の基礎的な面が理解できる。 ② 老化に伴うところからだの変化と生活が理解できる。	○		○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
認知症の理解Ⅰ	① 認知症の人の心理や身体的機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。 ② 認知症ケアについて理解するための基本的な知識を習得する。	○		○
認知症の理解Ⅱ	① 認知症の人の生活支援を理解し、制度や施策について学ぶ。 ② 認知症の人の生活支援、制度・関係機関などについて理解できる。	○		○
障害の理解Ⅰ	① 障害の概念について説明できる。 ② 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援について説明できる。	○		
障害の理解Ⅱ	① 基礎的知識を習得し、環境にも配慮した視点について学習する。 ② 医学的な基礎的知識、連携と家族への支援について理解できる。	○		○
こころとからだのしくみⅠ－Ａ	① 人間のこころのしくみが理解できる。	○	○	
こころとからだのしくみⅠ－Ｂ	① 人体の構造や機能を理解する。 ② 移動に関連したこころとからだのしくみについて理解する。	○		○
こころとからだのしくみⅡ	① 人体の構造や機能、安全への留意点や配慮について学習する。 ② 生活支援の場面に応じた心身への影響を理解できる。	○		○
こころとからだのしくみⅢ	① 人体の構造や機能、安全の留意点や配慮について学習する。 ② 生活支援の場面に応じた心身への影響を理解できる。	○		○
医療的ケアⅠ－Ａ	① 喀痰吸引、経管栄養を安全、適切な知識・技術を習得できる。 ② 安全な医療的ケアの基本的知識を理解することができる	○	○	○
医療的ケアⅠ－Ｂ	① 喀痰吸引、経管栄養を安全、適切に行うための知識・技術を習得できる。 ② 利用者の状況を把握し適切な実施手順について説明することができる。	○	○	○
医療的ケアⅡ	① 喀痰吸引、経管栄養を実施手順に基づき安全・適切に実施できる。	○	○	○
介護のことばⅠ	① 介護に必要な基本的な知識・技能を理解し、使用することができる。	○	○	
介護のことばⅡ	① 介護福祉士に必要な基本的な知識・技能を理解し、使用することができる。	○	○	
日本語中上級Ａ	① 日本社会で必要な能力（特に聴解の能力）を身につける。 ② 日常生活において聴く力を適用できる。	○	○	
日本語中上級Ｂ	① 日本社会で必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 日常生活において読む力を適用できる。	○	○	
日本語中上級Ｃ	① 日本社会で必要な能力(特に語彙力)を身につける。 ② 日常生活において語彙を応用できる。	○	○	
日本語中上級Ｄ	① 日本社会で必要な能力（特に文法の能力）を身につける。 ② 日常生活において文法を適用できる。	○	○	
日本語中上級Ｅ	① 場面や状況に応じて日本語を理解し、運用できる。 ② 自分の意見や感情を簡単に伝えることができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を伸ばすことができる。	○	○	
日本語中上級Ｆ	① 場面や状況に応じて日本語を理解し、運用できる。 ② 自分の意見や感情を簡単に伝えることができる。 ③ 日本の生活に必要な日本語能力を伸ばすことができる。	○	○	
日本語中上級Ｇ	① 場面や状況に応じて日本語を理解し、運用できる。 ② 自分の意見や感情を簡単に伝えることができる。	○	○	
日本語上級Ａ	① 日本社会で必要な能力（特に聴解の能力）を身につける。 ② 日常生活において聴く力を応用できる。	○	○	

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
日本語上級B	① 日本社会で必要な能力（特に読解の能力）を身につける。 ② 日常生活において読む力を応用できる。	○	○	
日本語上級C	① 日本社会で必要な能力(特に語彙と聴解の能力)を身につける。 ② 日常生活において語彙・聴解力を応用できる。	○	○	
日本語上級D	① 日本社会で必要な能力（特に文法の能力）を身につける。 ② 日常生活において文法を応用できる。	○	○	
日本語上級E	① 課題を達成するための適切な会話表現できるようになる。 ② 相手に配慮した表現ができるようになる。	○	○	
日本語上級F	① 決められたテーマに対して自分の意見を文章で書ける。 ② 日本や母国の問題について記述できる。 ③ 関連する語彙や文法を使って読みやすい文章が書ける。	○	○	
日本語上級G	① 中級～上級レベルの語彙と文法を習得し、4技能を伸ばすことができる。 ② 一般的なテーマについて会話やディスカッションできる。 ③ 様々な文章を読み感想や意見を記述できる。	○	○	
介護の日本語A	① 介護福祉の知識を学ぶ日本語力を育むことができる。 ② 介護の基本理念について概要を理解することができる。 ③ 介護福祉士の役割について概要を理解することができる。	○	○	○
介護の日本語B	① 介護福祉の知識を学ぶ日本語力を育むことができる。 ② 介護福祉士の倫理について概要を理解することができる。 ③ 自立支援と介護予防について概要を理解することができる。	○	○	○
介護の日本語C	① 介護福祉の知識を学ぶ日本語力を育むことができる。 ② 社会と生活のしくみについて概要を理解することができる。 ③ 地域共生社会について概要を理解することができる。	○	○	○
介護の日本語D	① 介護福祉の知識を学ぶ日本語力を育むことができる。 ② 社会保障制度について概要を理解することができる。 ③ 介護保険制度について概要を理解することができる。	○	○	○
ビジネスマナー	① 日本社会で必要な基礎知識、マナーを理解することができる。 ② 面接、電話応対で用いられる日本語表現を使うことができる。 ③ 日本人のビジネススタイルや価値観を理解することができる。	○	○	○
日本の文化	① 演習を通して、日本の文化や歴史、習慣に触れることができる。 ② 自国の文化や習慣と比較し、説明することができる。 ③ コミュニケーション能力を身につけ、協調することができる。	○	○	○
卒業研究	① 介護福祉に関する諸問題について関心を持ち、自主的に取り組める研究テーマを設定できる。 ② グループワークを介して研究に取り組むことができる。 ③ プレゼンテーション能力・パワーポイント作成等、必要な基礎的知識が理解できる。	○	○	○
介護事務演習	① 介護保険制度を理解し介護保険被保険者証より利用者基本情報を読み取ることができる。 ② 介護保険制度を理解しケアプランよりサービスの内容を読み取ることができる。 ③ 介護報酬サービスコード表を使い介護給付費明細書を作成することができる。	○	○	○
福祉レクリエーション論	① 福祉レクリエーションの基礎的知識を理解することができる。 ② 福祉レクの考え方・展開・援助を学習し理解することができる。 ③ 高齢者・障がい児を対象にした福祉レクリエーション支援を理解することができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
福祉レクリエーション 援助技術	① 1対1でかかわる個人への介入技術について理解することができる。 ② グループダイナミクスを活かした介入技術を理解することができる。 ③ レク活動への参加を促す環境づくりの方法を理解することができる。 ④ アレンジや展開方法を学び福祉レクワーカーについて理解することができる。	○	○	○
福祉レクリエーション 援助論	① 支援に関する計画立案の方法について理解することができる。 ② 素材や活動の創作・アレンジ法について理解することができる。 ③ 展開演習など様々な方法を活用することを理解することができる。	○	○	
福祉環境論	介護技術実践の基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する次について到達目標とする。 ① 高齢者や障がい者の住みやすい住環境について理解できる。 ② 住環境に関連する医療・保健・福祉・建築の基本的知識について理解できる。 ③ バリアフリーとユニバーサルデザインの考え方について理解することができる。	○	○	○
レクリエーション論	① 自らの生活の中にあるレクリエーションについて理解できる。 ② 対象や支援の目的に合わせたプログラムを企画・展開する力を理解することができる。 ③ レクリエーションを通した、個人や集団等への働きかけについて理解することができる。	○	○	○
レクリエーション活動 援助法Ⅰ	① レクリエーションの意義や支援の必要性を理解できる。 ② コミュニケーションを促進する方法を身につけプログラムを作成できる。 ③ レクリエーション活動の楽しさと展開方法を理解し実践できる。	○	○	○
レクリエーション活動 援助法Ⅱ	① 支援が必要とされる具体的場面について理解を深めることができる。 ② 多くの素材・アクティビティを体験し対象にあわせて選択・活用できる。 ③ 対象者や目的にあわせた指導案を作成し展開することができる。	○	○	○
ボランティア概論	① 学外にてボランティア活動を実施するための理論と方法を知ることができる。 ② ボランティア活動の基本的精神を学び、実践に向けての基礎的態度を形成する。 ③ ボランティア活動の理念・社会的役割・基本的性格・定義について理解できる。 ④ 日本での非営利組織活動の重要な役割が理解できる。	○	○	○
ボランティア演習	① 学外にてボランティア活動を実施し、学生の主体性・自主性の大切さを理解する。 ② ボランティア実施のためのアポイント取り・事前訪問等を学び、その過程を理解する。 ③ 振り返りを行うことで、フィードバック受けより深い理解ができる。	○	○	○

科 目 名	授 業 目 標	知識	主体性	就業力
福祉総合演習Ⅰ	① 大正琴に取り組むことが、個人の特技として実習先で活かせることを体得する。 ② 学科全員で大正琴演奏を行うことで、連携について理解する。 ③ 個人やグループ練習をすることで、練習の大切さや忍耐力を理解する。 ④ 行事で演奏するための組織づくりや必要な基本的知識が理解できる。	○	○	○
福祉総合演習Ⅱ	① 大正琴に取り組むことが、個人の特技として実習先で活かせることを体得する。 ② 学科全員で大正琴演奏を行うことで、連携について理解する。 ③ 個人やグループ練習をすることで、練習の大切さや忍耐力を理解する。 ④ 行事で演奏するための組織づくりや必要な基本的知識が理解できる。	○	○	○

2. 教育科目の履修方法と手続

(1) 履修科目

(A) 必修科目

各教育科目のなかには、各学科の性質にもとづいて、必ず履修しなければならない必修科目が定められています。この科目が全て履修されるまでは、他の要件を満たしていても卒業が認定されません。また、必修科目のうち専門科目は、段階的に学習するようになっていきますので、1年次において必修科目を落とすこと（不可もしくは未評価となること）は2年次の学習に大きな支障となる点に注意してください。

なお、前述した各免許・資格の取得の指定科目は、免許・資格の取得のために、実質的には必修科目と同然の意味をもつことになります。

(B) 選択科目

一般教育科目をはじめ多くの教育科目では選択制がとられていますが、どの科目をとるかは学生の判断にまかされます。しかし、この選択制も各免許・資格の取得をめざす場合、指定科目の関係で選択の幅が狭くなることはやむを得ません。

(C) 学年次制

履修科目は、一般教育課程を除いて学年次別に配列され、それにもとづいて時間割が組まれます。これは2年間に履修する多くの科目を系統的に学修する必要があります（カリキュラムマップ参照）。したがって、必修科目をはじめ必要な科目は必ずその学年次において履修しなければ、3年次において履修しなければならないことになります。（留学生・長期履修学生は除く）

(2) 授業の形態・単位制

(A) 学期 2 期制

各年次の授業は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わりますが、それを春学期と秋学期の2期に分けます。期の区分については、各年次始めに別に指定します。

(B) 授業の形態

各科目は、内容や授業の方法等によって、講義、演習、実験・実習及び実技の各科目として示されます。

担当教員の講義を主とする科目を講義科目、担当教員の講義を主としながらも小実習等を加え担当教員と学生が共同で研究する科目を演習科目、担当教員

の指導のもとで実際に学生が実験し、制作し、研究する科目を実験・実習科目といます。

(C) 単 位 制

大学での学修は、学年進級制でなく、単位制になっています。これは、各科目毎の履修に対し、試験その他の方法による合格判定によって、その科目について定められた単位数を修得していくことです。後述のように、卒業ないし各免許・資格の取得には、必要な最低単位数が定められており、卒業や免許・資格の取得がこれらの単位数の修得にかかっていることとなります。

(D) 単位の基準

単位とは学修時間を示すもので、その科目の学修が延べ 45 時間となるとき、これを 1 単位とします。

単位計算の基準となる学修時間は、授業形態によって分けられ、原則として次のようになっています。

講 義 科 目	教室内 1 時間につき教室外 2 時間の自学習
演 習 科 目	教室内 2 時間につき教室外 1 時間の自学習
実験・実習科目	教室内の学修時間

上述でわかるように、大学における学修が自習すなわち自学自修による予習や復習が単位計算にそのままつながるものであり、そこに大学における学生の学習の特色があることを自覚すべきであり、講義をはじめ大学における授業の理解が学生の学習態度いかにかわるものであることを注意しておきます。

なお、学修期間は、1 期で終わる科目については 15 週として計算されます。したがって、1 週に 2 時間（本学ではこれを 1 コマと呼び正味 90 分）の講義が 1 期（15 週＝30 時間）で 2 単位となるのはこの計算基礎にたっています。また「演習」については 1 期（15 週＝30 時間）で 1 単位となります。「実験・実習及び実技」については、1 週 3 時間×15 週＝45 時間（1 週 4 時間×11.5 週＝45 時間）の計算で 1 単位となります。（例外科目は各学科のカリキュラム表を参照）

(E) 学外実習

教職をはじめ各種の免許・資格を取得しようとする場合には、それぞれ正課に加えて学外実習が課せられています。これらの実習について必要な事項は「実習規程」（P. 303 ～）に定められていますので、この規程にしたがって実習を行ってください。

なお、これらの実習に対する成績評価及び単位の認定については、各実習施設における評価等を資料にして、学科の実習担当教員が行うことになっています。

(3) 授業時間・時間割

(A) 授業時間

授業時間は、講義及び演習科目については 90 分を 1 コマとし、これを単位計算上の 2 時間分の授業とみなします。

1 日の授業時間は、次のとおりです。

授 業 時 間

時間	第 1 時限	第 2 時限	第 3 時限	第 4 時限	第 5 時限
	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

※予定により変更することがあります

(B) 時 間 割

各科目の年次配分は、毎年度はじめの授業ガイダンスの際に、時間割は各学期のはじめに発表します。

時間割が固定化されているのは、科目選択をはじめ学生の長期的な履修計画がたてられるよう配慮したものです。

なお、各期および長期休業のはじめとおわりには、全学アセンブリー（全体集会）が設定されます。

(4) 卒業に必要な単位数

卒業するためには 2 年以上 4 年を超えない期間在学し、所定の科目及び単位数以上を履修・修得しなければなりません。（長期履修学生は 2 年以上 6 年以内）

学則により、基礎科目については、計 8 単位以上、外国語科目については 2 単位、体育科目については 2 単位、専門教育科目については、50 単位以上、総計で 62 単位以上を修得することが卒業の要件になっています。但し、介護福祉学科は 71 単位とします。

このうち、特に、専門教育科目においては、所定の科目及び単位数は各学科によって異なります。

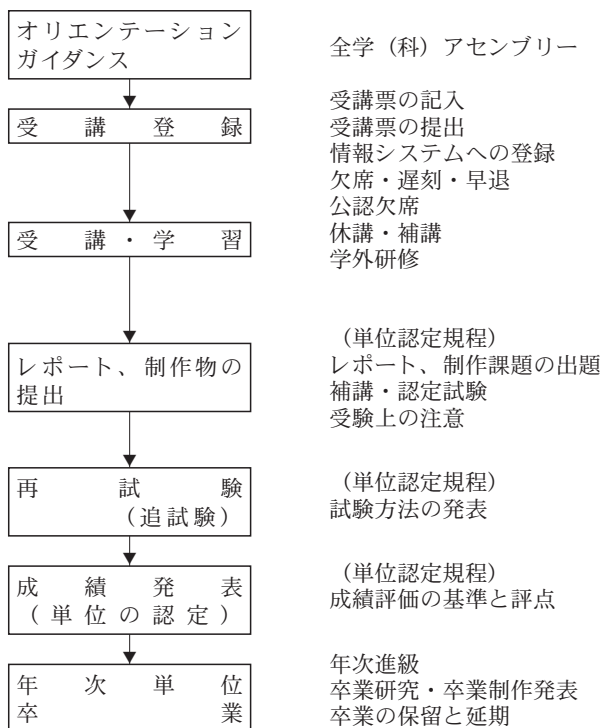
また、単に卒業要件を充足するだけでなく、さらに各免許状・資格等を取得しようとする学生は、前述のように、卒業要件に加えて取得に必要な指定科目を履修しその単位を修得しなければなりません。

このことについては、4 学修に関する要項における、「1. 教育課程の(1) 構成と目標」及び、「(2)授業科目一覧表に記載してありますので、それをよく読んで慎重に履修計画をたてる必要があります。

なお、上記の記述はかなり複雑になっていますので、理解しにくい点については、ガイダンスのときなどに担当教員または教務課から適切な指導や助言を受けてください。

(5) 履修手続（受講登録から単位認定まで）

大学における学修生活のサイクルは、履修科目の登録にはじまり、学修成果の評価によって単位認定がなされることで終わります。このサイクルが、4 学期、（第1セメスター～第4セメスター）2年間を通じて繰り返されるわけです。図示すれば次のとおりです。



(A) オリエンテーション

毎年4月開講時3日間にわたって入学後の学園生活の指針となるオリエンテーションが行われます。これは学修生活の基礎を固め、履修計画をたて、学園生活への明るい希望と展望をもつための行事です。

学生の毎日の生活に密接な部局となる教務課、学生課、厚生課、就職支援課、図書館、事務局などからの細かなガイダンスは、全学生の必修とするところです。

(B) 受講登録

各年次、各学期において開講科目を履修する場合には、必ず受講登録をしなければなりません。受講登録は、学習の前提となる手続きですので、下記注意事項に十分留意してください。

- ① 同一時限には1科目しか登録できません。重複受講（登録）は認められません。
- ② 登録した科目以外の受講は原則として認めません。したがって、受験しても単位は与えられません。
- ③ 1年次生配分科目は2年次生も受講（登録）できますが、2年次生配分科目を1年次生が受講（登録）することは原則としてできません。
- ④ 登録指定期限（受講票の提出期限）を過ぎたものは受け付けません。期限は、ガイダンスまたは教務課の掲示によって指示されますので十分に注意してください。
- ⑤ 未登録の科目について受講を希望する場合は、原則として開講後4週以内に教務課へ「受講許可願」を提出して許可を受けてください。
- ⑥ 一度登録した科目について受講を取消しする場合は、教務課へ「受講取消許可願」を提出して許可を受けてください。ただし、春学期は4月中、秋学期は10月中とします。それ以後は許可しません。

(C) 受講登録の方法

① 登録の時期

登録の時期は、各年次の各学期はじめとし、期日は、ガイダンスまたは教務課の掲示によって指示します

② 登録の方法

受講登録は、入学時並びに第2年次生進級時に交付される「受講票」（下記要項）の記入提出およびWEB上における入力登録によって、受理されます。

「受講票」には、「入学年度」、「所属学科」、「学籍番号」、「氏名」を記

入し、配列科目のうち、各年次、各学期ごとに、受講する科目についてその「受講」の欄に○をつけてください。

「WEB登録」は受講票を基に各自登録（4月・10月）を行います。1年次生は入学後オリエンテーション期間中に登録手順についてのガイダンスを行います。

なお、他学科等の授業を登録したい場合は、教務課に相談して下さい。

(6) 受講と学習

(A) 受講の心がまえ

短大における履修科目は、4年制大学のそれに比して、在学期間に応じて1/2であると考えerことは間違いといわざるを得ません。とりわけ、各種免許や資格の取得を志す場合、指定科目の履修は4年制大学と殆ど変わらないものといえます。それだけに、短大における受講や学習については、そのことで対応できるだけの心がまえが要求されることを知ってください。

(B) 欠席の取扱いと手続き

- ① 「単位認定規程」第3条によって、規定時間（講義科目は15回）の5分の4以上の出席がない者は単位認定の資格を失うことがあるので注意してください。
- ② 授業または学校行事を欠席した者は、その事由をクラス担当教員あるいは事務担当教員に届出なければなりません。また、病気その他の事由により、事前に欠席が確定している場合には、電話やメールその他の方法によりその旨をクラス担当教員あるいは事務担当教員に通報しておいてください。

なお、病気のため欠席が1週間以上にわたるときは、医師の診断書を添え、欠席届を提出してください。
- ③ 授業開始時刻後30分迄の出席は遅刻と認めますが、それ以後は欠席扱いとします。なお、遅刻3回を欠席1回とみなします。
- ④ 欠席が3ヶ月以上にわたって継続するときは、休学の手続きをしなければなりません。
- ⑤ 親族の死亡（忌引）や災害事故などの場合には、すみやかにクラス担当教員あるいは事務担当教員に届け出て指示を受けてください。
- ⑥ 学外実習の手続き、就職、選手派遣、交通機関のストまたは災害、流感等による通学不能等の場合には、願出によってその理由が適当かつや

むを得ないと判断されたものについては、「公認欠席」扱いとし、前②による欠席としては扱われません。ただし、受講していないことに変わりはありませんので、担当の教員に指示を受ける必要があります。手続きとしては、所定の「公認欠席願」を関係教員の承認を経て教務課に提出することが必要です。

学校保健安全法施行規則による感染症に罹った場合は、感染症拡大を防ぐため、一定期間登校できません。その場合は、クラス担任等へ欠席の連絡をし、医師の指示等に従って下さい。後日、「学校感染症による欠席届」および医療機関等からの領収書のコピー等を教務課へ提出してください。欠席期間は欠席扱いにはなりません。ただし、出席数にはカウントされませんので、補講を受ける必要があります。

*病気の状況により医師の証明書を提出していただく場合があります。

(C) 休講・授業変更

授業が担当教員や大学の都合によって休講や変更となる場合があります。それらの場合は、教務課が掲示（e-Portfolio）して学生に連絡します。ただし、掲示がない場合、授業開始時刻を 30 分経過しても担当教員が出講しない場合、本学周辺地域に警報が出ていない場合には自然休講となりますが、その時には、必ず教務課に連絡のうえ確認してください。

(D) 交通機関のストライキ・天災等による休業・休講

交通機関のストライキ及び暴風雨等天災に係る警報が発令された場合は、原則として次のような休講措置を行います。ただし、ＪＲまたは他の私鉄のみがストライキを行い、これに代わる他の交通機関によって通学が可能である場合、本学周辺地域に警報が出ていない場合には平常通り授業を行います。

- ① 午前 7 時までストライキが解決または暴風雨警報が解除された場合
－平常通り授業を行います。
- ② 午前 10 時までストライキが解決または暴風雨警報が解除された場合
－午前中のみ休講とします。
- ③ 午前 10 時を過ぎてもストライキの解決または暴風雨警報の解除について見込みがたたない場合
－終日休講とします。
- ④ 状況により、前①～③の措置によらない判断が見込まれる場合
－大学の学生に対する通知（メール等）または学生の問い合わせにより処理します。

また、感染症の流行等により休講となることがあります。

※上記の連絡は、e-Portfolio で発表されます。まず、確認して下さい。

(7) 試 験 [単位認定規程]

(A) 試験の種類

本学において施行する試験は次の通りです。

- 1 認定試験 各期末及び必要によりその中間において、履修した授業科目について行います。
- 2 再 試 験 授業担当教員が、随時または認定試験について再試の必要を認めたとき行います。
- 3 追 試 験 病気その他やむを得ない事由により、認定試験を受験することができなかった者について、1 回に限り行います。
- 4 総合試験 各種免許または資格を取得しようとする者について、必要があるときは、その免許または資格のため必要な知識及び技能について、総合試験またはこれに代わる総合判定を行うことがあります。

(B) 試験の方法

試験は、授業担当教員が、科目の性格にあわせて、次の方法のいずれかまたは、2 つ以上の方法を併せて行います。

- (イ) 筆記 (ロ) 口述 (ハ) 実技 (ニ) 制作物
(ホ) 論文 (レポート)

(C) 時間割・レポートテーマ・制作課題の発表

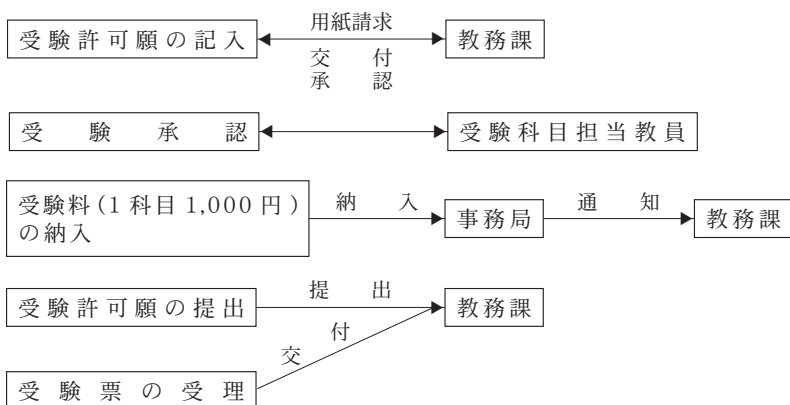
認定試験は、筆記試験、論文 (レポート) のテーマ、制作の課題については、担当教員が授業時間内及び規定講義終了後に適宜出題します。

(D) 認定試験の受験資格

本学での履修のうえで特に注意を喚起しておきたいことがあります。それは、授業科目での出席が当該科目の規程回数の 5 分の 4 に達しない場合は、原則として当該科目の認定試験受験資格を喪失することです。このことは自由な大学生活を夢見る学生にとっては厳しい条件と思われるかもしれませんが、科目単位の修得に受講時数の確保は当然のことといえます。

(E) 追試験・再試験の受験手続き

追試験・再試験を受験しようとする者は、次の手続きが必要です。



(F) 受験上の注意

- ① 遅 刻 試験開始後 20 分以上遅刻した者は特別の場合を除き受験資格を失います。
- ② 退 出 試験開始後 30 分を過ぎるまでは退出できません。
- ③ 不正行為 試験中不正行為を行った際は、その科目の成績を 0 点とし、場合により学則の罰則規定が適用されるので注意してください。

(8) 成績発表（単位の認定）

成績発表の時期と方法

各科目の成績発表は、各クラスの事務担当教員を通じて発表します。発表の時期は、次の学期の開講日までになっています。成績に関する疑義は、各クラスの事務担当教員を通じて、試験科目担当教員に対して行ってください。

- ① 科目の成績は、100 点満点とし、60 点未満を不合格とし、次の評語で表示します。
 秀・S (100点～90点) 優・A (89点～80点) 良・B (79点～70点)
 可・C (69点～60点) 不可・F (59点～ 0点)
- ② 「成績証明書」は、すべて前①の評語（秀～不可または S～F）で表示します。

(9) 卒業保留・卒業延期

2 年次生が当該年度内に卒業に必要な単位を修得できなかった場合には、履

修状況などによっては、特に一定の期間を設け、その期間内に卒業の要件を満たし得ると判断された場合には、その期間を卒業保留とし、その期間内に要件を満たした場合に、卒業保留を解除して当該年度の卒業とします。

また、前述の卒業保留に該当しない場合には、次年度に学籍を延期して、それ以降の卒業となります。

(10) 卒業研究・制作

各学科とも総合科目として「卒業研究」「卒業制作」が課せられています。免許や資格取得のための必修科目ではありませんが、それぞれの学科での2ヶ年の履修や研究の成果を問うものです。この科目はアクティブラーニングという受講形式です。総合科目の性格上テーマの設定は学科領域のなかから自由に設定できます。テーマの設定から研究や調査の方法などすべての過程において、教員の適切な指導を受けたり、学内の研究施設を利用できることは言うまでもありませんが、とりかかりは少なくとも1年次の早い時期からはじめられるよう常時テーマにつながる課題発見を心がけていなければ、創造的で身についた制作や研究ができるはずがありません。

なお、この研究は各学科で公開の発表会を行ったうえで印刷物にしていますが、逐年その研究水準は高まり、優れた発表のいくつかは新聞、テレビなどのマスコミにもとりあげられるようになりました。本学の高い研究水準を示すものとして自他ともに認めるところです。

